

浅川扇状地遺跡群

MAYUMIDA SITE

檀 田 遺 跡 (2)

長野市檀田土地区画整理事業
(仮称)西友檀田店店舗建設工事
アクロスプラザ長野北建設工事
にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊(本文編)

2004年3月

長野市教育委員会



調査地上空より飯綱方面を望む



C区遺構検出状況



区画地点63区②次面1号住居跡土偶出土状況



区画地点48区2号円形周溝墓
出土の勾玉



区画地点48区1号円形周溝墓ガラス玉出土状況

序

激動の20世紀から21世紀へと移り、人々のものの見方や考え方に大きな変化が生じ、「物の豊かさ」より「心の豊かさ」がいっそう求められる世の中になってまいりました。このような中で文化財とは、現代に生きる人々の権しとして見つめ直されるべき、貴重な国民的財産であると考えます。とりわけ埋蔵文化財は、先人たちの文化を今に伝えるだけではなく、現代文化の在り方を問う、必要欠くべからざる資料なのです。

本書で報告しております浅川扇状地遺跡群榎田遺跡は、飯綱山を水源とする浅川が形成した扇状地上に立地する、広大な面積を有する浅川扇状地遺跡群に属しており、長野市を代表する集落遺跡のひとつです。長野市榎田土地区画整理事業にともなう区画街路や街区の一部、また大規模店舗などの造成・建設工事に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。ここに長野市の埋蔵文化財第105集として刊行いたします本書には、このたびの発掘調査によって得られた成果を詳しく掲載しております。連絡と報られてきた人々の歴史のほんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際して多大なご尽力を賜りました長野市榎田土地区画整理組合の理事長はじめ役員・地権者・事務局の皆様、株式会社エス・エス・ブイおよび大和ハウス工業株式会社長野支店の関係者、該当する工区の施工を請け負われた建設業関係者、発掘作業に携わっていただきました地元発掘作業員の皆様、また報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました関係機関・諸氏に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成16年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 陸秀

例 言

1 本書は、長野県長野市若槻地区の檀田地籍における開発事業「長野市檀田土地区画整理事業」、およびその事業地内における関連開発事業である「(仮称)西友檀田店舗建設工事」、「アクロスプラザ長野北建設工事」に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2 本来ならば起回事業ごとに報告書を刊行すべきであるが、遺構および遺構面の連続性を重視し、また、刊行に関わる経費節減を図る目的から、委託者の同意を得て合冊とした。本書の構成は以下のとおりである。

第1分冊(本文編)…本文 第2分冊(図版編)…実測図図版・写真図版

3 発掘調査事業は、下記委託者と、受託者 長野市長塚田佐(～平成13年11月10日)・鷲澤正一(平成13年11月11日～)との埋蔵文化財発掘調査協定および埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、長野市教育委員会(埋蔵文化財センター担当)が実施した。

起 因 事 業 名	略 称	委託者名
長野市檀田土地区画整理事業	区画地点	長野市檀田土地区画整理事業組合 理事長 永原政幸
(仮称)西友檀田店舗建設工事	西友地点	株式会社エス・エス・ブイ 代表取締役 吉澤良一
アクロスプラザ長野北建設工事	アクロス地点	大和ハウス工業株式会社長野支店 支店長 北野秀男

4 発掘調査地籍は、長野県長野市大字檀田181-1番地ほかであり、各開発事業の総面積、埋蔵文化財の保護対象面積は下記のとおりである。

略 称	開発事業面積	保護対象面積
区画地点	約229,000㎡	60,297㎡
西友地点	約10,402㎡	全域
アクロス地点	約10,866㎡	全域

5 事業範囲内には「越後田」・「有無」・「櫻町」・「鍛冶田」などの小字名があるが、遺構の分布は檀田地籍全域から確認されていることから、本書では周知の埋蔵文化財包蔵地として登録された「浅川扇状地遺跡群 檀田遺跡(長野市A-035)」として報告をおこなう。

6 本書の編集は矢口・飯島の指導のもと清水が行い、縄文時代中期に関連した部分は山下が担当した。また執筆は、第IV章第1節1項および第IV章第2節を山下・清水が行い、これ以外を清水が行った。

7 発掘調査の実施に際し、事業委託者におかれては、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき絶大なご協力を賜った。また保護協議、現場および整理作業において多くの方々・関係機関より有益なご指導・ご助言をいただいた。深甚なる謝意を表し、第1分冊第1章第3節にて明記している。

8 本書では確認されたすべての遺構・遺物について資料化の義務を果たせなかったが、できうるかぎり追認できるよう、諸資料は長野市教育委員会埋蔵文化財センターにそのまま保管してある。なお、出土遺物の注記記号は、区画地点はカタカナで「マユミダ」、西友地点とアクロス地点はそれぞれアルファベットで「AMSM」、「AMAP」と表記してある。

凡例

本書では、調査によって確認された遺構・遺物について、その基本的資料を提示することに主眼を置いた。資料掲載の要領は下記のとおりである。

- 1 地図等に記載した方位は真北、また実測図等に掲載した方位は、全て座標北を表している。調査地における座標北からの真北方向角は約 $0^{\circ} 9' 56''$ であり、また磁北は真北より西へ約 $6^{\circ} 40'$ の偏差がある。
- 2 基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系（国家座標、旧日本測値系）の第Ⅷ系（東経 $138^{\circ} 30' 00''$ 、北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ ）の座標値と日本水準原点の標高を基準とし、株式会社写真測図研究所の開発した遺跡調査支援システム「ATS」のうち、光波測距儀を用いた「コーディック・システム」を採用するため同所に委託した。
- 3 検出した遺構の略記号については、下記のとおりとした。
SA…堅穴住居、SB…掘立柱建物、SH…溝・枕列、SK…土坑、SP…小穴、SC…環状溝
SJ…土器棺墓・土坑墓、SDZ…周溝墓、SR…埋甕、SN…環状列石、SD…溝・河川
SE…井戸、SU…地層の落ち込み、SX…性格不明遺構
- 4 遺構実測図は現場にて1/20の縮尺で基本原図を作成し、種別ごとに下記の縮尺で掲載した。
SA・SB・SD・SDZ（全体）・SH・SX…1/100
SE…1/50
SK…任意
SDZ（主体部）・SJ（土器棺墓を除く）・SP…1/30
SJ（土器棺墓）・SR…1/20
- 5 遺物実測図は原寸で原図を作成し、種別ごとに下記の縮尺で掲載した。
土器 土器…1/4、断面実測…1/3
石製品 石鏃・石錐…2/3、刃器・石斧・石鎚・石履丁・砥石…1/3、
石匙・石核・原石・紡錘車…1/2、敲石・多孔石・凹石・石皿・石棒…1/6、
土製品 1/2
装身具 玉・耳環…1/1、銅・垂飾…1/2
- 6 写真図版の遺構・遺物の写真は、任意の縮尺である。
- 7 実測図において主に用いた網掛けはそれぞれ以下の意味を示す。またこれ以外のものについては適宜図中に明示した。

遺構実測図		…被熱（強）		…被熱（弱）・焼土		…炭
遺物実測図		…須恵器（断面）		…赤彩		…黒色処理

第1分冊(本文編) 目次

本文目次

第1章 調査の概要……………	1	第3節 檀田遺跡の既往調査……………	11
第1節 調査に至る経過……………	1	第3章 調査成果……………	13
第2節 調査の経過……………	3	第1節 遺構分布の概要……………	13
第3節 調査体制……………	7	第2節 遺構と遺物……………	14
第2章 遺跡の概要……………	9	第4章 まとめ……………	113
第1節 檀田遺跡の位置と地形……………	9	第1節 集落の変遷……………	113
第2節 浅川扇状地上の周辺遺跡……………	9	第2節 縄文時代中期前葉の土器について……………	121

巻頭図版目次

巻頭図版 1

調査地上空より飯綱方面を望む、C区遺構検出状況

巻頭図版 2

区画地点63区②次面1号住居跡土偶出土状況、区画地点48区2号円形周溝墓出土の勾玉、区画地点48区1号円形周溝墓ガラス玉出土状況

挿図目次

図1 調査地の位置……………	2	図14 1次面遺構配置図(部分④)……………	24
図2 区画整理事業の計画と試掘調査……………	2	図15 1次面遺構配置図(部分⑤)……………	27
図3 調査区的位置……………	4	図16 1次面遺構配置図(部分⑥)……………	30
図4 檀田遺跡の位置……………	10	図17 1次面遺構配置図(部分⑦)……………	32
図5 檀田遺跡周辺の地形と主要遺跡……………	10	図18 2次面遺構配置図(部分①)……………	34
図6 檀田遺跡周辺の小字名……………	12	図19 2次面遺構配置図(部分②)……………	35
図7 檀田遺跡第1次調査地点の遺構配置……………	12	図20 縄文時代中期の主要遺構配置……………	113
図8 調査地周辺の旧地形と主要遺構分布……………	13	図21 弥生時代中期の主要遺構配置……………	114
図9 1次面遺構配置図(全体)……………	15	図22 弥生時代後期の主要遺構配置……………	116
図10 2次面遺構配置図(全体)……………	17	図23 古墳時代前期～中期の主要遺構配置……………	117
図11 1次面遺構配置図(部分①)……………	18	図24 古墳時代後期の主要遺構配置……………	118
図12 1次面遺構配置図(部分②)……………	20	図25 平安時代～中世の主要遺構配置……………	120
図13 1次面遺構配置図(部分③)……………	22		

写真目次

写真1 調査地周辺の航空写真……………	1
---------------------	---

表目次

表1 調査の流れ……………	5	表6 土製品観察表……………	106
表2 作業内容と調査体制……………	7	表7 裝飾品観察表……………	108
表3 遺構観察表……………	37	表8 石製品組成表……………	110
表4 土器観察表……………	61	表9 縄文時代中期前半の土器分類……………	122
表5 石製品観察表……………	104	表10 編年表……………	123

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査に至る経緯

1 区画地点

長野市役所都市開発部区画整理課は、長野市大字檀田に「長野市檀田土地区画整理事業」を計画した。この計画の総事業面積は約229,000㎡におよぶ大規模なものであり、事業の一部には都市計画課に関連する「都市計画道路北部幹線建設事業」を含んでいる。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である浅川扇状地遺跡群（遺跡番号：A-①）の範囲内に所在しており、長野市教育委員会では平成6年5月19・20日に周辺の踏査を行い遺物の散布状況を調査した。この結果、ほぼ全域から土器片等の遺物が採取され、事業予定地内の広範囲に埋蔵文化財の包蔵が予想された。さらに詳細な包蔵状況を把握するために翌年3月15・16日に試掘調査を行い（図2）、15ヶ所設定した試掘坑のうちの9ヶ所から遺物包含層を確認し、A～Dの埋蔵文化財包蔵地の存在を推定した。そして遺跡範囲Aと遺跡範囲Cについては、それぞれが近接する檀田遺跡第1次調査地点と神楽橋遺跡との関連性を考えた。以上の事前調査から、当該開発事業において工事に先立つ記録保存を目的とした発掘調査の必要性が確認されるに至り、埋蔵文化財発掘調査委託契約書を長野市檀田土地区画整理事業組合理事長 永原政幸と長野市長 塚田佐との間で締結して平成10年3月2日より発掘調査を開始した。

2 西友地点・アクロス地点

株式会社エス・エス・ブイ（以下、SSVと表記）が区画整理事業地内に「(仮称)西友檀田店店舗建設工事」を



写真1 調査地周辺の航空写真

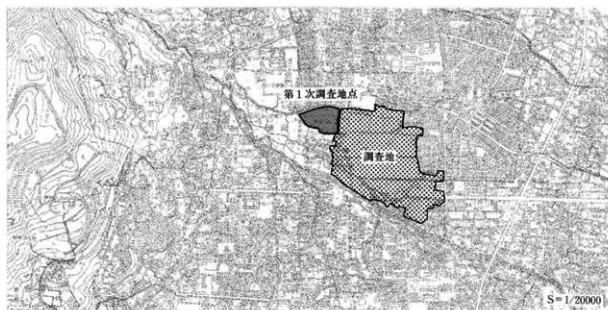


図1 調査地の位置



図2 区画整理事業の計画と試掘調査

計画し、当センターあてに遺跡の有無について照会したのは平成11年6月29日のことである。区画地点の調査所見から事業予定地が遺跡範囲に含まれることは確実であったため、発掘調査が必要である旨を同日回答した。翌年10月に示された最初の事業計画は、区画整理事業地南西部の26街区に西友店舗と駐車場、41街区に専門店3棟および駐車場を建設するものであった。しかし店舗建設予定地の一部で埋蔵文化財への影響が懸念されたことから、開発計画の変更を検討しつつ準備を進めることとなった。平成14年4月に示された新たな事業計画は、西友店舗部分は26街区から41街区の西側へ移動し、駐車場を41街区東側と43街区・44街区東側にそれぞれ造成することで、西友店舗の一部を除いて埋蔵文化財への影響を最小限に抑えたものに変更された。またこれに併せて26街区の開発事業者が大和ハウス工業株式会社（以下大和ハウスと表記）へ変更になり、複数の専門店が計画される「アクロスプラザ長野北建設工事」として別途協議することとなった。その後41街区および43街区を圍繞する区画街路が旧地表面よりも低く計画・施工されており、これと同じ高さで駐車場を造成した場合に埋蔵文化財への影響が懸念される事態が明るみとなった。したがって西友地点の発掘調査対象が41・43街区のはほぼ全域に拡がることとなった。新たに大和ハウスが開発主体者となった26街区は、駐車場予定地における埋蔵文化財の包蔵面が圍繞する区画街路の道路面よりも低いことが予想されたため、発掘調査は影響がおよぶ専門店店舗部分に対して実施されることとなった。

発掘調査費用は各々の店舗部分を株式会社エス・エス・ケイ（SSVの開発部が独立、以下SSKと表記）と大和ハウスが100%、西友地点の駐車場部分を組合とSSKが50%ずつ負担し、開発事業を実施する組合がこれを取りまとめることとなった。また契約は組合に一本化せず、個々の開発事業者と行うこととなった。しかしながらこの内容について大和ハウスからは諸般の事情により同意が得られなかったため、急ぎよ今回の保護協議からは除外され、西友地点について長野市榎田土地区画整理事業組合 理事長水原政幸および株式会社エス・エス・ブイ 代表取締役 吉澤良一と長野市長 鷲澤正一との間に埋蔵文化財発掘調査委託契約書が締結され、平成15年2月4日から発掘調査が開始された。別事業となった26街区のアクロスプラザについてはその後協議が続けられ、大和ハウス工業株式会社長野支店 支店長 北野秀男と長野市長 鷲澤正一との間に埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、平成15年4月21日より発掘調査を開始した。

第2節 調査の経過

区画地点の調査は、工事工程との調整を図りつつ狭長な街路部分を便宜的に細分して行われた。着手順にアラビア数字を冠して平成9年度に1・2区、平成10年度に3～46区、平成11年度に47～61区、平成12年度に62～73区の調査を実施している。平成13年度以降は地権者側の事情によりこれまで継続的に実施してきた発掘調査も中断せざるを得ず、平成13年度に74・75区、平成14年度に76～79区と支障が解消された部分のみを個別に調査した。75区は本来調査対象外であった街区部分にあたるが、一部切土造成の範囲において遺構面の露出を確認したため急遽発掘調査を実施したものである。膨大な工事発注面積に対して調査の遅れはしばしば生じたが、作業員の増員や遺構の有無を確認する事前調査の実施などの措置を講じて調査の効率化、迅速化に努めた。調査では貴重な遺構・遺物の発見が相次ぎ、特に48区における鉄鋼・銅鋼が同時装着された人物が葬られた円形周溝墓の検出や、63区における長野市内最大の土偶の出土のニュースは各メディアを通じて発信され、地元を含めた多くの市民の関心を呼んだ。

西友地点の調査は3ヶ所設定した調査区にアルファベットを冠して、41街区をA区・B区、43街区をC区とし、平成14年度にA・B区1次面、平成15年度に同2次面およびC区の調査を実施した。41街区は上記の事情からSSKが単独で費用負担するA区とSSKと組合が折半して費用負担するB区に分割されているが、実質的には同一の

調査区として調査を行っている。西友地点は区画整理事業にともなう周辺街路の調査から遺構密度の高い区域と推定されていたが、調査では予想を上回る多くの遺構が検出され、アクロス地点の調査開始も重なって作業員の不足が生じることとなった。平成15年度には作業員の増員を行ってこれに対処したが、その検出遺構の多さから当初の予定よりも若干調査期間を延長せざるを得ない状況が生じた。

アクロス地点は2ヶ所設定した調査区に、西友地点に続くアルファベットを冠して西側をD区、東側をE区として調査を実施した。発掘調査開始時期が当初予定よりも大幅にずれ込んだが、西友地点とあわせて作業員の増員を行い、ほぼ当初の予定通り調査を終了した。

表1には各調査区の調査実施期間を示した。表中の調査面数と第三章の遺構配置図中の調査面数が異なる調査区は、2次面以下の調査で明瞭な遺構が検出されなかった場所である。

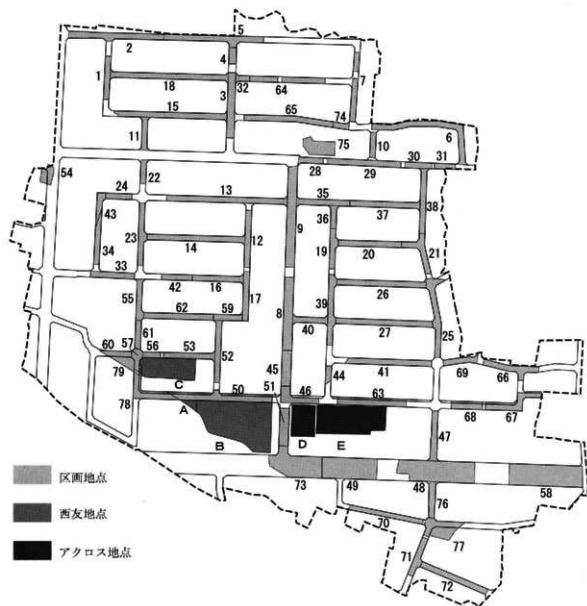
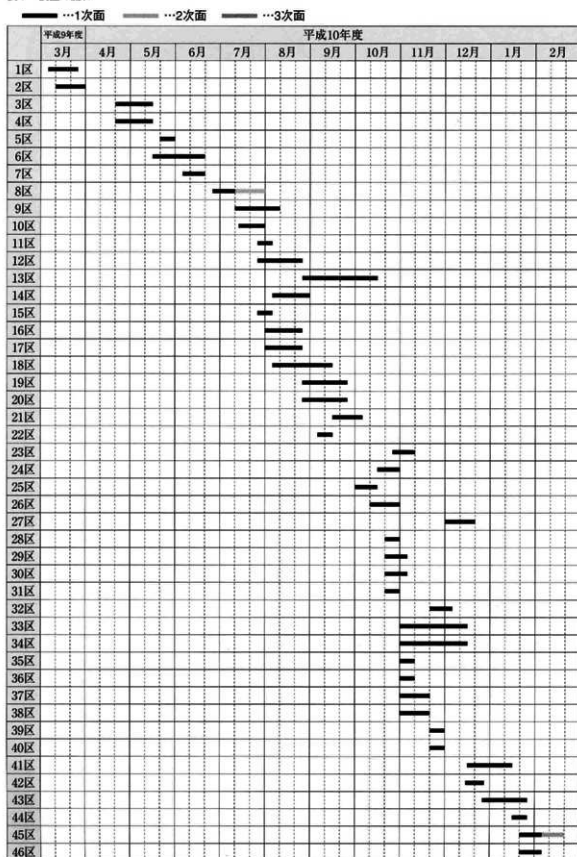


図3 調査区の位置

表1 調査の流れ



平成11年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
47区	■											
48区	■	■	■									
49区		■										
50区			■	■	■	■	■					
51区			■	■	■	■	■	■				
52区					■	■	■	■	■	■	■	■
53区								■	■	■	■	■
54区									■	■		
55区									■	■	■	■
56区										■	■	■
57区										■	■	■
58区											■	■
59区											■	■
60区											■	■
61区											■	■

平成12年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
62区	■	■										
63区		■	■	■								
64区			■	■	■							
65区			■	■	■							
66区					■	■	■					
67区					■	■	■					
68区					■							
69区					■	■	■					
70区						■	■	■				
71区							■	■				
72区							■					
73区										■	■	

平成13年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
74区						■	■					
75区								■	■	■		

平成14年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
76区		■										
77区		■	■									
78区		■	■									
79区					■	■						
AB区											■	■

平成15年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
AB区	■	■	■	■	■	■	■					
C区			■	■	■	■	■					
D区		■	■	■	■							
E区		■	■	■	■							

第3節 調査体制

すべての調査は長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター）の直轄事業として実施した。発掘調査は飯島が担当し、区画地点を山田・小野・荒木・小林（ま）、西友地点を清水・長瀬・山野井、アクロス地点を山下が補助した。整理調査は飯島・小野・清水・山下が担当し、各調査員・作業員が作業を分担した。各年度における事業内容および調査体制は表2のとおりである。

表2 作業内容と調査体制

年度		平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
事業内容	区画地点	発掘	発掘	発掘	発掘	発掘	発掘・整理	整理	整理
	西友地点						発掘	発掘・整理	整理
	アクロス地点							発掘・整理	整理
統括	教育長	滝沢忠男	久保 健	久保 健	久保 健	久保 健	立岩睦秀	立岩睦秀	立岩睦秀
	所長	丸田修三	小林重夫	中島昌之	磯野久夫	磯野久夫	磯野久夫	磯野久夫	矢口忠良
	所長補佐	小林重夫 矢口忠良	矢口忠良 宮澤秀幸	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	
庶務係	係長	小林重夫	宮澤秀幸	北村実寛	北村実寛	北村実寛	山岸恒雄	山岸恒雄	山岸恒雄
	職員	青木厚子	青木厚子	青木厚子	青木厚子	青木厚子	青木厚子	吉村久江	吉村久江
調査係	係長	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良		千野 浩	青木和明	青木和明
	主査	千野 浩	千野 浩	千野 浩	千野 浩 飯島哲也	千野 浩 飯島哲也	飯島哲也	飯島哲也	飯島哲也 風間栄一
	主事	飯島哲也 風間栄一 小林和子	飯島哲也 風間栄一 小林和子	飯島哲也 風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	小林和子
		清水 武	荒木 宏	荒木 宏	荒木 宏				
	専門主事	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 清水竜太	中殿章子 北村美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 清水竜太 内山 梢	西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 宮川明美 清水竜太 内山 梢 遠藤恵実子	小野由美子 堀内健次 宮川明美 清水竜太 山下大輔 遠藤恵実子 長瀬 出 山野井智子 藤原崇志	堀内健次 清水竜太 遠藤恵実子 長瀬 出 山野井智子 石丸敦史 小出泰弘 森田利枝 宮沢浩司 山岸千晃

調査指導

元 信州大学医学部第2解剖学教室	西澤 寿 晃
長野県立歴史館考古資料課専門主事	綿 田 弘 実
長野県埋蔵文化財センター調査部長	小 林 秀 夫
長野県埋蔵文化財センター調査課長	土 屋 積
調査研究員	青 木 一 男・西 山 克 己・贊 田 明・白 居 直 之 寺 内 隆 夫・黒 岩 隆・町 田 勝 則
飯 山 市 立 第 一 中 学 校 教 頭	宮 下 健 司

遺物保存処理

長野県立歴史館考古資料課保存処理班長 白澤 勝彦

石材鑑定

長野市立茶臼山自然史館学芸員 富山 幸司

調査補助員

井上一也・太田岳志・佐藤信孝・藤木潤・清地良太・妻方尚也・松田 剛（以上、専修大学生）、古田聡美（駒沢大学生）、保科高志（高知大学生）、大井麻子・小林園美・小林千恵・山上恵美（以上、長野商業高校郷土班）、秋山織絵・柴野愛華・柴野幸治・竹内惠理・中村浩子（以上、長野商業高校考古学同好会）、近藤由美子、竹本友美（鶴見大学生）、向山純子、清水武

発掘作業員

青木正次、荒木保、池田賢二、市野川峰子、一色茂喜、今村展遠、岩崎利子、上野文子、内山弘子、内山善徳、大峽静子、岡本輝江、小畑安市、笠井旭好、風間章雄、風間政道、金子宣夫、金子ユキ、柄澤みよ子、柄澤ヨリ子、北原京子、北村宣之、倉澤昭光、倉島邦子、古岩井雅彦、神頭昭夫、神頭和賀子、小林明、小林紀代美、小林三郎、小宮山武男、小宮山盛雄、坂本昇、佐藤ひで子、佐藤幸子、淡沢幸治、鈴木友江、田井中志保子、高木英子、武内祐之、多城恵子、玉井清子、寺沢良治、伝田忠志、富永亮、中川敏明、中澤秀子、中村恭子、中村忠彦、名取正秋、成田孜子、成田とよみ、橋爪孝次、畑山よしみ、林貞子、原厚二、原田いづみ、原田静子、原汪子、藤本寧子、保坂豊子、松本裕一、丸山武雄、丸山良子、丸山吉司、宮川忠、宮澤けさよ、宮下文一、宮島静美、村越宮子、村田定男、村田政子、村橋寿美男、安武京子、柳沢隆夫、山口悦子、山田茂雄、山本康子、雪入治隆、横田与志子、吉澤きよ江、若林次郎、和田五男、和田萬治

整理調査員

青木善子、池田寛子、小野由美子、多羅沢美恵子、鳥羽徳子、中殿章子、武藤信子、矢口栄子

整理作業員

池田賢二、倉島敬子、小泉ひろ美、清水さゆり、関崎文子、塚田容子、富田景子、西尾千枝、橋爪孝次、三好明子、村松正子

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 檀田遺跡の位置と地形

檀田遺跡が所在する長野市は県の北部に位置する県庁所在地で、長野県の一般的な地域区分では北信地域に属している。市域を地形的にみると、中央には長野盆地が広がり、東西には盆地を画する東部山地・西部山地の山並みが連なっている。長野盆地は長野県北部の千曲川下流域に広がる盆地で、通称「善光寺平」とも呼ばれる。長さ約30km、最大幅約10kmの南西～北東方向に主軸をもつ狭長な紡錘形を呈し、最も幅が広がる中央部分を長野市が占めている。長野盆地は盆地中央を縦貫して北流する千曲川の氾濫原堆積物や、周囲の山地から流れ出て千曲川に合流する中小河川の扇状地堆積物によって形成された盆地で、大部分が後者により占められている。

檀田遺跡が位置するのは、市域の北西部を占める浅川扇状地の扇状地左岸である。浅川扇状地は西部山地の北部にそびえる飯縄山(標高1917m)に源を発する浅川が形成した扇状地で、調査地北西の浅川東条付近を扇頂として扇状地面を南東方面に広げ、扇端は南で裾花川扇状地、東で千曲川氾濫原の後背湿地に接している。扇頂～扇中央には隆起した古い扇状地面が間析された谷地形が約2kmにわたってみられ、これを見下ろす檀田遺跡付近では河床との比高差は約5mにおよんでいる。浅川の上砂運搬作用は現在でも活発に行われており、扇端側では新たな扇状地面が発達しつつある。このため、浅川は扇端の吉田付近でJR信越線をまたぐ天井川となっている。檀田遺跡が立地するのは現況標高414～396mの緩傾斜地であり、一帯は果樹園や水田などに利用されていた。

引用・参考文献

長野市誌編さん委員会 1997 『長野市誌』第1巻 自然編

第2節 浅川扇状地上の周辺遺跡

檀田遺跡が立地する浅川扇状地は市内でも有数の遺跡密集地として知られ、その範囲は「浅川扇状地遺跡群」として把握されている。本節では、浅川扇状地遺跡群内の遺跡および扇状地を見下ろす山上の遺跡を、発掘調査が行われた遺跡を中心に時期を追って概観していきたい。

縄文時代 扇状地上に初めて人類の足跡が認められる時期である。該期は前期前葉(関山式)の牟礼バイパスA地点遺跡(4)・浅川端遺跡(23)を初現として、以後、前期後葉～後期の松ノ木田遺跡(11・12)、後期の吉田古屋敷遺跡(39)・吉田四ツ屋遺跡(40)と継続的に集落が営まれている。松ノ木田遺跡では、第1次調査地点(11)で前期後葉・中期後葉、第2次調査地点(12)で後期の遺構が検出された。前期後葉の竪穴住居からは垂飾品・勾玉などに転用された30点余りの珠状耳飾が砥石、垂飾品・管玉の未製品などとともに検出され、本遺跡において珠状耳飾を再加工した石製装身具類の生産が行われていたと推測されている。

弥生時代 扇状地上において本格的な開発が始まったと考えられ、縄文時代に比べて遺跡数は増加する。中期後半(栗林式)では本堀遺跡(16)・二ツ宮遺跡(17)・牟礼バイパスD地点遺跡(7)・本村東沖遺跡(27)・浅川端遺跡・徳間本堂原遺跡(18)・吉田古屋敷遺跡で集落が検出された。いずれの遺跡も検出住居数が10軒に満たない小規模集落であるが、徳間本堂原遺跡では竪穴住居とともに4基の礎床木棺墓が集中して検出され、当時の集落構造を良好に示している。後期前葉(吉田式)の遺跡は前後する時期に比べて少ないものの、長野吉田高校グランド遺跡(29)や二ツ宮遺跡で単一時期の集落が良好な状態で検出されている。吉田式土器の標識遺跡として著名な長野吉田高校グランド遺跡では、東北地方の天王山式土器や天王山式土器の要素を取り入れた吉田式土器

が出土したほか、天王山式土器と同じ分布域を持つアメリカ式石畿が未製品も含めて5点出土した。該期における数少ない東北地方との交流を示す遺物として注目されよう。後期後半（箱清水式）の集落は神楽橋遺跡（13）・下宇木遺跡（31）・本村東沖遺跡で見つかっている。集落を構成する住居数は増加傾向にあり、本村東沖遺跡第1次調査地点（27）では41軒もの竪穴住居が検出された。本村東沖遺跡では在地土器とともに多くの北陸系土器が出土しており、北陸系土器の流入が本格化する弥生時代末から古墳時代初頭に先んじる共伴事例として評価され

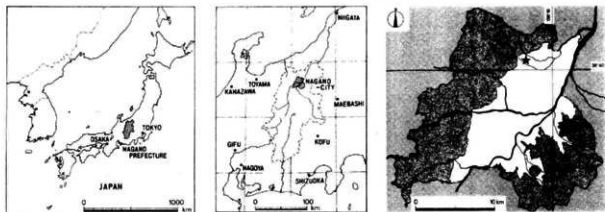
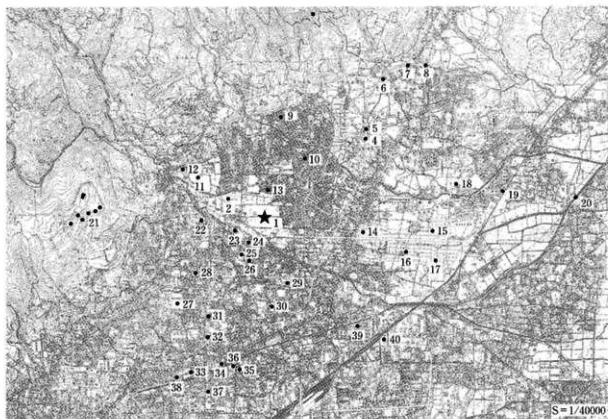


図4 榎田遺跡の位置



- 1・2 榎田遺跡（★は調査地）、3 若槻山城、4～8 牟礼バイパスA～E地点遺跡、9 浅川西条遺跡、10 若槻里城
 11・12、松ノ木田遺跡、13 神楽橋遺跡 14 桶添遺跡、15 柳田遺跡、16 本郷遺跡、17 ニツ宮遺跡
 18 徳岡本堂原遺跡、19 駒沢新町遺跡、20 駒沢城、21 地附山古墳群、22 湯谷東古墳群、23・24 浅川端遺跡
 25 押鎌遺跡、26 盛伝寺居館跡、27・28 本村東沖遺跡、29 長野吉田高校グラウンド遺跡、30 押鎌城、31 下宇木遺跡
 32 相ノ木城、33～38、三輪遺跡、39 吉田古原敷遺跡、40 吉田四ツ原遺跡

図5 榎田遺跡周辺の地形と主要遺跡

る。また第2次調査地点(28)では、第1次調査地点と同時期の円形周溝墓3基・木棺墓6基・土器墓1基から構成される墓域が検出された。副葬品には土器・銅鋼・鉄鋼・鉄鏃・管玉・ガラス小玉などが見られる。

古墳時代 徳間本堂原遺跡・牟礼バイパスD地点遺跡・本村東沖遺跡・柳田遺跡(15)・吉田四ツ屋遺跡で前期、本村東沖遺跡・二ツ宮遺跡・牟礼バイパスB地点遺跡(5)・浅川端遺跡(24)・三輪遺跡(33~38)で中期、二ツ宮遺跡・吉田古屋敷遺跡・三輪遺跡・牟礼バイパスB地点遺跡で後期の集落が検出されている。中期の本村東沖遺跡は該期の拠点集落であり、石製模造品の製作工房を含む56軒の堅穴住居が検出されたほか、出土遺物には多量の古式須恵器や子持勾玉・土鈴などの特殊な祭祀遺物が認められた。北西の山上に立地し、合掌形石室を内包する古墳群として著名な地附山古墳群(21)の造営期間と存続期間が重複することから、古墳群の築造に直接関わった人々の居住域と考えられている。前期と後期の集落規模はいずれも小さく、詳細な内容は明らかでない。墓は吉田四ツ屋遺跡で前期の前方後方形周溝墓、徳間本堂原遺跡で中期の円墳が検出された。徳間本堂原遺跡の円墳は墳丘が完全に削平された埋没古墳であり、山上に築造される同時期古墳とは明らかに異なる立地である点が注意される。後期に属するものは6世紀末頃構築された湯谷東古墳群(22)が知られる。元は7基の円墳で構成されたが、水田や宅地の造成により多くが埋没し、現在に残るのは2号墳のみである。調査が行われた1号墳は直径11.5m横穴式石室を内蔵する土石混合墳であった。前庭部より須恵器が出土したほか、石室内より武器・馬具・装身具など多数の副葬品が出土している。扇端部に位置する駒沢新町遺跡(19)では中期の祭祀遺構が半径20mほどの範囲内に集中して5ヶ所検出された。中でも1号祭祀遺構は最大の規模をもち、総数500個体を超える多量の土師器と共に、900点を数える白玉や石製模造品・鉄鏃・ガラス小玉などが出土している。

奈良・平安時代 二ツ宮遺跡・浅川西条遺跡(9)・牟礼バイパスB地点遺跡・同C地点遺跡(6)・同D地点遺跡で集落が検出されている。当地は仏教を積極的に受容してきた地域であったことが窺われ、その痕跡が考古学的に認められる。古くは扇状地の北に位置する吉古墳群3号墳で横穴式石室の奥壁に合掌をする人物が線刻されているほか、遺構として確認されていないが稲田・徳間地域では寺に関連した字名の存在や古瓦の出土事例から古代寺院の存在が指摘されている。遺物としても稲添遺跡(14)の瓦塔、二ツ宮遺跡の鷲尾片、本堀遺跡・牟礼バイパスC地点遺跡・同D地点遺跡の軒瓦のように仏教関連の遺物が多く出土している。

中世 扇状地を見下ろす山上には三登山の若槻山城(3)をはじめとして多くの山城が存在し、また、扇状地上には若槻里城(10)・駒沢城(20)・盛伝寺居館跡(26)・押鐘城(30)・相ノ木城(32)などの城館跡が知られている。発掘調査が実施された駒沢城では、堀と考えられる溝状遺構や横列・掘立柱建物などが検出されている。

第3節 檀田遺跡の既往調査

檀田遺跡は北長野ゴルフセンターの建設に先立って平成2年度に実施された試掘調査により発見された遺跡である。この調査では事業地の東半分において遺跡の展開が認められなかったことから、発掘調査は西半分のフェンス支柱埋設部分16ヶ所について行われた(図7)。なお、遺跡名には大字を冠した「浅川扇状地遺跡群 檀田遺跡」として報告された。調査の結果、古墳時代中期?溝1条、古墳時代後期堅穴住居2軒、平安時代堅穴住居5軒、時期不明堅穴住居4軒の他に、遺構にともなわない縄文時代・弥生時代の上器が検出され、檀田遺跡が平安時代を中心として弥生時代から中世まで存続した集落遺跡であることが判明した。また、発掘調査に併せて実施された周辺の分布調査の成果も踏まえて、調査地西方の浅川変電所から若月神社付近を中心に現檀田集落付近を東端として展開する遺跡範囲を予想した。



図6 櫛田遺跡周辺の小字名

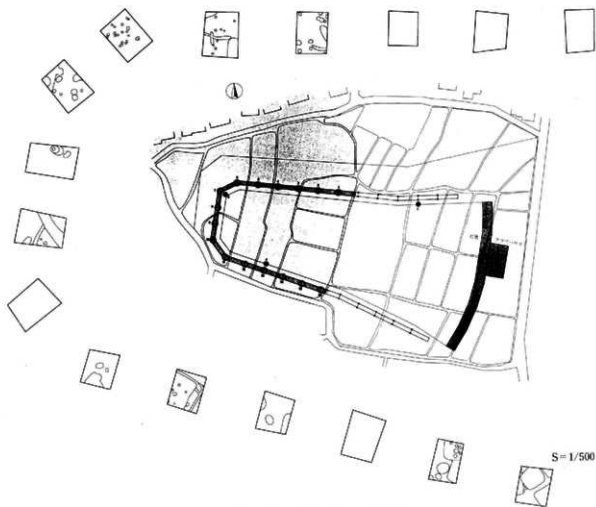


図7 櫛田遺跡第1次調査地点の遺構配置

第三章 調査成果

第1節 遺構分布の概要

調査区の配置は起因事情の性格から東西および南北に狭長なトレンチを巡らせたような状況を呈している。調査面積は、区画地点の調査にともなう6m幅の区画街路部分が主体を占める事業地北側に対して、幅22mの北部幹線部分やこれに面した広い街区内を調査対象とした西友地点・アクロス地点が位置する事業地南側が占める割合が高い。調査では縄文時代から中世までの多数の遺構が検出されたが、遺構遺存状況は上記のような事情から事業地南側の方が概ね良好といえる。

調査地には遺構分布が濃密な区域と希薄な区域が比較的明瞭に観察された。遺構が集中するのは事業地北西に位置する54区と南東に位置する48区を結ぶ線上の調査区と、同じく北西に位置する4区と南東に位置する67区を結ぶ線上の調査区である。一方遺構がほとんど検出されていないのは遺構が集中する区域の北東および南西に位置する調査区である。後者は旧河道流路の範囲と考えられ、調査地のいたるところで地形の落ち込みや土質の変化としてその痕跡が検出された。大正15年測図の周辺地形図にこの旧河道と主要遺構の位置を重ねたものが図8である。これをみると、扇頂部に近い図左上の浅川小学校付近にみられる谷地形と事業地中央の旧河道が連続する位置関係にあり、本来同一地形であったものが調査地付近では測量当時においても視認されないほどに土砂の堆積が進んでいたことが看取される。地形が現在に近い状態になったのは、早くとも旧河道埋土上に遺構が確認される平安時代以降のことと考えられる。それ以前については、中央の旧河道を境とする2ヶ所の遺構集中区域

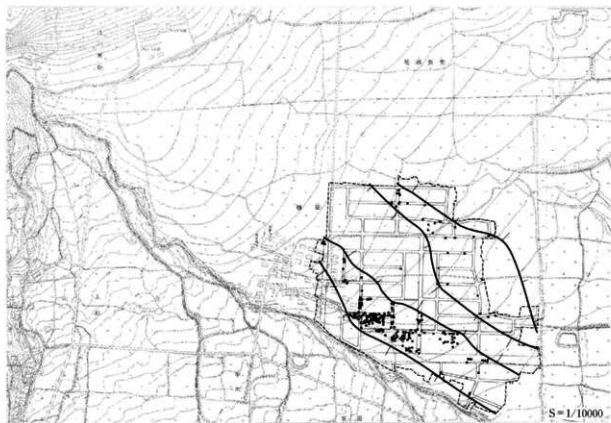


図8 調査地周辺の旧地形と主要遺構分布

において後述するように遺構の内容に差が認められ、窪地状を呈する地形が河者の土地利用を地形的に区画していたと推測される。本書では遺構が集中する区域を旧河道の窪地に対する微高地と認識し、それぞれ北東微高地・南西微高地と呼称することとする。

それぞれの微高地の特色を簡単にまとめると以下のようになる。

北東微高地 (3~7・10・18~21・25~32・35~38・64~67・69・74・75区)

遺構の分布は南西微高地と比べて散在的であり、空閑地には上記した河道とは別の小規模な河道が存在していたと考えられる。検出された竪穴住居は弥生時代中期・古墳時代中期に比定されるが、多数を占めるのは前者であり、後者は1軒のみの検出にとどまっている。弥生時代後期には円形周溝墓・土器墓、古墳時代前期には前方後方形周溝墓・方形周溝墓が構築され、墓域として選地されている。古墳時代後期には若干の遺物の存在が認められるものの、明確な遺構は検出されていない。

南西微高地 (23・33・34・42~46・48~57・60~63・70~73・76~79・A~E区)

縄文時代中期から中世までの遺構が多数検出された。第1次調査で検出された集落も同一微高地の上にと考えられる。遺構分布は西寄りのC区を中心とした付近が極めて密で、D区付近の僅かな空閑地を挟んで東寄りでは粗になる。D区付近の空閑地は河道の可能性が考えられており、これを含めて一連の地形として認識することには問題もあるが、その詳細が明らかでないことから大きく一括して把握することとする。南西微高地では2面の検出面が設定された調査区が多く、D区以西では概ね1次面で古墳時代以降、2次面で弥生時代以前を検出し、またD区から東では1次面で弥生時代以降、2次面で縄文時代の遺構を検出した。検出面の比高差はB区東側では30cm、63区東側では60cmと徐々に大きくなるが、48区では下層遺構の存在が部分的なトレンチ調査では認識できないほど大きくなっており、縄文時代中期の埋甕(48②SR1)は1次面の調査終了後に工事業者によって発見されたほどである。南西微高地は各時代における居住域として継続的に選地されていたことが看取されるが、西よりの61区で検出された弥生時代中期の木棺墓群や、東寄りの48区で検出された弥生時代後期の円形周溝墓群のように、一部の時代では墓域としても利用されている。48区についてはD区付近の河道により居住域と地形的に区画されていた可能性が考えられ、北東微高地と同様の選地意識が働いていたといえる。

本遺跡と同様な遺構分布は榎田遺跡の上流側に位置する縄文時代集落である松ノ木田遺跡でも認められている。松ノ木田遺跡では、南西微高地に連続する微高地上に集落形成が行われており、中央の河道と連続する微高地北東側への展開は認められていない。

第2節 遺構と遺物

検出された遺構・遺物を縄文時代中期・弥生時代中期・同後期・古墳時代前期~中期・同後期・平安時代~中世の6時期に分け、遺物についてはさらに所属時期が不明なものも加えて報告を行う。本節では遺構配置図および各種観察表を掲載し、実測図および写真については第2分冊にまとめた。

本書では時期が特定できる出土遺物がある遺構を優先して報告を行うが、遺存状況によっては遺物実測図や遺構写真のみの掲載としたものもある。所属時期が明らかにできなかったピット・土坑・溝などについては全体図上で表現した。出土遺物は遺存状態の良いものを中心に図示したが、特殊な遺物や遺構の時期を示すために必要と判断した遺物については破片資料でも図化を行っている。遺構名は調査時に付されたものを原則的に用いたが、複数調査区にわたって検出された遺構や、整理の過程で性格の変更が必要と判断された遺構については遺構名の統合および新たな遺構名の付与を行った。いずれの場合もその変更内容については遺構観察表に記した。

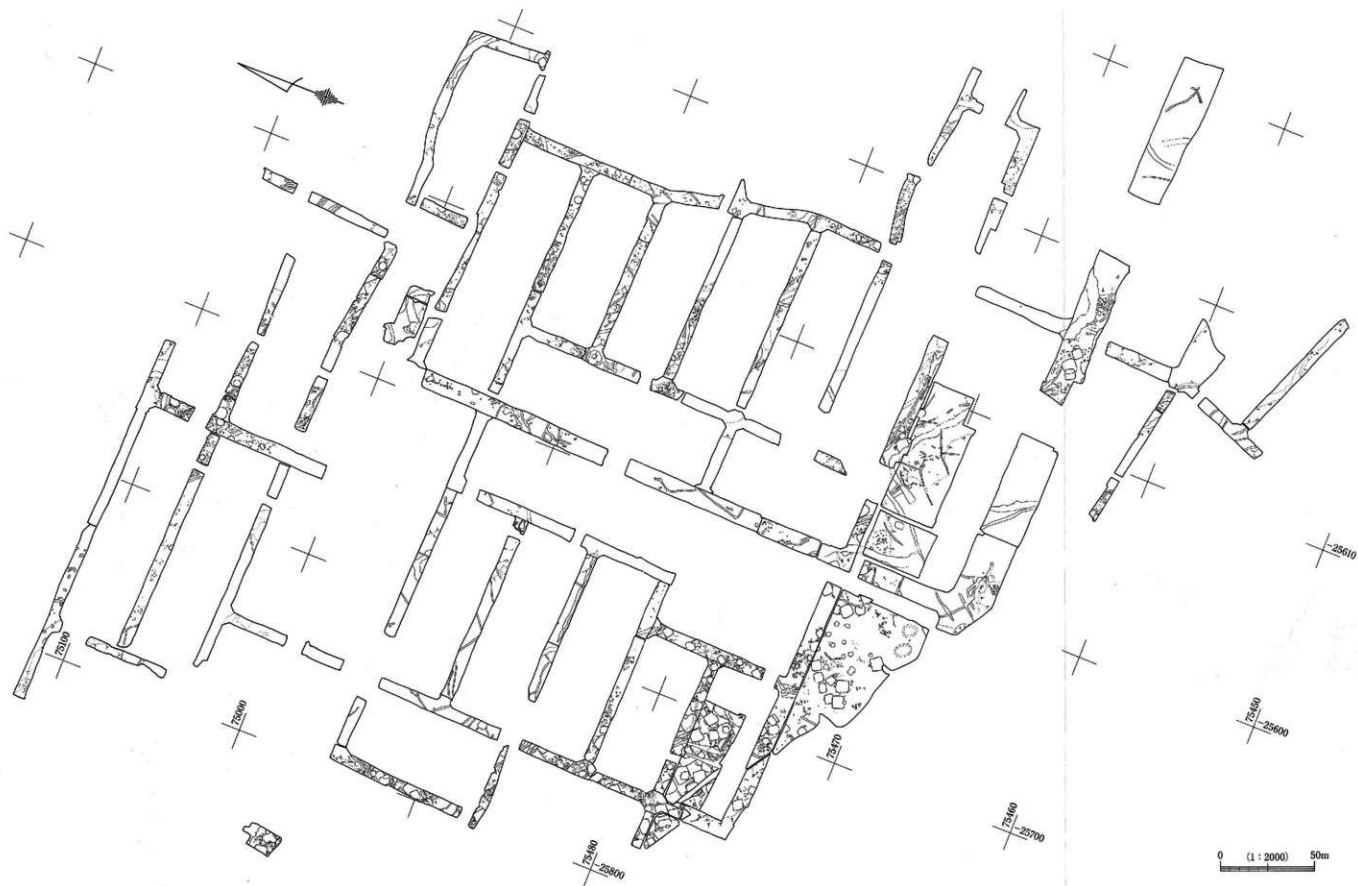


图9 1次面遺構配置図(全体)

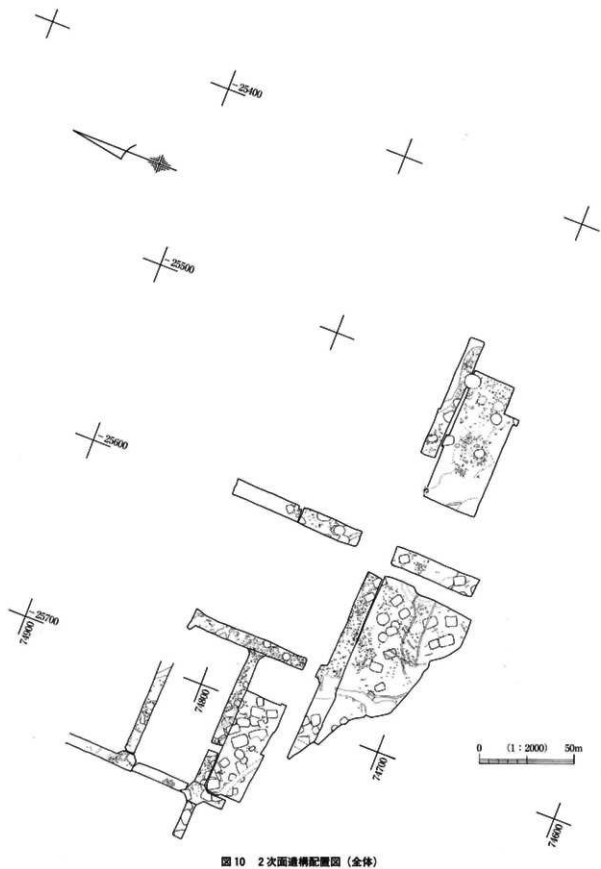


图 10 2次面遺構配置図(全体)

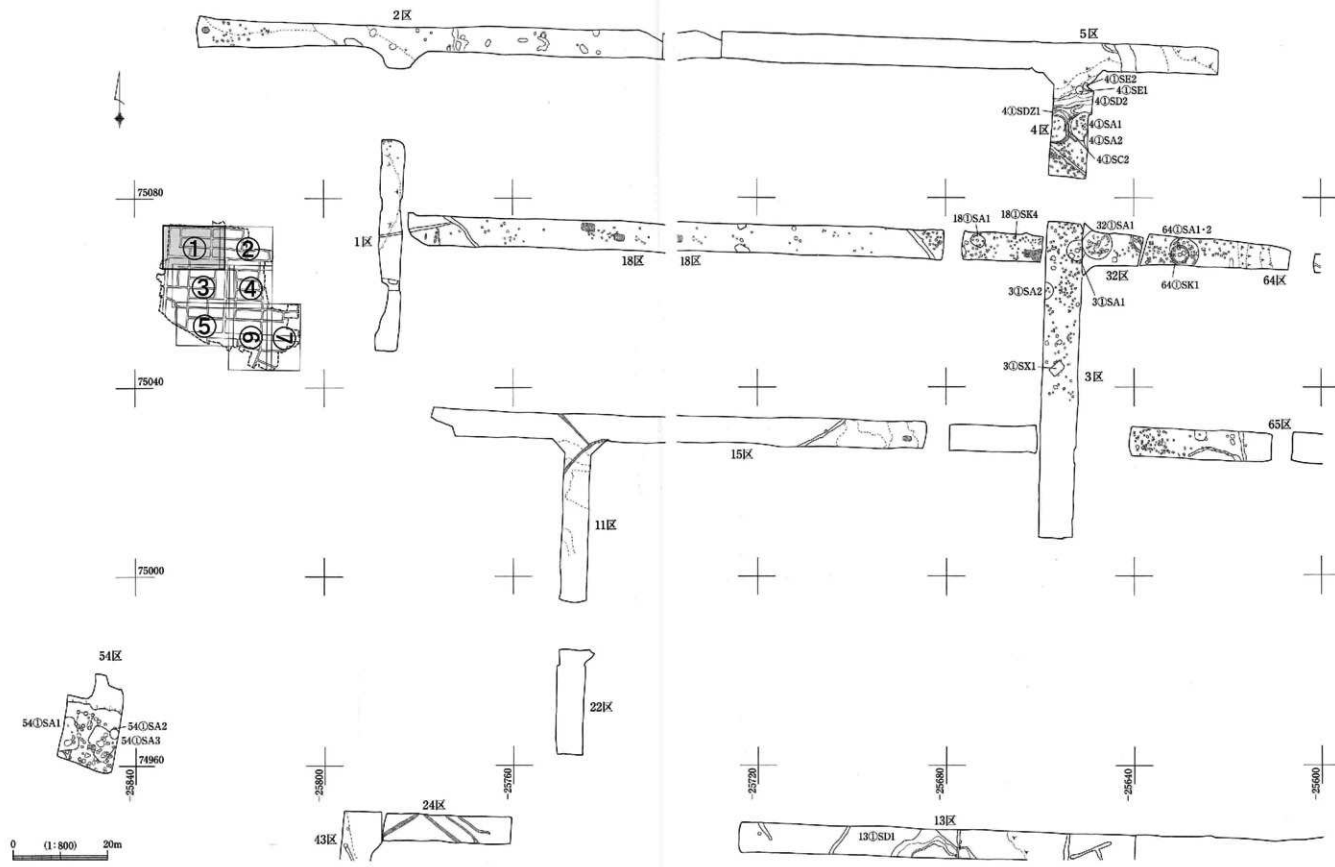


图 11 1 次面遺構配置図 (部分①)

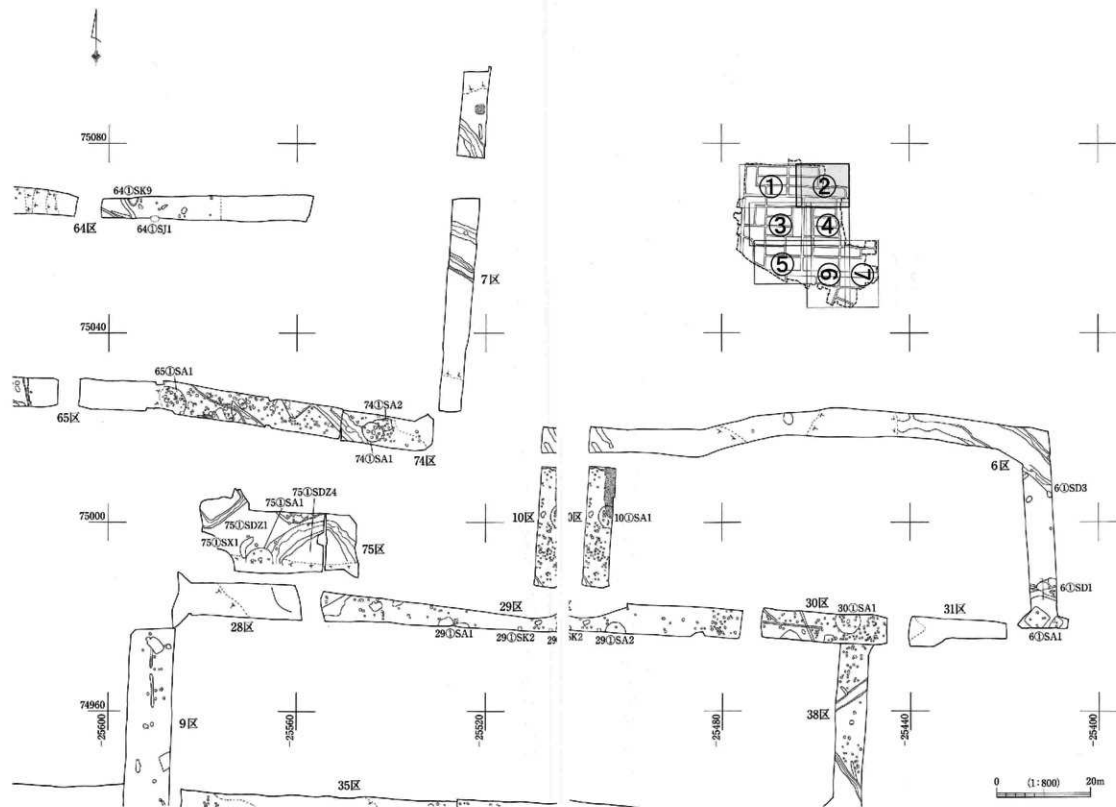


图 12 1 次面遺構配置図 (部分③)

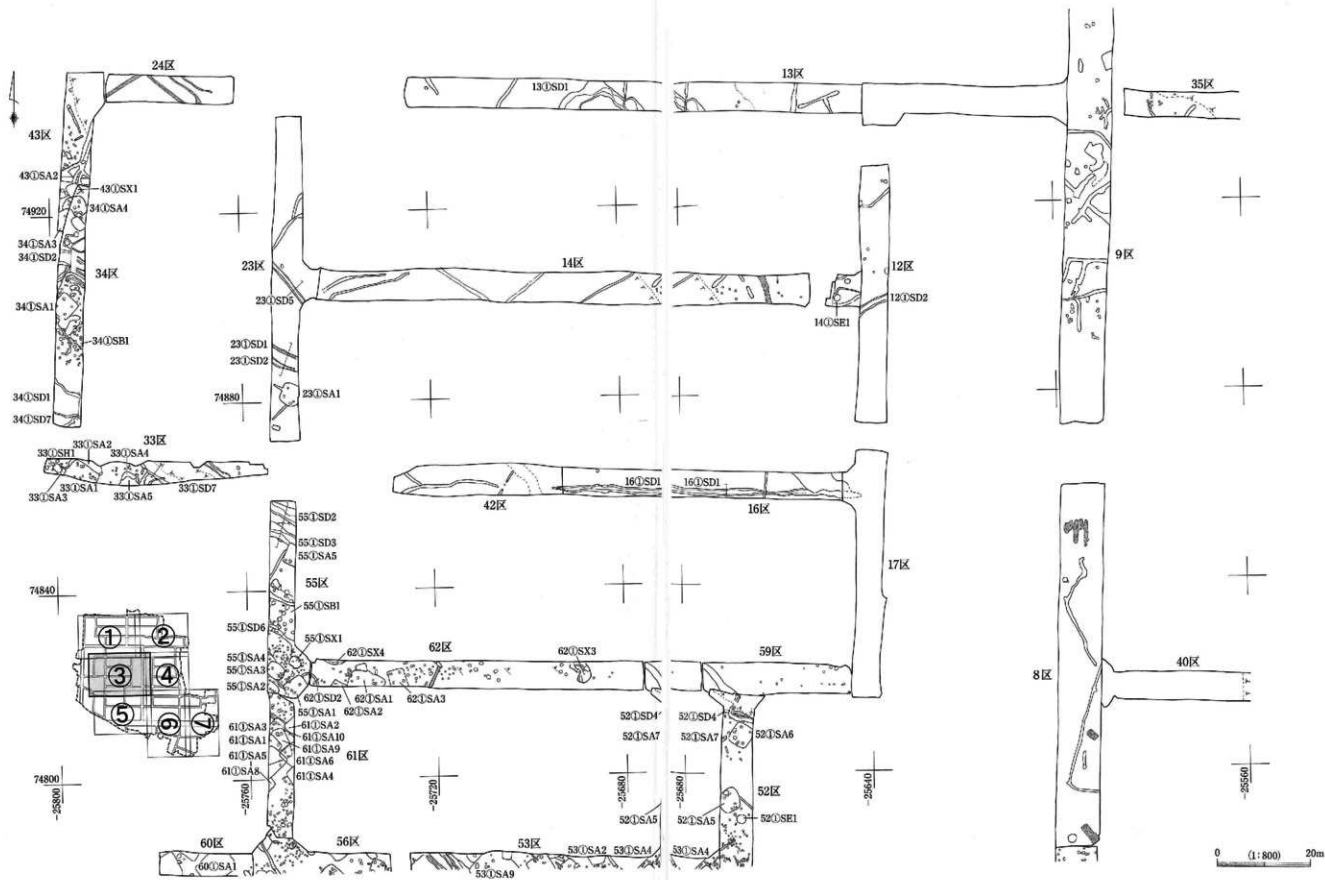


图 13 1 次面建構配置圖 (部分③)

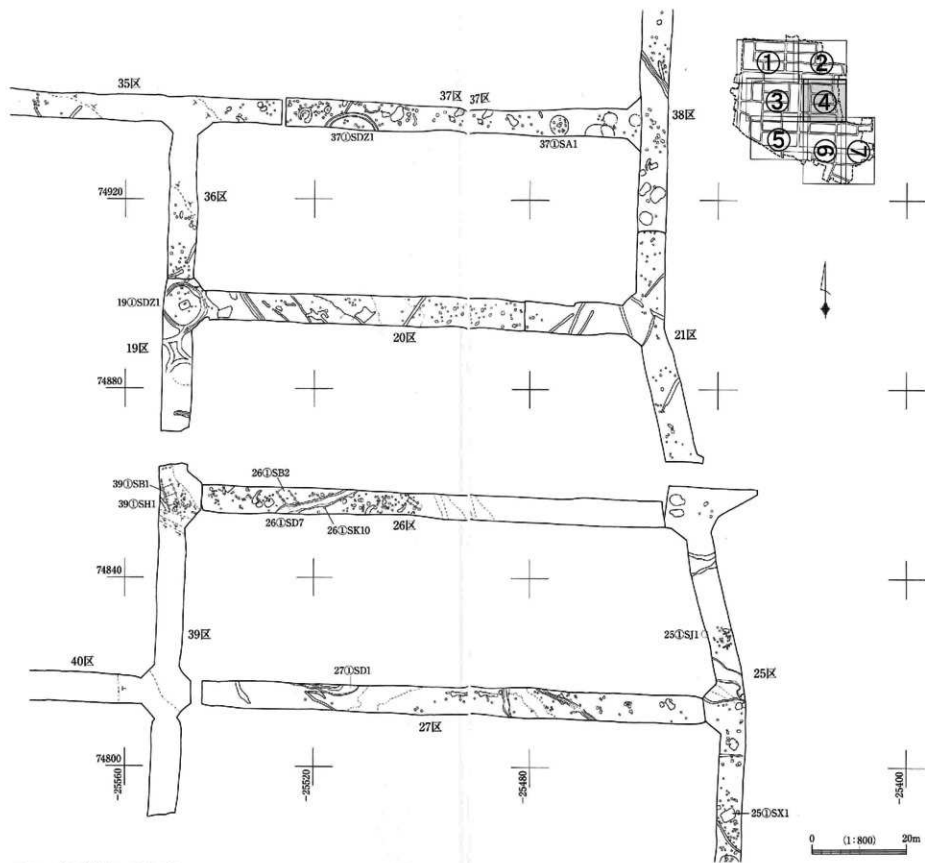


图 14 1 次面道構配置圖 (部分③)

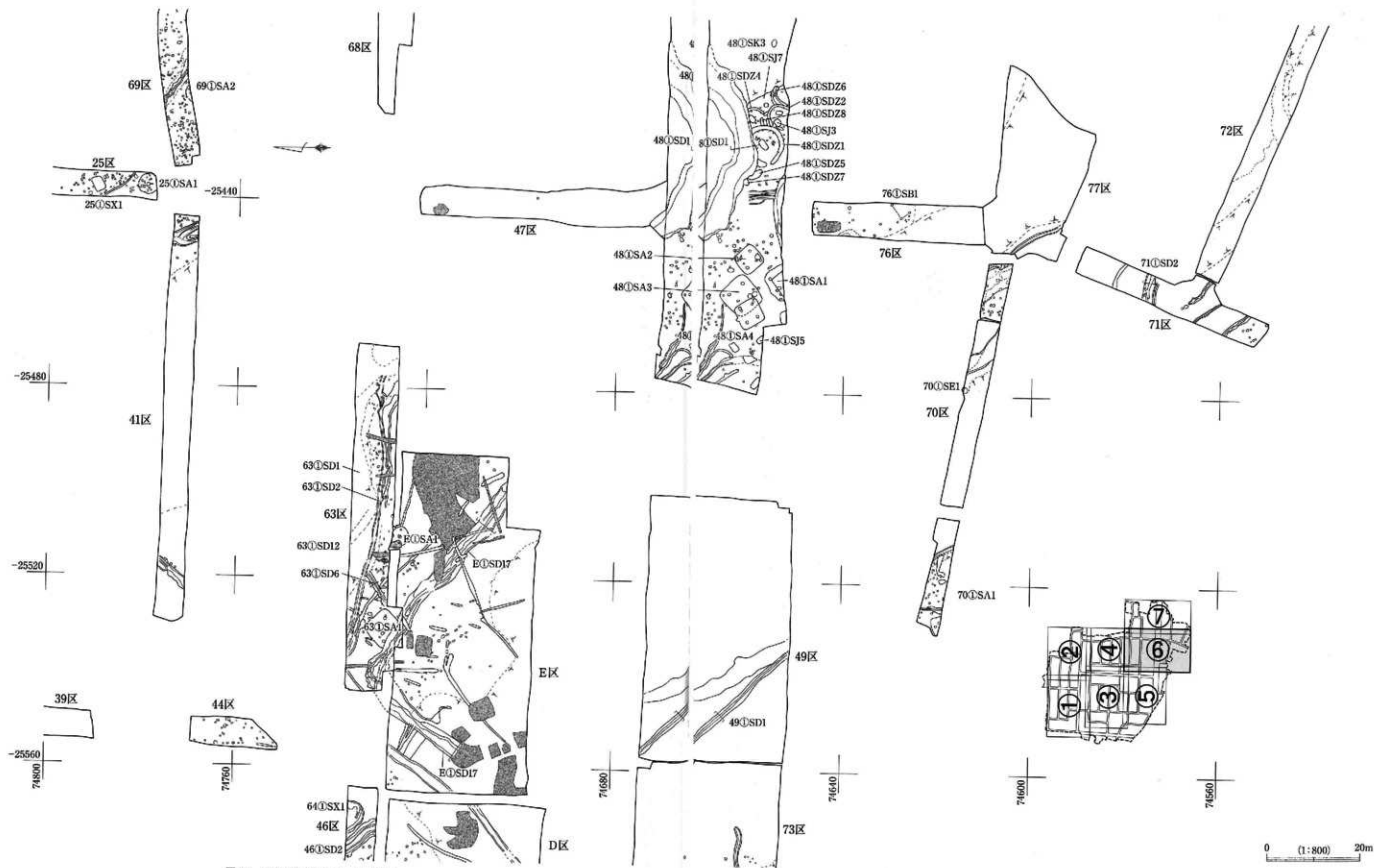


图 16 1 次面遺構配置図 (部分⑧)

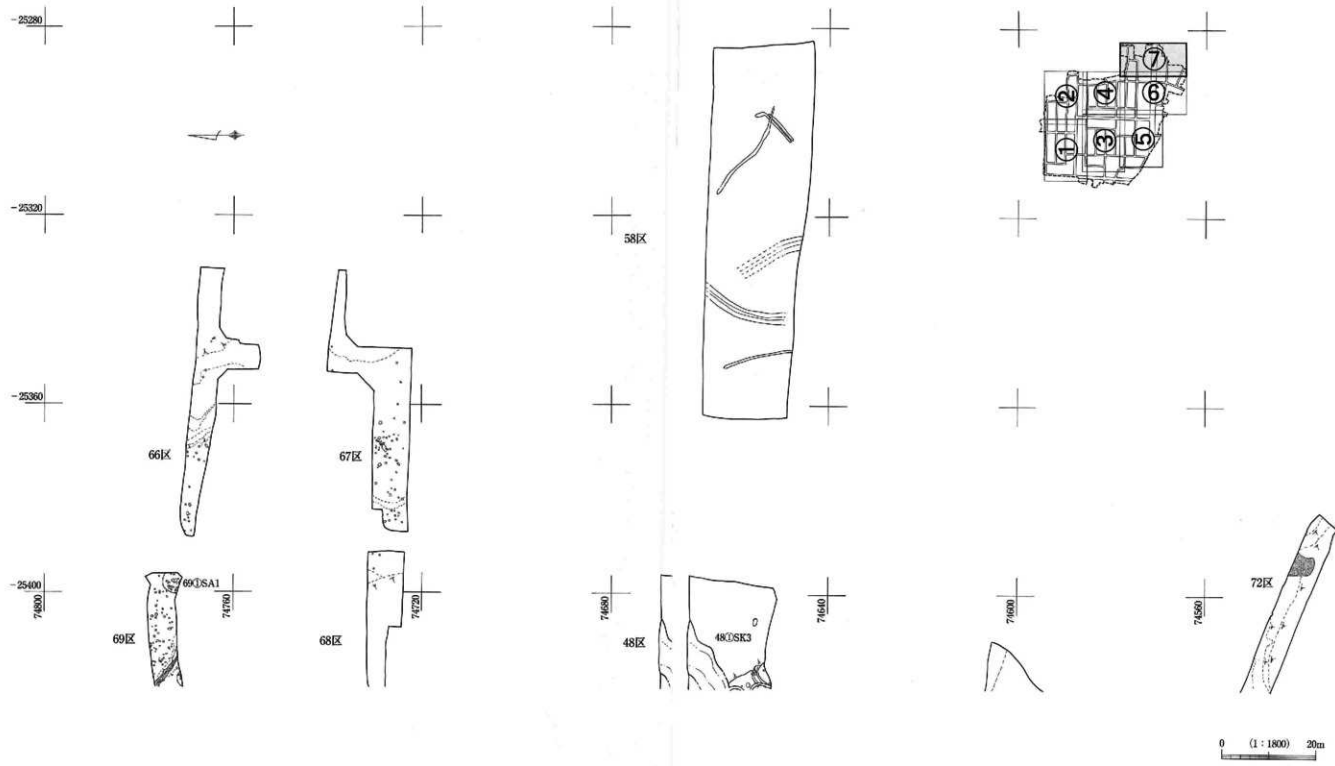


图 17 1 次面遺構配置圖 (部分②)

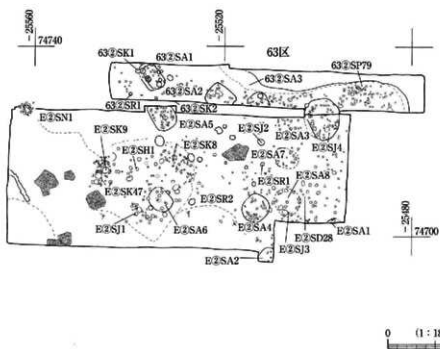
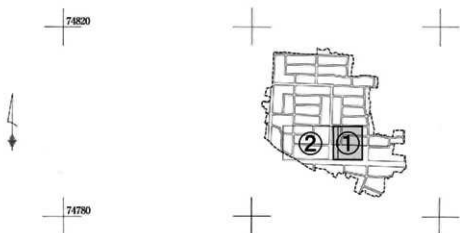


図 18 2次面遺構配置図(部分①)

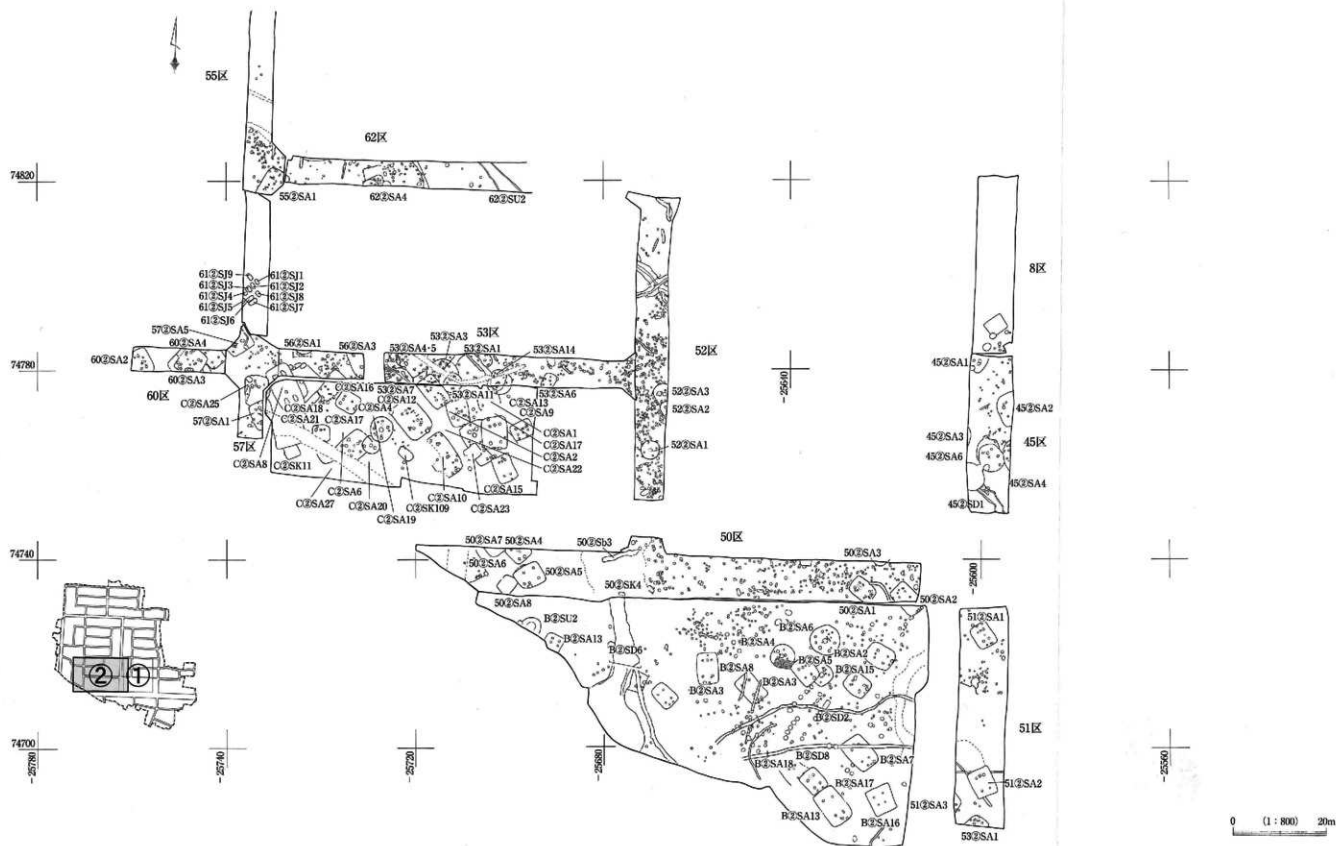


图 19 2 次面建構配置圖 (部分②)

表3 遺構観察表

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
45① SA1		縄中	?		遺構1	遺構1		
45② SA2		縄中	方形系	長さ6.70	遺構1、土器89	遺構1	支柱?(P1-4)	
45② SA3		縄中	?		遺構1	遺構1		
45② SA4		縄中	?		遺構1	遺構1		
45② SA5	45② SA4に切られる	縄中	不整楕円形	長径6.16 短径5.22	遺構1、石製品117	遺構1、石製品36	支柱?(P1~4) 地床炉	
45① SA6	45② SA5に切られる 45② SB6から名称変更	縄中	不整楕円形	長径5.25 短径4.98	遺構1、土器89	遺構1		
45② SA7		縄中	楕円形	長径6.02 短径(5.10)	遺構1、土器89、 石製品113・120	遺構1、石製品35・ 38	地床炉?	
63② SA1		縄中	隅丸方形	長軸6.20 短軸4.82	遺構2、土器89、 土製品121、石製品113	遺構1、土器32、土 製品38、石製品35	支柱6本?、地床炉×2 間仕切り溝?	床面より土偶(576)、K7より琥珀玉(未実測)が出土している。
63② SA2		縄中	隅丸方形	長軸5.76 短軸(4.96)	遺構2、土器90、 石製品119	遺構1、土器32、石 製品37	地床炉?	
63② SA3		縄中	隅丸方形		遺構2、石製品113	遺構1、石製品35	地床炉	
E② SA1		縄中	?		遺構2、土器94	遺構1		
E② SA2		縄中	円形系		遺構2、土器94、 石製品113	遺構1、石製品35		
E② SA3	63② SA4と統合	縄中	楕円形	長径8.80 短径7.46	遺構3、土器94 ~98、土製品121、 石製品113・114・117	遺構2、土器32・33、 土製品38、石製品35 ~37	支柱(不明)、地床炉	壁沿いに並ぶ柱穴のいずれかが支柱穴になると考えられる。
E② SA4		縄中	不整形	長径5.82 短径5.24	遺構4、土器99 ~101、土製品121、 石製品114・115・ 119・120	遺構2、土器33、土 製品38、石製品35 ~37・38、土製品121	支柱(不明)、地床炉、 入口(SK1)	壁沿いに並ぶ柱穴のいずれかが支柱穴になると考えられる。上層より土器が多数出土した。また、中層からは異形四石(573)、土偶(577)が集中した。
E② SA5		縄中	隅丸方形	長軸6.40 短軸4.86	遺構5、土器101、 石製品113・115・ 117~120	遺構2、土器34、石 製品35~37	柱穴、地床炉、貯蔵穴(P 16・26)	貯蔵穴からは多数の黒曜石チップが出土しており、石器製作の可能性はある。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
E② SA6		縄中	不整楕円形	長径5.45 短径4.36	遺構6、土器102、 土製品121、石製 品113・115・118・ 119	遺構3、土器33、土 製品38、石製品35 ～38	地床炉	
E② SA7		縄中	不整楕円形	長径5.08 短径4.00	遺構6、土器103	遺構3	主柱(不明)、煙突炉	壁沿いに巡る柱穴のいずれかが主柱穴になると考えられる。
E② SA8		縄中	不整形	長径5.90 短径5.56	遺構6、土器103、 石製品113	遺構3、石製品35	主柱？(P2-3-5-6-8～11)、 土器敷炉	住居の掘り込みは確認できなかったが、柱穴配列より範囲を確認した。
63② SK1		縄中	円形	径0.95	石製品113	石製品35		
63② SK2		縄中	楕円形	長径0.68 短径0.51	石製品113	石製品35		
E② SK8		縄中	楕円形	長径0.91 短径0.65	遺構7、石製品 115	遺構3、石製品36		
E② SK9		縄中	円形	径1.3	遺構7、土器103	遺構3、土器33		
E② SK39		縄中	円形	径0.83	遺構7、石製品 113	石製品35		
E② SK47		縄中	円形	径0.76	遺構7、石製品 119・120	石製品37		
63② SP79		縄中	楕円形	長径0.51 短径0.39	遺構7、土器90	土器32		
E② SP28		縄中	円形	径0.49	遺構7、土器103			
E② SJ1	E② SK13から名 称変更	縄中	円形	径1.0	遺構8、土器104	遺構3、土器34	羨被葬	浅鉢を逆位に向けて出土しており、その脇には人頭大の甕が二つ添えられていた。羨被で埋葬された土壌墓であると考えられる。
E② SJ2	E② SK24から名 称変更 E② SA8に切ら れる	縄中	楕円形	長径1.46 短径1.21	遺構8、土器104	遺構3、土器34	羨被葬	浅鉢が出土した箇所が一段高く、被葬者の頭部をのせた可能性も考えられる。羨被葬である蓋然性が高い。
E② SJ3	E② SK5から名 称変更 E② SA3に切ら れる	縄中	円形	径1.25	遺構8、土器105	遺構3、土器34	羨被葬	出土土器は一方の隅でまともに出ておらず、横たえられた遺体の頭部に被せられたものと推測される。
E② SJ4	E② SA3-K4から 名称変更 E② SA3に切ら れる	縄中	不整形	長径1.11 短径1.02	遺構8、土器105、 石製品116	遺構4、石製品36	羨被葬	一方の隅より深鉢が人頭大の甕を伴い出土しており、羨被葬で埋葬した土壌墓であると推測される。
E② SN1		縄中			遺構9、土器107	遺構4		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
45②SD1		縄中	NW-SE	幅2.1 検出長7.2	土器92			
48②SR1		縄中			土器91	遺構4、土器32		調査終了後の工事に伴って検出されたため、2次面として扱う。正確な検出位置は不明である。
63②SR1	63②SK16から名称変更	縄中	円形	径0.49	遺構8、土器90	遺構4、土器32		有孔罎付土器が正位で埋納される。埋塞内の埋土は一層のみであり、中から遺物の出土はなかった。
E②SR1		縄中			土器106	遺構4、土器34		
E②SR2		縄中	楕円形	長径0.48 短径0.39	遺構8、土器106	遺構4、土器34		深沢系深鉢土器が正位に埋納される。埋塞内の埋土は一層であり、遺物の出土はなかった。
E②SX1	E②SK35から名称変更	縄中		幅0.65	遺構7	遺構3		集石遺構になるか？石の一部は被熱している。
3①SA1	32①SA2と統合 32①SA1に切られる	弥中	円形 (N43° E)	長径4.56 短径4.14	遺構10、土器122	遺構4	主柱3/4(P1~3)、掘込 炉、入口施設？(P5)、周溝	
3①SA2		弥中	円形		遺構10、土器 122、石製品142	遺構4、土器39、石 製品42	主柱？(P1~3)、掘込炉、 周溝	
4①SA1		弥中	円形	径6.0	遺構10、土器 123、石製品141・ 142	遺構4、石製品41・ 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
4①SA2		弥中	円形系		遺構10、土器123			
10①SA1		弥中	円形	径4.56	遺構10、土器 123、石製品141	遺構4、石製品41	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
18①SA1		弥中	小円形 (N51° W)	長軸2.92 短軸2.47	遺構10、土器124	遺構4	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	
25①SA1		弥中	円形 (N22° E)	径4.11	遺構11、土器124	遺構4	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
29①SA1		弥中	円形系		遺構11、土器 124、土製品144	土製品43		
29①SA2		弥中	円形		遺構11、土器124	遺構4	主柱？(P1)、周溝	
30①SA1		弥中	円形		遺構11、土器 124、石製品142・ 143	遺構4、石製品41・ 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
32① SA1		弥中	円形	長径6.39 短径6.14	遺構11、土器 124・125、土製品 144、石製品141 ～143、装身具 145	遺構5、土器39、土 製品43、石製品41・ 42、装身具43	主柱(不明)、掘込炉、周 溝、床面被熱×3	原石・石核未製品を含む石製品が76点と、頁岩・流紋岩・ チャートを主体とする剥片が約450点出土した。小型打製 石器の製作址である可能性が高い。土製円板の出土も多い。
33① SA3		弥中	円形系		遺構56		周溝	
34① SA4	43① SA3と統合 34① SA3に切ら れる	弥中	円形	径4.69	遺構11、土器 126、土製品144	遺構5、土製品43	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
37① SA1		弥中	円形	長径3.98 短径3.83	遺構12、土製品 144	遺構5、土製品43	主柱6/6(P1～3・5～7)、 掘込炉、周溝	
43① SA2	43① SX1に切ら れる	弥中			遺構12、土器126	遺構5		
50① SA10		弥中	長方形 (N36° E)	長軸2.96 短軸2.06	遺構12、土器 126、石製品142	遺構5、石製品42	掘込炉	
51① SA2		弥中	方形系		遺構12、土器126	遺構5		
52② SA1		弥中	円形 (N70° W)	長径3.90 短径3.71	遺構12、土器 126、石製品141	遺構5、石製品41・ 42	主柱4/4(P1～4)、掘込 炉、周溝	
52② SA3	52② SA4と統合 52② SA2に切ら れる	弥中	円形系	径6.68	遺構12、土器 127、石製品141・ 143	遺構5、石製品41・ 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
53② SA3	53② SA11、C② SA12、53① SD5に 切られる	弥中	円形系		遺構12、土器 127、石製品141	遺構5	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
53② SA7	53② SX1から名 称変更 C① SA11に切ら れる	弥中	円形系		遺構13、土器127	遺構5	主柱(不明)、周溝	
53② SA11	C② SA3と統合 53① SD5に切ら れる	弥中	円形	長径4.19 短径3.90	遺構13、土器128 ～131、石製品 141～143	遺構5、土器39、石 製品41・42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	焼失住居である。出土土器中に熱を受けて変形・変色を生 じた724を含む。
55① SA2		弥中	方形系		遺構13	遺構5		
55① SA4	55① SA3に切ら れる	弥中	楕円形		遺構13	遺構5	主柱? (P1)、周溝	
62② SA4		弥中	円形系				主柱、周溝	周囲の状況、形態から該期の住居址と判断される。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位: m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
64① SA1		弥中	円形	長径6.69 短径6.01	遺構13、土器 131、石製品142・ 143、装身具145	遺構6、石製品41・ 42、装身具43	主柱6/6(P1~6)、掘込 炉、周溝	
64① SA2	64① SA1に切ら れる	弥中	円形	長径3.97 短径3.83	遺構13、石製品 141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
65① SA1	65① SU1に切ら れる	弥中	円形		遺構14、石製品 141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉×2、 周溝	2軒の住居址が重複したものか?
69① SA1		弥中	円形		遺構14、土器 131、石製品141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉×2、 周溝	
69① SA2		弥中	円形系		遺構14、石製品 141	石製品41	主柱? (P2)、周溝	
74① SA1		弥中	円形	長径4.58 短径3.91	遺構14、土器 131、土製品144、 石製品143	遺構6、土製品43、 石製品42	主柱4/4(P1~4)、掘込 炉、周溝	
74① SA2	74① SA1に切ら れる	弥中	長方形	長軸2.61	遺構14、土器132	遺構6	地床炉?、周溝	
75① SA1		弥中	円形	径5.56	遺構14、土器 132、土製品144	遺構6、土器40、土 製品43	主柱? (P2~4・6)、掘込 炉、周溝	焼失住居で、炭化材が炉を中心に放射状に残存する。未実 測であるが被熱による著しい変形・変色を生じた壺・甕・鉢 各1個程度遺存していた。
B② SA4		弥中	円形	径5.14	遺構15、石製品 143	遺構6、石製品42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
B② SA5	B② SA3に切ら れる	弥中	円形 (N90° W)	長径4.33 短径4.26	遺構15、土器 133、土製品144、 石製品141	遺構6、石製品41	主柱3/4(P2・3・7)、掘込 炉	
B② SA6		弥中	円形 (S81° E)	長径6.33 短径6.29	遺構15、土器 133、石製品141	遺構6、石製品41	主柱7/7(P1~7)、掘込 炉、周溝	未掲載資料に打製石鏃2点がある。
C② SA13	53② SA9と統合 C① SA14に切ら れる	弥中	円形	長径4.56 短径3.24	遺構15、土器 133、石製品142	遺構6、石製品42	主柱6/6? (P3・6・7・13 ~15)、掘込炉、周溝	
C② SA14	53② SA10と統合	弥中	楕円形	長径5.11 短径3.21	遺構15、土器134	遺構6		
C② SA19		弥中	円形	長径5.31 短径5.03	遺構16、土器 134、石製品141・ 142	遺構6、石製品41・ 42	主柱4/4(P1~4)、掘込 炉、周溝、床面被熱×3	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C② SA20	C② SA5と統合 C② SA19に切られる	弥中	円形	長径3.78 短径3.69	遺構16、土器135 ~137、土製品 144、石製品143、 装身具145	遺構6、土器40、土 製品43、石製品42、 装身具43	主柱4/4(P1~4)、掘込 印	若干の炭化材が認められ、焼失住居の可能性もある。北側の床面より多量の土器が出土しており、この中に熱を受けて変形・変色を生じた土器も含まれる。
C② SA27		弥中	円形系		遺構16、土器 137、土製品144	土製品43	周溝	プランは不明瞭である。
E① SA1		弥中	円形	径3.93	遺構16、土器 137、土製品144	遺構6・7、土器40、 土製品43	主柱4/4(P1~4)、掘込 印	
18① SK4		弥中	円形	径0.35	土器138	遺構7		
26① SK10	26① SD7に切られる	弥中	円形系		土器139	遺構7		
29① SK2		弥中	円形系	幅0.54	土器139	遺構7		
60① SK3		弥中	不整形円形	短径1.00	遺構17、土器 138、石製品143	遺構7、石製品42		
64① SK1		弥中	円形	径0.34	土器139	遺構7		土器片が折り重なるようにして検出された。一括投棄されたものか？
64① SK9		弥中	不整形	幅2.26	石製品143			
C② SK109		弥中	小判形	長軸3.39 短軸1.94	遺構17、土器140			
C② SK111		弥中	方形系	長さ3.06	遺構17、土器140	遺構7		
48① SJ5		弥中	長方形	短軸1.12	遺構18	遺構7		土坑状の遺構か？
61② SJ1		弥中	長方形 (N39° W)	長軸1.92 短軸0.87	遺構19	遺構7	小口穴、礎敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。礎敷横断面は浅いU字形を呈する。
61② SJ2		弥中	長方形 (N30° W)	長軸2.05 短軸0.96	遺構19	遺構7	小口穴、礎敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。
61② SJ3	61① SA8に切られる	弥中	長方形 (N34° W)	長軸2.10 短軸0.85	遺構20	遺構8	小口穴、礎敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。61② SA8出土の半珠状勾玉(1588)が伴った可能性がある。礎敷横断面は浅いU字形を呈する。
61② SJ4	61① SA8に切られる	弥中	長方形 (N43° W)	短軸0.73	遺構20	遺構8	小口穴	北東小口付近から人歯が出土し、北東頭位と判断される。弥生時代後期の61② SA8出土の半珠状勾玉(1588)が伴った可能性がある。
61② SJ5		弥中	長方形 (N43° E)	短軸0.72	遺構20、装身具 145	遺構8、装身具43	小口穴	南東付近から碧玉製の太形管玉が5点出土している。着装位置を示すとすれば北東頭位となる。検出面出土の管玉(2662)が伴った可能性が極めて高い。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
61② SJ6		弥中	長方形 (N63° E)	長軸1.86 短軸0.94	遺構21	遺構8	小口穴、礎敷	
61② SJ7		弥中	長方形 (N64° E)	長軸1.83 短軸0.75	遺構21、装身具 145	遺構8、装身具43	小口穴、礎敷	碧玉製の細形管玉が3点出土している。このうちの1点は墓 坑のすぐ南側で検出したものである。
61② SJ8		弥中	長方形 (N41° W)	長軸2.02 短軸1.21	遺構22	遺構8	小口穴、礎敷	
61② SJ9	61① SA8に切ら れる	弥中	長方形 (N40° W)	長軸1.87	遺構22	遺構8	小口穴、礎敷	礎敷の両端は、小口穴埋土の沈下に伴い若干傾斜する。
6① SD3		弥中	NW-SE	幅2.8 検出長18.0		遺構8		
27① SD1		弥中	W-E	幅1.6 検出長14.0	土器140、石製品 141・143	遺構9、石製品41・ 42		
73① SU2		弥中				遺構9		
3① SX1	3① SK4を統合	弥中	方形系 (N41° W)	長軸2.82 短軸1.75	遺構17、土器140	遺構9		
25① SX1		弥中	方形系 (N22° W)	長軸2.91 短軸2.22	遺構17、土器140			
43① SX1	34① SA2を統合	弥中	方形	長軸2.68 短軸2.50		遺構9		所属時期は不確定である。
55① SX1		弥中	不整形	長軸2.50 短軸2.36		遺構9		
33① SA2	33① SA1に切ら れる	弥後	縦長方形		遺構23、土器146	遺構9	主柱3/4(P1~3)、地床 が、厨溝	
46① SA1		弥後	方形系		遺構23、土器146	遺構9	主柱1/?(P7)、入口(P2 ~4、P6-9は添柱?)	P4より炭化材が出土する。
46① SA2	46① SD1に切ら れる	弥後	縦長方形 (N42° W)	短軸3.97	遺構23、土器146	遺構9	主柱2/?(P1-2)、地床 が	
46① SA3	46① SD1に切ら れる	弥後	縦長方形		遺構23、土器146	遺構9	主柱1/?(P1)、地床が	
50① SA7		弥後	方形 (N59° E)	長軸2.98 短軸3.37	遺構23、土器146	遺構9		覆土中から焼土検出される。住居にならない可能性もある。
50② SA1		弥後	縦長方形 (N49° W)	長軸5.44 短軸3.90	遺構24、土器146	遺構9	主柱4/4(P1~4)、入口 (P7~9、P10~12)、地床 が×2	建て替え、もしくは補修を行っている可能性が高い。P5・6・ 13~15は添え柱か?

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位：m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
50② SA2	B② SA1と統合	弥後	縦長方形 (N43° W)		遺構24, 土器147	遺構9	主柱3/6? (P1-3)、棟 持柱? (P8)、入口 (P4 ~7)、地床炉	
50② SA3		弥後	縦長方形		遺構24, 土器147	遺構9	主柱1/? (P1)、入口 (P2 ~4)	焼失住居である。
50② SA4		弥後	方形 (N45° W)	長軸4.43 短軸4.21	遺構24, 土器148	遺構10, 土器44	主柱 2/? (P1-2)、入 口? (K1)、地床炉×2	
50② SA6		弥後	方形系		遺構25, 土器148	遺構10	主柱3/4(P1-3)、入口 (P5-8)	
50② SA7	50① SK12と統合 50② SA4に切ら れる	弥後	方形系		遺構25, 土器149 ~152, 土製品 188	遺構10, 土器44, 土製品49		焼失住居である。
50② SA8	50② SA5に切ら れる	弥後	縦長方形 (N51° W)	長軸3.71 短軸3.05	遺構25, 土器153	遺構10	主柱(不明)、地床炉	
51① SA1		弥後	縦長方形 (N31° W)	長軸5.11 短軸4.26	遺構25, 土器153	遺構10	主柱4/4(P1-4)、棟持 柱(P5)、入口(P6-8)、地 床炉、周溝	1次面の一部を調査後、2次面で全体を検出した。全体図で は2次面に掲載している。
51② SA1		弥後	縦長方形		遺構 25、土器 153、土製品188	遺構10、土製品49	主柱1/? (P4)	
51② SA2		弥後	縦長方形 (N24° W)	長軸6.06 短軸4.78	遺構 26、土器 154、土製品188	遺構10、土器44、 土製品49	主柱4/4(P1-4)、入口 (P5)、地床炉、周溝	
51② SA3		弥後	方形系			遺構10		
52① SA5		弥後	方形 (N29° W)	長軸4.62 短軸4.42	遺構26, 土器154	遺構10	主柱4/4(P1-5)、入口 (P6-8)、地床炉、被熱 ピット(P9)、床面被熱× 2	
52① SA7		弥後	方形系		遺構26, 土器154	遺構10		
52② SA2		弥後	方形系		遺構 26、土器 154、土製品188、 石製品187	遺構10、土製品49、 石製品49	主柱1/? (P1)	
53② SA1	53② SD1に切ら れる	弥後	縦長方形		遺構26, 土器154	遺構10	主柱(不明)入口? (P11- 12)、地床炉	
53② SA4	53② SA5に切ら れる	弥後			遺構27	遺構10		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
53㉔ SA5		弥後	縦長方形 (N36° W)		遺構27、土器155	遺構10	主柱3/4(P1-3~5)、入口(P6~8)、地床炉	
55㉑ SA3		弥後	楕円形 (N47° W)	長径4.05 短径3.16	遺構27、土器155、土製品188	遺構10、土製品49	主柱?(P1-2)、入口?(P3-4、P5~7)、地床炉	建て替えを行った可能性が考えられる。
55㉒ SA1	62㉔ SA5と統合 55㉑ SA1取り上げ遺物を含む	弥後	縦長方形 (N32° E)		遺構27、土器155~156、土製品188	遺構11、土製品49	主柱3/4(P1~3)、棟持柱(P4)、埋土器炉	竈(1083)を竈位に埋め、炉体として使用している。
56㉒ SA1		弥後			遺構27、土器156	遺構11		焼失住居である。
56㉒ SA3		弥後	方形系		遺構27、土器157、土製品188	遺構11、土器44、土製品49	主柱1/4(P1)	
57㉒ SA1	C㉔ SA26と統合	弥後	縦長方形	長軸5.85	遺構28、土器157	遺構11	主柱2/4(P1-2)、棟持柱(P3)、地床炉(炉緑石)、被熱ビット(P5)	
57㉒ SA5		弥後	縦長方形		遺構28、土器158・159、土製品188	遺構11、土製品49	主柱2/4(P1-4)、入口(P5)	
60㉑ SA2	60㉑ SA2取り上げ遺物を含む	弥後	縦長方形		遺構28、土器159	遺構11	主柱4/4(P1~4)、地床炉	
60㉒ SA4		弥後	縦長方形	短軸4.1	遺構28、土器160	遺構11	主柱3/4(P1~3)、入口(P4~6)、地床炉(炉緑石)	焼失住居の可能性がある。
61㉑ SA4		弥後	方形系		遺構29	遺構11		
61㉑ SA6		弥後	方形系		遺構29、土器159、装身具188	遺構11、装身具50	主柱2/4(P1-2)、地床炉	
61㉑ SA8		弥後	方形系		遺構29、装身具188	遺構11、装身具50		
62㉑ SA1		弥後	縦長方形 (N73° W)	長軸7.48	遺構29、土器160、石製品187	遺構11、石製品49	主柱2/4(P1-2)、棟持柱(P4)、地床炉	
70㉑ SA1		弥後	方形系		遺構29、土器160	遺構11	主柱?(P1)	
78㉑ SA2		弥後	方形系		遺構29、土器161	遺構12、土器44・45		
78㉑ SA6		弥後	縦長方形		遺構30、土器161	遺構12	主柱(P1)、地床炉(炉緑石)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
79① SA2		弥後	縦長方形 (N33° W)	長軸6.41 短軸3.73	遺構30、土器 162、石製品187、 装身具188	遺構12、石製品49、 装身具50	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	覆土内に準~人頭大の川原石が投棄されていた。
79① SA10	79① SA6~10に切 られる	弥後			遺構30	遺構12		
B ② SA2		弥後	縦長方形 (N56° W)	長軸6.09 短軸4.78	遺構30、土器 163・164、土製品 188、装身具188	遺構12、土器45、 土製品49、装身具 50	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~6)、地床炉	東側から1193~1197・1199・1200がまとまって出土した。使 用時の状況が残されている可能性が高い。
B ② SA3		弥後	縦長方形 (N36° W)	長軸5.62 短軸4.45	遺構31、土器 164・165、石製品 187	遺構12、土器45、 石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5)、地床炉	焼失住居で、中心から放射状に炭化材が残存する。柱穴に は炭化した柱材が原位置で残存していた。
B ② SA7	B ② SD6に切ら れる	弥後	縦長方形 (N40° W)	長軸7.41 短軸5.01	遺構32、土器 165・166、石製品 187	遺構12、土器46、 石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~7)、地床炉	覆土内に準~人頭大の川原石が投棄されていた。
B ② SA8		弥後	縦長方形 (N42° W)	長軸6.45 短軸4.08	遺構32、土器167	遺構12、土器46	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5・6)	覆土内に準~人頭大の川原石が投棄されていた。
B ② SA9		弥後	縦長方形 (N2° E)	長軸6.60 短軸4.69	遺構33、土器 167・168	遺構12-13、土器 46・47	主柱4/4(P1~4)、横持 柱(P5)、入口(P6~7)、地 床炉	焼失住居で中心から放射状に炭化材が残存し、壁面に強い 被熱痕がある。炭直上にベンガラ集積が認められた。
B ② SA10		弥後	縦長方形 (N43° W)	長軸5.26 短軸3.90	遺構34、土器 169、石製品187	遺構13、石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5・6)、地床炉	覆土内に準~人頭大の川原石が投棄されていた。
B ② SA11	B ② SD1-6に切 られる	弥後	縦長方形 (N70° W)	短軸4.37	遺構34、土器170	遺構13	主柱2/?(P1・2)、入口 (P3・4)	
B ② SA12		弥後	縦長方形 (N36° W)	長軸8.25 短軸5.34	遺構34、土器170	遺構13	主柱4/4(P1~4)、入 口?(P7)	覆土はレンズ状の堆積をなしており、1次面から住居内へ の落ち込みが確認された。
B ② SA14		弥後	縦長方形 (N38° W)	長軸5.04 短軸4.35	遺構34、土器 171、石製品187	遺構13、石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5・6)、地床炉	
B ② SA15		弥後	縦長方形 (N49° W)	長軸5.26 短軸4.46	遺構35、土器172	遺構13	主柱4/4(P1~4・8)、入 口(P5~7)、地床炉	建て替えを行っている。
B ② SA16		弥後	縦長方形 (N26° W)	長軸5.66 短軸5.25	遺構35、土器172	遺構13	主柱?4/4(P1~5)	1次面から住居内への落ち込みが落ち込みが確認された。
B ② SA17		弥後	(N38° W)			遺構13	主柱4/4、地床炉	掘り込みは検出されていない。
B ② SA18		弥後		短軸4.53	遺構35、土器172	遺構13、土器47	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	プランは不明瞭である。覆土中よりスタンプ文のある小型 の蓋が出土している。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C②SA1	C①SA6・7に切られる	弥後	縦長方形 (N12° W)	短軸4.57	遺構35、土器173	遺構13	主柱(P2)、入口?(K1)、 地床炉	
C②SA2	53①SA9、C②SA12に切られる	弥後	縦長方形 (N18° W)	長軸7.06 短軸4.57	遺構36、土器173、石製品187	遺構14、石製品49	主柱4/4?(P1~4)、横 持柱(P5)、入口(P6)、地 床炉	焼失住居で、床面・壁面に強い被熱痕跡がある。炭直上にベンガラ の集積が認められた。
C②SA4	C①SD1・SA11に切られる	弥後	縦長方形 (N40° W)	長軸8.45 短軸5.91	遺構36、土器173、石製品187、 装身具188	遺構14、石製品49、 装身具50	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~8)、地床炉(炉 椀石)、被熱ピット(P18 ~20)、床面被熱×4、周 溝	覆土中より快入柱状片刃石斧(1591)や、土製勾玉(1591)が 出土している。
C②SA6		弥後	縦長方形 (N45° W)		遺構37、土器174、石製品187	遺構14、石製品49	主柱?(P1-2)、地床炉、 横持柱?(P3)、床面被熱 ×1	プラン東半は土器が出土する範囲から判断している。
C②SA7		弥後	縦長方形 (N53° W)	長軸4.74 短軸4.18	遺構37、土器175	遺構14	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5-6)、地床炉	
C②SA8	57②SA2と統合	弥後	縦長方形 (N28° W)	長軸10.24 短軸5.59	遺構38、土器175・176	遺構14	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5-6)、被熱ピット(P7- 8)、地床炉、床面被熱× 1	一般的な住居址よりも柱穴が非常に大きく、土坑状を呈す る。
C②SA9		弥後	縦長方形 (N63° E)	長軸4.80 短軸3.74	遺構38、土器176	遺構14	主柱4/4(P1~4)、地床 炉×4	
C②SA10	C①SA5・19・20・ 24に切られる	弥後	縦長方形 (N36° W)	長軸9.25 短軸5.66	遺構39、土器177・178	遺構14・15	主柱6/6(P1~6)、横持 柱(P7)、入口(P8~10)、 地床炉、被熱ピット(P 18)	東隣付近に土器の良好な遺存状況が認められた。
C②SA11		弥後	縦長方形 (S75° W)	長軸(6.59) 短軸(5.00)	遺構40、土器178	遺構15、土器47	主柱?(P1)、地床炉	
C②SA12	53②SA2と統合	弥後	縦長方形 (N38° W)	長軸7.17 短軸4.30	遺構39、土器179	遺構15、土器47・ 48	主柱4/4(P1~4)、横持 柱(P5)、入口(P6-8)、地 床炉、被熱ピット(P21)	東隣付近に土器の良好な遺存状況が認められた。
C②SA15	C①SA17に切ら れる	弥後	縦長方形 (N22° W)	長軸5.72 短軸4.18	遺構40、土器180	遺構15	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5)、地床炉	
C②SA17	C①SA7・24・28 に切られる	弥後	縦長方形 (N3° W)	長軸6.92 短軸5.64	遺構40、土器180、装身具188	遺構15、装身具50	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~8)、地床炉	
C②SA18		弥後	方形系	短軸4.16	遺構41、土器180	遺構15		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C② SA21		弥後	縦長方形 (N2° W)	短軸3.63	遺構41、土器 180、土製品188	遺構15、土製品49	主柱3/4(P1~3)、地床 炉	
C② SA22	C① SA17、C② SA23に切られる	弥後	縦長方形 (N30° W)	長軸9.22	遺構41、土器181	遺構15	主柱(P1-2)、入口(P4 ~6-K2)、地床炉、被熱 ビット(P7)、床面被熱× 1	
C② SA23		弥後	方形	長軸3.54 短軸2.91	遺構41、石製品 187	遺構15、石製品49		
C② SA25	57② SA4と統合	弥後	方形	長軸(5.18) 短軸(4.82)	遺構41、土器181	遺構15	主柱?(P1-2)、地床炉、 周溝、床面被熱×1	
4① SC2	4① SDZ1に切ら れる	弥後			遺構43	遺構16		
50② SK4		弥後	不整形	幅1.15	遺構42、土器184	遺構15、土器48		B② SD6内部から検出されている。
25① SJ1	検出取り上げ	弥後	掘り方不明 (N21° W)		遺構42、土器182	土器48	妻棺墓	掘り方は不明である。
48① SJ3		弥後	長方形 (N55° E)	長軸1.41 短軸1.13		遺構15	土塋墓	
48① SJ7		弥後	不整形円形 (N81° E)	長径0.88 短径0.74	遺構42、土器182	遺構15、土器48	妻棺墓	
64① SJ1		弥後	掘り方不明 (N10° E)		遺構42、土器 183、石製品187、 装身具188	遺構16、土器48、 石製品49、装身具 50	合口壺棺墓	1515を1514に挿入する。1514の上部は棺支えとして利用される。棺内から半珠状勾玉が出土する。石樋(1567)との関係は明確でなく、共存しない可能性もある。
4① SDZ1	4① SC1から名称 変更 4① SU取り上げ 遺物を含める	弥後	円形	周溝径7.42	遺構43、土器184	遺構16、土器48	周溝	周溝東側より遺物が集中して出土した。
19① SDZ1	19① SC1から名称 変更	弥後	円形	周溝径9.41	遺構44、土器185	遺構16、土器48	周溝	図示した遺物は周溝内の南側の覆土中よりまとまって出土した。内部の方形遺構は主体部にならない。
37① SDZ1	37① SC1から名称 変更	弥後	円形		遺構43	遺構16	周溝	推定周溝径が15m弱となり、円形周溝墓にならない可能性がある。
48① SDZ1	48① SJ1を主体部 として統合 48① SD1に切ら れる	弥後	周溝…円形 主体部…長方 形 (N54° E)	周溝径8.78 主体部 長軸2.28 短軸1.36	遺構45、装身具 189-190	遺構16、装身具50	周溝(南西に開口部) 主体部木棺墓	主体部北東から人骨が出土し、北東頭位と判断される。主体部中央では銅鏡の下位に鉄鏡が連なって出土した。また主体部北東ではガラス小玉77個が糸でつながれたような状況で出土した。鏡が腕、ガラス小玉が首への着装状態を留めていた可能性が高い。これらの周囲にガラス玉が散在しており、埋葬時に撒かれたものと思われる。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
48①SDZ2	48①SJ2を主体部として統合 48①SD1・SDZ1に切られる	弥後	周溝…円形 主体部…長方形 (N39° E)	周溝径5.29 主体部 長軸1.94 短軸1.20	遺構46、装身具 188・189	遺構17、装身具50	周溝(南西に開口部) 主体部木棺墓(長側板痕跡、表込石)	主体部北東から人歯が出土し、北東頭位と判断される。主体部北東で勾玉とガラス小玉が出土しており、首への着装状態を留めている可能性が高い。
48①SDZ4	48①SJ4を主体部として統合	弥後	周溝…円形 主体部…長方形 (N50° E)	主体部 長軸1.64 短軸1.08	遺構46	遺構17	周溝(南東に開口部) 主体部構造不明	主体部北東から人歯が出土し、北東頭位と判断される。
48①SDZ5	48①SD1に切られる	弥後	円形?		遺構46、土器185	土器48	周溝	周溝の一部を検出したのみである。
48①SDZ6	48①SDZ2に切られる	弥後	円形?		遺構46、土器185	遺構17	周溝	断面形状から、周溝墓にならない可能性もある。
48①SDZ7	48①SD1に切られる	弥後	円形?		遺構46		周溝	周溝の一部を検出したのみである。
48①SDZ8	48①SJ8を主体部として統合	弥後	円形?	主体部 長軸1.68 短軸1.21	遺構46	遺構17	周溝	
4①SD2		弥後	(W-E)	幅2.4 検出長8.4		遺構16・17		
26①SD7		弥後	(W-E)	幅2.0 検出長16.0		遺構17		
48①SD1	63①SD12と同一遺構か?	弥後	(W-E)	幅5.2 検出長36.0	遺構47、土器185	遺構17		出土土器から所属時期が古墳時代前期に下る可能性もある。
55①SD6		弥後	(NW-SE)	幅0.7 検出長6.0	遺構47、装身具 188	装身具50		
B②SD2		弥後	(W-E)	幅0.7 検出長44.0	遺構47、土器185			
B②SD6	50②SD2と統合	弥後	(N-S)	幅4.5 検出長30.4	遺構47、土器185	遺構17		断面より2条の溝が重なっている状況が看取される。
B②SD8		弥後	(W-E)	幅0.7 検出長36.0	遺構47、土器185			
B②SU2		弥後	円形			遺構17		
62①SX4		弥後			遺構47、土器186	遺構17、土器48		
6①SA1		古前	方形 (N43° E)	長軸4.09 短軸4.02	遺構48、土器191	遺構17、土器51	主柱4/4(P1~4)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
34① SA3	43① SA1と統合	古墳中	方形系		遺構48、土器191	遺構18、土器51	主柱2/4(P1-2)、周溝	
48① SA1		古墳中	方形系 (N32° W)		遺構49、土器 191、土製品203	遺構18	主柱2/4(P1-2)、地床炉 (伊緑石)、周溝、ベッド 状遺構	
48① SA2		古墳中	方形 (N40° W)	長軸4.98 短軸4.90	遺構48、土器192	遺構18	主柱4/4(P1-4)、入口 (K2-3)、地床炉、周溝	
48① SA3	48① SA4に切 られる	古墳中	方形 (N39° W)	長軸7.28 短軸6.97	遺構49、土器192	遺構18	主柱4/4(P1-4)、入口 (K1)、地床炉、周溝	
50① SA8		古墳中	方形系 (N29° E)	短軸4.92		遺構18	地床炉	所属時期は不確定である。
50② SA5	50① SA5、50② SA9	古墳中	方形 (N25° W)	長軸5.75 短軸4.87	遺構48、土器192	遺構18	主柱4/4(P1-4)、入口 (K1)	
54① SA1		古墳中	方形系		遺構50、土器193	遺構18	主柱?(P2)、周溝	
57① SA3	57② SA3から名 称変更	古墳中	方形 (N41° E)	長さ3.14	遺構50、土器 193、土製品203	遺構18	カマド(痕跡)	
60② SA3	60① SA3	古墳中	縦長方形	短軸6.09	遺構50、土器 193、土製品203、 装身具203	遺構18、装身具53	主柱?4/4(P2-6-7-K1)	P8付近に炉があった可能性が考えられる。
61① SA9	61① SA9に切 られる	古墳中	方形系		遺構50、土器 193、装身具203	遺構18、土器51、 装身具53	主柱(不明)	
61① SA10	61① SA10に切 られる	古墳中			遺構50	遺構18	主柱(不明)	
62① SA2		古墳中	方形系		遺構51	遺構18	周溝	
62① SA3		古墳中	方形 (S76° W)	長軸3.9	遺構51	遺構18	主柱4/4(P1-4)、周溝	
63① SA1	63① SD4に切 られる	古墳中	方形 (N42° W)	長軸6.6	遺構51、土器 193-194	遺構18、土器51	主柱3/4(P1-3)、入口 (P5-8)、入口(K1)、地床 炉・周溝	
79① SA5		古墳中	方形系		遺構51、土器 194、土製品203	遺構18、土器51		
79① SA8		古墳中	方形系		遺構51	遺構19		
B② SA13		古墳中	方形系 (N27° E)	短軸3.8	遺構52、土器194	遺構19	主柱4/4?(P1-4)	1次面から住居内への落ち込みが確認された。焼失住居で ある。破線が本来のプランか?

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C① SA30	C① SA24に切られる	古宙中	方形 (N33° W)	長軸4.77 短軸(4.37)	遺構52、土器 194・195	遺構19、土器51・ 52	主柱2/4(P1・2)、地床 が、周溝	が周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。
C② SA16	56② SA2と統合	古宙中	縦長方形 (N45° E)	長軸6.37 短軸4.00	遺構52、土器 195、土製品203	遺構19、土器52、 土製品53		
34① SB1		古宙中	(N42° E?)		遺構52、土器196	遺構19	2間×2間残存	
48① SK3		古宙中	不整形円形	長径0.83 短径0.67	遺構52、土器196	遺構19		
65① SDZ1	74① SDZ1、75① SDZ2と統合	古宙中	前方後方形 (N134° E)		遺構53、土器 196、装身具203	遺構19、土器52、 装身具53	周溝(前方部北西隅に開口部)	65・74区で墳丘の前方部3/4と後方部1/4を検出し、65・74 区の南側に位置する75区で後方部周溝の南隅を検出した。 推定全長は30mを超える大型の周溝墓である。
75① SDZ1		古宙中	方形		遺構54	遺構19	周溝	二隅の検出にとどまるが検出規模から方形と予想される。
75① SDZ4		古宙中	方形	周溝長13.0	遺構54、土器196	遺構19、土器52	周溝	28区の東側および29区の西側で周溝覆土と同様の黄褐色 砂質土の広がりが見出されており、これらが周溝の一部と なる可能性が考えられ、一辺が20mを越す規模が想定される。
6① SD1		古宙中	(W-E)	幅3.3 検出長5.6	遺構55、土器 196・197	遺構20、土器52		
13① SD1		古宙中	(W-E)	幅3.2 検出長16.0		遺構20		
23① SD5		古宙中	(NW-SE)	幅0.9 検出長10.0	遺構55、土器198	遺構20		
33① SD7		古宙中	(NW-SE)	検出長7.6	遺構55、土器199	遺構20、土器52		
34① SD7		古宙中	(NE-SW)	幅3.6 検出長3.2	遺構55、土器199	遺構20、土器52・ 53		
50① SD2		古宙中	(N-S)	幅1.2 検出長13.2	土器198、土製品 203、装身具203	土製品53、装身具 53		位置・平面形態が調査記録に残されていないため、詳細は 不明である。1930の出土位置から考えると、50① SD3と重 複していたものと推測される。
50② SD3		古宙中	(W-E)	幅1.0 検出長7.6	土器198、土製品 203	土製品53		
52① SD1		古宙中	(N-S)	幅1.7 検出長8.8	遺構55、土器198	遺構20		
52① SD4		古宙中	(W-E)	幅0.5 検出長5.6	遺構55、土器198	遺構20		
62① SD2	55① SD7と統合 62① SC1と同一	古宙中	(NW-SE)	幅0.4 検出長2.2	遺構55、土器200			住居址の周溝か？

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
63①SD1		古墳中	(W-E)	検出長40.0		遺構20		埋没した旧河道の流路である。
63①SD2		古墳中	(W-E)	幅0.9 検出長55.0	遺構55、土器 200、装身具203	遺構20、装身具53		
63①SD6		古墳中	(NE-SW)	幅1.1 検出長6.9	遺構55、土器200			
63①SD12		古墳中	(N-S)	幅0.7 検出長2.3	遺構55、土器200			
46①SX1		古墳中	不整形		遺構55、土器200	遺構20		
75①SX1	75①SD23から名称変更	古墳中			遺構55、土器201	遺構20、土器53	土坑2基、溝1条	溝は一方の土坑と重複し、また他方の土坑を囲む。土坑内には頸部以上を欠く蓋が、胴部上半を欠く蓋を蓋状に被せて正置して埋納されている。中央の土坑内は1889・1890、溝内の土坑は1887・1888が組み合う。それぞれ単独遺構の可能性も考えられる。
C①SX1	C①SU4から名称変更	古墳中	円形		遺構55、土器 202、土製品203	遺構20、土器53、 土製品53		覆土上層～中層に古墳時代の遺物が集中して出土する。弥生後期の1904は床面から出土したものである。
23①SA1		古後	方形 (N62° W)	短軸4.44	遺構56、土器204	遺構21、土器54	主柱3/4(P1-3)、カマ ド(石組)、貯蔵穴(K2)、 周溝	焼失住居である。K2およびその周辺に土器が多く遺存する。K2内の1935～1937・1940と1932・1933は正位に重なった状態で出土している。
33①SA1		古後	方形 (N61° W)	長軸6.4	遺構56、土器 204、土製品246	遺構21、土器54	主柱2/4(P3-6)、カマ ド(土組)、貯蔵穴(K1)	
33①SA4		古後	方形系		遺構57、土器205	遺構21		
33①SA5		古後	方形系		遺構57、土器204	遺構21	主柱1/4(P2)、カマド× 2(1…石組、2…痕跡、2→ 1と構築)	
34①SA1		古後	方形 (N45° W)	長軸4.30 短軸4.57	遺構57、土器205	遺構21、土器54	主柱4/4(P1-4)、カマ ド(痕跡)、周溝	焼失住居である。
48①SA4		古後	方形 (N28° W)	長軸5.19 短軸5.09	遺構57、土器206	遺構21	主柱4/4(P1-4)、カマ ド(土組)	
50①SA1		古後	長方形	短軸5.41	遺構57、土器205	遺構21	周溝	
50①SA2	B①SA10と統合	古後	方形 (N27° W)	長軸4.93 短軸4.91	遺構58、土器 207、土製品246	遺構21、土製品62	主柱3/4(P2-4)、カマド (石組)、貯蔵穴(K1)	カマド石材が床面に散乱した状態で検出される。
50①SA3		古後	横長方形 (N60° W)	長軸4.88 短軸3.33	遺構58、土器207	遺構21	カマド(石組)	
50①SA4		古後	方形系	長軸4.48	遺構58、土器205	遺構21		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位: m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
50① SA6		古後	方形系		遺構58, 土器208	遺構21, 土器54	主柱?2/4(P1-2)、カマド(石組)	火床は小石を敷いたものか?
50① SA9		古後	方形系	長軸3.92	遺構58	遺構21	カマド(石組)	B① SA17と同一遺構になる可能性も考えられる。
52① SA1		古後	方形 (N48° W)	長軸4.42	遺構58	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	
52① SA2		古後	方形系		遺構59, 土器208	遺構22	主柱1/4(P1)、カマド(土袖)	
52① SA3		古後	方形 (N32° W)	長軸3.00 短軸2.95	遺構59	遺構22		
52① SA4		古後	横長方形 (N52° W)	長軸4.32 短軸3.15	遺構59, 土器209	遺構22	カマド(痕跡)	
52① SA6		古後	横長方形 (N58° W)	長軸4.71 短軸4.15	遺構59, 土器208	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)、貯蔵穴?(P6)	
53① SA1		古後	方形 (N37° W)	長軸3.51 短軸3.26	遺構59, 土器209	遺構22	カマド(痕跡)	
53① SA2		古後	方形系			遺構22		
53① SA3		古後	横長方形	短軸3.25	遺構59, 土器210	遺構22, 土器55	カマド(石組)	カマドは北東隅に寄る。カマド周辺より土器がまとまって出土する。
53① SA4		古後	方形系		遺構60, 土器211	遺構22	主柱1/4(P1)、周溝	
53① SA5		古後	方形 (N45° W)	短軸5.32	遺構60, 土器210	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(土袖)、周溝	
53① SA9	C① SA1と統合 53① SJ1・SD5に 切られる	古後	方形	長軸8.86 短軸8.33	遺構61, 土器211	遺構22		プランは明確に認識されたが、カマド、柱穴共に検出されていない。
53① SA10	53① SD5・SA5に 切られる	古後	縦長方形 (N33° W)	長軸5.90 短軸4.89	遺構61, 土器211	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(土袖)、貯蔵穴(K1)	カマドに良好な土器の遺存状況が認められた。
53① SA11	C① SD1に切 られる	古後	方形		遺構62, 土器211	遺構22	カマド(痕跡)	
53② SA6		古後	方形 (N57° W)	長軸2.66	遺構52, 土器211	遺構23	カマド(石組)	
54① SA2	54① SA3に切 られる	古後	方形		遺構62, 土器212	遺構23		
54① SA3		古後	長方形		遺構62	遺構23	カマド(石組?)	P5・P6間に土器・石が散乱して検出されており、この付近に石組みカマドが存在していた可能性が考えられる。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位: m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
55① SA1		古後	方形系		遺構 63、土器 212、装身具246	遺構23、装身具62	主柱2/4(P1-2)	
55① SA5	55① SD3に切られる	古後	方形系		遺構63、土器212	遺構23	カマド(石組)	カマドは北隅に寄る。
56① SA1		古後	方形系		遺構 63、土器 212、装身具246	遺構23、装身具62	カマド(土軸)	
56① SA4		古後	方形	長軸3.10 短軸2.96	遺構63、土器213	遺構23、土器55	主柱?4/4(K1~4)、カマド(石組)	K3は貯蔵穴の可能性はある。
57① SA1	79① SA3と統合	古後	方形 (N33° W)	長軸5.34	遺構64、土器213	遺構23	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)、貯蔵穴(K1)	
57① SA2	79① SA1と統合	古後	方形	長軸5.19	遺構 64、土器 214、土製品246、 装身具246	遺構23、装身具62	主柱3/4(P1~3)、カマド×3(1→石組、2→3→痕跡、2→3→1と構築か?)	カマド2は煙道の天井部が残存する。
60① SA1	60② SA1から名称変更	古後	縦長方形		遺構65、土器214	遺構23	カマド(石組)	
61① SA1		古後	方形系		遺構65、土器215	遺構23	カマド(石組)	カマドは東隅に寄る。
61① SA2		古後	方形系		遺構65、土器215	遺構23	カマド(土軸)	
61① SA3	61① SA1・2に切られる	古後	方形		遺構65、土器216	遺構23	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)	柱穴、土坑はP2を除き下層住居床面にて検出された。
61① SA5		古後	方形系		遺構 65、土器 216、石製品246	石製品61		
78① SA1		古後	方形系	短軸3.69	遺構66、土器216	遺構23		
78① SA3		古後	方形 (N83° W)	長軸5.45 短軸5.43	遺構66、土器216	遺構24	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)、周溝	
78① SA4		古後	方形系			遺構24	主柱?	所属時期は不確定である。
78① SA5		古後	方形系		遺構66	遺構24	主柱2/4(P1-2)	
79① SA4		古後	方形系		遺構66、土器217	遺構24	主柱?2/4(P1-2)、カマド(石組)	
79① SA6		古後	方形系 (N52° W)	長軸3.58	遺構67、土器217	遺構24、土器55	カマド(土軸)、貯蔵穴(K1)	
79① SA7	79① SA4に切られる	古後	方形系		遺構66	遺構24		
79① SA9		古後	方形系		遺構67、土器217	遺構24		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
B①SA1		古後	方形 (N27° W)	長軸5.27 短軸4.56	遺構67	遺構24	主柱?4/4(P1~4)、周溝	
B①SA2		古後	方形		土器218			住居址にならないかもしれない。
B①SA3	B①SA5に切られる	古後	方形 (N32° W)	長軸4.66 短軸4.60	遺構67、土器218	遺構24	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	P5には焼土・炭が多く堆積する。K1床面からは炭・焼熱した石が検出され、住居廃絶後にカマドの石材を投棄した穴と考えられる。
B①SA4		古後	方形 (N65° W)	長軸4.38 短軸4.30	遺構67、土器218	遺構24	主柱(不明)、カマド(石組)	
B①SA5	B①SE1に切られる	古後	方形 (N22° W)	長軸6.42 短軸6.32	遺構68、土器219	遺構24、土器56	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	カマド周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。
B①SA6	B①SE2に切られる	古後	方形 (N18° W)	長軸6.62 短軸6.34	遺構69、土器220、石製品246	遺構24・25、石製品61	主柱3/4(P1~4)、入口? (P5・6)、カマド(土軸)、周溝	
B①SA7		古後	横長方形 (N31° W)	長軸4.63 短軸3.80	遺構69、土器220	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	
B①SA8		古後	方形 (N44° W)	長軸6.69 短軸6.04	遺構68、土器220	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	火床は2面存在した可能性がある。
B①SA9		古後	方形系	短軸4.44	遺構69、土器221	遺構25	主柱?2/4(P1・2)	
B①SA11		古後	方形系		遺構70、土器221	遺構25、土器56	カマド(痕跡)	
B①SA12		古後	方形 (S24° E)	長軸5.39 短軸4.84	遺構70、土器221	遺構25	カマド(石組)	平面形態が不定形で明確な柱穴が検出されず、カマドが通常と異なる南方にあることから、住居とするには不確定な要素を多分に含む。プランについては下層にあるB②SA5の覆土を1次面で住居址と認識した可能性がある。
B①SA13		古後	方形系 (N44° W)	短軸4.84	遺構70、土器221	遺構25	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)	
B①SA14		古後	方形系 (N45° W)		遺構70、土器221	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	掘り込みはほとんど検出されていない。
B①SA16		古後	方形 (N36° W)	長軸6.88 短軸6.04	遺構71、土器221・222	遺構25、土器56	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)、貯蔵穴P5	カマド周辺および床面に良好な土器の遺存状況が認められた。
B①SA17		古後	方形系			遺構25		50①SA9と同一遺構になるか?
C①SA2	53①SA12と統合	古後	方形 (N42° W)	長軸6.53 短軸6.39	遺構72、土器223	遺構25・26、土器56・57	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。カマド廃棄後、内部に準大の円礫が投棄された状態で検出された。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C①SA3		古後	方形 (N24° W)	長軸5.22 短軸5.14	遺構72、土器 224、土製品246	遺構26、土製品62	主柱3/4(P1-3)、カマ F×2(1…石組、2…痕跡、 2→1と構築)	カマドは北辺から西辺へ移動している。匙(2625)は混入と 思われる。
C①SA4	C①SD2に切ら れる	古後	方形 (N50° E)	長軸3.44 短軸3.12	遺構72、土器224	遺構26	カマド(痕跡)	
C①SA5		古後	方形 (N37° W)	長軸6.10 短軸5.93	遺構73、土器225	遺構26	主柱4/4(P1-4)・カマ ド×3(1…石組、2・3…痕 跡、2→3→1と構築)・貯蔵 穴(P5)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認めら れた。覆土中より獣歯が出土している。
C①SA6		古後	横長方形 (S54° E)	長軸3.69 短軸2.33	遺構74、土器224	遺構26	カマド(石組)	カマドは東隅に寄る。
C①SA7		古後	方形 (N36° E)	長軸6.23 短軸6.11	遺構74、土器 226、土製品246	遺構26	主柱4/4(P1-4)・カマ ド×3(1…石組、2・3…痕 跡、3→2→1と構築)	カマドは北西辺から北東辺へ移動している。
C①SA8	C①SU3に切ら れる	古後	方形系 (N48° W)		遺構74、土器 226・227	遺構26	主柱4/4(P1-4)、カマ ド(石組)、貯蔵穴(K1)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認めら れた。覆土内に人頭の際が出土する。
C①SA9	53②SA6と統合 C①SD2に切ら れる	古後	方形 (N38° W)	長軸5.83 短軸5.26	遺構75、土器 227・228、装身具 246	遺構26・27、土器 57、装身具62	主柱3/4(P1-3)、カマ ド(石組)	覆土内から糞・炭・焼土が多く出土している。カマドおよび その周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。本調査で 唯一の確実な石敷き火床である。
C①SA10		古後	方形 (N46° W)	長軸6.74 短軸6.70	遺構76、土器 228、装身具246	遺構27、土器57、 装身具62	主柱2/4(P1-4)、カマ ド×2(1…石組、2…痕跡)	カマド1出土土器とC①SA14出土土器が接合しているこ とから、カマド1は本来C①SA14に伴っていたと考えられ るため、本住居のカマドはカマド2の1基のみとなる。住居 の切り合い関係としてはC①SA14が上位にあることとな り、本住居出土遺物中には本来C①SA14に伴う土器が混 入している可能性が考えられる。
C①SA11	53②SA8と統合 53①SA11、C① SD2-SA9に切ら れる	古後	方形 (N52° W)	長軸9.40 短軸8.93	遺構77、土器 229・230、石製品 246、装身具246	遺構27、土器58、 石製品61、装身具 62	主柱4/4(P1-4)、カマ ド(石組)、貯蔵穴(K1)	カマド周辺およびK1に良好な土器の遺存状況が認められ た。K1内およびその周辺には炭・焼土が多く遺存していた。 P5は56①SA1の柱穴になる可能性が高い。
C①SA12		古後	横長方形 (N49° W)	長軸4.49 短軸3.30	遺構78、土器231	遺構27	カマド(石組)	カマド石材の抜き取り痕が残る。
C①SA13	56①SA2と統合	古後	方形 (N43° W)	長軸6.69 短軸6.62	遺構78、土器 231、装身具246	遺構27、土器58、 装身具62	主柱4/4(P1-4)、カマ ド×2(1…石組、2…痕跡、 2→1と構築)、貯蔵穴(K 1)、周溝	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認めら れた。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位：m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C①SA14		古後	方形系		遺構76、土器231	遺構27		C①SA10カマド1出土土器と本住居の出土土器が統合していることから、C①SA10カマド1は本住居に伴っていたと考えられる。
C①SA15		古後	方形 (N17° W)	長軸4.48 短軸3.89	遺構79、土器232	遺構27・28	主柱4/4(P1~4)、カマド×2(痕跡)	カマドは同位置に構築し直される。
C①SA16	C①SA10に切られる	古後	方形 (N30° W)	長軸6.39	遺構79、土器232・233、石製品246、装身具246	遺構28、土器58・59、石製品61、装身具62	主柱4/4(P1~4)、カマド×2(1…石組、2…痕跡、2→1と構築)	2つのカマドとも本調査で唯一の土製支脚をもつ。
C①SA17	C①SA21・SU3に切られる	古後	方形 (N42° W)		遺構80、土器233、石製品246	遺構28、石製品61	主柱3/4(P1~3)、カマド(痕跡)	
C①SA18		古後	横長方形 (N48° W)	長軸8.51 短軸7.70	遺構80、土器233・234	遺構28	主柱4/4(P1~4)、カマド×3(火床は3ヶ所、うち1ヶ所が石組)	3ヶ所の火床はカマドを作り替えた際の痕跡か？
C①SA19	C①SD1に切られる	古後	方形系 (N38° W)		遺構81、土器234	遺構28、土器59	主柱1/4(P1)、カマド(土袖)	
C①SA20	C①SD1・SA2に切られる	古後	横長方形 (N43° W)	長軸7.69 短軸5.81	遺構81、土器236	遺構28	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	火床が2ヶ所に認められた。2軒の住居が重なっていた可能性も考えられる。未掲載資料中にミニチュア土器がある。
C①SA21		古後	方形系 (N54° W)		遺構81、土器235	遺構28、土器59・60	カマド×2(1…石組、2…痕跡、2→1)	
C①SA22		古後	方形 (N19° W)	長軸3.29 短軸3.19	遺構81、土器236	遺構28	カマド(石組)	
C①SA23	C①SA22に切られる	古後	方形 (N44° W)	長軸4.05 短軸3.56	遺構82、土器236	遺構29	カマド(土袖)	
C①SA24	C①SA22・23に切られる	古後	方形 (N41° E)	長軸7.92 短軸7.53	遺構82、土器237、土製品246、石製品246	遺構29、石製品61	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	内部のC①SA27は本来同一住居であった可能性が高い。
C①SA25	C①SD2に切られる	古後	方形 (S17° W)	長軸5.54	遺構83、土器237、石製品246	遺構29、土器60、石製品61	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	
C①SA26	C①SD2・SA26に切られる	古後	方形系		遺構82、土器238、土製品246	遺構29、土製品62	カマド(石組)	
C①SA27		古後	方形	長軸5.18 短軸4.92	遺構82、土器238	遺構29	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	C①SA27床面の貼床部分を別住居と誤認した可能性が考えられる。火床はC①SA24に伴うものと考えられる。
C①SA28	C①SA27・SU3に切られる	古後	方形 (N40° W)	長軸5.81 短軸5.63	遺構83、土器238	遺構29	主柱4/4(P1~4)、カマド(土袖)、貯蔵穴(K1)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位：m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C①SA29	53①SA12と統合	古後	方形系 (N30° W)		遺構83、土器238	遺構29	カマド(石組)	
55①SB1	S K16/19/20/ 21/23/26/29/ 32を結合	古後	(N36° E)		遺構84、土器239	遺構29	1間×4間残存	
56①SK5		古後	円形系	幅0.79	土器239			
C①SK76		古後	小冪形 (N22° E)	長軸2.26 短軸0.73	遺構84、土器239	遺構29		
12①SD2		古後	(W-E)	幅1.4 検出長5.5		遺構29		
23①SD1		古後	(NW-SE)	幅3.4 検出長5.6	遺構84、土器 239、土製品246	遺構29		
23①SD2		古後	(NW-SE)	幅6.8 検出長5.0	遺構84、土器239	遺構29		
34①SD1		古後	(NW-SE)	幅4.8 検出長6.4	遺構84、土器240			
34①SD2		古後	(NW-SE)	幅3.8 検出長5.6	遺構84、土器240	遺構29、土器61		
46①SD2		古後	(NW-SE)	幅1.2 検出長8.0		遺構30		
49①SD1		古後	(NW-SE)	幅1.4 検出長31.6	遺構84、土器241	遺構30		
52②SD1		古後	(NW-SE)	幅2.5 検出長8.8	遺構84、土器241	遺構30		
53①SD5		古後	(W-E)	幅1.2 検出長24.0	石製品246	石製品61		
55①SD2		古後	(NW-SE)	幅2.4 検出長6.0	遺構84、土器241	遺構30		
55①SD3		古後	(NW-SE)	幅2.7 検出長6.0	遺構84、土器241	遺構30		
71①SD2		古後	(W-E)	幅2.5 検出長5.6	遺構84、土器 241、土製品246			
C①SD8		古後	(NE-SW)	幅0.4 検出長3.6	土器241			

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
D①SD1	46①SD1と統合	古後	(N-S)	幅5.1 検出長28.0	遺構84、土器242	遺構30、土器61		
D①SD2		古後	(NE-SW)	幅1.3 検出長22.0		遺構30		
E①SD17	63①SD4と統合	古後	(W-E)	幅3.9 検出長53.2	遺構84、土器 243・244	遺構30		
62②SU2		古後			土器244、土製品 246	土製品62		溝状遺構
62①SX3		古後	不整形		土器244	遺構30		
26①SB2		平中	(N39° W)		遺構85	遺構30	1間?×4間?	
39①SB1		平中	(N25° W)		遺構85	遺構30	1間?×4間?	P10-13は別遺構か?
54①SB1		平中	(N83° W)		遺構85	遺構30	1間?×2間?	
56②SB1		平中	(N78° W)		遺構85		1間?×4間?	
76①SB1		平中	(N50° E)		遺構85		1間?×1間?	
C①SB1		平中	(N22° E?)		遺構85	遺構30	2間×2間の総柱	
33①SH1	33①SB1	平中	(N58° E)			遺構30		
39①SH1		平中	(N27° W)		遺構85	遺構30		
52①SH1		平中				遺構30		所属時期は不確定である。
52①SH2	52①SB1	平中				遺構30		所属時期は不確定である。
53①SK1		平中	隅丸方形	長軸1.84 短軸1.67	土器247	遺構30		
53①SJ1		平中	長楕円形	長径1.91 短径0.66	遺構85	遺構31	伸展帯	
16①SD1	42①SD1と統合	平中	(W-E)	幅1.4 検出長52.8	遺構85、土器247	遺構31、土器62		墨書土器2点(2642・2643)が出土している。2643の墨書は「有」と判読され、現在も残る字名の「有無」の一部である可能性もある。
C①SD1	53①SD2と統合	平中	(N-S)	幅2.6 検出長20.8	土器247			
C①SD2		平中	(N-S)	幅2.4 検出長16.0	土器247			
4①SE1		平中	円形	長径1.78 短径1.58	遺構86	遺構31	素掘り	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
4① SE2		平中	円形	径1.56	遺構86	遺構31	素掘り	
14① SE1		平中	円形	長径1.62 短径1.35	遺構86	遺構31	素掘り	
52① SE1	52② SE1から名称変更	平中	不整円形	径1.94	遺構86	遺構31	石組み	
70① SE1		平中	円形	径1.16	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE1		平中	不整円形	長径2.02 短径1.77	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE2		平中	隅丸方形	長軸2.75 短軸2.64	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE3		平中	不整円形	長径2.28 短径2.06	遺構87		素掘り	
B① SE4		平中	円形	長径2.73 短径2.38	遺構87	遺構31	素掘り	
B① SE5		平中	不整円形	長径2.55 短径2.46	遺構87	遺構31	石組み	
B① SE6		平中	不整円形	長径3.63 短径2.47	遺構87	遺構31	素掘り	
C① SU3	C① SU1と統合	平中	不整形		遺構88,土器247	遺構31		内部に島状の高まりや性格不明の石積みが発出された。人為的な掘り込みの可能性もある。

表4 土器観察表

・「遺存率」完形に対する遺存割合をA(80%以上)、B(50%以上80%未満)、C(20%以上50%未満)、D(20%未満)と記号化して表記した。

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」の色名を表記した。

No.	出土遺構	層位	種類	器種	遺存	色調	技法・支線・特徴
1	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：平行沈線 連続刺突 三角形文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
2	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：平行沈線 波状懸垂文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
3	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
4	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：半隆起線、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
5	45② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：半隆起線 格子目文、内：ナデ、胎土：金雲母・石英
6	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：LR縄文→竹管押引 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
7	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：RL縄文→沈線、内：ナデ、胎土：金雲母
8	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰黒	外：竹管押引 渦巻三叉文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英
9	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	陶灰	外：羽状縄文、内：横ナデ、胎土：茶褐色砂粒・繊維
10	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
11	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起線 U字状文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
12	63② SA1	床直	縄文	深鉢	C	にぶい黄緑	外：連続刺突 指頭圧痕文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
13	63② SA1	床直	縄文	深鉢	A	明赤褐	外：沈線 指頭圧痕文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
14	63② SA1	K2	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線 角押文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
15	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：LR縄文→半隆起線 コイル状突起、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
16	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
17	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：RL縄文 竹管押引、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
18	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線 半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
19	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
20	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	赤褐	外：指間区画文 平行沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
21	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：半隆起線 指間区画文 平行沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：201→1
22	63② SA2	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：新手法 a 交互刺突 a 隆線 半隆起線、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
23	63② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	淡黄緑	外：張り付け隆帯 沈線 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
24	63② SP79	覆土	縄文	突起	D	にぶい黄緑	外：凹線(渦巻文)、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：唐草文系
25	63② SP79	覆土	縄文	突起	D	にぶい黄緑	外：凹線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：唐草文系
26	63② SR1	縄文	有孔浮付	A	にぶい黄緑	外：隆線(渦巻文)、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
27	48② SR1	縄文	縄文	D	にぶい黄緑	外：LR縄文→圧痕隆帯、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
28	48② SR1	埋室内	縄文	浅鉢	D	にぶい黄緑	外：凹線 沈線 ミガキ、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
29	48② SR1	埋室内	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：縦 RL 縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
30	48② SR1	埋室内	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：凹線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
31	48② SR1	埋室内	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：縦 RL 縄文、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
32	48② SR1	埋室内	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：縦 RL 縄文、内：ナデ？、胎土：白色・茶褐色砂粒
33	48② SR1	埋室内	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：縦 RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
34	45② SD1	覆土	縄文	浅鉢	D	にぶい黄緑	外：粘土板貼り付け 凹線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
35	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
36	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：縦 RL 口唇部目、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
37	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：凹線 矢羽状文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
38	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	黒	外：縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・繊維
39	遺構外	2①	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆帯貼り付け、内：摩滅、胎土：白色砂粒
40	遺構外	2①	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：竹管押引、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・繊維
41	遺構外	19①	縄文	有孔浅鉢	D	にぶい黄緑	外：無文、内：摩滅、胎土：白色砂粒・金雲母
42	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	橙	外：如意状突起 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
43	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線 半隆起線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
44	遺構外	45①	縄文	深鉢	A	橙	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
45	遺構外	45②	縄文	深鉢	C	にぶい黄緑	外：凹線 矢羽状文、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
46	遺構外	45③	縄文	突起	D	にぶい黄緑	外：凹線(渦巻文)、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
47	遺構外	45③	縄文	深鉢	D	灰黒	外：隆線 凹線 刺突、内：オサニ？、胎土：白色砂粒・金雲母
48	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：LR縄文→半隆起線 沈線、内：LR縄文、胎土：白色砂粒
49	遺構外	45③	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外：隆線 凹線、内：摩滅、胎土：白色砂粒・金雲母
50	遺構外	45③	縄文	深鉢	D	赤褐	外：隆帯把手浮線 凹線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
51	遺構外	45③	縄文	深鉢	D	黒	外：凹線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
52	遺構外	45③	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線 突起、内：ナデ、胎土：黒色砂粒

No.	出土遺構	層位	類別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
53	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：帯状突起 沈線 矢羽状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
54	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：無文、内：オサエ、胎土：白色砂粒
55	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：帯状突起、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
56	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：凹線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
57	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：半隆起線 連続刺突、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英
58	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：RL縄文→平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
59	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：半隆起線 隆線→RL縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
60	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	黄	外：隆線 指頭圧痕文、内：ナデ、胎土：白色・黒色砂粒
61	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線 U字状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
62	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	灰褐	外：沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
63	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
64	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
65	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
66	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：隆線 沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
67	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：貼り付け隆帯、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
68	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：斜行沈線 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
69	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：縄文?→隆帯、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：加曾利E
70	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：知急状突起 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
71	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：橋状把手、内：摩滅、胎土：白色砂粒
72	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	浅黄緑	外：隆帯貼り付け 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
73	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
74	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：LR縄文→凹線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
75	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：貼り付け隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
76	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：RL縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
77	遺構外	53①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：充植縄文(無筋)?、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
78	遺構外	53②	縄文	深鉢	D	黄	外：半隆起線 連続刺突 圓錐状突起 張り付け隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
79	遺構外	53②	縄文	把手	D	黄	外：縦LR縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
80	遺構外	53②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：無文、内：横ナデ、胎土：白色・黒色砂粒・石英
81	遺構外	53①	縄文	浅鉢	D	にぶい黄	外：凹線→充植縄文(無筋)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒、備考：加曾利E
82	遺構外	67①	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：LR縄文→浮線(刷み目)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒、備考：諸磯b新
83	遺構外	67①	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：貼り付け隆線→連続刺突、内：摩滅、胎土：白色砂粒・角閃石
84	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	黄	外：Y字型垂文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
85	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	黄	外：張り付け隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
86	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文(結節あり)、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
87	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：張り付け隆線 液状沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
88	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：RL縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・縦線・角閃石、備考：前期中葉
89	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：RL縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
90	E②SA1	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：LR縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
91	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：連続刺突 半隆起線、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
92	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：連続刺突 半隆起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英
93	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英、備考：92に同一
94	E②SA2	覆土	縄文	浅鉢?	D	にぶい黄	外：半隆起線、内：ナデ・ミダキ、胎土：白色砂粒・角閃石
95	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：沈線 交互刺突a、内：摩滅、胎土：白色砂粒
96	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線 沈線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
97	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・縦線
98	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：摩滅、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英、備考：92に同一
99	E②SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：摩滅、内：ナデ、胎土：白色砂粒
100	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	浅黄緑	外：縦LR(結節あり)→凹線 交互刺突c、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
101	E②SA3	床直	縄文	深鉢	D	浅黄緑	外：羽状縄文→磨ぎ手文c 半隆起線 交互刺突b、内：摩滅、胎土：白色砂粒
102	E②SA3	覆土	縄文	深鉢	C	にぶい黄	外：縦RL縄文→磨ぎ手文c 交互刺突c、内：ミダキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
103	E②SA3	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：磨ぎ手文c 半隆起線 斜行沈線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
104	63②SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦LR縄文→平手文、内：ナデ・オサエ、胎土：白色砂粒
105	63②SA3	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦LR縄文 Y字型垂文? 隆線 凹線 玉指三叉文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
106	E②SA3	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆帯貼り付け 連続刺突 矢羽状文 凹線 交互刺突c、内：ミダキ、胎土：白色・黒色砂粒・金雲母

No.	出土遺構	層位	類別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
107	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	黒灰	外：隆帯貼り付け 交互刺突 c 矢羽状文 凹線 連続刺突、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
108	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	霞	外：RL 縄文→継ぎ手文 a 連続刺突 交互刺突 c、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
109	E ② SA3	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：LR 縄文→継ぎ手文 c 半隆起線 交互刺突 b、内：摩滅、胎土：白色砂粒
110	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黒	外：RL 縄文 隆線 半隆起線 凹線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
111	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：隆帯貼り付け 継ぎ手文 c 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
112	63③ SA4	床直	縄文	突起	D	濁	外：隆帯貼り付け、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
113	63③ SA4	覆土	縄文	把手	D	にぶい黄鉄	外：隆帯貼り付け、内：ナデ、胎土：白色砂粒
114	63③ SA4	覆土	縄文	台付深鉢	C	にぶい黄鉄	外：凹線(渦巻文) 矢羽状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
115	63③ SA4	覆土	縄文	突起	D	にぶい黄鉄	外：凹線(渦巻文)、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母
116	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
117	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文→半隆起線 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
118	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：摩滅、内：横ナデ、胎土：金雲母
119	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい霞	外：縦 RL 縄文(結束あり)→隆線 平行沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
120	E ② SA3	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい濁	外：ミガキ?、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：108に同一
121	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
122	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい濁	外：摩滅、内：ナデ?、胎土：白色砂粒
123	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：羽状縄文→Y字懸垂文 半隆起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
124	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：羽状縄文→Y字懸垂文 半隆起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：123に同一
125	E ② SA3	床直	縄文	深鉢	D	黒灰	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
126	E ② SA3	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：隆線 半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
127	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文(結束あり)→隆線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
128	E ② SA3	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文(結束あり)→半隆起線、内：オサエ?、胎土：白色砂粒
129	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：羽状縄文→隆線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：123に同一
130	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：縦 RL 縄文→隆線 継ぎ手文 b 半隆起線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
131	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 LR 縄文?→継ぎ手文 b 半隆起線 連続刺突、内：摩滅、胎土：白色砂粒・角閃石
132	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文→平行沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
133	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	赤褐	外：隆線 半隆起線 矢羽状文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
134	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
135	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：縦 LR 縄文(結束あり) 連続刺突、内：摩滅、胎土：白色砂粒
136	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：縦 RL 縄文(結束あり) 隆線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
137	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文(結束あり)、内：摩滅、胎土：白色砂粒
138	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文(結束あり) 隆線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
139	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：羽状縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
140	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文→半隆起線 沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
141	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 LR 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
142	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
143	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文、内：ミガキ、胎土：金雲母
144	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：LR 縄文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
145	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	黒灰	外：縦 LR 縄文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
146	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 RL 縄文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
147	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：縦 LR 縄文、内：ミガキ、胎土：金雲母
148	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：半隆起線 斜行沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
149	E ② SA3	K2	縄文	浅鉢	D	にぶい黄鉄	外：隆線(湖目日あり) 半隆起線 刺突 U字文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
150	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい濁	外：LR 縄文 隆線 三角形去文 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
151	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	浅黄鉄	外：半隆起線 斜行沈線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
152	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：沈線 交互刺突 c、内：ナデ、胎土：白色砂粒
153	63③ SA4	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：平行沈線 交互刺突 a、内：ナデ?、胎土：白色砂粒、備考：123に同一
154	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：平行沈線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
155	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	黒褐	外：隆帯貼り付け 沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
156	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄鉄	外：RL 縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
157	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線 交互刺突 c 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
158	63③ SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：RL 縄文 隆線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：157に同一

No	出土遺構	層位	種類	形態	遺存	色調	技法・文様・特徴
159	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤陶	外:RL縄文 隆線。内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
160	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線。内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
161	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線 交互刺突c 沈線。内:横ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
162	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線 交互刺突c、内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
163	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線。内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
164	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線。内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
165	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:隆線 交互刺突c、内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:157に同一
166	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:縦 RL縄文(結東あり)、内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:157に同一
167	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:縦 RL縄文 コンパス文 半隆起線 交互刺突c、内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:157に同一
168	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:縦 RL縄文(結東あり)→隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:157に同一
169	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:縦 RL縄文(結東あり)、内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:157に同一
170	63② SA4	覆土	縄文	浅鉢	D	赤陶	外:ナデ キヤニ、内:ミガキ、胎土:白色砂粒・金雲母
171	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒
172	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
173	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
174	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:171に同一、炭化物付着
175	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
176	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:摩滅、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
177	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:摩滅、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
178	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
179	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:摩滅、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
180	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:摩滅、胎土:白色砂粒、備考:171に同一
181	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:沼門区陶文 四線。内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒
182	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線。内:摩滅、胎土:白色砂粒
183	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	C	黒	外:Y状把手 隆線 押引文、内:横ナデ、胎土:金雲母
184	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:無文、内:横ナデ、胎土:白色砂粒・雲母
185	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:無文?、内:摩滅、胎土:白色砂粒
186	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	灰黄陶	外:ナデ、内:摩滅、胎土:白色砂粒、備考:御沢系の底部?
187	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:隆線。内:ナデ、胎土:白色砂粒
188	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	橙	外:隆線 平行沈線。内:ナデ、胎土:白色砂粒・石英
189	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	灰陶	外:羽状縄文(結東あり)→四線。内:摩滅、胎土:白色砂粒
190	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	灰黄陶	外:四線。内:摩滅、胎土:白色砂粒・石英
191	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	黒陶	外:隆線 半隆起線。内:ミガキ、胎土:白色砂粒
192	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:隆線 半隆起線。内:ミガキ、胎土:白色砂粒
193	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:格子目文 半隆起線。内:ナデ、胎土:茶褐色砂粒・金雲母
194	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	灰陶	外:LR縄文→横ギ手文c、内:ミガキ、胎土:白色砂粒・石英
195	E② SA4	覆上	縄文	浅鉢	D	にぶい橙	外:角押文 沈線 三角形去文(内面)。内:ミガキ、胎土:金雲母
196	E② SA4	覆上	縄文	深鉢	D	にぶい陶	外:交互刺突b 半隆起線。内:ミガキ、胎土:金雲母
197	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰陶	外:LR縄文 半隆起線 隆線。内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒・石英
198	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:縦 LR縄文→半隆起線 隆線。内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒・石英、備考:197に同一
199	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰陶	外:縦 LR縄文→半隆起線 隆線。内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒
200	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:縦 RL縄文→隆線。内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒・金雲母
201	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:LR縄文(結東あり)、内:ミガキ、胎土:金雲母
202	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:縦 RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒・角四石
203	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	黒	外:RL縄文 隆線。内:摩滅、胎土:金雲母
204	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰黄陶	外:羽状縄文。内:摩滅、胎土:白色砂粒
205	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰黄陶	外:縦 RL縄文 隆線。内:摩滅、胎土:金雲母・石英
206	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:RL縄文 連続刺突。内:ミガキ、胎土:茶褐色砂粒・石英
207	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒・石英
208	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:縦 RL縄文、内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒
209	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外:LR縄文、内:ナデ、胎土:白色砂粒・繊維
210	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰黄陶	外:LR縄文、内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒・石英
211	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
212	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄灰	外:縄文?→Y字型重文 平行沈線。内:ナデ、胎土:白色砂粒

No.	出土遺構	層位	種別	部種	遺存	色調	技法・文様・特徴
213	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：履 LR 縄文(結束あり)→Y字懸垂文。内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英
214	E② SA4	覆中	縄文	浅鉢	D	明赤褐	外：平行沈線 交互刺突 b、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英
215	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 交互刺突 c、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
216	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：三角形去文。内：ナデ、胎土：白色砂粒
217	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：交互刺突 c 平行沈線 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
218	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：平行沈線 凹縁、内：摩滅、胎土：白色砂粒
219	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	黒灰	外：平行沈線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
220	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：突起(内面)、内：ナデ、胎土：金雲母・角閃石
221	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：LR 縄文→隆縁、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
222	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
223	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	黒陶	外：格子目文 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：金雲母
224	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：交互刺突 c 半隆起縁 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
225	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：平行沈線、内：ナデ、胎土：金雲母
226	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：し字状文 凹縁、内：オサエ→ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
227	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：矢羽状文、内：摩滅、胎土：金雲母
228	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：平行沈線 羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
229	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	灰青褐	外：半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
230	E② SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰青褐	外：隆縁 半隆起縁、内：ナデ、胎土：白色砂粒
231	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：凹縁、内：ミガキ、胎土：金雲母
232	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	浅黄青	外：隆縁 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
233	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：半隆起縁、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
234	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：LR 縄文→隆縁 半隆起縁、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
235	E② SA4	覆中	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：半隆起縁 平行沈線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
236	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：凹縁 格子目文 波状懸垂文 交互刺突 c 満池三叉文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
237	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：RL 縄文 履 RL 縄文(結束あり) 隆縁、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
238	E② SA5	床直	縄文	深鉢	C	にぶい赤褐	外：履 RL 縄文(結束あり)、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：237に同一
239	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：知意状突起 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
240	E② SA5	覆上	縄文	突起	D	にぶい赤褐	外：ミガキ 円孔、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
241	E② SA5	P12	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：履 LR 縄文→隆縁 沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
242	E② SA5	床面	縄文	D	にぶい赤褐	外：履 LR 縄文→隆縁 沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：241に同一	
243	E② SA5	床面	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：履 LR 縄文→凹縁 列点文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
244	E② SA5	床面	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：爪形文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・磁鐵
245	E② SA5	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：角押文、内：摩滅、胎土：金雲母
246	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
247	E② SA5	床面	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：半隆起縁、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
248	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：凹縁 隆縁 波状沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
249	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	黒陶	外：凹縁 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒
250	E② SA5	床面	縄文	深鉢	D	灰青褐	外：羽状縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
251	E② SA5	床面	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：履 RL 縄文→波状懸垂文、内：ミガキ、胎土：金雲母
252	E② SA5	覆土	縄文	深鉢	D	砂	外：履 RL 縄文→凹縁、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
253	E② SA5	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：凹縁 波状沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒、備考：248に同一
254	E② SA6	床直	縄文	深鉢	B	にぶい黄青	外：履 LR 縄文(結束あり)→Y字懸垂文、内：オサエ→ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
255	E② SA6	床直	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：履 LR 縄文(結束あり)→Y字懸垂文(刺突あり) 連続刺突、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
256	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	C	にぶい黄青	外：三角形去文 沈線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英
257	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 半隆起縁 交互刺突 b、内：摩滅、ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
258	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 指頭圧痕文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
259	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：指頭圧痕文、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
260	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 し字状文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
261	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：無文、内：摩滅、胎土：白色砂粒
262	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：LR 縄文 隆縁 半隆起縁 交互刺突 c、内：横ナデ、胎土：茶褐色砂粒・金雲母・角閃石
263	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄青	外：隆縁 沈線 半隆起縁、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石
264	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	黒陶	外：RL 縄文 半隆起縁 平行沈線 交互刺突 c、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母

No	出土遺構	階位	種別	形種	遺存	色調	技法・文様・特徴
265	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	黒灰	外:LR縄文→半隆起線 沈線。内:横ナデ、胎土:黒灰
266	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:隆線 平行沈線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
267	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外:半隆起線 平行沈線、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
268	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:半隆起線(一部扇形文) 交互刺突b、内:横ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒
269	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:Y字垂文 沈線。内:横ナデ、胎土:白色砂粒
270	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:RL縄文→半隆起線 連続刺突、内:横ナデ、胎土:茶褐色砂粒・石英
271	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:RL縄文→半隆起線 連続刺突、内:横ナデ、胎土:茶褐色砂粒・石英
272	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:半隆起線 連続刺突、内:横ナデ、胎土:金雲母
273	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:RL縄文→半隆起線 連続刺突 交互刺突c、内:横ナデ、胎土:茶褐色砂粒・石英
274	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:RL縄文→半隆起線 連続刺突、内:横ナデ、胎土:茶褐色砂粒・石英
275	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:凹線、内:ナデ、胎土:金雲母
276	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:蓮華状文、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
277	E② SA6	床面	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:沈線、内:摩滅、胎土:白色砂粒
278	E② SA6	覆土	縄文	深鉢?	D	にぶい黄緑	外:羽状縄文・ケズリ、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
279	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:RL縄文、内:ケズリ・ナデ、胎土:白色砂粒
280	E② SA6	床面	縄文	深鉢	D	明赤褐	外:隆線 凹線、内:オサエ?、胎土:白色砂粒・金雲母
281	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:平行沈線、内:ナデ、胎土:白色砂粒
282	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:無縁縄文、内:摩滅、胎土:白色砂粒
283	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:羽状縄文、内:横ナデ、胎土:白色砂粒・金雲母
284	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:半隆起線 連続刺突、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
285	E② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:沈線、内:摩滅、胎土:金雲母
286	E② SA7	軀体	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:LR縄文→縦ぎ手文c、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
287	E② SA7	軀体	深鉢	D	灰黄褐	外:LR縄文→縦ぎ手文c、内:横ナデ、胎土:白色砂粒、備考:286:同一	
288	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒
289	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
290	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
291	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
292	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
293	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
294	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
295	E② SA8	卵	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:288:同一
296	E② SK9	床面	縄文	浅鉢	B	浅黄橙	外:隆線 コイル状突起 凹線、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
297	E② SP28	覆土	縄文	深鉢	D	浅黄橙	外:縦RL縄文→隆線 平行沈線、内:横ナデ、胎土:白色砂粒
298	E② SJ1	覆土	縄文	浅鉢	A	橙	外:無文、内:赤彩文 ミガキ、胎土:白色砂粒、備考:底部穿孔
299	E② SJ2	覆土	縄文	浅鉢	A	橙	外:無文、内:赤彩文 ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒
300	E② SJ3	縄文	浅鉢	A	橙	外:口縁赤彩、内:赤彩文 ミガキ	
301	E② SJ4	覆土	縄文	深鉢	A	にぶい黄緑	外:オサエ→ナデ、内:横ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒、備考:一部脈付着
302	E② SR1	縄文	深鉢	A	にぶい黄緑	外:縦RL縄文→隆線 沈線(刺先)、内:横ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒	
303	E② SR2	縄文	深鉢	B	にぶい黄緑	外:羽状縄文→隆線 半隆起線 縦ぎ手文c、内:横ナデ、胎土:白色砂粒	
304	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	A	にぶい黄緑	外:突起 凹線 矢羽状文、内:ケズリ・ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒
305	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	A	橙褐	外:ナデ、内:ナデ、胎土:胎土:白色・茶褐色砂粒
306	E② SN1	覆土	縄文	突起	D	にぶい黄緑	外:凹線(渦巻文)、内:凹線(渦巻文)、胎土:白色砂粒・雲母
307	E② SN1	覆土	縄文	突起	D	にぶい黄緑	外:凹線、内:凹線、胎土:白色・茶褐色砂粒
308	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:隆線 矢羽状文、内:ケズリ、胎土:白色・茶褐色砂粒
309	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文→半隆起線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
310	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文→凹線 隆線、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒
311	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:隆線、内:ナデ、胎土:白色・茶褐色砂粒
312	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:隆線 平行沈線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
313	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	黒灰	外:RL縄文→半隆起線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒
314	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:平行沈線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒・角四石
315	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外:縦RL縄文、内:ナデ、胎土:白色砂粒
316	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:沈線、内:摩滅、胎土:白色・茶褐色砂粒・石英
317	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外:縦RL縄文→半隆起線、内:ミガキ、胎土:白色・茶褐色砂粒
318	E② SN1	覆土	縄文	深鉢	D	にぶい黄緑	外:沈線、内:ミガキ、胎土:白色砂粒・石英
319	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外:縦ぎ手文a 平行沈線 交互刺突a Y字垂文、内:横ナデ、胎土:白色砂粒・石英

No.	出土遺構	層位	種別	部材	遺存	色調	技法・文様・特徴
320	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：隆縁 半隆起縁 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石
321	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：耳状突起 沈線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
322	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外：耳状突起 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石
323	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：耳状突起 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：322に同一
324	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：耳状突起 連続刺突 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
325	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：耳状突起 連続刺突 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
326	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：RL縄文 隆縁(筋目あり) 矢羽状文 連続刺突 交互刺突c、内：ミガキ、胎土：茶褐色砂粒・金雲母
327	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：RL縄文 隆縁(筋目あり)、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母、備考：326に同一
328	遺構外	E②	縄文	突起	D	にぶい褐	外：隆縁 凹縁、内：ナデ、胎土：茶褐色砂粒
329	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐	外：隆縁 凹縁(朝先文)、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
330	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：隆縁 半隆起縁 コイル状突起、内：摩滅、胎土：白色砂粒
331	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：瘤状突起 半隆起縁 爪文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
332	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外：LR縄文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
333	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：隆縁 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
334	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：無文、内：ナデ・ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
335	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	浅黄橙	外：無文？、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
336	遺構外	E②	縄文	深鉢	A	にぶい黄橙	外：隆縁 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
337	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐	外：隆縁 沈線 交互刺突c 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
338	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起縁 交互刺突a、内：ナデ、胎土：白色砂粒
339	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：隆縁・凹縁、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
340	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：隆縁 半隆起縁、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
341	遺構外	E②	縄文	浅鉢	D	にぶい黄橙	外：沈線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：赤彩
342	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	黒黒	外：沈線 交互刺突c 連続刺突 玉葱三叉文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
343	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：LR縄文 隆縁 半隆起縁、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
344	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：沈線(朝先文)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
345	遺構外	E②	縄文	浅鉢？	D	にぶい黄橙	外：隆縁 凹縁、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
346	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰褐	外：沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
347	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆縁、内：摩滅、胎土：白色砂粒・角閃石
348	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外：半隆起縁、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
349	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起縁 凹縁、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
350	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：縦RL縄文→沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
351	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆縁 沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母
352	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐	外：隆縁 半隆起縁 平行沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母、備考：351に同一
353	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐	外：隆縁 沈線、内：摩滅、胎土：金雲母、備考：351に同一
354	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐	外：隆縁 沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母、備考：351に同一
355	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：RL縄文→隆縁半 隆起縁、内：横ナデ、胎土：金雲母
356	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：RL縄文→平行沈線、内：ミガキ、胎土：金雲母
357	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：LR縄文→沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母・石英
358	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：RL熱赤文→半隆起縁 連続刺突、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
359	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：半隆起縁 玉葱三叉文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
360	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい橙	外：突起(連続刺突) 交互刺突b、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
361	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：半隆起縁 連続刺突 交互刺突c、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
362	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：縦RL縄文、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
363	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰褐	外：縦RL縄文 隆縁、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
364	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	暗褐	外：縦RL縄文、内：横ナデ、胎土：金雲母
365	遺構外	E②	縄文	台付深鉢	D	にぶい黄橙	外：隆縁 半隆起縁、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
366	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・繊維
367	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・繊維、備考：366に同一
368	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄橙	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
369	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
370	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
371	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一

No	出土遺構	層位	種類	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
372	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：横ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
373	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒・繊維、備考：366に同一
374	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒・繊維、備考：366に同一
375	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒・繊維
376	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：横ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
377	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：横ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
378	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
379	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
380	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：横ナテ、胎土：白色砂粒・繊維、備考：366に同一
381	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文(結束あり)、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒・角四石、備考：381に同一
382	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文(結束あり)→隆線 平行沈線、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角四石、備考：381に同一
383	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
384	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文(結束あり)、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角四石、備考：381に同一
385	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：381に同一
386	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒
387	遺構外	E②	縄文	注口残鉢	A	にぶい黄	外：縦RL縄文、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：包含層
388	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：如意状突起 平行沈線 凹線、内：横ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：包含層
389	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文 半隆起線 凹形刺突 交互刺突、内：ミガキ、胎土：金雲母、備考：包含層
390	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：包含層
391	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	黒周	外：玉拍三叉文 沈線、内：ナテ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英、備考：包含層
392	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文 隆線 半隆起線、内：横ナテ、胎土：白色砂粒・雲母、備考：包含層
393	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：LR縄文→隆線、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：包含層
394	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：平行沈線 凹線 隆線、内：摩滅、胎土：金雲母・石英、備考：包含層
395	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線(内面)、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
396	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線(内面)、内：ナテ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：包含層
397	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：隆線(爪形文) 沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
398	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：凹線、内：摩滅、胎土：白色砂粒、備考：包含層
399	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	黒周	外：隆線 半隆起線 矢羽状文、内：ナテ、胎土：金雲母、備考：包含層
400	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：半隆起線 斜行沈線、内：ナテ、胎土：白色砂粒・石英、備考：包含層
401	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：傘状体圧痕? 平行沈線、内：ミガキ、胎土：金雲母・石英、備考：包含層
402	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英、備考：包含層
403	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文→沈線、内：横ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
404	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：羽状縄文→半隆起線(爪形文) 連続刺突、内：ナテ、胎土：白色砂粒・石英、備考：包含層
405	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線 蓮華文、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
406	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線 三叉文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
407	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文?→隆線(爪形文)、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
408	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：LR縄文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
409	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線 半隆起線、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
410	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：沈線(側光文)、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・角四石、備考：包含層
411	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	赤周	外：隆線 平行沈線、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
412	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：鎌字手文 半隆起線、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
413	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい赤褐	外：隆線 半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：包含層
414	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：隆線 凹線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：包含層
415	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：縦RL縄文→半隆起線、内：摩滅、胎土：白色砂粒、備考：包含層
416	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	橙	外：凹線 交互刺突?、内：摩滅、胎土：白色砂粒、備考：包含層
417	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：凹線(渦巻文) 矢羽状文、内：ミガキ、胎土：茶褐色砂粒、備考：包含層
418	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線 半隆起線、内：ナテ、胎土：白色砂粒、備考：包含層
419	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：筒状把手 凹線、内：摩滅、胎土：金雲母
420	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰褐	外：凹形刺突 爪形文 平行沈線、内：ナテ、胎土：白色砂粒
421	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：U字状文 平行沈線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
422	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：半隆起線(連続刺突) 熱帯文 沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
423	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英

No	出土遺構	層位	種別	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
424	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒、備考：補修孔あり
425	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：縦 RL 縄文？、内：ケズリ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
426	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：縦 LR 縄文→隆線(爪形文) 平行隆線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
427	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：無縁縄文 凹線、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
428	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	黒灰	外：沈線、内：ケズリ、胎土：白色砂粒・雲母・磁粒
429	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	褐色	外：爪形文、内：ケズリ、胎土：白色砂粒・雲母・磁粒
430	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：羽状縄文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・磁粒
431	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：羽状縄文、内：ケズリ、胎土：白色・茶褐色砂粒・磁粒
432	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：無縁羽状縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
433	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：羽状縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英
434	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：羽状縄文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
435	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰褐色	外：縦 RL 縄文→凹線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
436	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：隆線 半隆起線 三叉文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
437	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：隆線 半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
438	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：隆線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
439	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：半隆起線 三叉文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
440	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：隆線 半隆起線 交互斜突 b、内：磨滅、胎土：白色砂粒
441	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい黄褐色	外：半隆起線 平行沈線 交互斜突 b、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母
442	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：隆線 半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
443	遺構外	E②	縄文	浅鉢	D	にぶい褐色	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色・黒色砂粒・雲母
444	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	灰黄褐色	外：縦 斜め RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
445	遺構外	E②	縄文	深鉢	D	にぶい褐色	外：半隆起線 三叉文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
446	遺構外	E②	縄文	突起	D	灰褐色	外：隆線 三叉文 連続突起、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
586	3③ SA1	床直	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：龍沈線区画内を龍重直線文・櫛直線文で充填、内：右横ハケ→ナデ
587	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：龍沈線区画内を櫛短直線文・櫛直線文で充填、内：横ハケ→ナデ
588	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	黒褐色	外：龍沈線区画内を斜突文・LR 縄文で充填、内：横ハケ→ナデ
589	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇 LR 縄文 口縁 LR 縄文→龍 L 具斜突文、内：ナデ
590	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：龍沈線区画内を櫛直線文・櫛斜線文で充填、内：調整不明
591	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇 LR 縄文
592	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：櫛横羽状文、内：ハケ→横ミガキ
593	3③ SA1	床直	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：櫛横羽状文、内：横ミガキ
594	3③ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：櫛横羽状文→棒状工具斜突文、内：横ミガキ？
595	3③ SA1	床直	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：櫛横羽状文、内：横ミガキ
596	3③ SA1	覆土	弥生	鉢	D	にぶい褐色	外：龍沈線文/棒状工具斜突文、内：調整不明
597	3③ SA2	床直	弥生	壺	A	にぶい黄褐色	外：肩部1対穿孔2ヶ 同上龍沈線区画内を櫛引文で充填 龍下龍重直線文内を LR 縄文で充填 ミガキ、或→ケズリ？、内：調整不明
598	3③ SA2	床直	弥生	壺	D	褐色	外：口唇部須押捺 胴部櫛横羽状文？、内：調整不明 接合痕
599	3③ SA2	覆土	弥生	壺	C	にぶい褐色	外：龍重三角文 ミガキ？、内：ケズリ→ミガキ？、内：ナデ？
600	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：口唇 LR 縄文→棒状工具押捺、内：横ハケ→横ミガキ
601	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：龍沈線文、内：調整不明
602	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：龍沈線区画内を連続斜突文・LR 縄文+龍波状文で交互充填、内：ナデ？
603	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：龍沈線区画内を櫛直線文で充填、内：調整不明
604	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	褐色	外：龍沈線区画内を斜突文・LR 縄文で充填、内：ナデ
605	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：龍沈線区画内を櫛短直線文・櫛直線文で充填、内：調整不明
606	3③ SA2	壺	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：龍重直線文？内を櫛直線文で充填、内：ナデ
607	3③ SA2	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：龍重直線文 凹形浮文、内：ナデ
608	3③ SA2	壺	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：龍重山形文 横ハケ、内：ナデ
609	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇 LR 縄文 胴部櫛横羽状文？、内：横ミガキ
610	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇部工具斜突文、内：調整不明
611	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇 LR 縄文→棒状工具押捺、内：横ミガキ
612	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：櫛横羽状文→棒状工具斜突文、内：調整不明
613	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐色	外：櫛横羽状文→龍 L 具斜突文、内：横ミガキ？
614	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：櫛横羽状文→棒状工具斜突文、内：横ミガキ
615	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐色	外：櫛横羽状文、内：横ハケ
616	3③ SA2	覆土	弥生	壺	D	褐色	外：櫛横羽状文、内：横ミガキ
617	3③ SA2	覆土	弥生	鉢	D	黒灰	外：口唇 LR 縄文 口縁折り返し 胴部横ハケ→ミガキ、内：横ハケ→ミガキ

No	出土遺構	階位	種類	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
618	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：ナデ
619	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部飾線文→龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：横ミガキ
620	4① SA1	床直	赤生	鉢	D	にぶい黄橙	外：口唇 RL 縄文 胴部龍沈線文/連続刺突文 胴部重連弧文内を連続刺突文・RL 縄文で充填。内：ナデ
621	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部貼付突帯/連続刺突文。内：ナデ
622	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部貼付突帯+連続龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：調整不明
623	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：龍沈線区画内を1区画おきに RL 縄文で充填/連続刺突文。内：調整不明
624	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：連続刺突文/重連弧文/円形浮文。内：調整不明
625	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：懸垂文(御直線文を龍沈線+連続刺突文で区画)/龍沈線区画 横ハケ。内：調整不明
626	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を連続刺突文・LR 縄文で充填。内：ナデ
627	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を連続刺突文・LR 縄文で充填。内：ナデ
628	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を刺突文・LR 縄文・御直線文で充填。内：調整不明
629	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：口唇 LR 縄文→棒状工具押捺。胴部飾線羽状文。内：調整不明
630	4① SA1	炉	赤生	壺	D	灰黄緑	外：口唇 LR 縄文→棒状工具押捺。胴部飾線羽状文。内：調整不明
631	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：口唇 LR 縄文→棒状工具押捺。胴部飾線羽状文。内：調整不明
632	4① SA1	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：飾線羽状文。内：調整不明
633	4① SA2	床直	赤生	壺	D	黄	外：口唇 LR 縄文 胴部龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：調整不明
634	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を押引列点文・LR 縄文で交互充填。内：ナデ
635	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：龍沈線区画内を御直線文で充填/龍山形文?内を刺突文で充填。内：ナデ?
636	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線文/LR 縄文/御直線文。内：ナデ
637	4① SA2	床直	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を御直線文・御直線文で充填。内：ナデ
638	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：懸垂文(御直線文を龍沈線+連続刺突文で区画)の周囲を LR 縄文で充填。内：調整不明
639	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を連続刺突文・御直線文で充填。内：ナデ
640	4① SA2	覆土	赤生	壺	D	灰黄緑	外：飾線羽状文?→龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：横ミガキ
641	4① SA2	床直	赤生	鉢	D	にぶい黄橙	外：口唇龍山形文?内を LR 縄文で充填。内：ナデ
642	10① SA1	床面	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部龍沈線区画内を龍沈線文を施文 ミガキ?。内：調整不明
643	10① SA1	床面	赤生	壺	D	浅黄橙	外：胴部龍沈線区画内を龍山形文を施文。内：調整不明
644	10① SA1	床面	赤生	壺	A	にぶい黄橙	外：胴部飾線羽状文 胴下ミガキ?。底：ナデ?ミガキ?。内：横ミガキナデ?
645	10① SA1	P2	赤生	壺	B	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部飾線羽状文。内：調整不明
646	10① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部飾線文 胴部飾線羽状文。内：横ハケ+横ミガキ
647	10① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 RL 縄文 胴部飾線文→龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：調整不明 接合痕
648	18① SA1	床直	赤生	壺	D	黄	外：口唇 LR 縄文→指頭押捺。内：ナデ
649	18① SA1	床直	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明
650	25① SA1	炉	赤生	壺	D	浅黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部龍沈線区画 胴上龍沈線区画内を LR 縄文で充填?。内：ナデ
651	29① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部飾線羽状文。内：調整不明
652	29① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ?。内：調整不明
653	29① SA2	覆土	赤生	鉢	D	黄	外：口唇山形突起2×残 赤彩?横ミガキ。内：赤彩横ミガキ
654	29① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を LR 縄文・LR 縄文+龍沈線区画で交互充填。内：ナデ
655	29① SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：懸垂文(御直線文を連続刺突文で区画) 横ハケ。内：調整不明
656	30① SA1	床面	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：龍沈線区画内を1区画おきに LR 縄文で充填。内：ナデ 接合痕
657	30① SA1	床面	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：飾線羽状文 横ミガキ。内：ハケ→ミガキ?
658	30① SA1	覆土	赤生	?	A	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ。胴内：ケズリ
659	30① SA1	床面	赤生	有孔	C	にぶい黄橙	外：胴部調整不明 底指オサエ 接合痕。底：調整不明 穿孔1ヶ。内：調整不明
660	32① SA1	覆土	赤生	壺	C	灰黄緑	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：ナデ
661	32① SA1	覆土	赤生	有孔	D	にぶい黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ 穿孔1ヶ。内：調整不明
662	32① SA1	覆土	赤生	壺	B	黄	外：口唇 LR 縄文→ハケ工具刺突文3/4×残 胴部飾線羽状文(1)→御直線文4ヶ(場所により本数異なる)/ハケ工具刺突文 胴下ミガキ。底：ケズリ→ナデ。内：横ミガキ
663	32① SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部飾線羽状文。内：横ミガキ
664	32① SA1	覆土	赤生	壺	B	浅黄橙	外：口唇 LR 縄文 胴部飾線羽状文 胴下版ミガキ?。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明
665	32① SA1	床面	赤生	壺	A	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文→指頭押捺 胴部飾線羽状文→龍沈線区画内を LR 縄文で充填。内：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ
666	32① SA1	覆土	赤生	壺	B	にぶい黄橙	外：口唇 LR 縄文→指頭押捺 胴部飾線羽状文→御直線文。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ

No	出土遺構	層位	種類	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
667	32D SA1	覆土	弥生	鉢	D	にぶい橙	外：口唇LR縹文 胴部笠状縁区画内をLR縹文で充墳/1封穿孔1ヶ所 胴部笠重直縁文をLR縹文で充墳、内：横ミガキ
668	32D SA1	覆土	弥生	鉢	C	にぶい橙	外：口唇LR縹文/山形突起2/4ヶ所 胴部横ミガキ、内：横ミガキ
669	32D SA1	覆土	弥生	鉢	C	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文 口縁LR縹文 胴部右扇ハケ→右扇ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：右扇ハケ→右扇ミガキ
670	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠状縁区画内を横直縹文で充墳/笠重直縁文、内：ナデ
671	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：懸垂文(横直縹文を笠状縁+連続刺突文で区画)/LR縹文、内：ナデ
672	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠状縁区画内を連続刺突文・横直縹文で充墳、内：ナデ
673	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：変形工字文?内を連続刺突文で充墳、内：調整不明
674	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：横直縹文区画内を横直縹文で充墳、内：調整不明
675	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠状縁文内を横直縹文・LR縹文で充墳、内：ナデ
676	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠状縁区画内を横直縹文・横直縹文で充墳、内：ナデ
677	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠重山形文内を連続刺突文・横直縹文で充墳、内：ナデ
678	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：横直縹文を笠状縁文で区画、内：ナデ
679	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：笠状縁文 注口、内：ナデ
680	32D SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：筒状文(1)→筒状文、内：調整不明
681	32D SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：横直縹文?→ハケ工具刺突文、内：ナデ
682	34D SA4	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文 口縁笠重山形文 横ハケ→ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
683	43D SA2		弥生	壺	D	黄緑	外：縦ミガキ、底：ナデ?、内：左扇ミガキ
684	43D SA2	覆土	弥生	鉢	D	にぶい黄緑	外：口唇1封穿孔1ヶ所 胴部笠状縁文・笠重山形文内をLR縹文で充墳、内：ナデ?
685	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	浅黄橙	外：口唇LR縹文 胴部貼付突帯+器具刺突文/笠状縁区画内を横直縹文で充墳、内：調整不明
686	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	浅黄橙	内：口唇器具刺突文 口縁筒状工具による凸状刺突文、垂帯：北陸系
687	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：笠状縁区画内を連続刺突文・横直縹文で充墳、内：調整不明
688	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	灰黄褐	外：笠状縁文内を刺突文・LR縹文で充墳、内：ナデ
689	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文 胴部筒状文、内：調整不明
690	50D SA10	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文 胴部筒状文?、内：横ハケ→部ミガキ
691	51D SA2	床面	弥生	壺	C	にぶい黄緑	外：工ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ
692	51D SA2	床面	弥生	壺	B	橙	外：横ケズリ、底：ケズリ、内：ナデ
693	51D SA2	床面	弥生	鉢	D	橙	外：胴部笠状縁区画/連続刺突文 胴部笠重直縁文内をLR縹文で充墳/円形刺突、内：調整不明
694	52D SA1	床直	弥生	壺	C	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文 胴部筒状文ハケ工具刺突文 胴下横ハケ→ミガキ、内：調整不明
695	52D SA1	床	弥生	壺	C	にぶい橙	外：右扇ハケ 接合痕、内：調整不明
696	52D SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：笠状縁区画内を横直縹文・横直縹文で交互充墳/連続刺突文、内：横ハケ→ナデ、垂帯：K1?
697	52D SA3	床	弥生	壺	D	にぶい橙	外：横直縹文/横直縹文 胴下横ハケ→ミガキ、内：横ハケ→指ナデ 接合痕
698	52D SA3	床面	弥生	壺	C	にぶい黄緑	外：胴上笠状縁区画内を連続刺突文・LR縹文で交互充墳 胴中笠重直縁文内を連続刺突文・LR縹文・横直縹文で充墳/円形刺突、内：ナデ 接合痕
699	52D SA3	床面	弥生	壺	B	にぶい黄緑	外：口唇LR縹文→指頭押捺 胴部筒状文→連続刺突文 胴下ハケ→ミガキ?、底：ケズリ→ナデ、内：ミガキ?
700	53D SA3	炉	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：胴部笠状縁区画 縦ハケ、内：ナデ
701	53D SA3	炉	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：縦ミガキ 底指ナデ、底：ケズリ→ミガキ、内：ナデ
702	53D SA3	床直	弥生	壺	D	灰黄褐	外：筒状縹文・横直縹文を笠状縁で区画、内：調整不明
703	53D SA3	床面	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：刺突文、内：調整不明
704	53D SA3	床面	弥生	壺	D	にぶい橙	外：懸垂文(刺突文を笠状縁で区画?)、内：ナデ
705	53D SA3	床直	弥生	壺	D	橙	外：笠状縁区画内をLR縹文で充墳、内：ナデ 接合痕
706	53D SA3	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	外：笠状縁区画内を横直縹文・横直縹文で充墳、内：調整不明
707	53D SA3	炉	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：筒状縹文?、内：横ミガキ
708	53D SA3	床面	弥生	鉢	D	灰黄	外：笠状縁区画内を連続刺突文で充墳 ハケ、内：調整不明
709	53D SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：笠状縁文内をLR縹文・横直縹文で交互充墳 ハケ、内：ナデ
710	53D SA11	床直	弥生	壺	C	にぶい黄緑	外：胴部筒状文/窟山型文 胴部筒状文を横直縹文で区画、内：横ハケ→ナデ
711	53D SA11	床直	弥生	壺	C	黄緑	外：笠状縁区画内をLR縹文で充墳、内：調整不明
712	53D SA11	床直	弥生	壺	B	にぶい橙	外：笠状縁区画内を横直縹文・横直縹文で交互充墳 胴下右扇ミガキ、底：ケズリ、内：右扇ハケ→ナデ
713	53D SA11	床直	弥生	壺	B	にぶい黄緑	外：胴上笠状縁区画・連続刺突文 胴中笠重三角文内をLR縹文で充墳 胴下ミガキ、内：調整不明

No.	出土遺構	層位	類別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
714	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部貼付突帯+LR 縄文+連続刺突文/甕沈線区画内を連続刺突文で充填 胴上懸垂文(御直線文+甕沈線+連続刺突文)の周囲をLR 縄文で充填。甕沈線区画内を御直線文+連続刺突文+LR 縄文で充填。内：調整不明。備考：図上復元
715	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	B	橙	外：口唇LR 縄文→指頭押捺 頸部連続刺突文/甕沈線区画内を掘U字文充填 胴部甕沈線区画内に指状文内にLR 縄文を充填した文様帯を挟んで御直線文・御直線文で交互充填。連続刺突文。内：横ハケ+ナデ
716	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	B	浅黄褐色	外：頸部貼付突帯 胴部甕沈線文+甕沈線文の交互充填 胴下横ハケミガキ。底：ミガキ。内：調整不明
717	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口縁指頭押捺 胴部鏡状刺突文。内：調整不明
718	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい濁	外：口唇LR 縄文。内：調整不明
719	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	C	にぶい黄褐色	外：甕沈線区画内を御直線文・御直線文で交互充填 胴下横ハケ+横ミガキ。底：ミガキナデ。内：ナデ。備考：2次焼結
720	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：右傾ミガキ。底：ケズリーナデ。内：調整不明。備考：2次焼結
721	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：甕沈線文/甕重連弧文内をLR 縄文で充填。内：横ハケ+ナデ
722	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：横ハケ+ミガキ。底：ケズリ。内：調整不明
723	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇ハケ工具刺突文 胴部櫛形羽状文。内：横ハケ+横ミガキ
724	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	B	橙	外：口唇LR 縄文 胴部櫛形羽状文→鏡工具刺突文 胴下横ハケ+ミガキ。底：ケズリーナデ。内：調整不明。備考：焼結によるゆがみが著しい 復元実測
725	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：右傾ハケ→部ミガキ。底：ケズリーナデ?。内：右傾ハケ→部ミガキ
726	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：櫛形羽状文?→鏡工具刺突文 胴下横ミガキ。底：ケズリ。内：調整不明
727	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	D	黒濁	外：櫛形刺突文→御直線文 ハケ工具刺突文。内：横ハケ
728	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄褐色	外：口唇LR 縄文→指頭押捺 胴部櫛形羽状文→鏡工具刺突文。内：横ハケ+横ミガキ
729	53㉔ SA11	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄褐色	外：口唇LR 縄文→鏡工具刺突文 胴部櫛形羽状文→ハケ工具刺突文。内：調整不明
730	53㉔ SA11	床直	弥生	壺	D	濁	外：口唇LR 縄文 胴部櫛形羽状文→ハケ工具刺突文。内：横ミガキ
731	53㉔ SA11	覆土	弥生	鉢	A	浅黄褐色	外：ミガキ?。底：調整不明。内：調整不明
732	53㉔ SA11	床直	弥生	鉢	A	にぶい黄褐色	外：ナデ 接合痕。底：ナデ。内：ナデ 接合痕
733	53㉔ SA11	覆土	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：口唇LR 縄文 頸部甕沈線文 胴部甕重連弧文内をLR 縄文で充填。底：調整不明。内：ミガキナデ?
734	64㉔ SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部貼付突帯+LR 縄文 胴上甕沈線区画/連続刺突文。内：調整不明
735	64㉔ SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい濁	外：甕沈線区画内を御直線文・御直線文で交互充填。内：調整不明
736	64㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：懸垂文(御直線文を甕沈線+連続刺突文)の周囲をLR 縄文で充填。内：調整不明
737	64㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR 縄文 横ハケ+横ミガキ。内：横ミガキ
738	64㉔ SA1	床直	弥生	壺	D	濁灰	外：口唇LR 縄文→捺状工具押捺。内：横ハケ+横ミガキ
739	64㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR 縄文 胴部櫛形羽状文?。内：横ミガキ
740	64㉔ SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：櫛形羽状文。内：調整不明
741	64㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	灰濁	外：櫛形羽状文→ハケ状工具刺突文。内：横ハケ+横ミガキ
742	64㉔ SA1	床直	弥生	壺	D	灰濁	外：櫛状文→垂下文。内：横ミガキ
743	64㉔ SA1	床直	弥生	鉢	D	にぶい濁	外：口唇LR 縄文 口縁重垂形文内にLR 縄文・竹管文を充填。内：ハケ+ミガキ
744	64㉔ SA1	覆土	弥生	鉢	D	にぶい黄褐色	外：頸部甕沈線文 胴部甕重連弧文内を連続刺突文充填/竹管文。内：横ハケ+ナデ
745	64㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黄濁	外：口縁凹線文→鏡工具押捺。内：ナデ。備考：素直支系中間前半?
746	69㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	浅黄褐色	外：口唇LR 縄文? 頸部御直線文。内：調整不明
747	69㉔ SA1	覆土	弥生	鉢	D	灰白	外：頸部甕沈線区画内を連続刺突文で充填 胴部甕重連弧文内を連続刺突文で充填/凹形浮文。内：調整不明
748	74㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：甕沈線区画。内：ナデ
749	74㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：胴上懸垂文(御直線文を甕沈線で区画)の周囲をLR 縄文で充填 胴中甕沈線区画・甕重連弧文内を連続刺突文+LR 縄文で交互充填 耳状突起(?)状。内：右傾ハケ+ナデ 接合痕
750	74㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇LR 縄文 頸部貼付突帯+LR 縄文内に連続刺突文を充填/甕沈線区画内をLR 縄文+凹山形文・御直線文で充填 胴上懸垂文(御直線文を甕沈線で区画)の周囲をLR 縄文で充填。内：ナデ
751	74㉔ SA1	覆土	弥生	鉢	C	にぶい黄褐色	外：口唇LR 縄文 胴部横ハケ+横ミガキ。底：ケズリーナデ。内：横ハケ+横ミガキ。備考：図上復元
752	74㉔ SA1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：櫛形羽状文→捺状工具刺突文。内：横ミガキ
753	74㉔ SA1	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄褐色	外：口唇LR 縄文 胴部櫛形羽状文→鏡工具刺突文 胴下調整不明。底：ケズリーナデ。内：横ハケ+横ミガキ
754	74㉔ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇LR 縄文 頸部甕沈線区画内をLR 縄文・御直線文で充填。内：ナデ
755	74㉔ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：胴上甕沈線区画内をRL 縄文で充填 胴中重連弧文内をRL 縄文+ハケ工具刺突文で充填。内：調整不明

No	出土遺構	附位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
756	74③ SA2	覆土	弥生	鉢	D	にぶい橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部横ハケ→ミガキ？、内：横ハケ→横ミガキ
757	75① SA1		弥生	壺	D	浅黄橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦比線区画内を L.R 縄文充填 胴上段垂山形文を L.R 縄文で充填、内：ナデ。備考：75① SDZ3 取り上げ
758	75① SA1		弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を帯短斜線文・横直線文で交互充填、内：調整不明、備考：75① SDZ3 取り上げ
759	75① SA1		弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴上段比線区画内を連続斜交文で充填 胴中段垂山形文内を連続斜交文・L.R 縄文で交互充填 ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明、備考：75① SDZ3 取り上げ
760	75① SA1		弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部貼付夾帯+L.R 縄文 胴部縦比線区画内を連続斜交文・L.R 縄文で交互充填、内：ナデ、備考：75① SDZ3 取り上げ
761	75① SA1	床直	弥生	壺	D	灰白	外：胴上段比線区画内を L.R 縄文+下向き垂山形文で充填 胴中比線区画内を L.R 縄文+帯短斜線文で充填、内：調整不明
762	75① SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部縦比線区画 縦ハケ→横ミガキ、内：調整不明
763	75① SA1		弥生	有孔甕	D	橙	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ 焼成後？穿孔1ヶ、内：調整不明、備考：75① SDZ3 取り上げ
764	75① SA1		弥生	甕	C	にぶい橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦横斜交文→ハケ工具刺突文 胴下調整不明、内：調整不明、備考：75① SDZ3 取り上げ
765	75① SA1		弥生	甕	C	橙	外：口唇 L.R 縄文→指押窪形 胴部縦横斜交文→縄文工具刺突文 胴下右横ハケ、内：調整不明、備考：75① SDZ3 取り上げ
766	75① SA1		弥生	鉢	B	にぶい橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦比線文 胴部縦重直線文内を L.R 縄文・連続斜交文で充填 胴下横ハケ→ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→ミガキ、備考：75① SDZ3 取り上げ
767	75① SA1		弥生	鉢	C	橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦比線文 胴部縦重直線文 調整不明、底：調整不明、内：調整不明、備考：75① SDZ3-4 取り上げ
768	75① SA1	床直	弥生	有孔鉢	A	にぶい橙	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ 穿孔1ヶ、内：調整不明
769	B③ SA5	床直	弥生	甕	D	褐灰	外：口唇 L.R 縄文 胴部ハケ(胴上縦・胴下右横)、内：横ハケ→ミガキ、備考：北陸系
770	B③ SA5	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：右横ハケ、内：口唇縦工具刺突 調整不明、備考：北陸系
771	B③ SA5	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：垂山形文内を L.R 縄文+連続斜交文で充填、内：ナデ
772	B③ SA6	柱穴	弥生	甕	D	褐灰	外：縦ハケ→横ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
773	C② SA13	床面	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：胴上指内形文の周囲に L.R 縄文を充填 胴中縦比線文+連続斜交文区画内を縦直線文・斜線文で交互充填 胴下調整不明、内：ナデ？
774	C② SA13	覆土	弥生	壺	D	浅黄橙	外：帯短斜線文、内：ナデ
775	C② SA13	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐	外：縦比線区画内を帯短斜線文・横直線文で充填、内：調整不明
776	C② SA13	覆土	弥生	甕	D	黒褐	外：帯短斜交文→ハケ工具刺突文、内：調整不明
777	C② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇 L.R 縄文 口唇縦工具刺突文 横ハケ→横ミガキ、内：調整不明
778	C② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を1区画おきに帯短斜線文で充填？連続斜交文、内：調整不明
779	C② SA14	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を連続斜交文・L.R 縄文で充填、内：調整不明
780	C② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を L.R 縄文で充填、内：調整不明
781	C② SA14	覆土	弥生	甕	D	にぶい褐	外：帯短斜線文→帯波状文、内：横ハケ→横ミガキ
782	C② SA14	覆土	弥生	甕	D	にぶい褐	外：帯短斜交文→縄文工具刺突文、内：横ハケ→横ミガキ
783	C② SA14	覆土	弥生	甕	D	にぶい褐	外：帯短斜交文？→縄文工具刺突文、内：調整不明
784	C② SA14	覆土	弥生	鉢	D	にぶい黄橙	外：口唇 L.R 縄文 口唇 L.R 縄文→帯短斜交文 胴部縦比線文、内：ミガキ？
785	C② SA14	床直	弥生	甕	D	にぶい褐	外：帯短斜交文、内：調整不明
786	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦斜線文を縦比線で区画、内：ナデ
787	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：胴部貼付夾帯+縄文工具刺突文 縦ハケ→ミガキ？、内：ナデ
788	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦比線区画内を L.R 縄文で充填、内：ナデ
789	C② SA19	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦斜交文、内：調整不明
790	C② SA19	覆土	弥生	鉢	D	浅黄橙	外：口唇 L.R 縄文 胴部縦比線文+1対穿孔1ヶ 胴部縦重直線文内を連続斜交文を充填、内：調整不明
791	C② SA19	覆土	弥生	片口鉢	B	褐灰	外：口唇 L.R 縄文→ハケ工具刺突文 胴部縦斜線文 ミガキ 片口、底：ナデ？、内：ハケ→横ミガキ
792	C② SA19	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄橙	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ
793	C② SA19	覆土	弥生	甕	C	にぶい黄橙	外：胴部縦重直線文+1対穿孔1ヶ、内：調整不明
794	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇・口唇縦山形文、内：調整不明
795	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：貼付夾帯+縄文工具刺突文 甕山形文内を斜交文を充填、内：ナデ
796	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：帯短斜線文(帯短斜線文を縦比線文+連続斜交文で区画)の周囲に L.R 縄文を充填 縦比線区画、内：調整不明
797	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい褐	外：縦比線区画内を帯短斜線文・帯短斜線文で交互充填、内：ナデ
798	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：縦比線区画内を帯短斜交文で充填、内：調整不明 帯合直
799	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を帯短斜線文+連続斜交文で充填、内：ナデ
800	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦比線区画内を帯短斜線文で充填/垂山形文を斜交文で充填、内：調整不明

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
801	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍沈部区画内を1区画おきにLR縄文充填。内：調整不明
802	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍重連風文内をLR縄文・連続刺突文で充填。内：ナデ
803	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍重連風文内をLR縄文・櫛歯線文・連続刺突文で充填。内：ナデ
804	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部櫛歯羽状文 ⁷ 、内：横ハケ→横ミガキ
805	C② SA19	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇ハケ工具押捺 胴部櫛歯羽状文 ⁷ 、内：調整不明
806	C② SA19	床面	弥生	鉢	D	灰黄褐色	外：甍変形工字文 ⁷ 内を刺突文・LR縄文で充填。耳状突起1ヶ、内：ミガキ?
807	C② SA20	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：甍上甍沈部区画内を1区画おきにLR縄文充填 胴下甍変形工字文内をLR縄文で充填 胴下右横ハケ→ミガキ。底：ナデ。内：ナデ
808	C② SA20	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：口唇LR縄文 甍上甍沈部区画内をLR縄文・櫛歯線文で充填 胴中甍重連風文内をLR縄文で充填。内：ナデ?
809	C② SA20	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：調整不明。内：調整不明
810	C② SA20	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部甍沈部区画内を櫛歯線文・櫛歯短直線文で交互充填/連続刺突文。内：口唇横ミガキ 胴部右横ハケ→ナデ
811	C② SA20	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：胴部連続刺突文 胴部甍沈部区画内を櫛歯線文・櫛歯短直線文で交互充填 胴下右横ハケ。内：調整不明
812	C② SA20	床面	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR縄文/1対穿孔2ヶ 胴部突帯+縦工具刺突文。内：ナデ
813	C② SA20	床面	弥生	壺	D	にぶい橙	外：胴部甍沈部区画。内：口唇ミガキ 胴部ナデ
814	C② SA20	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍上甍沈部区画内を1区画おきにLR縄文充填。胴下甍重山形文内をLR縄文で充填。内：調整不明
815	C② SA20	床面	弥生	壺	B	にぶい橙	外：甍上LR縄文+甍山形文を甍沈部で区画/櫛歯線文 胴中上向きV字櫛歯文(櫛歯線文を甍沈部区画)の周囲にLR縄文・短直線文を充填。内：調整不明
816	C② SA20	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部貼付突帯+LR縄文 甍上甍沈部区画内を2区画おきにLR縄文+波状文で充填。胴中甍重山形文内にLR縄文+波状文を充填。胴下右横ハケ。底：焼成後穿孔 ⁷ 。内：ナデ
817	C② SA20	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部甍沈部区画内を櫛歯線文・櫛歯短直線文で交互充填 沈部内部に赤彩存在。底：ナデ。内：胴中横ハケ→ナデ
818	C② SA20	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：口唇LR縄文→指頭押捺 胴部櫛歯羽状文→縦工具刺突文 胴下。調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ。備考：焼成によるゆがみが著しい
819	C② SA20	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部櫛歯羽状文→半月形刺突文 胴下ミガキ。内：横ハケ
820	C② SA20	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：口唇LR縄文→縦工具押捺 胴部櫛歯羽状文→縦工具刺突文。内：横ハケ→横ミガキ
821	C② SA20	覆土	弥生	鉢	D	にぶい橙	外：口唇1対穿孔2ヶ 胴部甍沈部区画/甍変形工字文内を縦工具刺突文で充填。内：ミガキ?
822	C② SA20	覆土	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：ハケ→ミガキ。内：調整不明
823	C② SA27	覆土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：甍上甍沈部区画内を櫛歯線文で充填 胴中甍重連風文内を櫛歯線文・LR縄文で充填 胴下ハケ→ミガキ。内：ハケ→ナデ
824	E① SA1	床面	弥生	有孔壺	A	にぶい橙	外：口唇指頭押捺 胴部櫛歯羽状文 胴下縦ミガキ。底：ケズリ→ナデ 穿孔1ヶ。内：甍上横工具ナデ 胴下縦ミガキ
825	E① SA1	床面	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍沈部区画内をLR縄文で充填。内：調整不明。備考：826と同一個体?
826	E① SA1	床面	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍重三角文。内：調整不明。備考：825と同一個体?
827	E① SA1	床面	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：左横ハケ→赤彩?右横ミガキ 耳状突起1ヶ。底：ケズリ→ミガキ。内：ハケ→赤彩ミガキ
828	E① SA1	床面	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ 山型突起? 1対穿孔1ヶ。底：ケズリ→ミガキ ⁷ 。内：赤彩ミガキ
829	E① SA1	床面	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ 1対耳状突起 ⁷ 。底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩ミガキ
830	18D SK4	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR縄文 胴部櫛歯羽状文→ハケ工具刺突文。内：調整不明。備考：831と同一個体
831	18D SK4	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明。備考：830と同一個体
832	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	橙	外：胴部貼付突帯+LR縄文 甍沈部区画内を甍重山形文で充填 櫛歯線文。内：調整不明 接合痕
833	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：胴部甍沈部区画。内：調整不明。備考：器面摩耗
834	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍上甍沈部区画 胴中甍重連風文。内：調整不明
835	60D SK3	覆土	弥生	壺	B	橙	外：甍沈部区画内を1区画おきにLR縄文で充填 調整不明。内：調整不明
836	60D SK3	覆土	弥生	壺	C	橙	外：口唇LR縄文 胴部櫛歯羽状文。内：調整不明 接合痕
837	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇LR縄文 胴部櫛歯羽状文。内：横ミガキ
838	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇LR縄文→指頭押捺 胴部櫛歯羽状文。内：横ミガキ
839	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：縦ミガキ。底：ケズリ。内：ハケ→ミガキ
840	60D SK3	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：胴部櫛歯線文→胴中櫛歯線文→縦工具刺突文 調整不明。内：調整不明
841	26D SK10	覆土	弥生	壺	B	にぶい橙	外：調整不明。内：調整不明
842	29D SK2	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：甍沈部区画。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→ナデ
843	29D SK2	覆土	弥生	壺	B	にぶい橙	外：甍沈部区画内を櫛歯線文で充填。内：調整不明
844	64D SK1	覆土	弥生	壺	D	濁	外：甍沈部区画。内：ナデ

No	出土遺構	層位	種類	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
845	64① SK1	覆土	赤生	壺	D	橙	外：下向き重連弧文内を櫛直線文で充填。内：ナデ
846	64② SK1	覆土	赤生	壺	D	橙	外：口唇 LR 横文 櫛直線文区画内を櫛斜線文で充填 全面赤彩？、内：横ハケ→ナデ
847	64③ SK1	覆土	赤生	壺	D	橙	外：口唇 LR 横文？ 籠注線区画内を櫛直線文で充填/連続斜突文、内：ナデ、備考：図上復元
848	C② SK109	覆土	赤生	壺	B	にぶい黄橙	外：籠注線区画内を櫛直線文・櫛短直線文で交互充填 胴下右横ハケ→右横ミガキ、内：横ハケ→胴上ナデ
849	C③ SK109	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：籠注線文内に LR 横文・斜突文を充填 胴下横ハケ→縦ミガキ、内：調整不明
850	C④ SK109	覆土	赤生	有孔壺	D	灰黄	外：右横ハケ、底：ミガキ？ 穿孔1ヶ、内：調整不明
851	C⑤ SK109	覆土	赤生	壺	D	黄灰	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明
852	C⑥ SK109	覆土	赤生	鉢	D	灰黄褐	外：胴部籠注線区画 胴部籠注線区画内を連続斜突文で充填、内：調整不明
853	C⑦ SK111	覆土	赤生	壺	C	にぶい黄橙	外：籠重山形文内を連続斜突文で充填、内：調整不明
854	C⑧ SK111	覆土	赤生	壺	D	浅黄橙	外：胴上籠注線区画内を櫛直線文で充填 胴下籠重連弧文内を LR 横文で充填、内：調整不明
855	27① SD1	覆土	赤生	壺	D	にぶい橙	外：籠重形重三角文内に LR 横文・連続斜突文を充填 単位間に連続斜突文を充填、内：横ハケ→ナデ
856	27② SD1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 横文 籠注線区画内を櫛直線文で充填、内：ナデ
857	27③ SD1	覆土	赤生	壺	C	にぶい黄橙	外：ミガキ？底：調整不明、内：調整不明
858	27④ SD1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇 LR 横文 胴部櫛斜線文→修状工具斜突文、内：横ハケ→横ミガキ
859	3③ SX1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴上籠注線区画内を連続斜突文・LR 横文・櫛直線文で充填 胴下籠重連弧文内を連続斜突文・櫛直線文で充填、内：ナデ
860	3④ SX1	覆土	赤生	壺	D	橙	外：連続斜突文区画内を櫛直線文・櫛垂下文・櫛重文+櫛斜線文で充填、内：調整不明
861	3⑤ SX1	覆土	赤生	壺	D	にぶい橙	外：籠注線区画内を櫛直線文・櫛斜線文で交互充填/連続斜突文、内：ナデ
862	3⑥ SX1	覆土	赤生	壺	D	にぶい橙	外：櫛短直線文→修状工具斜突文、内：横ハケ→ミガキ？
863	25① SX1	覆土	赤生	鉢	C	にぶい黄橙	外：口唇 LR 横文 口唇籠重山形文・斜突文 1対穿孔1ヶ残 胴部ミガキ、底：調整不明、内：調整不明、備考：器面摩耗
973	33③ SA2	覆土	赤生	壺	D	明茶褐	外：胴部 T 字文1ヶ残/籠重文 赤彩ミガキ、内：横ハケ
974	46① SA1	床直	赤生	有孔壺	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ、底：ナデ 穿孔1ヶ、内：調整不明
975	46② SA1	床面	赤生	壺	C	にぶい黄橙	外：ケズリ→ナデ、内：ケズリ→ナデ
976	46③ SA1	P4	赤生	壺	B	にぶい黄橙	外：ナデ、内：ケズリ
977	46④ SA1	床直	赤生	高杯	D	にぶい黄橙	胴外：赤彩縦ミガキ、胴内：ナデ
978	46⑤ SA2	床面	赤生	鉢	C	明黄褐	外：横ミガキ、内：ハケ→ミガキ？
979	46⑥ SA2	床面	赤生	壺	B	にぶい黄橙	外：調整不明、内：調整不明
980	46⑦ SA2	床面	赤生	有孔壺	D	にぶい黄橙	外：ミガキ、底：ナデ 穿孔1ヶ、内：ナデ
981	50① SA7	床面	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部 T 字文1ヶ残 赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ、備考：外器面剥離
982	50② SA7	床面	赤生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
983	50③ SA7	K1	赤生	鉢	A	白灰	手摺ね
984	50④ SA1	床直	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：胴部 T 字文4ヶ 縦ミガキ、内：横ミガキ
985	50⑤ SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄橙	外：ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ
986	50⑥ SA1	覆土	赤生	壺	D	にぶい橙	外：ケズリ？、底：ケズリ、内：ミガキ
987	50⑦ SA1	P9	赤生	壺	D	灰黄	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
988	50⑧ SA1	床直	赤生	壺	C	橙	外：胴部右回2連止継状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 横ハケ、内：右横ハケ→一部左横ミガキ
989	50⑨ SA2	覆土	赤生	壺	C	にぶい黄橙	外：右回胴部2連止継状文→櫛波状文(口縁↓)、内：横ミガキ
990	50⑩ SA2	床面	赤生	壺	C	灰黄	外：縦ミガキ、底：ナデ、内：縦ミガキ
991	50⑪ SA2	覆土	赤生	鉢	C	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ、底：ナデ
992	50⑫ SA2	覆土	赤生	壺	D	にぶい黄	外：櫛直線文→櫛波状文、内：横ハケ
993	50⑬ SA3	床直	赤生	壺	C	黄褐	外：胴部 T 字文1ヶ残 ハケ→ミガキ、内：調整不明、備考：図上復元
994	50⑭ SA3	覆土	赤生	壺	D	黄褐	外：縦ミガキ、内：横ミガキ
995	50⑮ SA4	床面	赤生	壺	D	明黄褐	外：調整不明、内：調整不明
996	50⑯ SA4	床面	赤生	壺	C	にぶい黄橙	外：胴部 T 字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁↓・胴部↓)、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部横ハケ
997	50⑰ SA4	赤生	壺	B	浅黄橙	外：櫛波状文↓、内：調整不明、備考：2次成熟 50⑮ SA4取り上げ	
998	50⑱ SA4	床直	赤生	壺	B	明黄褐	外：ハケ→櫛波状文↓、内：ハケ→横ミガキ
999	50⑲ SA4	床直	赤生	壺	D	褐	外：胴部右回3連止継状文→櫛波状文(口縁↓)、内：横ミガキ
1000	50⑳ SA4	床面	赤生	壺	D	にぶい橙	外：調整不明、内：ケズリ、備考：北陸系
1001	50㉑ SA4	K1	赤生	壺	D	灰黄褐	外：右横ハケ→横ミガキ ハケ工具斜突文、内：ケズリ、備考：北陸系
1002	50㉒ SA4	床直	赤生	壺	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ、備考：成熟による器面剥離

No	出土遺跡	層位	種別	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
1003	50Ⅱ SA4	床直	弥生	鉢	B	灰青陶	外：ハケ、底：指オサエ 輪弁、内：ハケ
1004	50Ⅱ SA4	床直	弥生	高杯	A	浅黄澄	外：ミガキ(杯横・脚柱縦・脚横)、杯内：ミガキ、脚内：ハケ、備考：北陸系
1005	50Ⅱ SA4	床面	弥生	鉢	D	緑	脚外：ケズリ→ミガキ 円孔×残、脚内：ハケ、備考：外系系
1006	50Ⅱ SA4	床面	弥生	有孔鉢	A	緑	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：調整不明
1007	50Ⅱ SA6	床面	弥生	壺	D	にぶい黄澄	外：縦ミガキ、内：横ミガキ
1008	50Ⅱ SA6	床直	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上?・胴部?)、内：調整不明、備考：内器面調整
1009	50Ⅱ SA6	覆土	弥生	壺	C	黒陶	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1) 円形浮文、内：横ミガキ
1010	50Ⅱ SA6	床直	弥生	高杯	C	にぶい黄澄	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1011	50Ⅱ SA6	床直	弥生	高杯	D	にぶい黄澄	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ
1012	50Ⅱ SA6	床直	弥生	高杯	B	にぶい黄澄	杯外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1013	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	A	灰白	外：頸部T字文4ヶ 赤彩ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 調整不明 組合せ、備考：図上復元
1014	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部T字文1ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胴?)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部調整不明、備考：図上復元 器面調整
1015	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	灰白	外：頸部T字文1ヶ 胴上赤彩横ミガキ 胴下縦ミガキ、底：ナデ、内：調整不明、備考：内器面調整
1016	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部T字文+円形浮文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部調整不明、備考：内器面調整
1017	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	浅黄澄	外：頸部T字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・胴?)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部調整不明
1018	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	浅黄澄	外：頸部T字文5ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ、備考：内器面調整
1019	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄澄	外：頸部1対T字文1ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→ナデ
1020	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	灰白	外：頸部1対T字文2/4ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ
1021	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	浅黄澄	外：頸部T字文1ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ
1022	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄澄	外：頸部T字文1ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→ナデ
1023	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄澄	外：頸部T字文1ヶ 赤彩縦ミガキ、内：口縁横ミガキ 胴部横ハケ
1024	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	靑灰	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明、備考：内器面調整
1025	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄澄	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
1026	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部右側4連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1)、底：ナデ、内：横ミガキ
1027	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	浅黄澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1)、内：横ミガキ
1028	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	赤澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1)、内：調整不明
1029	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1)、内：横ミガキ
1030	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1)、内：ミガキ
1031	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄澄	外：ハケ、内：横ハケ、備考：外系系?
1032	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：縦ハケ→胴上横ケズリ、つまみ：穿孔1ヶ、内：横ハケ→ナデ?
1033	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	壺	B	灰白	外：頸部等間隔止塵状文、赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ、備考：器面調整
1034	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	高杯	C	にぶい黄澄	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ
1035	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄澄	脚外：赤彩縦ミガキ 突帯、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ケズリ
1036	50Ⅱ SA7	覆土	弥生	鉢	D	にぶい黄澄	外：縦ハケ→縦ミガキ、内：横ミガキ
1037	50Ⅱ SA7	覆土	土師	高杯	B	黒陶	外：ミガキ?、杯内：縦ミガキ?、脚内：ケズリ
1038	50Ⅱ SA7	覆土	土師	壺	D	靑灰	外：口縁結土貼付 3ヶ1組の棒状付文1塊 赤彩→ミガキ、内：右側ハケ→貝殻縁跡?による羽状刺突文、備考：パレス 説人か?
1039	50Ⅱ SA8		弥生	壺	C	にぶい黄澄	外：頸部1対T字文4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1040	50Ⅱ SA8	床面	弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部右側等間隔止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1041	50Ⅱ SA8		弥生	壺	B	にぶい黄澄	外：頸部右側2連止塵状文→脚波状文(口縁上・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1042	50Ⅱ SA8		弥生	壺	C	緑	外：脚波状文(胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：調整不明
1043	50Ⅱ SA8	覆土	弥生	壺	D	灰白	横ナデ、外：靑陶文、備考：北陸系 胎土身在地
1044	50Ⅱ SA8		弥生	壺	D	にぶい黄澄	横ナデ、外：靑陶文、備考：北陸系
1045	50Ⅱ SA8		弥生	壺	C	にぶい黄澄	外：調整不明 2孔1組の穿孔1ヶ残、内：赤彩ミガキ
1046	50Ⅱ SA8		弥生	壺	A	にぶい黄澄	外：赤彩ミガキ、内：横ミガキ
1047	50Ⅱ SA8		弥生	高杯	C	にぶい黄澄	杯外：縦ミガキ、杯内：横ミガキ
1048	50Ⅱ SA8	床面	弥生	高杯	D	にぶい黄澄	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ、備考：北陸系

No	出土遺構	層位	種類	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
1049	50㉙ SA8	弥生	高杯	C	浅黄橙		脚外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：横ハケ
1050	50㉙ SA8	覆土	壺	D	にぶい橙		外：横ミガキ、内：横ミガキ
1051	51㉙ SA1	覆土	弥生	蓋	B	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、内：横ミガキ
1052	51㉙ SA1	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：調整不明
1053	51㉙ SA1	床面	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右横ハケ→ナデ 接合痕
1054	51㉙ SA2	床面	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：肩部右回3道止塵状文→赤彩ミガキ(口縁・胴部横)、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴下横ミガキ、備考：内器面潤滑
1055	51㉙ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：右横ハケ、内：横ハケ→横ケズリ、備考：北陸系
1056	51㉙ SA2	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ミガキ?
1057	51㉙ SA2	覆土	弥生	高杯	D	浅黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、備考：外糸系?
1058	51㉙ SA2	覆土	弥生	鉢	C	赭灰	外：赤彩縦ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1059	51㉙ SA2	覆土	弥生	鉢	C	赭灰	外：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：器面潤滑
1060	51㉙ SA2	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩?ミガキ
1061	51㉙ SA2	覆土	弥生	片口鉢	A	にぶい黄橙	外：縦ミガキ 片口、内：横ミガキ
1062	52㉙ SA5	床面	弥生	壺	C	浅黄橙	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1063	52㉙ SA5	床面	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：肩部T字文1ヶ残 赤彩縦ミガキ、内：右横ハケ
1064	52㉙ SA5	床面	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1065	52㉙ SA5	床面	弥生	蓋	A	にぶい黄橙	外：ハケ→調整不明、内：横ハケ
1066	52㉙ SA7	床面	弥生	壺	D	浅黄橙	外：口唇山形突起2ヶ残 赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1067	52㉙ SA2	覆土	弥生	高杯	D	浅黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1068	53㉙ SA1	床面	弥生	壺	D	浅黄橙	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1069	53㉙ SA1	覆土	弥生	壺	B	赭灰	外：肩部右回等間隔止塵状文→横波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下縦ミガキ、内：横ハケ→縦ミガキ
1070	53㉙ SA1	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	横ナデ、備考：北陸系
1071	53㉙ SA1	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右横ハケ
1072	53㉙ SA1	床面	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1073	53㉙ SA1	覆土	弥生	瓶	C	灰白	外：ハケ?→ケズリ、底：穿孔1ヶ、内：ナデ、備考：同一個体と思われる口縁片があるが接合せず
1074	53㉙ SA1	覆土	弥生	壺?	D	橙	外：ミガキ(口縁横・胴横) 把手1ヶ残、内：口縁縦ミガキ 胴ナデ、備考：外糸系
1075	53㉙ SA5	床直	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1076	53㉙ SA5	床直	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：縦ミガキ 円孔口段目4ヶ・2段目2ヶ/4ヶ残 突帯、脚内：ナデ、備考：外糸系?
1077	55㉙ SA3	床直	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：肩部右2道止塵状文→横波状文(口縁↓・胴部↓)、内：横ミガキ
1078	55㉙ SA3	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	外：肩部右回等間隔止塵状文→横波状文(胴部↓)、内：横ミガキ
1079	55㉙ SA3	床直	弥生	台付壺	B	にぶい黄橙	壺外：肩部右回3道止塵状文→横波状文(胴部↓) 胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、壺内：横ミガキ、台内：ハケ→ナデ
1080	55㉙ SA3	覆土	弥生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1081	55㉙ SA3	柱穴	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ナデ
1082	55㉙ SA1	床直	弥生	壺	A	灰白	外：肩部T字文1ヶ 縦ハケ→ミガキ(口縁横・胴上横・胴中横・胴下横)、内：口縁ハケ→横ミガキ 胴部横ハケ
1083	55㉙ SA1	埴	弥生	壺	C	にぶい橙	外：肩部T字文6ヶ 赤彩縦ミガキ、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部調整不明、備考：内器面潤滑 分体として使用
1084	55㉙ SA1	埴	弥生	壺	C	にぶい黄	外：肩部右回3道止塵状文→横波状文(口縁?・胴部?)、内：横ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ
1085	55㉙ SA1	埴	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：肩部右回3道止塵状文→横波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ
1086	55㉙ SA1	床直	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：肩部塵状文→口縁横波状文↑、内：横ミガキ
1087	55㉙ SA1	弥生	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ
1088	55㉙ SA1	床直	弥生	台付壺	C	橙	台外：縦ミガキ、壺内：ナデ、台内：ケズリ→ナデ
1089	55㉙ SA1	弥生	台付壺	D	にぶい橙	台外：調整不明、壺内：ケズリ、台内：ケズリ→ナデ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1090	55㉙ SA1	弥生	台付壺	D	にぶい橙	台外：ナデ、台内：ナデ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1091	55㉙ SA1	弥生	有孔壺	B	にぶい黄	外：調整不明、底：ミガキ 穿孔1ヶ、内：ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1092	55㉙ SA1	床面	弥生	高杯	B	浅黄橙	杯外：口唇山形突起4ヶ 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1093	55㉙ SA1	弥生	高杯	C	にぶい橙	杯外：赤彩ミガキ(杯上横・杯下横)、杯内：赤彩縦ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1094	55㉙ SA1	床直	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：口唇山形突起2ヶ/4ヶ残 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1095	55㉙ SA1	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1096	55㉙ SA1	弥生	蓋	B	にぶい黄橙	外：縦ケズリ→縦ミガキ、内：調整不明、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1097	55㉙ SA1	弥生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：赤彩ミガキ、内：赤彩縦ミガキ、備考：55㉙ SA1取り上げ	
1098	55㉙ SA1	床直	弥生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩縦ミガキ

No	出土遺物	層位	種別	器種	造存	色調	技法・文様・特徴
1099	56㉔ SA1	覆土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部T字文2ヶ残 赤彩ミガキ。内：赤彩ミガキ、備考：内部面割離
1100	56㉔ SA1	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ、備考：北陸系
1101	56㉔ SA1	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：頸部右回3進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓)。内：横ミガキ
1102	56㉔ SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ。内：赤彩横ミガキ 割調整不明
1103	56㉔ SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：頸部直線文 赤彩縦ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1104	56㉔ SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：頸部T字文1ヶ残 縦ミガキ。内：横ミガキ
1105	56㉔ SA3	覆土	弥生	甕	D	橙	外：頸部右回2進止塵状文→駒波状文(口縁?・胴部?)。内：横ミガキ
1106	56㉔ SA3	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ。底：ケズリ。内：横ミガキ
1107	56㉔ SA3	覆土	弥生	台付甕	C	にぶい黄	台外：縦ミガキ。台内：ナデ
1108	56㉔ SA3	覆土	弥生	甕	D	灰黄陶	外：調整不明。底：高台。内：調整不明。備考：外来系?
1109	56㉔ SA3	覆土	弥生	壺	C	灰黄	外：口唇山形突起2/4ヶ残 赤彩横ミガキ。内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ
1110	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	A	浅黄橙	外：口唇山形突起4ヶ 赤彩ミガキ(杯縁・脚縁) 頸部三角孔4ヶ。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ
1111	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	C	浅黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ。脚内：横ハケ→ナデ
1112	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	D	にぶい橙	杯外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ
1113	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	A	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ(杯上縁・杯下縁・脚縁)。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ
1114	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	D	浅黄橙	脚外：縦ミガキ 円孔4ヶ。杯内：調整不明。脚内：しじり目 ナデ。備考：北陸系?
1115	56㉔ SA3	覆土	弥生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩横ミガキ 1対穿孔1ヶ残。底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1116	56㉔ SA3	覆土	弥生	高杯	C	にぶい橙	杯外：赤彩ミガキ(脚上縁・脚下縁)。杯内：横赤彩ミガキ。備考：北陸系 鉢の可能性あり
1117	56㉔ SA3	覆土	弥生	甕部	D	橙	横ナデ。外：四角文 赤彩ミガキ。備考：北陸系 1795と接合 2519と併せて同一個体?
1118	56㉔ SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：頸部1対T字文+円形浮文1ヶ残→駒波状文。内：ナデ
1119	57㉔ SA1	床直	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：頸部右回4進止塵状文→駒波状文(割↓)。内：横ミガキ
1120	57㉔ SA1	柱カ	弥生	台付甕	A	にぶい黄橙	外：頸部直線文→駒波状文。内：横ミガキ。台内：ケズリ
1121	57㉔ SA1	床面	弥生	台付甕	B	にぶい黄橙	甕外：頸部直線文→駒波状文。甕内：横ミガキ
1122	57㉔ SA1	床直	弥生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩横ミガキ。底：ケズリ。内：赤彩横ミガキ
1123	57㉔ SA5	床直	弥生	壺	A	浅黄橙	外：頸部T字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縁・脚上縁・脚下縁)。内：横ミガキ
1124	57㉔ SA5	床直	弥生	C	浅黄橙	外：縦ミガキ。底：ケズリ。内：ハケ→ナデ	
1125	57㉔ SA5	覆土	弥生	壺	D	灰白	外：頸部T字文1ヶ残 縦ミガキ。内：ハケ?
1126	57㉔ SA5	覆土	弥生	蓋	A	にぶい黄	外：調整不明。つまみ：穿孔1ヶ。内：横ミガキ
1127	57㉔ SA5	溝	弥生	蓋	C	にぶい黄	外：つまみ周辺縦ケズリ→横ミガキ。内：横ミガキ
1128	57㉔ SA5	覆土	弥生	甕	D	にぶい橙	外：駒波状文(口縁↓)。内：横ミガキ
1129	57㉔ SA5	床直	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：頸部右回3進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ。内：横ミガキ
1130	57㉔ SA5	覆土	弥生	甕	B	にぶい黄橙	外：駒波状文(胴部↓) 胴下横ミガキ。底：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ
1131	57㉔ SA5	覆土	弥生	甕	A	にぶい黄橙	外：頸部右回2進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下ケズリ→縦ミガキ。底：ケズリ→ナデ。内：ハケ→横ミガキ
1132	57㉔ SA5	SD1	弥生	台付甕	C	にぶい黄	外：頸部右回2進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ。内：横ミガキ
1133	57㉔ SA5	覆土	弥生	台付甕	B	にぶい黄橙	甕外：ハケ→頸部右回等間隔止塵状文→駒波状文(口縁↓) 胴下横ミガキ。甕内：横ミガキ 赤彩付着
1134	57㉔ SA5	SD1	弥生	台付甕	B	にぶい黄橙	甕外：頸部右回3進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ。台外：調整不明。甕内：横ミガキ。台内：ケズリ→ナデ
1135	57㉔ SA5	覆土	弥生	台付甕	C	にぶい黄橙	台外：調整不明。台内：調整不明
1136	57㉔ SA5	床面	弥生	甕	D	浅黄橙	外：ミガキ。内：ミガキ。備考：北陸系
1137	57㉔ SA5	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：赤彩ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ
1138	57㉔ SA5	床面	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：口唇斜目山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ
1139	57㉔ SA5	床面	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ(杯縁・脚縁)。杯内：赤彩ミガキ。脚内：ナデ
1140	57㉔ SA5	覆土	弥生	高杯	B	にぶい黄橙	杯外：調整不明。杯内：調整不明
1141	57㉔ SA5	覆土	弥生	高杯	D	にぶい橙	杯外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ。備考：外来系
1142	60㉔ SA5	P3	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ 円孔1ヶ。内：ケズリ 赤彩付着
1143	60㉔ SA2	覆土	弥生	甕	B	灰黄	外：駒波状文。底：ケズリ→ミガキ。内：横工具ナデ
1144	60㉔ SA2	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄橙	外：頸部右回3進止塵状文→駒波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ。内：右傾ハケ→横ミガキ
1145	60㉔ SA2	床直	弥生	甕	B	にぶい黄橙	外：頸部塵状文?→駒波状文(割↓)。底：ケズリ。内：赤彩横ミガキ
1146	60㉔ SA2	床直	弥生	有孔甕	C	にぶい黄橙	外：横ケズリ。底：ケズリ 穿孔1ヶ。内：調整不明
1147	60㉔ SA2	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部直線文→赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1148	60㉔ SA2	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：右傾ハケ→赤彩縦ミガキ。杯内：横ハケ→赤彩横ミガキ

No	出土遺構	層位	種類	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1149	60㉔SA2	床面	養生	高杯	C	にぶい橙	脚外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1150	60㉔SA2	覆土	養生	鉢	B	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1151	61㉔SA6	床面	養生	鉢	D	にぶい黄橙	外：頸部右側3道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↑) 円形浮文4段、内：横ミガキ
1152	61㉔SA6	床面	養生	鉢	C	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：内面黒澱
1153	61㉔SA6	床面	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：横ハケ→赤彩縦ミガキ 口縁柳波状文・円形浮文1×残、内：赤彩縦ミガキ
1154	60㉔SA4	P6	養生	壺	B	にぶい黄橙	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
1155	60㉔SA4	床直	養生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1156	60㉔SA4	床直	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：調整不明、底：ケズリ、内：調整不明
1157	60㉔SA4	床面	養生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 内：横ミガキ
1158	60㉔SA4	床面	養生	壺	C	橙	外：頸部左側5道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 内：横ミガキ
1159	60㉔SA4	覆土	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：赤彩横ミガキ 1対穿孔1×残 1ヶの未発達穿孔、内：赤彩横ミガキ 胴下工具ナデ
1160	60㉔SA4	床直	養生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、内：横ハケ→工具ナデ
1161	60㉔SA4	床面	養生	壺	D	橙	外：縦ケズリ→ナデ、つまみ：穿孔1ヶ、内：調整不明
1162	62㉔SA1	覆土	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ 頸部T字文1ヶ残、内：赤彩縦ミガキ
1163	62㉔SA1	覆土	養生	壺	C	にぶい黄橙	外：縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1164	62㉔SA1	覆土	養生	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1165	62㉔SA1	覆土	養生	鉢	A	浅黄橙	外：ミガキ?ナデ?、内：工具ナデ
1166	62㉔SA1	覆土	養生	壺	C	にぶい橙	外：赤彩ミガキ(胴上横・胴下縦)、底：ケズリ→ミガキ ベンガタ付着、内：横ミガキ ベンガタ付着
1167	62㉔SA1	覆土	養生	有孔鉢	B	にぶい橙	外：ミガキ、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1168	70㉔SA1	床面	養生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1169	78㉔SA2	床直	養生	壺	A	浅黄橙	外：赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 胴部横ハケ
1170	78㉔SA2	床直	養生	壺	A	にぶい黄	外：頸部T字文3ヶ ハケ→ミガキ(口縁横・胴上横・胴下縦)、底：ケズリ→ナデ、内：口縁横ミガキ 胴ハケ→ナデ
1171	78㉔SA2	床直	養生	壺	A	灰濁	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(胴部↓) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1172	78㉔SA2	床直	養生	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1173	78㉔SA2	床直	養生	鉢	A	にぶい黄橙	外：ミガキ(胴上横・胴下縦) 1対穿孔2ヶ、底：ケズリ、内：赤彩縦ミガキ
1174	78㉔SA6	覆土	養生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1175	78㉔SA6	覆土	養生	高杯	B	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：工具ナデ
1176	79㉔SA2	床面	養生	壺	D	にぶい橙	外：頸部T字文2ヶ残 横ミガキ、内：横ハケ
1177	79㉔SA2	床面	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：横ハケ
1178	79㉔SA2	覆土	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ 赤彩横ミガキ、底：ケズリ、内：ナデ、備考：内面黒澱
1179	79㉔SA2	床面	養生	壺	B	にぶい橙	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1180	79㉔SA2	床直	養生	壺	C	橙	外：柳波状 胴下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1181	79㉔SA2	覆土	養生	壺	C	陶灰	外：頸部右側2道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ、備考：同上脱元
1182	79㉔SA2	床直	養生	壺	D	灰黄濁	外：柳波状文 縦ミガキ、底：ミガキ、内：左縦ミガキ
1183	79㉔SA2	覆土	養生	壺	D	にぶい黄橙	外：頸部右側3道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 内：横ミガキ
1184	79㉔SA2	覆土	養生	壺	D	灰濁	外：頸部右側3道止線状文→柳波状文(口縁↑・胴部↓) 内：横ハケ→口縁横ミガキ
1185	79㉔SA2	覆土	養生	壺	D	灰白	外：横ハケ、備考：北陸系、動土非在地
1186	79㉔SA2	床面	養生	高杯	D	にぶい黄橙	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、備考：1187と同一個体?
1187	79㉔SA2	床面	養生	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ、備考：1186と同一個体?
1188	79㉔SA2	床面	養生	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1189	79㉔SA2	覆土	養生	高杯	D	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1190	79㉔SA2	覆土	養生	壺	A	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ、内：横ハケ→赤彩ミガキ
1191	79㉔SA2	覆土	養生	有孔鉢	B	にぶい黄橙	外：ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1192	79㉔SA2	床面	養生	片口鉢	A	にぶい橙	外：ナデ 片口、底：ケズリ、内：横ミガキ?
1193	B㉔SA2	床面	養生	壺	A	橙	外：頸部T字文6ヶ 赤彩ミガキ(口縁横・胴上横) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部ハケ→ナデ、備考：内面黒澱
1194	B㉔SA2	床面	養生	壺	B	にぶい橙	外：頸部縦直線文 赤彩縦ミガキ、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部ハケ→ナデ
1195	B㉔SA2	床面	養生	壺	A	橙	外：頸部T字文4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部ハケ
1196	B㉔SA2	床面	養生	壺	B	橙	外：頸部T字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁横・胴部横)、内：口縁赤彩縦ミガキ 胴部右横ハケ
1197	B㉔SA2	床面	養生	壺	B	橙	外：頸部T字文4ヶ 縦ミガキ、内：口縁横ミガキ 胴部右横工具ナデ

No.	出土遺構	層位	種類	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1188	B② SA2	覆土	弥生	罍	B	褐灰	外：頸部右回3連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部1)、内：横ミガキ
1189	B② SA2	床面	弥生	罍	B	褐灰	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文1 胴下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1200	B② SA2	床面	弥生	鉢	B	灰褐	外：頸部2連止線状文→瓣波状文1 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1201	B② SA2	床面	弥生	高杯	B	黄緑	杯外：調整不明、脚外：ケズリ、杯内：調整不明、脚内：ナデ
1202	B② SA2	床直	弥生	高杯	B	灰白	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
1203	B② SA2	床直	弥生	高杯	C	にぶい橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ハケ
1204	B② SA2	覆土	弥生	鉢	C	明赤灰	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1205	B② SA2	覆土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、外：縦四線文、備考：北陸系
1206	B② SA2	覆土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、外：縦四線文、備考：北陸系
1207	B② SA2	覆土	弥生	罍	D	明褐灰	横ナデ、外：縦四線文、備考：北陸系
1208	B② SA2	覆土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、外：縦四線文、備考：北陸系
1209	B② SA2	覆土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、外：縦四線文、備考：北陸系
1210	B② SA3	覆土	弥生	壺	B	浅黄緑	外：頸部丁字文+円縁洋文3ヶ 口縁ハケ→赤彩 胴部ハケ→赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 胴部ハケ→ナデ、備考：器面潤澤
1211	B② SA3	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：頸部1対丁字文2ヶ残→瓣波状文 赤彩縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1212	B② SA3	覆土	弥生	壺	D	浅黄緑	外：頸部縦直線文 赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1213	B② SA3	覆土	弥生	壺	B	灰白	外：ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ 接合直
1214	B② SA3	覆土	弥生	罍	B	浅黄緑	外：頸部右回3連止線状文→瓣波状文(?)、内：調整不明、備考：器面潤澤
1215	B② SA3	覆土	弥生	罍	B	灰褐	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1216	B② SA3	覆土	弥生	罍	A	にぶい橙	外：頸部縦直線文 胴下縦ミガキ、底：調整不明、内：調整不明、備考：器面潤澤
1217	B② SA3	覆土	弥生	台付罍	B	明赤灰	外：頸部3連止線状文→瓣波状文(?)、内：調整不明、備考：器面潤澤
1218	B② SA3	覆土	弥生	台付罍	B	灰白	罍外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部?)、台外：ミガキ、罍内：ミガキ、台内：工具ナデ、備考：内器面潤澤
1219	B② SA3	覆土	弥生	罍	B	にぶい橙	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文 胴下縦ミガキ、内：工具ナデ
1220	B② SA3	覆土	弥生	罍	D	明褐灰	外：口縁縦四線文 胴部縦工具刺突文 調整不明、内：調整不明、備考：北陸系
1221	B② SA3	覆土	弥生	罍	B	にぶい橙	外：口縁縦四線文 胴部縦工具刺突文 調整不明、内：ケズリ→ナデ?、備考：北陸系
1222	B② SA3	覆土	弥生	鉢	C	褐灰	外：赤彩縦ミガキ 1対穿孔1ヶ残、内：横ミガキ
1223	B② SA3	覆土	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：ハケ→横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ→横ミガキ
1224	B② SA3	覆土	弥生	鉢	D	にぶい黄緑	外：調整不明、内：調整不明、備考：北陸系
1225	B② SA3	覆土	弥生	蓋	D	褐灰	外：ナデ、内：ナデ
1226	B② SA3	覆土	弥生	罍	C	灰黄緑	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩ミガキ
1227	B② SA3	覆土	弥生	高杯	A	にぶい黄緑	外：赤彩ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ナデ、備考：器面潤澤
1228	B② SA3	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄緑	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、備考：器面潤澤
1229	B② SA3	覆土	弥生	高杯	C	灰黄緑	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1230	B② SA7	P2	弥生	罍	D	にぶい黄緑	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1231	B② SA7	床直	弥生	壺	D	灰褐	外：頸部丁字文4ヶ残 赤彩ミガキ(口縁横・胴部右縁)→、内：赤彩縦ミガキ、備考：1232と同一個体?
1232	B② SA7	床直	弥生	壺	D	灰褐	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：ハケ→ナデ、備考：1231と同一個体?
1233	B② SA7	覆土	弥生	壺	B	にぶい黄緑	外：頸部1対丁字文5ヶ 赤彩有縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1234	B② SA7	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄緑	外：口縁折り返して下方から指コナエ→面取り 口縁横波状文、内：瓣波状文、備考：東海系 1336と同一個体? 502 SA1未実測資料と接合
1235	B② SA7	覆土	弥生	罍	B	暗褐灰	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1236	B② SA7	覆土	弥生	罍	B	にぶい橙	外：頸部縦直線文→瓣波状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ハケ→縦ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1237	B② SA7	覆土	弥生	罍	C	にぶい橙	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部1)、内：横ミガキ
1238	B② SA7	覆土	弥生	罍	B	にぶい橙	外：頸部右回2連止線状文→瓣波状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1239	B② SA7	覆土	弥生	罍	C	にぶい橙	外：頸部右回3連止線状文→瓣波状文(胴部1)、底：ミケズリ、内：口縁横ミガキ
1240	B② SA7	覆土	弥生	罍	B	暗褐灰	外：右傾ハケ→胴下ケズリ、底：ケズリ、内：ケズリ、備考：北陸系、胎土非在地
1241	B② SA7	覆土	弥生	罍	D	褐灰	内：ケズリ、備考：北陸系
1242	B② SA7	覆土	弥生	罍	D	にぶい橙	外：ケズリ→ナデ?、底：ナデ、内：ハケ→工具ナデ、備考：北陸系?
1243	B② SA7	覆土	弥生	高杯	B	にぶい黄緑	外：赤彩ミガキ(杯縁・脚縁)、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1244	B② SA7	覆土	弥生	高杯	C	にぶい黄緑	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：ナデ
1245	B② SA7	覆土	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩縦ミガキ
1246	B② SA7	覆土	弥生	脚部	C	にぶい橙	外：赤彩ミガキ(脚柱縦・脚縁横)、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ→一部横ミガキ、備考：北陸系

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1247	B②SA7	覆土	弥生	器台	A	浅黄褐色	外：赤彩ミガキ(杯縁・脚柱縁・脚輪縁)、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ、備考：北陸系
1248	B②SA8	床直	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縁・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横不明、備考：内器面滑潤
1249	B②SA8	覆土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部右回2連止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1250	B②SA8	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	外：頸部右回等間隔止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓)、内：横ミガキ
1251	B②SA8	床面	弥生	高杯	D	橙	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1252	B②SA8	覆土	弥生	高杯	B	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ 突部、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：調整不明 ベンガラ付着
1253	B②SA8	床面	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部1対丁字文1ヶ残→櫛波状文、内：横ミガキ、備考：1287と同一?
1254	B②SA9	床面	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口唇山形突起4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1255	B②SA9	灰中	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部丁字文4ヶ 赤彩横ミガキ、内：横ハケ
1256	B②SA9	底上	弥生	壺	C	浅黄褐色	外：底周ケズリ→赤彩横ミガキ、内：横ハケ→ナデ
1257	B②SA9	床面	弥生	壺	A	にぶい黄褐色	外：頸部丁字文4ヶ 横ハケ→縦ミガキ、内：横ハケ→口縁横ミガキ
1258	B②SA9	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：頸部脚直線文 ハケ(口縁縁・胴上縁・胴下縁)→赤彩ミガキ(口縁縁・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ
1259	B②SA9	床面	弥生	壺	A	灰褐色	外：頸部右回等間隔止塵状文一縦ミガキ、内：横ミガキ ベンガラ付着
1260	B②SA9	床面	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部丁字文1ヶ残 赤彩横ミガキ、内：横ハケ
1261	B②SA9	灰中	弥生	壺	B	橙	外：頸部右回2連止塵状文→櫛波状文、内：横ミガキ、備考：器面滑潤
1262	B②SA9	床面	弥生	壺	A	赤褐色	外：縦ハケ→ミガキ、底：輪台 ケズリ、内：横ケズリ、備考：北陸系
1263	B②SA9	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：櫛波状文 胴下横ハケ→縦ミガキ、内：横ミガキ、備考：北陸系との折衷
1264	B②SA9	床面	弥生	高杯	B	にぶい黄褐色	外：口唇山形突起4ヶ 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、杯内：ケズリ 横ハケ
1265	B②SA9	床直	弥生	高杯	A	にぶい黄褐色	外：赤彩ミガキ(杯縁・脚縁)、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：横ハケ
1266	B②SA9	灰中	弥生	高杯	B	灰褐色	杯外：赤彩ミガキ(口縁縁・杯下縁)、杯内：赤彩縦ミガキ、備考：1270と同一個体?
1267	B②SA9	灰中	弥生	高杯	B	灰黄褐色	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、備考：1269と同一個体?
1268	B②SA9	覆土	弥生	高杯	D	灰黄褐色	杯外：赤彩ミガキ(杯上縁・杯下縁)、杯内：赤彩横ミガキ、備考：外糸系との折衷
1269	B②SA9	灰中	弥生	高杯	C	灰黄褐色	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ、備考：1267と同一個体?
1270	B②SA9	床面	弥生	高杯	B	灰褐色	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ、備考：1266と同一個体? 外糸系
1271	B②SA9	床面	弥生	鉢	A	浅黄褐色	外：赤彩横ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩横ミガキ
1272	B②SA9	床面	弥生	鉢	A	にぶい黄褐色	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ、備考：北陸系との折衷
1273	B②SA9	覆土	弥生	壺	D	明褐色	外：頸部右回3連止塵状文→櫛波状文 赤彩文、内：横ミガキ
1274	B②SA9	弥生	壺	D	明褐色	外：頸部右回4連止塵状文→櫛波状文 赤彩文、内：調整不明、備考：SK47取り上げ	
1275	B②SA9	弥生	壺	D	明褐色	外：頸部右回5連止塵状文→櫛波状文 赤彩文、内：横ハケ→口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ、備考：直横取り上げ	
1276	B②SA9	覆土	弥生	壺	D	明褐色	外：頸部右回6連止塵状文→櫛波状文 赤彩文、内：横ハケ→横ミガキ
1277	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：口唇山形突起4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1278	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	橙	外：頸部脚直線文 赤彩ミガキ(口縁縁・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ、備考：内器面滑潤
1279	B②SA10	P6	弥生	壺	D	灰褐色	外：ハケ→縦ミガキ、内：右縁ハケ
1280	B②SA10	覆土	弥生	壺	C	暗褐色	外：頸部右回2連止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、内：横ミガキ
1281	B②SA10	床面	弥生	壺	A	暗褐色	外：頸部右回2連止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、内：横ミガキ
1282	B②SA10	覆土	弥生	壺	C	橙	外：頸部右回2連止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、内：横ミガキ
1283	B②SA10	床面	弥生	台付壺	A	にぶい黄褐色	壺外：頸部右回3連止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、台外：ミガキ、壺内：横ミガキ 底合直、台内：ナデ
1284	B②SA10	覆土	弥生	高杯	D	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1285	B②SA10	床面	弥生	鉢	A	橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩横ミガキ
1286	B②SA10	覆土	弥生	鉢	B	橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩横ミガキ
1287	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：頸部1対丁字文2ヶ残→櫛波状文、内：ミガキ?、備考：1253と同一?
1288	B②SA11	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縁・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ
1289	B②SA11	床面	弥生	壺	B	黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：胴上縁具ナテ 胴下横ハケ
1290	B②SA11	床面	弥生	壺	D	橙	外：頸部右回3連止塵状文→櫛波状文(口縁↓)、内：口縁横ミガキ 脚工具ナテ
1291	B②SA11	床直	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：頸部右回等間隔止塵状文→櫛波状文(口縁↓・胴部↓) 胴下横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1292	B②SA11	床直	弥生	台付壺	C	にぶい黄褐色	壺外：櫛波状文(胴部↓) 胴下横ミガキ、台外：縦ミガキ、壺内：横ミガキ、台内：ナデ

No	出土遺構	期位	種類	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
1293	B② SA11	柱穴	弥生	高杯	C	黄緑	外：赤彩ミガキ(杯上横・杯下履・脚縁)、杯内：赤彩横ミガキ
1294	B② SA11	床直	弥生	高杯	B	暗緑	外：赤彩ミガキ(杯横・脚縁)、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ
1295	B② SA11	P4	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1296	B② SA12	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	外：頸部丁字文2ヶ残、内：横ミガキ
1297	B② SA12	床直	弥生	壺	D	明灰緑	外：ミガキ？、備考：外來系？
1298	B② SA12	床直	弥生	壺	D	明赤褐	外：頸部右回3連止帯状文→脚波状文(口縁上・脚部?)、内：横ハケ→横ミガキ
1299	B② SA12	床直	弥生	壺	D	にぶい橙	横ナデ、外：口縁縦凹線文、備考：北陸系
1300	B② SA12	甌土	弥生	壺	D	橙	外：頸部縮文→脚波状文、内：横ハケ、備考：同一と思われる個体あり
1301	B② SA14	甌土	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：頸部1対丁字文1ヶ残 横ハケ→縦ミガキ、内：横ミガキ
1302	B② SA14	甌土	弥生	壺	C	にぶい黄赤	外：頸部縮直線文 赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 脚部ナデ
1303	B② SA14	床直	弥生	壺	D	橙	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1304	B② SA14	甌土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：脚上赤彩横ミガキ 脚下履ミガキ、内：ハケ→ナデ
1305	B② SA14	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：脚上赤彩横ミガキ 脚下履ミガキ、底：調整不明、備考：内器面剥離
1306	B② SA14	甌土	弥生	壺	B	にぶい黄赤	外：頸部右回等間止帯状文→脚波状文(口縁上・脚部1) 脚下履ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1307	B② SA14	甌土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：頸部右回3連止帯状文→脚波状文(口縁上・脚部1)、内：横ミガキ
1308	B② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、底：ナデ、内：調整不明
1309	B② SA14	床直	弥生	台付壺	B	橙	壺外：頸部2連止帯状文→脚波状文、壺内：横ミガキ
1310	B② SA14	甌土	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：口縁縦凹線文 脚部踏工具刺突文 調整不明、内：横ハケ→横ケズリ、備考：北陸系
1311	B② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：工具ナデ、内：ケズリ→工具ナデ
1312	B② SA14	床面	弥生	高杯	A	にぶい黄赤	外：赤彩ミガキ(杯横・脚縁)、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ しばり目
1313	B② SA14	床面	弥生	高杯	C	にぶい黄赤	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1314	B② SA14	甌土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
1315	B② SA14	甌土	弥生	高杯	B	にぶい黄赤	脚外：ナデ、脚内：指ナデ？
1316	B② SA14	甌土	弥生	鉢	B	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：縦ミガキ
1317	B② SA14	甌土	弥生	鉢	D	橙	外：調整不明 1対穿孔1ヶ残、内：調整不明
1318	B② SA14	甌土	弥生	壺	D	にぶい黄	横ナデ、備考：北陸系
1319	B② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄	横ナデ、外：口縁縦凹線文/泥工具刺突文、備考：北陸系
1320	B② SA14	甌土	弥生	壺	D	にぶい黄	横ナデ、外：脚縁凹線 脚部ハケ、備考：北陸系
1321	B② SA14	床直	弥生	壺	D	にぶい黄	外：口唇部波状文、内：横ミガキ
1322	B② SA15	甌土	弥生	壺	C	浅黄緑	外：頸部丁字文4ヶ 縦ミガキ、内：横ミガキ、備考：1323と同一個体
1323	B② SA15	床直	弥生	壺	C	浅黄緑	外：ハケ→ミガキ(脚上横・脚下履)、内：工具ナデ、備考：1322と同一個体
1324	B② SA15	床直	弥生	壺	C	にぶい黄	外：頸部右回2連止帯状文→脚波状文(口縁上・脚部1) 脚下履ミガキ、内：横ミガキ
1325	B② SA15	甌土	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、底：ナデ、内：調整不明 白色の物質が付着
1326	B② SA15	P7	弥生	高杯	C	にぶい黄赤	杯外：赤彩ミガキ(杯上横・杯上縁)、杯内：赤彩横ミガキ
1327	B② SA15	床直	弥生	高杯	C	にぶい黄赤	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケズリ
1328	B② SA15	甌土	弥生	壺	D	浅黄緑	横ナデ、備考：外來系？
1329	B② SA16	床面	弥生	壺	A	にぶい黄	外：頸部右回3連止帯状文→脚波状文(口縁上・脚部1) 脚下履ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1330	B② SA16	床面	弥生	壺	C	暗緑	外：調整不明、内：横工具ナデ、備考：北陸系
1331	B② SA16	甌土	弥生	壺	D	にぶい橙	横ナデ、備考：北陸系
1332	B② SA16	床面	弥生	壺	B	にぶい黄	外：縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1333	B② SA16	甌土	弥生	鉢	C	にぶい黄赤	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1334	B② SA18	甌土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部丁字文4ヶ ミガキ(口縁縦・脚縁)、内：口縁縦ミガキ 脚
1335	B② SA18	甌土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：横ミガキ、内：ミガキ
1336	B② SA18	甌土	弥生	壺	D	黄灰	外：口縁折り返して下方から指オサエ→面取り 口唇部波状文、内：脚波状文、備考：東海系 1336と同一個体？ 50② SA18同一個体と思われる破片有り
1337	B② SA18	甌土	弥生	高杯	B	にぶい橙	杯外：赤彩ミガキ(杯上横・杯下履)、杯内：赤彩横ミガキ
1338	B② SA18	甌土	弥生	鉢	A	橙	外：口縁スタンプ文1ヶ 脚部連続スタンプ文 ナデ？、底：粘土を付加して平底化ケズリ→ナデ、内：ナデ、備考：北陸系？ 胎土非在地
1339	C② SA1	甌土	弥生	壺	D	浅黄緑	外：赤彩縦ミガキ 口唇部縮直線文？、内：赤彩横ミガキ
1340	C② SA1	甌土	弥生	壺	D	灰褐	外：口唇部波状文 口唇部縮直線文、内：ミガキ？
1341	C② SA2	甌土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ
1342	C② SA2	床面	弥生	壺	A	灰黄褐	外：調整不明 わずかに赤彩が残るが全体におよぶのか不明、内：ハケ→横ミガキ、備考：北陸系？割裂？

No	出土遺物	部位	種類	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1343	C②SA2	床面	弥生	罍	A	にぶい橙	外：腹部右回3連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1344	C②SA2	甕土	弥生	甕	D	にぶい橙	外：ハケ→赤彩ミガキ(口縁飾・胴部)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部右廻ハケ
1345	C②SA2	床面	弥生	台付罍	A	にぶい橙	罍外：腹部右回3連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、罍内：横ミガキ、台内：ハケ→ナデ
1346	C②SA2	甕土	弥生	罍	D	淡黄	横ナデ、備考：北陸系
1347	C②SA2	甕土	弥生	罍	C	にぶい橙	外：ハケ→ミガキ、内：横ハケ
1348	C②SA2	床面	弥生	罍	A	灰白	外：縦ミガキ、つまみ：穿孔1つ、内：横工具ナデ
1349	C②SA2	甕土	弥生	高杯	D	橙	杯外：赤彩ミガキ、杯内：調整不明、備考：内器面剥離
1350	C②SA2	甕土	弥生	高杯	C	明赤褐	杯外：赤彩ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1351	C②SA2	甕土	弥生	罍	D	淡黄	横ナデ、備考：北陸系
1352	C②SA2	甕土	弥生	罍	D	淡黄	横ナデ、備考：北陸系
1353	C②SA2	甕土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、備考：北陸系
1354	C②SA4	床面	弥生	甕	C	淡黄	外：胴部T字文4つ 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ、備考：器面剥離
1355	C②SA4	甕土	弥生	罍	D	橙	外：腹部右回3連止簾状文→横波状文(口縁↑)、内：横ハケ→横ミガキ
1356	C②SA4	甕土	弥生	罍	D	にぶい橙	外：縦ハケ、内：ケズリ、備考：北陸系
1357	C②SA4	床直	弥生	台付罍	B	にぶい橙	罍外：腹部右回等間止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、罍内：横ミガキ、台内：ナデ
1358	C②SA4	床面	弥生	罍	A	陶灰	外：ケズリ→ナデ、内：ケズリ→ナデ
1359	C②SA4	甕土	弥生	罍	C	にぶい橙	外：縦ミガキ、つまみ：穿孔1つ、内：調整不明
1360	C②SA4	床直	弥生	高杯	C	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：調整不明
1361	C②SA4	甕土	弥生	鉢	C	陶灰	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩縦ミガキ
1362	C②SA4	甕土	弥生	有孔鉢	C	にぶい橙	外：縦ミガキ、底：ナデ 穿孔1つ、内：横ミガキ
1363	C②SA6	床直	弥生	甕	D	にぶい橙	外：口唇山形突起1つ残 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1364	C②SA6	床直	弥生	罍	B	明褐	外：腹部右回4連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部?) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：ミガキ(口縁飾・胴部)、備考：器上復元
1365	C②SA6	床直	弥生	罍	A	暗褐	外：腹部飾直線文、底：ミガキ、内：ハケ→横ミガキ、備考：外器面剥離
1366	C②SA6	甕土	弥生	罍	C	明褐	外：横波状文(4)、内：横ミガキ
1367	C②SA6	床面	弥生	罍	A	暗褐	外：腹部右回4連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部?)、胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1368	C②SA6		弥生	罍	C	にぶい橙	外：腹部右回2連止簾状文→横波状文(口縁↑)、内：ミガキ、備考：C①SA16取り上げ 1369と同一個体
1369	C②SA6		弥生	罍	C	にぶい赤褐	外：ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：右廻ハケ→工具ナデ、備考：C①SA16取り上げ 1368と同一個体
1370	C②SA6	甕土	弥生	罍	B	淡黄	外：横波状文(胴部↓) 胴下ケズリ→ミガキ 底：ケズリ、内：ハケ→ミガキ
1371	C②SA6	床面	弥生	罍	B	暗褐	外：横波状文(胴部↓) 胴下ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：ハケ→横ミガキ
1372	C②SA6	甕土	弥生	罍	B	にぶい黄橙	外：腹部右回2連止簾状文→横波状文(胴部↓)、底：ミガキ、内：左廻ミガキ
1373	C②SA6	床直	弥生	台付罍	C	橙	台外：縦ミガキ、台内：横ハケ
1374	C②SA6	甕土	弥生	台付罍	C	橙	台外：縦ミガキ、台内：横ハケ
1375	C②SA6	床直	弥生	罍	D	暗褐	外：横ナデ、内：口縁横ミガキ 胴部ナデ、備考：北陸系
1376	C②SA6		弥生	罍	C	淡黄橙	横ナデ、備考：北陸系 C①SA16取り上げ
1377	C②SA6	甕土	弥生	高杯	D	にぶい橙	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1378	C②SA6	甕土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→工具ナデ
1379	C②SA6	甕土	弥生	片口鉢	C	にぶい橙	外：縦ミガキ 片口、底：ミガキ、内：横ミガキ
1380	C②SA6	甕土	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1381	C②SA6	床直	弥生	有孔鉢	D	明赤灰	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ 穿孔1つ、内：調整不明
1382	C②SA6	甕土	弥生	甕	B	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1383	C②SA6	甕土	弥生	高杯	D	淡黄橙	外：赤彩横ミガキ、内：調整不明、備考：北陸系 C①SA16取り上げ
1384	C②SA6	甕土	弥生	甕	D	淡黄	外：口縁飾直線文 調整不明、内：調整不明、備考：北陸系
1385	C②SA6	甕土	弥生	脚部	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩ミガキ 凹孔1つ残、脚内：ケズリ、備考：北陸系
1386	C②SA6	甕土	弥生	罍	D	にぶい橙	横ナデ、外：縦波線文、備考：北陸系
1387	C②SA6	床直	弥生	罍	D	にぶい黄橙	横ナデ、備考：北陸系
1388	C②SA7	床面	弥生	甕	D	にぶい橙	外：赤彩横ミガキ、内：横ハケ→横工具ナデ
1389	C②SA7	甕土	弥生	甕	D	淡黄橙	外：胎付交帯+凹線文 赤彩ミガキ、内：ハケ→ナデ、備考：北陸系
1390	C②SA7	床面	弥生	罍	A	にぶい橙	外：腹部右回3連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→横ミガキ
1391	C②SA7	床直	弥生	罍	C	にぶい黄橙	外：腹部右回4連止簾状文→横波状文(口縁↑・胴部↓) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ

No	出土遺構	層位	種類	器種	造形	色調	技法・文様・特徴
1392	C⑤ SA7	覆土	弥生	甕	A	にぶい黄赤	外：頸部等間隔止線状文→駒波状文(口縁1・胴部1) 胴下左傾ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→口縁横ミガキ 胴一部ナデ
1393	C⑤ SA7	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄赤	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右傾ハケ
1394	C⑤ SA7	床面	弥生	高杯	A	にぶい黄赤	外：赤彩ミガキ(杯横・脚横)、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1395	C⑤ SA7	床直	弥生	鉢	A	にぶい黄赤	外：赤彩縦ミガキ 1対穿孔1ヶ、底：赤彩ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1396	C⑤ SA7	床直	弥生	鉢	A	にぶい黄赤	外：赤彩縦ミガキ 1対穿孔1ヶ、底：ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1397	C⑤ SA7	覆土	弥生	甕	D	黄	横ナデ、備考：北陸系
1398	C⑤ SA8	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄赤	外：頸部丁字文1ヶ残 縦ミガキ、底：ケズリ、内：胴上横ハケ 胴下横ケズリ
1399	C⑤ SA8	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：頸部封丁字文1ヶ残 赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：器面潤滑
1400	C⑤ SA8	覆土	弥生	甕	B	にぶい黄赤	外：駒波状文、内：横ミガキ、備考：北陸系との折衷
1401	C⑤ SA8	覆土	弥生	台付甕	C	にぶい黄赤	意外：駒波状文→胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、要内：横ミガキ、台内：ナデ
1402	C⑤ SA8	覆土	弥生	台付甕	B	にぶい黄赤	意外：頸部右回2進止線状文→駒波状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、要内：横ミガキ、台内：ナデ
1403	C⑤ SA8	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄赤	横ナデ、外：縦ハケ、備考：北陸系
1404	C⑤ SA8	床直	弥生	高杯	D	にぶい黄赤	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1405	C⑤ SA8	床直	弥生	高杯	D	にぶい黄赤	杯外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1406	C⑤ SA8	覆土	弥生	高杯	D	にぶい黄赤	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、備考：北陸系 鉢の可能性有り
1407	C⑤ SA8	覆土	弥生	高杯	C	にぶい黄赤	杯外：赤彩右傾ミガキ、杯内：ナデ
1408	C⑤ SA8	床直	弥生	高杯	B	黄	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
1409	C⑤ SA8	覆土	弥生	鉢	C	黄	外：赤彩ミガキ 1対穿孔1ヶ残、内：赤彩ミガキ、備考：器面潤滑
1410	C⑤ SA8	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄赤	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：赤彩ミガキ、備考：器面潤滑
1411	C⑤ SA8	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄赤	外：赤彩ミガキ、底：ナデ、内：赤彩ミガキ、備考：器面潤滑
1412	C⑤ SA8	P6	弥生	甕	D	黄	横ナデ、外：右傾ハケ、備考：北陸系
1413	C⑤ SA8	覆土	土師	甕	A	黄	外：ハケ→右傾ケズリ、内：工具ナデ
1414	C⑤ SA8	覆土	土師	甕	A	にぶい黄赤	外：右傾ハケ→成堀ケズリ、内：横ハケ→ナデ
1415	C⑤ SA8	覆土	土師	甕	B	暗赤褐	外：ハケ→横ケズリ、内：横ケズリ
1416	C⑤ SA8	覆土	土師	高杯	C	黄	脚外：ミガキ(脚注縦・脚横)、脚内：ケズリ ナデ
1417	C⑤ SA8	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄赤	杯外：ケズリ→横ミガキ、杯内：横ミガキ
1418	C⑤ SA8	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄赤	脚外：横ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ)
1419	C⑤ SA9	覆土	弥生	壺	C	淡黄	外：頸部丁字文4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：口縁・胴部横ミガキ 胴部横ハケ、備考：器面潤滑
1420	C⑤ SA9	覆土	弥生	甕	B	黄	外：頸部右回2進止線状文→駒波状文(口縁1・胴部?)→胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：ミガキ(口縁横・脚横)、備考：器面潤滑
1421	C⑤ SA9	床面	弥生	台付甕	B	黄	意外：頸部右回2進止線状文→駒波状文(口縁1・胴部?)、要内：横ミガキ、備考：器面潤滑
1422	C⑤ SA9	覆土	弥生	高杯	C	黄赤	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1423	C⑤ SA9	覆土	弥生	鉢	A	浅黄粉	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→赤彩縦ミガキ
1424	C⑤ SA9	床面	弥生	鉢	B	にぶい黄赤	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩縦ミガキ
1425	C⑤ SA9	床面	弥生	有孔鉢	A	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1426	C⑤ SA9	床直	弥生	有孔鉢	A	浅黄粉	外：横ミガキ、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1427	C⑤ SA10	床面	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：頸部丁字文3/4ヶ残 赤彩ミガキ、内：調整不明、備考：器面潤滑
1428	C⑤ SA10	P2	弥生	壺	D	にぶい黄赤	外：頸部1対丁字文2/4ヶ残 赤彩縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1429	C⑤ SA10	床直	弥生	壺	B	にぶい黄赤	外：頸部1対丁字文2/4ヶ残 胴上赤彩縦ミガキ 胴下縦ミガキ、底：輪付 ケズリ→ナデ、内：ハケ→ナデ、備考：外器面潤滑
1430	C⑤ SA10	床面	弥生	甕	B	にぶい黄赤	外：駒波状文(胴部1)、底：調整不明、内：横ミガキ
1431	C⑤ SA10	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄赤	外：頸部右回4進止線状文 駒波状文(口縁1・胴部1) 胴下ハケ→ミガキ、内：横ハケ→口縁横ミガキ、備考：C⑤ SA5取り上げ 1432と同一?
1432	C⑤ SA10	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄赤	外：横ハケ→ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ、備考：C⑤ SA5取り上げ 1431と同一?
1433	C⑤ SA10	床面	弥生	甕	A	明赤褐	外：頸部右回2進止線状文→駒波状文(口縁1・胴部1)、底：ナデ、内：調整不明
1434	C⑤ SA10	覆土	弥生	甕	D	にぶい黄赤	外：頸部右回2進止線状文→駒波状文(口縁1)、内：横ミガキ
1435	C⑤ SA10	床面	弥生	甕	A	にぶい黄赤	外：頸部右回3進止線状文→駒波状文、底：調整不明、内：調整不明、備考：器面潤滑
1436	C⑤ SA10	覆土	弥生	甕	D	暗赤	横ナデ、備考：北陸系
1437	C⑤ SA10	覆土	弥生	有孔甕	C	明赤褐	外：ナデ、底：ケズリ→ナデ 穿孔1ヶ、内：右傾ハケ
1438	C⑤ SA10	覆土	弥生	壺	D	赤褐	外：調整不明、内：調整不明
1439	C⑤ SA10	覆土	弥生	蓋	C	黄	外：調整不明、つまみ：穿孔1ヶ、内：調整不明
1440	C⑤ SA10	床面	弥生	壺	D	黄	外：ハケ、つまみ：穿孔1ヶ、内：工具ナデ
1441	C⑤ SA10	床面	弥生	壺	A	赤褐	外：ミガキ、底：指ナデ、内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1442	C②SA10	床直	弥生	高杯	D	にぶい橙	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1443	C②SA10	覆土	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：縦ミガキ、底：ミガキ、内：調整不明
1444	C②SA10	覆土	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：赤彩横ミガキ 1対穿孔2ヶ、底：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ
1445	C②SA11	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部縮込線文 縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1446	C②SA11	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部右側2道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部?)、内：横ミガキ
1447	C②SA11	床面	弥生	台付壺	B	にぶい黄橙	壺外：頸部右側2道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1)、壺内：横ミガキ
1448	C②SA11	床面	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：右横ハケ、内：右横ハケ、備考：北陸系
1449	C②SA11	床面	弥生	有孔甕	D	褐色	外：ナデ、底：ケズリーナデ、穿孔1ヶ、内：ナデ
1450	C②SA11	覆土	弥生	壺	D	浅黄橙	外：赤彩横ミガキ、底：ナデ、内：ナデ
1451	C②SA11	覆土	弥生	高杯	B	にぶい橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右横ハケ
1452	C②SA11	覆土	弥生	高杯	D	にぶい橙	脚外：赤彩ミガキ、脚内：調整不明
1453	C②SA11	床面	弥生	脚部	D	にぶい橙	脚外：縦四線 赤彩横ミガキ、脚内：ナデ、備考：北陸系
1454	C②SA11	覆土	弥生	鉢	C	褐色	外：調整不明 片口、内：口縁横ハケ→ナデ
1455	C②SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	横ナデ、外：ハケ?、内：ケズリ、備考：北陸系
1456	C②SA11	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	横ナデ、備考：北陸系
1457	C②SA12	床面	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部T字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁横・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部調整不明
1458	C②SA12	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリーナデ、内：ハケ(胴上横・胴下縦)→ナデ
1459	C②SA12	覆土	弥生	壺	B	橙	外：頸部右側2道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1460	C②SA12	床直	弥生	台付壺	A	橙	壺外：頸部右側4道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、台外：縦ミガキ、壺内：横ミガキ、台内：横ハケ
1461	C②SA12	床面	弥生	壺	B	褐色	外：右横ハケ→胴部ハケ工具刺突文、内：ケズリ、備考：北陸系
1462	C②SA12	床面	弥生	壺	B	にぶい黄橙	外：口縁縮込線文 胴部右横ハケ、内：横ハケ 接合痕、備考：北陸系
1463	C②SA12	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：ケズリーナデ、底：ケズリーナデ、内：ケズリ、備考：北陸系?
1464	C②SA12	床面	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ?、底：ケズリ、内：ナデ
1465	C②SA12	床直	弥生	壺	C	にぶい橙	外：ハケ→ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：横工具ナデ
1466	C②SA12	床直	弥生	壺	A	にぶい橙	外：ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：ナデ
1467	C②SA12	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ 1対穿孔2ヶ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ?
1468	C②SA12	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ 1対穿孔2ヶ、底：ケズリーナデ、内：口縁赤彩ミガキ? 胴部横ミガキ
1469	C②SA12	覆土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右横ハケ
1470	C②SA12	床直	弥生	鉢	A	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩横ミガキ
1471	C②SA12	床面	弥生	有孔鉢	A	浅黄	外：縦ミガキ、底：ナデ 穿孔1ヶ、内：縦ミガキ
1472	C②SA12	弥生	鉢	C	にぶい橙	外：ケズリー→赤彩横ミガキ、底：ケズリ、内：口縁→頸部赤彩横ミガキ 胴部ハケ→横ミガキ、備考：北陸系との折衝 C①SA29取り上げ	
1473	C②SA12	床面	弥生	片口鉢	A	にぶい橙	外：縦ミガキ 片口、底：ケズリーナデ、内：工具ナデ→横ミガキ
1474	C②SA12	弥生	鉢	B	にぶい橙	外：縦ミガキ、底：ケズリーナデ、内：横ミガキ、備考：C①SA29取り上げ	
1475	C②SA12	覆土	弥生	壺	D	橙	外：頸部T字文1ヶ残→縮込状文、内：右横ハケ
1476	C②SA15	床面	弥生	壺	A	暗褐	外：縮込状文、底：ミガキ、内：横ミガキ、備考：器面磨練
1477	C②SA15	床面	弥生	壺	D	暗褐	外：頸部右側4道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1)、内：右横ハケ→横ミガキ
1478	C②SA15	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：頸部右側3道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ケズリーナデ、内：横ハケ
1479	C②SA15	覆土	弥生	壺	D	暗褐	外：頸部右側四道止線状文→縮込状文(口縁1)、内：横ミガキ
1480	C②SA15	床面	弥生	壺	C	暗褐	外：頸部右側4道止線状文→縮込状文(口縁1・胴部1) 胴下縦ミガキ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ
1481	C②SA15	覆土	弥生	壺	C	暗褐	外：ケズリーナデ、底：ケズリーナデ、内：ケズリ、備考：北陸系?
1482	C②SA15	床面	弥生	壺	A	にぶい橙	外：赤彩ミガキ(胴上横・胴下縦)、底：ケズリーナデ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ
1483	C②SA15	覆土	弥生	壺	C	明褐色	外：指オサエ、つまみ：穿孔1ヶ、内：ナデ
1484	C②SA15	覆土	土師	器台	D	にぶい橙	外：赤彩ミガキ 円孔1ヶ残、内：ケズリ
1485	C②SA15	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ、内：口縁ナデ 胴部ケズリーナデ、備考：北陸系?
1486	C②SA17	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：右横ハケ、内：横ハケ→縦ナデ
1487	C②SA17	覆土	弥生	台付壺	C	明赤褐	台外：縦ミガキ、台内：横ケズリーナデ
1488	C②SA18	覆土	弥生	壺	C	にぶい褐	外：頸部右側3道止線状文→赤彩ミガキ(口縁横・胴部横)/1対穿孔1ヶ残、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部ハケ→縦ミガキ(赤彩付着)
1489	C②SA21	床直	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部T字文3/4ヶ残 横ハケ→縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1490	C②SA21	覆土	弥生	壺	D	橙	外：頸部右側3道止線状文→縮込状文(口縁1)、内：横ミガキ
1491	C②SA21	床直	弥生	台付壺	D	橙	外：縦ミガキ、壺内：横ミガキ、台内：横工具ナデ

No	出土遺構	層位	性別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1492	C② SA21	床面	弥生	台付甕	A	にぶい橙	素外：頸部右回3通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1) 胴下縦ミガキ、台外：縦ハケ→縦ミガキ、素内：横ミガキ、白内：横ミガキ
1493	C② SA21	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	横ナデ、外：ハケ、備考：S字素 素内
1494	C② SA21	床直	弥生	脚部	D	にぶい橙	脚外：縦凹線文 赤彩ミガキ、備考：北陸系
1495	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：右傾ハケ、内：横ハケ
1496	C② SA22	P1	弥生	壺	D	にぶい橙	外：胴上赤彩横ミガキ 胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：縦ハケ
1497	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	暗褐色	外：頸部右回4通止塵状文→渦流状文(口縁上)、内：縦ミガキ
1498	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	暗褐色	外：頸部右回2通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1)、内：調整不明、備考：内部面割線
1499	C② SA22	覆土	弥生	壺	A	黒褐色	外：頸部右回等間隔止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部?)、内：横ミガキ
1500	C② SA22	覆土	弥生	台付甕	C	橙	台外：ミガキ、白内：工具ナデ
1501	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	黒灰	外：頸部右回等間隔止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1)、内：右傾ハケ
1502	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：頸部右回2通止塵状文→渦流状文(口縁上)、内：横ミガキ
1503	C② SA22	覆土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸直線文 赤彩ミガキ(つまみ履・胴部縦)、つまみ：穿孔ハケ、内：横ミガキ
1504	C② SA22	床直	弥生	壺	D	暗褐色	外：頸部直線文 赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ、備考：火にかけて使用した痕跡
1505	C② SA22	覆土	弥生	高杯	C	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1506	C② SA22	覆土	弥生	鉢	C	にぶい橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1507	C② SA22	覆土	弥生	壺	D	にぶい橙	外：渦流状文
1508	C② SA25	覆土	弥生	壺	C	にぶい橙	外：頸部T字文+円形浮文3/4分残 渦流状文 横ミガキ、内：調整不明、備考：内部面割線
1509	C② SA25	覆土	弥生	台付甕	C	にぶい黄橙	素外：胴部2通止塵状文、素内：横ミガキ
1510	C② SA25	覆土	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1511	C② SA25	覆土	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1512	25① SJ1	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部直線文→渦流状文(口縁上) 胴部直線文、底：ケズリ、内：ミガキ?	
1513	48① SJ7	弥生	壺	B	にぶい橙	外：頸部右回2通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ	
1514	64① SJ1	弥生	壺	A	にぶい橙	外：頸部T字文1/4残 赤彩ミガキ(口縁縦・胴上横) 胴下縦ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→ナデ、備考：指の外側 皿上復元	
1515	64① SJ1	弥生	壺	B	にぶい黄橙	外：胴上赤彩縦ミガキ 胴下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ、備考：指の内側 内部面割線	
1516	50① SK4	弥生	壺	A	浅黄橙	外：頸部T字文+円形浮文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・胴部縦) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部調整不明、備考：内部面割線	
1517	4① SD21	周溝	弥生	壺	B	にぶい橙	外：頸部1層T字文4ヶ 赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 胴部横ハケ→ナデ、備考：4① SU 取り上げ
1518	4① SD21	周溝	弥生	壺	A	にぶい橙	外：頸部右回3通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1) 胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：ミガキ(口縁縦・胴部縦)
1519	4① SD21	周溝	弥生	壺	B	橙	外：頸部右回2~3通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部?) 胴下調整不明、内：調整不明、備考：内部面割線
1520	4① SD21	周溝	弥生	壺	B	灰黄褐色	外：赤彩ミガキ 1層穿孔2ヶ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→横ミガキ、備考：4① SU 取り上げ
1521	4① SD21	周溝	弥生	高杯	C	灰黄褐色	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、備考：4① SU 取り上げ
1522	19① SD21	周溝	弥生	壺	A	にぶい黄橙	外：頸部右回2通止塵状文→渦流状文(口縁上・胴部1) 胴下ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→一部横ミガキ、備考：包含物取り上げ
1523	19① SD21	周溝	弥生	高杯	B	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ、杯内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→横ミガキ(わずかに赤彩が付着)、脚内：ナデ、備考：火にかけて使用した痕跡 器面割線
1524	19① SD21	周溝	土師	壺	A	にぶい橙	外：ハケ→ケズリ→ナデ?、内：口縁横ハケ 胴部横ハケ→胴上ナデ、備考：包含物取り上げ
1525	48① SD25	周溝	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：口形山形突起3/4分残 頸部右回11?通止の塵状文 赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ミガキ
1526	48① SD25	周溝	土師	壺	B	にぶい橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：ケズリ→ナデ
1527	48① SD26	周溝	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1528	48① SD26	周溝	弥生	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
1529	48① SD1	覆土	弥生	脚部	D	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ 円孔2ヶ残、脚内：ナデ、備考：北陸系?
1530	B② SD2	覆土	弥生	高杯	B	にぶい黄橙	外：赤彩ミガキ(杯横・脚縦)、杯内：赤彩横ミガキ、脚内横ミガキ、備考：北陸系との折衷
1531	B② SD8	覆土	弥生	高杯	B	にぶい橙	外：頸部直線文+円形浮文2/4ヶ残 調整不明、内：調整不明
1532	B② SD6	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：渦流状文(胴部1) 胴下縦ミガキ、内：横ミガキ
1533	B② SD6	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部右回2通止塵状文→渦流状文(口縁上)、内：横ミガキ
1534	B② SD6	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄橙	外：頸部左回2通止塵状文 横ミガキ、内：横ミガキ
1535	B② SD6	覆土	弥生	台付甕	D	にぶい黄橙	台外：縦ケズリ、素内：ミガキ、白内：ケズリ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1536	B② SD6	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄褐色	外：口唇山形突起4ヶ 赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：赤彩横ミガキ
1537	B② SD6	覆土	弥生	蓋	D	にぶい黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩ミガキ
1538	B② SD6	覆土	土師	器内	C	にぶい黄褐色	外：ハケ→横ミガキ 円孔3ヶ、内：横工具ナデ
1539	62① SX4	覆土	弥生	壺	D	浅黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1540	62① SX4	覆土	弥生	壺	C	にぶい黄褐色	外：赤彩ミガキ(口縁頸部横・胴横)、底：ケズリ→一部ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部右側ハケ→底面ミガキ、備考：北陸系との同質
1541	遺構外	5①	弥生	壺	B	にぶい黄褐色	外：頸部1対丁字文2ヶ残 赤彩ミガキ(口縁横・胴上横・胴下縦)、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→胴中ナデ
1542	遺構外	5①	弥生	壺	B	にぶい黄褐色	外：頸部直線文 赤彩ミガキ(口縁横・胴上横・胴下縦)、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部ナデ 接合痕
1543	遺構外	14①	弥生	壺	A	にぶい黄褐色	外：頸部右側2道止線状文? 赤彩ミガキ(口縁?・胴部縦?)、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部横ハケ→ナデ?、備考：器面割離
1544	遺構外	48①	弥生	壺	C	にぶい黄褐色	外：赤彩ミガキ、内：調整不明、備考：器面割離
1545	遺構外	C①	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：胴部横ケズリ、内：ケズリ、備考：北陸系
1546	遺構外	C①	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：縦ハケ→ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ、備考：北陸系
1547	遺構外	79①	弥生	壺	D	にぶい黄褐色	外：口縁脚状伏文 胴部脚直線文→胴部脚横脚状文または脚斜線文、内：横ハケ→横ミガキ
1548	遺構外	B①	弥生	壺	A	にぶい黄褐色	外：ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1549	遺構外	B①	弥生	高杯	B	灰黄	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、胴内：ナデ
1550	遺構外	48①	弥生	高杯	C	浅黄褐色	杯外：赤彩ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1551	遺構外	B①	弥生	脚部	D	にぶい黄褐色	脚外：赤彩ミガキ、脚内：脚柱横ケズリ 脚部ハケ、備考：北陸系
1552	遺構外	B①	弥生	脚部	D	橙	外：調整不明、内：調整不明 しばり目 接合痕(巻き上げ)、備考：外来系? 胎土非在地
1553	遺構外	C①	弥生	器台	C	橙	受外：赤彩ミガキ 円孔2ヶ残、脚外：縦ハケ→赤彩ミガキ、受内：ハケ→ミガキ?、脚内：調整不明、備考：北陸系
1554	遺構外	C①	弥生	鉢	D	にぶい黄褐色	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：北陸系
1555	遺構外	C①	弥生	鉢	D	にぶい黄褐色	外：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：北陸系
1689	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	にぶい黄褐色	外：胴上ハケ→ナデ、内：口縁ハケ 胴部ハケ→ナデ
1690	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	C	にぶい黄褐色	外：右側ハケ→胴下ケズリ→胴部ナデ 底部ケズリ残る、内：ナデ
1691	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	A	にぶい黄褐色	外：右側ハケ→胴下ケズリ→胴部ナデ 底部ケズリ残る、内：口縁右側ハケ 胴部ナデ
1692	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	にぶい黄褐色	外：調整不明、内：調整不明
1693	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	B	にぶい黄褐色	外：胴下ケズリ→胴部ナデ 底部ケズリ残る、内：胴部工具ナデ
1694	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	A	橙	外：ハケ→胴下ケズリ→胴部ナデ 底部ケズリ残る、内：胴部工具ナデ
1695	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	C	にぶい黄褐色	外：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
1696	6① SA1	床直	土師	高杯	C	橙	脚外：縦ミガキ、脚内：接合痕
1697	6① SA1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：ミガキ(脚注縦・脚部?)、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ)
1698	6① SA1	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄褐色	杯外：杯上右側ハケ 杯下ミガキ、杯内：ミガキ、備考：器面割離
1699	6① SA1	床直	土師	高杯	B	にぶい黄褐色	杯外：右側ハケ→ナデ、脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ) しばり目
1700	6① SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ) しばり目
1701	6① SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕
1702	6① SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：縦ミガキ、脚内：接合痕(巻き上げ) しばり目
1703	6① SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：調整不明、杯内：調整不明、脚内：横ケズリ
1704	34① SA3	床面	土師	壺	C	にぶい黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→ナデ
1705	34① SA3	床面	土師	器台	B	橙	杯外：縦ハケ→縦ミガキ、脚外：縦ミガキ 円孔1ヶ残、杯内：ミガキ、脚内：ナデ しばり目
1706	34① SA3	床面	土師	小型丸底壺	D	にぶい黄褐色	外：口縁横ハケ→縦ミガキ 胴部ケズリ、内：口縁横ミガキ 胴部ナデ
1707	48① SA1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄褐色	外：縦ハケ→赤彩縦ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 胴部ケズリ
1708	48① SA1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄褐色	外：縦ハケ→化粧土→赤彩縦ミガキ、内：赤彩縦ミガキ
1709	48① SA1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄褐色	外：調整不明、内：ケズリ
1710	48① SA1	覆土	土師	壺	D	明赤褐色	外：ハケ、内：ハケ 接合痕
1711	48① SA1	覆土	土師	壺	D	橙	外：右側ハケ→ナデ、内：ハケ→ナデ?
1712	48① SA1	覆土	土師	壺	D	橙	外：左側ハケ、底：ケズリ、内：横ハケ
1713	48① SA1	覆土	土師	壺	C	にぶい黄褐色	外：縦ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：ミガキ
1714	48① SA1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：縦ミガキ、脚内：ナデ
1715	48① SA1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄褐色	脚外：縦ミガキ、脚内：ナデ
1716	48① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	にぶい黄褐色	外：ハケ(口縁右側・胴部横)→ナデ?、底：ケズリ、内：工具ナデ

No.	出土遺構	単位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1717	48D SA1	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄橙	外：ミガキまたは丁寧なナデ、底：丸底に粘土をはって平底化→ケズリ、内：ミガキまたは丁寧なナデ
1718	48D SA1	覆土	土師	鉢	C	橙	外：口縁折り返し、右傾ハケ→縦ケズリ、内：ナデ
1719	48D SA2	覆土	土師	蓋	C	にぶい黄橙	外：胴上赤彩縦ミガキ、胴下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
1720	48D SA2	覆土	土師	蓋	B	にぶい黄	外：右傾ハケ→口縁ケズリ、胴部縦ミガキ、内：口縁横ハケ、胴部左傾ケズリ→胴上横ミガキ
1721	48D SA2	覆土	土師	蓋	C	にぶい黄	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
1722	48D SA2	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
1723	48D SA2	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
1724	48D SA2	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄	外：右傾ハケ→調整不明、内：工具ナデ
1725	48D SA2	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ
1726	48D SA3	床面	土師	器台	B	にぶい赤黄	脚外：縦ハケ、円孔3ヶ、脚内：ナデ
1727	50E SA5	P9	土師	蓋	C	黄灰	外：縦ケズリ、蓋内：工具ナデ、台内：ナデ
1728	50E SA5	床直	弥生	蓋	C	にぶい黄橙	外：口縁難波状文、胴部右傾2連止難波状文→難波状文(胴上) 円形浮文(胴中5/6ヶ狭・口沿2ヶ狭)、内：横ミガキ
1729	50E SA5	覆土	弥生	蓋	D	黄灰	外：難波状文(口縁1)、内：横ミガキ
1730	50E SA5	覆土	弥生	台付蓋	D	にぶい黄橙	外：胴部右傾2連止難波状文→難波状文(口縁上・胴部上) 胴下縦ハケ→ミガキ、内：横ハケ→縦ミガキ
1731	50E SA5	床面	弥生	高杯	D	黄灰	杯外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩縦ミガキ
1732	50E SA5	覆土	弥生	高杯	D	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右傾ハケ→ナデ
1733	50E SA5	覆土	弥生	高杯	D	橙	脚外：調整不明、脚内：ケズリ→ナデ
1734	50E SA5	覆土	弥生	鉢	B	にぶい黄橙	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明
1735	50E SA5	K1	弥生	有孔鉢	B	にぶい赤黄	外：ケズリ(胴部縦・底周縁)、底：ケズリ→ナデ、円孔1ヶ、内：横ハケ→ナデ
1736	54D SA1	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄橙	外：ハケ、内：口縁ハケ、胴部ケズリ→ナデ、口縁横ナデなし
1737	54D SA1	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄橙	外：ハケ、内：口縁ハケ、胴部ケズリ→ナデ、備考：胴上復元
1738	54D SA1	覆土	土師	瓶	D	にぶい黄橙	外：ナデ、内：ケズリ→ナデ
1739	57D SA3	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：右傾ハケ→一部右傾ミガキ、内：口縁横ハケ→縦ミガキ、胴部横ハケ→胴上横工具ナデ→横ケズリ
1740	57D SA3	覆土	土師	壺	B	橙	外：口縁縦ハケ→縦ミガキ、胴部横ハケ→ナデ→一部ミガキ、内：口縁縦ミガキ、胴部横ハケ→横工具ナデ
1741	57D SA3	覆土	土師	小型丸底甕	B	橙	外：ハケ→胴下ケズリ→胴部ナデ、口縁一部ミガキ、内：ナデ
1742	57D SA3	覆土	土師	器台	B	にぶい黄橙	受外：ナデ→一部ミガキ、円孔3ヶ、脚外：縦ミガキ、受内：横ミガキ、脚内：横ケズリ→ナデ
1743	57D SA3	覆土	土師	脚部	C	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、円孔4ヶ、脚内：ケズリ
1744	60E SA3	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄橙	外：口縁難波状文 胴部ハケ、内：横ケズリ、備考：北陸系
1745	60E SA3	覆土	土師	壺	D	黄灰	外：口縁粘土貼付 凹線文 赤彩、内：横ハケ→寛状工具?による羽状刺突文、備考：パレス壺
1746	61D SA9	覆土	土師	蓋	D	にぶい黄橙	横ナデ、内：ケズリ、備考：S字蓋
1747	61D SA9	P7	土師	蓋	A	にぶい黄	外：縦ハケ→胴下粘土付加 ケズリ、底：ケズリ 底粘土を付加して平底化、内：横ハケ→胴下ナデ
1748	63D SA1	床直	土師	蓋	C	にぶい黄	外：胴上ミガキ、胴下縦ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→工具ナデ、備考：器面黄緑
1749	63D SA1	床直	土師	蓋	C	にぶい黄橙	外：胴上ミガキ、ケズリ(胴中横・胴下底周縁)→一部ミガキ、底：粘土付加により平底化、内：横ハケ→ナデ
1750	63D SA1	床直	土師	蓋	C	にぶい黄橙	外：胴上ミガキ、ケズリ(胴中横・胴下底)→一部ミガキ、内：横ハケ→一部ナデ、接合痕
1751	63D SA1	床直	土師	蓋	D	橙	外：縦ハケ→ナデ?、内：口縁横ハケ、胴部工具ナデ
1752	63D SA1	床直	土師	蓋	D	橙	外：横ミガキ?、内：口縁縦ミガキ、胴部横ケズリ
1753	63D SA1	床直	土師	器台	C	にぶい黄橙	外：ハケ→ミガキ、円孔2ヶ/3ヶ狭、受け内：ミガキ、脚内：ナデ
1754	63D SA1	床直	土師	器台	C	にぶい黄	脚外：縦ハケ→縦ミガキ、内：ナデ
1755	63D SA1	床直	土師	台付埴	B	橙	埴外：ミガキ、埴内：ミガキ(口縁縦・胴部横)
1756	63D SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：調整不明、内：横工具ナデ
1757	63D SA1	床直	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：胴下粘土付加 ケズリ→ミガキ、底：凹底、内：縦ミガキ→黒色
1758	79D SA5	覆土	土師	壺	C	にぶい黄	外：ハケ→一部ミガキ、胴部イボ状突起2ヶ・縦線状突起1ヶ、内：ナデ?
1759	79D SA5	床面	土師	壺	B	黄黄緑	外：ハケ→工具ナデ、刺突3ヶ、内：ケズリ
1760	79D SA5	覆土	土師	蓋	B	にぶい黄橙	外：工具ナデ、内：工具ナデ
1761	B② SA13	床面	土師	蓋	D	にぶい黄	外：胴下右傾ケズリ→胴部工具ナデ?、内：横工具ナデ
1762	B② SA13	覆土	土師	台付蓋	D	黄黄緑	台外：右傾ハケ→ナデ、台内：工具ナデ
1763	B② SA13	覆土	土師	台付蓋	D	にぶい黄	台外：右傾ハケ、台内：指ナデ

No	出土遺構	層位	機別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1765	B② SA13	覆土	土師	甕	D	暗赤黒	外：工具ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1764	B② SA13	覆土	土師	高杯	C	浅黄橙	杯外：右横ミガキ、杯内：右横ミガキ
1766	C① SA30	床面	土師	甕	B	灰白	外：ケズリ→右横ハケ 底部横ミガキ、底：ケズリ、内：ハケ→工具ナデ
1767	C① SA30	床面	土師	甕	B	にぶい橙	外：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
1768	C① SA30	床面	土師	甕	D	灰白	外：口縁横ハケ 胴部調整不明、内：調整不明
1769	C① SA30	床面	土師	甕	D	にぶい黄橙	外：右横ケズリ、内：右横ケズリ、備考：C① SA24取り上げ
1770	C① SA30	床面	土師	甕	D	にぶい黄	外：横ハケ、内：ナデ
1771	C① SA30	床面	土師	甕	B	にぶい黄橙	外：横ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→工具ナデ
1772	C① SA30	覆土	土師	甕	D	灰黒	外：左横ハケ、内：工具ナデ、備考：S字塗
1773	C① SA30	床面	土師	甕	D	赤黒	外：横ハケ、内：ナデ ケズリ、備考：S字塗 1778と同一個体？
1774	C① SA30	床面	土師	台付甕	D	橙	台外：縦ハケ→横ハケ、台内：横工具ナデ、備考：C① SA24取り上げ
1775	C① SA30	床面	土師	台付甕	D	暗赤	台外：右横ハケ→ナデ、台内：指ナデ、備考：1773と同一個体？
1776	C① SA30	床面	土師	台付甕	D	灰	台外：ケズリ、台内：ケズリ、備考：C① SA24取り上げ
1777	C① SA30	土師	蓋	C	浅黄	外：赤彩ミガキ、内：ナデ、備考：C① SA24取り上げ	
1778	C① SA30	土師	蓋	B	灰白	外：赤彩横ミガキ、底：ナデ、内：ナデ、備考：C① SA24取り上げ	
1779	C① SA30	土師	蓋	D	にぶい橙	外：口縁横ミガキ 胴部→胴部ハケ→横ミガキ 変形、内：口縁横ミガキ 胴部ハケ→横ミガキ、備考：C① SA24取り上げ	
1780	C① SA30	土師	器台	B	にぶい黄橙	外：ケズリ→ミガキ(杯縁・脚縁) 円孔4ヶ、受内：縦ミガキ、脚内：ケズリ、備考：図上脱皮 C① SA24取り上げ	
1781	C① SA30	床面	土師	高杯	A	にぶい橙	杯外：赤彩右横ミガキ、脚外：右横ハケ→赤彩右横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ケズリ
1782	C① SA30	床面	土師	高杯	B	にぶい橙	杯外：赤彩ミガキ、脚外：縦ハケ→赤彩ミガキ 円孔4ヶ、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1783	C① SA30	覆土	土師	高杯	C	灰黒	杯外：縦ハケ→ケズリ→一部横ミガキ、杯内：左横ミガキ、備考：1784と同一個体？
1784	C① SA30	覆土	土師	高杯	D	灰黒	脚外：縦ミガキ 円孔(1段目3ヶ・2段目3ヶ)、脚内：横ハケ→ナデ、備考：1783と同一個体？
1785	C① SA30	土師	器台	B	にぶい黄橙	受外：赤彩ミガキ、受内：赤彩ミガキ、備考：北陸系 C① SA24取り上げ	
1786	C① SA30	土師	脚部	D	浅黄橙	脚外：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ、備考：北陸系 C① SA24取り上げ	
1787	C② SA16	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	外：ハケ→ミガキ、内：ハケ→ミガキ
1788	C② SA16	覆土	弥生	高杯	D	橙	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ、備考：北陸系 鉢の可能性有り
1789	C② SA16	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	外：右横ケズリ、内：ナデ
1790	C② SA16	覆土	弥生	脚部	D	橙	脚外：赤彩ミガキ 円孔1ヶ残、脚内：調整不明、備考：北陸系
1791	C② SA16	覆土	弥生	高杯	D	灰黒	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ハケ
1792	C② SA16	覆土	土師	甕	D	浅黄橙	外：ケズリ、内：縦ハケ
1793	C② SA16	覆土	土師	手焙？	D	にぶい黄橙	外：寛浅線文、内：ミガキ
1794	C② SA16	覆土	弥生	甕	D	黒黒	横ナデ、外：口縁縦四線文、内：口縁ミガキ 胴部ケズリ、備考：北陸系
1795	C② SA16	覆土	弥生	脚部	D	浅黄橙	脚外：凹線文 赤彩ミガキ、備考：北陸系 1117と接合 2349と併せて同一個体？
1796	C② SA16	覆土	弥生	甕	D	にぶい橙	横ナデ、外：口縁波状文
1797	34③ SB1	土師	甕	D	にぶい黄橙	外：左横ハケ、内：横ケズリ、備考：S字塗	
1798	34③ SB1	土師	器台	C	にぶい橙	脚外：調整不明 円孔(1段目4ヶ・2段目4ヶ)、内：ケズリ→ナデ	
1799	48③ SK3	覆土	土師	甕	B	にぶい黄橙	外：ケズリ→右横ミガキ、底：ケズリ、内：工具ナデ、備考：上下別作り 胴下はハケ後に接合部分に粘土補充
1800	63③ SD21	周溝	土師	甕	A	浅黄橙	外：右横ハケ→一部縦割り、底：削り、内：右横ハケ
1801	75③ SD24	周溝	土師	甕	D	浅黄橙	外：右横ハケ、内：ナデ 接合痕
1802	75③ SD24	周溝	弥生	甕	D	にぶい橙	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明、備考：弥生中期か？
1803	6③ SD1	覆土	土師	甕	C	にぶい黄橙	外：右横ハケ→一部右横ミガキ、内：横ハケ→ナデ 接合痕
1804	6③ SD1	覆土	土師	甕	C	橙	外：縦ミガキナデ、内：口縁横ミガキ 胴部ケズリ→ナデ？
1805	6③ SD1	覆土	土師	甕	C	橙	外：右横ハケ→一部ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ハケ→横工具ナデ 接合痕
1806	6③ SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	外：右横ハケ→一部右横ミガキ、内：右横ハケ→ナデ、備考：1807と同一個体？
1807	6③ SD1	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ケズリ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ、備考：6③ SA1取り上げ 1806と同一個体？	
1808	6③ SD1	覆土	土師	甕	C	にぶい黄橙	外：右横ハケ→ナデ、内：ナデ 接合痕
1809	6③ SD1	土師	甕	D	にぶい橙	外：右横ハケ、内：口縁右横ハケ 胴部工具ナデ	
1810	6③ SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	外：右横ハケ、内：口縁横ハケ 胴部右横ケズリまたは工具ナデ
1811	6③ SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい橙	外：右横ハケ→ナデ、内：口縁右横ハケ→側上工具ナデ 胴下横ケズリ
1812	6③ SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄	外：右横ハケ→横ケズリ、内：横工具ナデ
1813	6③ SD1	覆土	土師	甕	D	橙	外：右横ハケ→ナデ、内：口縁横ハケ 胴部横工具ナデ 接合痕
1814	6③ SD1	覆土	土師	高杯	D	にぶい橙	杯外：右横ハケ→一部縦ミガキ、内：横ハケ→一部左横ミガキ

No	出土遺構	層位	種別	器種	造作	色調	技法・文様・特徴
1815	6①SD1	覆土	土師	小型丸底壺	B	にぶい橙	外：ハケ(口縁右側・胴部左側)→胴下ケズリ→胴部横ミガキ?、底：ケズリ、内：工具ナデ
1816	6①SD1	覆土	土師	小型丸底壺	A	にぶい黄橙	外：右顔右側→胴下ケズリ→胴部ナデ、底：ケズリ、内：ナデ
1817	23①SD6	覆土	弥生	壺	D	にぶい黄橙	外：頸部右側2差止垂状文→蹄状文口縁(?)、内：横ミガキ
1818	23①SD6	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	横ナデ、外：棒状付文3×1組1残 具段縁線?による羽状刺突文、備考：パレス造
1819	23①SD6	覆土	土師	杯	C	橙	外：横ケズリ、内：ミガキ→黒色
1820	33①SD7	覆土	土師	壺	A	橙	外：口縁右側ハケ 胴部ハケ?、内：横ハケ→胴上ナデ
1821	33①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：ハケ(口縁横・胴右側)、内：ナデ 接合痕
1822	33①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：蹄状文 ハケ、内：口縁横ハケ→ナデ? 胴部ナデ
1823	33①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：頸部横ハケ→肩部横ハケ→胴部横ハケ、内：横ハケ→横ケズリ、備考：S字壺
1824	33①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：頸部横ハケ→肩部横ハケ→胴部右側ハケ、内：横ハケ→横ケズリ、備考：S字壺
1825	33①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ 1対穿孔1ヶ残、内：赤彩横ミガキ
1826	33①SD7	覆土	土師	壺	D	浅黄橙	外：赤彩ミガキ、内：ナデ
1827	33①SD7	覆土	土師	高杯	C	橙	杯外：縦ミガキ、杯内：縦ミガキ
1828	33①SD7	覆土	土師	台付壺	D	橙	壺外：ハケ、台外：ハケ→ナデ?、壺内：ハケ→ナデ、台内：ハケ→ナデ
1829	33①SD7	覆土	土師	器台	B	にぶい黄橙	脚外：調整不明 円孔3ヶ、脚内：横ケズリ
1830	33①SD7	覆土	土師	高杯	B	橙	受外：ミガキ?、脚外：ミガキ?、受内：ミガキ、脚内：横ケズリ 横ハケ
1831	50①SD2	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：赤彩ミガキ、杯内：調整不明、備考：外来系?
1832	50②SD3	覆土	土師	高杯	A	明陶	外：ケズリ→ナデ、杯内：ナデ、脚内：横ハケ
1833	50②SD3	覆土	土師	器台	B	にぶい黄橙	外：調整不明 円孔1ヶ残 受部に焼成後穿孔1ヶ、内：調整不明、備考：2次焼成
1834	50②SD3	覆土	土師	器台	C	にぶい黄橙	受外：ミガキ、受内：ミガキ
1835	50②SD3	覆土	土師	器台	C	にぶい橙	脚外：円孔(1段目3ヶ・2段目1ヶ残)、脚内：調整不明
1836	52①SD4	覆土	土師	壺	D	橙	外：頸部横ハケ→胴部横ケズリ?、内：調整不明、備考：S字壺
1837	52①SD1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：口縁指ササエ 胴部右側ハケ、内：口縁横ハケ 胴部ナデ 接合痕
1838	52①SD1	覆土	土師	壺	B	灰青陶	外：ハケ(胴上右側・胴下側)、内：横ハケ→胴部横ミガキナデ
1839	34①SD7	覆土	土師	壺	D	橙	外：右顔ミガキ、内：横ミガキ 接合痕
1840	34①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：口縁端横ミガキ 口縁横ハケ→縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1841	34①SD7	覆土	土師	壺	D	赤彩	外：縦ミガキ 赤彩?、内：縦ミガキ
1842	34①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：縦ミガキ、底：ミガキ、内：ハケ→ミガキ? 接合痕
1843	34①SD7	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：調整不明、内：調整不明、備考：器面剥離
1844	34①SD7	覆土	土師	壺	C	にぶい黄橙	外：左顔ハケ、内：ナデ
1845	34①SD7	覆土	土師	高杯	D	にぶい橙	杯外：杯下ミガキ、杯内：一部ミガキ
1846	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	にぶい橙	杯外：左顔ハケ→横ナデ、杯内：左顔ハケ→横ナデ
1847	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	杯外：横ナデ→縦ミガキ、杯内：横ナデ→暗文状縦ミガキ
1848	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄橙	杯外：ハケ→杯上横ナデ・杯下ミガキ?、脚外：縦ミガキ、杯内：ハケ→ナデ?、脚内：工具ナデ しばり目 接合痕
1849	34①SD7	覆土	土師	高杯	A	にぶい橙	杯外：左顔ハケ→横ナデ、脚外：脚柱縦ミガキ 脚部横ナデ、杯内：横ミガキナデ、脚内：横ミガキナデ しばり目 接合痕
1850	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：横ナデ→縦ミガキ、杯内：横ナデ→暗文状縦ミガキ
1851	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：横ナデ→縦ミガキ、杯内：横ナデ→暗文状縦ミガキ
1852	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	にぶい橙	杯外：縦ハケ→縦ミガキ、脚外：縦ハケ→暗文状縦ミガキ、杯内：右顔ハケ→暗文状縦ミガキ、脚内：右顔ハケ
1853	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	橙	脚外：ミガキ(脚注縦・脚部右側)、脚内：横ミガキナデ 接合痕
1854	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ミガキナデ 接合痕
1855	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	D	にぶい橙	内：右顔ハケ
1856	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	C	にぶい黄橙	外：ケズリ→一部ミガキ、内：工具ナデ
1857	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	C	橙	外：ハケ(口縁横・胴部右側)→胴下ケズリ 底周粘土付加→ナデ、内：横ミガキナデ
1858	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	B	にぶい黄橙	外：口縁横ハケ 胴下ケズリ→胴部ナデ、内：口縁横ハケ 横ミガキナデ 接合痕
1859	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	B	にぶい橙	外：口縁右側ハケ 胴部ハケ状工具によるケズリ、内：横ハケ→横ミガキナデ
1860	34①SD7	覆土	土師	器台	C	にぶい黄橙	外：赤彩縦ミガキ、受け内：赤彩ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1861	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ?、底：ケズリ、内：工具ナデ
1862	34①SD7	覆土	土師	鉢	? B	明典陶	外：調整不明、内：ミガキ→黒色
1863	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	にぶい橙	外：ケズリ→ミガキ?、内：ミガキ→黒色
1864	34①SD7	覆土	土師	杯	B	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色、備考：火にかけて使った痕跡
1865	34①SD7	覆土	土師	壺	D	陶	外：ハケ状工具による直線文・具段縁線または器面状工具またはハケ状工具による山形文、内：ナデ、備考：パレス造
1866	62①SD2	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：右顔ハケ→一部ケズリ、内：ハケ→ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1867	62①SD2	覆土	土師	壺	D	橙	外：横ミガキ、底：輪白 ナデ、内：ナデ?
1868	63①SD2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	横ナデ
1869	63①SD2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	横ナデ
1870	63①SD2	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	横ナデ
1871	63①SD2	覆土	土師	壺	D	明赤黄	外：ナデ?、内：ナデ
1872	63①SD2	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：縦ハケ→横ミガキ、脚内：ナデ
1873	63①SD2	覆土	土師	壺	B	橙	外：胴上横ハケ→横ナデ 胴下ケズリ→部ナデ、底：ケズリ、内：横ハケ→ナデ
1874	63①SD6	覆土	土師	壺	C	橙	外：ミガキ(口縁横・口縁横・胴部右横)、内：口縁横ハケ 胴部工具ナデ 接合痕
1875	63①SD6	覆土	土師	小型丸底壺	A	にぶい黄橙	外：ハケ→胴下ケズリ→胴部ナデ、内：口縁横ミガキ 胴部ナデ 接合痕
1876	63①SD6	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：ケズリ(胴上縦・脚下横)→ミガキ(胴上縦・脚下横) 円孔3/4×残、脚内：横工具ナデ
1877	63①SD6	覆土	土師	有孔壺	D	にぶい橙	外：ハケ→部ナデ、底：ケズリ 穿孔3ヶ、内：ハケ
1878	63①SD12	覆土	土師	壺	D	黒陶	外：ハケ、内：ハケ→ナデ?、備考：器面剥離
1879	63①SD12	覆土	土師	壺	D	黒陶	外：縦ハケ、内：横ケズリ 接合痕、備考：器面剥離
1880	63①SD12	覆土	土師	壺?	D	にぶい褐	横ナデ
1881	63①SD12	覆土	土師	壺	D	褐灰	外：調整不明、内：口縁横ハケ 胴部ナデ?、備考：器面剥離
1882	63①SD12	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄橙	杯外：縦ハケ→横ミガキ、杯内：横ミガキ
1883	63①SD12	覆土	土師	壺	D	にぶい褐	外：調整不明、内：調整不明
1884	46①SX1	覆土	土師	台付壺	D	にぶい黄橙	横ナデ、備考：1885と同一個体
1885	46①SX1	覆土	土師	台付壺	D	にぶい黄橙	壺外：ミガキ?、台外：ハケ?、壺内：調整不明、台内右横工具ナデ、備考：1884と同一個体
1886	46①SX1	覆土	土師	壺	B	にぶい黄橙	外：横ケズリ、内：ナデ
1887	75①SX1	周溝	土師	壺	A	橙	外：右横ハケ→胴上右横工具ナデ 胴下ケズリ、底：ケズリ、内：右横ハケ
1888	75①SX1	周溝	土師	壺	B	にぶい橙	外：ミガキ、底：ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕、備考：1887に蓋状に被さる。外器面剥離
1889	75①SX1	土坑	土師	壺	A	にぶい橙	外：ミガキ、底：ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕、備考：外器面剥離
1890	75①SX1	土坑	土師	壺	B	浅黄橙	外：ハケ(胴上縦・胴中横)→胴上→一部ミガキ 胴下横工具ナデ 接合痕、底：ケズリ、内：右横ハケ→部ナデ 接合痕、備考：1880に蓋状に被さる。
1891	C①SX1	覆土	土師	壺	D	にぶい褐	外：縦ハケ
1892	C①SX1	覆土	土師	壺	D	浅橙	外：右横ハケ→横ミガキ、内：調整不明
1893	C①SX1	覆土	土師	壺	C	橙	外：ケズリ、底：ケズリ、内：ケズリ→ナデ
1894	C①SX1	覆土	土師	高杯	D	橙	杯外：右横ハケ、杯内：横ミガキ
1895	C①SX1	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	杯外：右横ミガキ、杯内：左横ミガキ
1896	C①SX1	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1897	C①SX1	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：横ミガキ 指オケエ→ナデ、脚内：くり抜き 指押さえ→ナデ
1898	C①SX1	覆土	土師	高杯	C	にぶい褐	脚外：横ミガキ、脚内：くり抜き ナデ
1899	C①SX1	覆土	土師	小型丸底壺	B	にぶい黄橙	外：口縁横ナデ 胴部ミガキ?、内：口縁横ナデ→横ミガキ 胴部ナデ
1900	C①SX1	覆土	土師	鉢	C	橙	外：ケズリ、内：工具ナデ
1901	C①SX1	覆土	土師	器台	B	にぶい橙	受外：ケズリ→ナデ→横ミガキ、脚外：横ミガキ 円孔3ヶ、受内：横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1902	C①SX1	覆土	土師	器台	A	にぶい橙	受外：ケズリ→ナデ→右横ミガキ、脚外：横ミガキ 円孔3ヶ、受内：横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1903	C①SX1	覆土	土師	器台	B	にぶい褐	受外：ケズリ→ナデ→横ミガキ、脚外：横ミガキ 円孔3ヶ、受内：横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1904	C①SX1	床面	弥生	釜	A	明褐色	外：頭部右回3進止蓋状文→脚状状文(口縁上・胴部上) 胴下横ミガキ、内：横ミガキ
1905	遺構外	C①	土師	器台	B	灰白	杯外：ミガキ、脚外：ミガキ 円孔3ヶ、杯内：ミガキ、脚内：調整不明
1906	遺構外	76①	土師	器台	B	にぶい褐	外：ミガキ、受内：ミガキ、脚内：ナデ、備考：器面剥離
1907	遺構外	C①	土師	器台	A	橙	外：横ミガキ、杯内：横ミガキ、脚内：横ケズリ
1908	遺構外	C①	土師	器台	B	橙	外：右横ケズリ、内：工具ナデ
1909	遺構外	72①	土師	壺	D	浅黄橙	外：神状浮文1ヶ残、内：貝殻剥離または陶質工具またはハケ工具による羽状剥離突文、備考：パレス壺
1910	遺構外	43①	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：ハケ状工具による直線文/貝殻剥離?による山形文、内：ナデ、備考：パレス壺
1932	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：調整不明、内：横ミガキ?
1933	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
1934	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：ミガキ、内：ミガキ
1935	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい橙	外：調整不明、内：横ミガキ、備考：2次被熱
1936	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：ミガキ、内：横ミガキ→黒色
1937	23①SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色

No.	出土遺構	部位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1938	23① SA1	覆土	須恵	杯身	B	にぶい黄橙	回転ナデ→底：回転ケズリ。備考：焼成不良、器面摩耗
1939	23① SA1	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ→底：回転ケズリ
1940	23① SA1	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ→側下・底：回転ケズリ 貼付高台
1941	23① SA1	覆土	須恵	壺	A	灰	回転ナデ→底面磨止ケズリ→ナデ?
1942	23① SA1	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1943	23① SA1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：横ミガキ→ケズリ
1944	23① SA1	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1945	23① SA1	覆土	須恵	平瓶	A	灰	肩部：横ナデ 接合痕(巻き上げ)、胴部：回転ナデ 流状文・刺突文/ボタン状突起、底部：ケズリ→ナデ
1946	33① SA1	カマド	土師	杯	B	赤褐色	外：ナデ、内：ナデ
1947	33① SA1	カマド附近	土師	高杯	A	明黄赤	杯外：、杯内：ミガキ→黒色、脚外：、脚内：接合痕(巻き上げ)
1948	33① SA1	カマド附近	土師	壺	C	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
1949	33① SA1	K1	土師	壺	A	明黄赤	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
1950	33① SA5	床面	土師	壺	B	にぶい黄橙	外：ハケ→ミガキ、内：ナデ
1951	33① SA5	床面	土師	壺	A	にぶい黄橙	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
1952	33① SA4	覆土	須恵	差	D	灰白	横ナデ
1953	33① SA4	覆土	土師	差	C	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：指ナデ
1954	34① SA1	床面	土師	杯	B	にぶい黄橙	外：ケズリ、内：ナデ
1955	34① SA1	床面	土師	鉢	A	にぶい黄橙	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
1956	34① SA1	K2	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：ミガキ、内：ミガキ→黒色
1957	34① SA1	K2	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1958と同一個体?
1958	34① SA1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1957と同一個体?
1959	34① SA1	K1	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：ケズリ→ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1960と同一個体?
1960	34① SA1	床面	土師	高杯	C	にぶい黄橙	杯外：ケズリ→ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1959と同一個体?
1961	34① SA1	床面	土師	高杯	B	にぶい黄橙	外：調整不明、杯内：ミガキ、脚内：指ナデ、備考：2次焼成
1962	34① SA1	床直	土師	高杯	C	にぶい黄橙	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1963	34① SA1	カマド	土師	高杯	D	にぶい黄橙	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1964	34① SA1	床面	土師	鉢	A	にぶい黄橙	外：ミガキ、内：ミガキ→黒色、備考：1965と同一個体?
1965	34① SA1	床面	土師	鉢	B	暗褐色	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ、内：工具ナデ
1966	50① SA1	床面	土師	鉢	B	黄灰	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ→黒色
1967	50① SA1	床面	土師	差	B	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：ナデ、内：ナデ
1968	50① SA1	床面	土師	差	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：ナデ、内：ナデ
1969	50① SA4	覆土	土師	杯	D	黄灰	外：ナデ、内：横ミガキ→黒色
1970	50① SA4	覆土	土師	差	C	暗褐色	外：縦ハケ、底：輪合 ケズリ、内：ハケ
1971	48① SA4	カマド	須恵	杯蓋	A	灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
1972	48① SA4	覆土	土師	片口鉢	D	にぶい黄橙	外：調整不明 片口、底：ケズリ、内：工具ナデ、備考：器外面摩耗
1973	48① SA4	カマド	土師	差	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：輪合 木蓋状、内：横工具ナデ 接合痕
1974	48① SA4	カマド	土師	差	B	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕
1975	48① SA4	カマド	土師	差	B	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：木蓋状、内：横工具ナデ 接合痕
1976	48① SA4	カマド	土師	差	C	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕、備考：図上脱元
1977	48① SA4	カマド	土師	差	B	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕
1978	50① SA2	床面	土師	鉢	C	黄褐色	外：ケズリ、内：黒色→横ミガキ
1979	50① SA2	床面	土師	鉢	A	灰褐色	外：ナデ、内：ナデ
1980	50① SA2	床面	土師	差	C	橙	外：縦ハケ、内：ハケ→ナデ?
1981	50① SA2	床面	土師	差	B	橙	外：縦ハケ、内：ナデ 接合痕
1982	50① SA2	床面	土師	差	D	暗灰褐色	外：縦ハケ、内：ナデ
1983	50① SA2	床面	土師	差	B	赤褐色	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
1984	50① SA3	覆土	土師	杯	C	黄灰	外：縦ケズリ、内：横ミガキ→黒色
1985	50① SA3	カマド	土師	鉢	B	黄灰	外：調整不明、内：横ミガキ、備考：2次焼成
1986	50① SA3	覆土	土師	差	B	暗褐色	外：ハケ、内：調整不明
1987	50① SA3	カマド	土師	差	A	黄褐色	外：ハケ 固定土付着、底：ケズリ、内：ハケ
1988	50① SA3	カマド	土師	差	B	赤褐色	外：縦ケズリ、底：ナデ?、内：横工具ナデ
1989	50① SA6	カマド	土師	差	B	橙	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：ナデ 底部に粘土を付加して平底化
1990	50① SA6	カマド	土師	差	B	にぶい黄橙	外：縦ハケ、内：横ハケ
1991	50① SA6	カマド	土師	差	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：輪合 ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
1992	50① SA6	カマド	土師	差	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：輪合 ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1993	50① SA6	カマド	土師	甕	A	橙	外：調整不明、内：横工具ナデ、備考：図上復元
1994	52① SA6	床面	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：ケズリ、内：横ミガキ
1995	52① SA6	床面	土師	甕	D	浅黄緑	外：ミガキ？、内：ナデ
1996	52① SA6	床面	土師	甕	D	灰白	外：ケズリ？、内：横工具ナデ
1997	52① SA2	カマド	土師	甕	D	橙	外：ナデ？、内：ナデ？
1998	52① SA2	カマド	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
1999	52① SA2	カマド	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2000	52① SA2	カマド	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2001	52① SA2	カマド	土師	甕	D	橙	外：ハケ→縦ミガキ、内：工具ナデ
2002	52① SA4	床直	須恵	杯蓋	A	暗青灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2003	52① SA4	床直	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ
2004	52① SA4	カマド	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：ナデ
2005	52① SA4	カマド	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ→ナデ、内：横ハケ
2006	52① SA4	床面	土師	甕	B	にぶい黄緑	外：縦ハケ→割下ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ 接合痕
2007	52① SA4	カマド	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2008	52① SA4	床直	土師	甕	C	橙	外：縦ハケ→ナデ？、内：横工具ナデ
2009	52① SA4	カマド	土師	甕	A	にぶい黄緑	外：縦ハケ 割下ケズリ、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ
2010	52① SA4	カマド	土師	甕	A	にぶい黄緑	外：ケズリ→ナデ、底：穿孔2ヶ、内：横ハケ
2011	52① SA4	床面	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：ハケ→縦ミガキ 把手、内：縦ミガキ
2012	53① SA1	甌土	土師	甕	C	橙	外：ハケ→ナデ？、内：工具ナデ？、備考：図上復元 器面摩耗
2013	53① SA3	床面	土師	鉢	A	明黄緑	外：調整不明、内：横ミガキ、備考：外器面摩耗
2014	53① SA3	カマド周辺	土師	鉢	A	にぶい橙	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横ミガキ
2015	53① SA3	床面	土師	鉢	B	にぶい橙	外：調整不明、内：調整不明
2016	53① SA3	床直	土師	鉢	B	にぶい黄	外：調整不明、底：調整不明、内：調整不明、備考：火にかけて使用した痕跡
2017	53① SA3	床直	土師	甕	A	にぶい橙	外：調整不明、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：工具ナデ
2018	53① SA3	甌土	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ 接合痕
2019	53① SA3	床直	土師	甕	B	にぶい黄	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横ハケ
2020	53① SA3	床直	土師	甕	A	橙	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横ハケ 接合痕
2021	53① SA5	甌土	土師	高杯	C	浅黄緑	脚外：縦ミガキ、杯内：黒色→ミガキ、脚内：ケズリ 接合痕
2022	53① SA5	甌土	須恵	甕	D	暗青灰	外：白線模ナデ/沈線2条 胴部格子タタキ/自然釉、内：同心円当て具痕
2023	53① SA5	カマド周辺	土師	甕	B	橙	外：縦ケズリ、底：木製痕 粘土を付加して平底化、内：横工具ナデ
2024	53① SA5	床直	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ケズリ、内：ナデ、備考：2025と同一個体？
2025	53① SA5	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：ナデ、備考：2024と同一個体？	
2026	53① SA4	床面	土師	高杯	C	淡黄	脚外：縦ミガキ、脚内：ケズリ ハケ
2027	53① SA4	甌土	土師	？	D	にぶい黄緑	外：ナデ？、内：ナデ？
2028	53① SA4	床直	土師	甕	A	にぶい黄	外：ケズリ、底：調整不明、内：横工具ナデ
2029	53① SA9	甌土	土師	甕	D	にぶい橙	外：ケズリ？、内：外：調整不明
2030	53① SA9	甌土	土師	甕	D	灰白	外：調整不明、底：指オセ 穿孔1ヶ残、内：ナデ？
2031	53① SA11	甌土	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2032	53② SA6	床面	須恵	杯蓋	C	灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2033	53② SA6	甌土	須恵	甕	D	灰	回転ナデ→外：沈線1条 カキメ
2034	53② SA6	カマド周辺	土師	甕	B	灰白	外：縦ハケ、内：横ハケ→割下工具ナデ
2035	53② SA6	床面	土師	甕	B	暗黄	外：調整不明、内：横工具ナデ
2036	53① SA10	カマド	土師	高杯	C	にぶい黄緑	杯外：ケズリ、杯内：横ミガキ→黒色
2037	53① SA10	カマド	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：ケズリ、内：横ミガキ
2038	53① SA10	床直	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ハケ、内：横ハケ→工具ナデ
2039	53① SA10	カマド	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ→一部ケズリ
2040	53① SA10	カマド	土師	甕	B	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2041	53① SA10	カマド	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ハケ→縦ケズリ、内：調整不明
2042	53① SA10	カマド	土師	甕	C	赤黒	外：ミガキ、内：調整不明
2043	54① SA2	甌土	須恵	杯蓋	B	灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2044	54① SA2	甌土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 胎付高台
2045	54① SA2	甌土	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：ハケ
2046	54① SA2	甌土	土師	鉢	D	橙	外：ケズリ？ 把手が痕、内：ナデ？、備考：2次被熱
2047	54① SA2	甌土	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ
2048	54① SA2	甌土	須恵	鉢	A	灰白	回転ナデ、外：底周回転ケズリ、備考：器面摩耗

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2049	55① SA1		土師	杯	A	にぶい黄	外:ケズリ,内:横ミガキ→黒色
2050	55① SA1	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄	杯外:横ミガキ,杯内:横ミガキ→黒色
2051	55① SA1		土師	差	C	にぶい黄	外:縦ケズリ,内:横工具ナデ?
2052	55① SA1		土師	瓶	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ 穿孔1ヶ,内:横ミガキ→黒色,備考:55② SA1取り上げ
2053	55① SA5	カマド脚座	土師	差	B	にぶい黄	外:縦ハケ,内:ナデ
2054	55① SA5	カマド脚座	土師	差	B	にぶい黄	外:ハケ→ケズリ,内:横工具ナデ
2055	55① SA5	カマド脚座	土師	鉢	B	黒	外:ハケ→ケズリ,内:工具ナデ→ミガキ
2056	56① SA1	カマド	土師	差	C	浅黄褐色	外:縦ハケ,内:横工具ナデ
2057	56① SA1	カマド	土師	差	C	橙	外:縦ケズリ,内:横工具ナデ→胴下ケズリ?
2058	56① SA4	床直	須恵	杯蓋	B	灰	回転ナデ,天井:回転ケズリ
2059	56① SA4	K3	土師	瓶	C	黄褐色	外:ケズリ,底:穿孔1ヶ,内:縦ハケ→底周工具ナデ
2060	56① SA4	床直	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ→底周ケズリ,底:ケズリ,内:横ハケ
2061	56① SA4	床直	土師	差	A	橙	外:縦ケズリ→ナデ,底:ケズリ,内:横工具ナデ
2062	57① SA1	床面	土師	杯	A	にぶい黄	外:調整不明,内:横ハケ ミガキ?
2066	57① SA1	カマド	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,内:横ハケ 横ミガキ→黒色
2064	57① SA1	K1	土師	高杯	C	にぶい黄	杯外:横ミガキ,杯内:横ミガキ→黒色
2065	57① SA1	K1	土師	高杯	D	にぶい黄	脚外:横ミガキ 三角孔2ヶ残,杯内:ミガキ→黒色,脚内:ナデ
2066	57① SA1	K1	土師	差	A	にぶい黄	外:縦ハケ,底:ナデ,内:縦ハケ→工具ナデ
2067	57① SA1		土師	差	C	にぶい黄	外:縦ハケ→胴下縦ケズリ,内:調整不明
2068	57① SA1	覆土	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ,内:縦ハケ→ナデ
2069	57① SA1	K1	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ,内:縦ハケ→工具ナデ
2070	57① SA1	床面	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ケズリ,内:外:調整不明,内:調整不明
2071	57① SA1	K1	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ,内:横工具ナデ
2072	57① SA1	K1	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ 把手,内:縦ハケ→胴周工具ナデ
2073	57① SA2	床直	土師	差	D	淡黄	外:縦ハケ→横ミガキ,底:ナデ,内:横工具ナデ
2074	57① SA2	カマド脚座	土師	差	A	にぶい黄	外:縦ハケ,底:輪台→ケズリ→ナデ,内:ハケ→横工具ナデ
2075	57① SA2	カマドF1	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ 固定上付着,内:調整不明
2076	57① SA2	床直	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ,底:輪台→ケズリ→ナデ,内:ハケ→横工具ナデ
2077	57① SA2	覆土	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ?,底:木蓋直,内:横工具ナデ
2078	57① SA2	カマド脚座	土師	差	B	にぶい黄	外:縦ハケ,内:ハケ→横工具ナデ
2079	60① SA1		土師	差	B	にぶい黄	外:縦ハケ→胴下ナデ,底:輪台→ケズリ,内:横工具ナデ
2080	60① SA1	覆土	土師	差	C	橙	外:縦ハケ,内:横工具ナデ
2081	60① SA1	覆土	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ→ナデ,内:横工具ナデ,備考:2082と同一個体?
2082	60① SA1	覆土	土師	差	D	にぶい黄	外:ナデ,底:輪台→ケズリ→ナデ,内:横工具ナデ,備考:2081と同一個体?
2083	60① SA1	覆土	土師	差	C	にぶい黄	外:工具ナデ,底:輪台 木蓋直,内:横工具ナデ
2084	61① SA1	カマド	土師	差	B	にぶい黄	外:ケズリ→ミガキ,内:ナデ
2085	61① SA1	カマド	土師	差	D	にぶい黄	外:右横ハケ,内:横工具ナデ
2086	61① SA1	カマド	土師	差	D	にぶい黄	外:工具ナデ,内:横工具ナデ,備考:61① SA3-7と結合
2087	61① SA1	カマド	土師	差	A	にぶい黄	外:縦ハケ 底周ケズリ,底:輪台→ケズリ,内:横工具ナデ,備考:61① SA3と結合
2088	61① SA1	カマド	土師	差	C	暗褐色	外:縦ハケ,底:輪台→ケズリ,内:横工具ナデ
2089	61① SA2	カマド	土師	杯	B	にぶい黄	外:調整不明,内:調整不明
2090	61① SA2	カマド脚座	土師	杯	B	にぶい黄	外:ミガキ,内:ミガキ,備考:器面摩耗
2091	61① SA2	カマド脚座	土師	鉢	A	にぶい黄	外:横ミガキ,内:横ミガキ,備考:器面摩耗
2092	61① SA2	カマド脚座	土師	瓶	B	にぶい黄	外:縦ハケ,底:穿孔1ヶ,内:ハケ→工具ナデ,備考:61① SA3と結合
2093	61① SA2	カマド	土師	差	D	にぶい黄	外:縦ハケ,内:調整不明
2094	61① SA2	カマド	土師	差	C	にぶい黄	外:縦ハケ,底:輪台→ケズリ,内:ハケ→横工具ナデ
2095	61① SA2	カマド	土師	差	C	にぶい黄	外:縦ハケ,内:横工具ナデ
2096	61① SA2	カマド	土師	差	C	にぶい黄	外:縦ハケ,底:輪台→ケズリ,内:横工具ナデ
2097	61① SA3	覆土	土師	杯	C	橙	外:ミガキ,内:調整不明,備考:器面摩耗 2098と同一個体?
2098	61① SA3	覆土	土師	杯	C	橙	外:調整不明,内:調整不明,備考:器面摩耗 2097と同一個体?
2099	61① SA3	床直	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ,内:横ミガキ→黒色
2100	61① SA3	床直	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ,内:横ミガキ→黒色
2101	61① SA3	床直	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ→ミガキ?,内:横ミガキ→黒色
2102	61① SA3	床直	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ,内:横ミガキ→黒色
2103	61① SA3	床直	土師	杯	B	にぶい黄	外:横ミガキ,底:ケズリ→ミガキ?,内:横ミガキ→黒色

No	出土遺構	層位	種別	器種	造形	色調	技法・文様・特徴
2104	61① SA3	床直	土師	杯	B	明黄褐	外：ハケ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2105	61① SA3	床直	土師	鉢	C	明黄褐	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2106	61① SA3	覆土	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2107	61① SA3	覆土	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ
2108	61① SA3	覆土	土師	甕	D	橙	外：ハケ→横ミガキ、内：ナデ
2109	61① SA2	覆土	土師	瓶	C	にぶい黄緑	外：ケズリ→ナデ、底：穿孔1ヶ、内：ケズリ→ナデ、備考：きわめて粗い作り
2110	61① SA5	床直	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：横ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2111	61① SA5	床直	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ケズリ、内：ナデ
2112	78① SA1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄緑	外：ケズリ→ナデ？、内：調整不明
2113	78① SA1	覆土	土師	杯	C	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2114	78① SA3	覆土	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：横ケズリ 横ミガキ、内：横ミガキ
2115	78① SA2	覆土	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色、備考：縦内により色調が異なる
2116	78① SA3	カマド	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：調整不明、内：調整不明
2117	78① SA3	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ→ナデ、内：横工具ナデ
2118	78① SA3	カマド	土師	甕	C	橙	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：横ハケ
2119	79① SA4	覆土	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2120	79① SA4	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ
2121	79① SA4	覆土	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ
2122	79① SA4	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ	
2123	79① SA4	カマド	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ→工具ナデ、内：横工具ナデ
2124	79① SA9	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄緑	杯外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2125	79① SA9	覆土	須恵	杯身	D	灰白	回転ナデ、底：回転ケズリ
2126	79① SA6	カマド	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2127	79① SA6	覆土	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2128	79① SA6	カマド	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2129	79① SA6	床直	土師	甕	B	にぶい黄緑	外：工具ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2130	79① SA6	カマド	土師	鉢	C	にぶい黄緑	外：横ミガキ、内：横ミガキ、備考：火にかけて使用した痕跡
2131	79① SA6	覆土	土師	甕	C	浅黄緑	外：縦ハケ、内：横ケズリ
2132	79① SA6	床直	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2133	79① SA6	覆土	土師	甕	D	橙	外：ケズリ ナデ、底：ケズリ、内：ナデ
2134	79① SA6	カマド	土師	甕	D	暗褐	外：ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2135	79① SA6	カマド	土師	甕	A	にぶい黄緑	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：縦ハケ
2136	79① SA6	床直	土師	瓶	B	にぶい黄緑	外：縦ハケ→工具ナデ、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ
2137	79① SA6	覆土	須恵	壺	B	灰	回転ナデ、外：刺突文 沈線2条、底：回転ケズリ 踏記号？
2138	B① SA2	柱穴	須恵	壺	D	青灰	横ナデ、内外：自然釉
2139	B① SA4	カマド	土師	甕	C	浅黄緑	外：ミガキ、内：工具ナデ
2140	B① SA3	K1	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2141	B① SA3	K1	土師	杯	C	にぶい黄緑	外：横ミガキ、内：ミガキ？→黒色
2142	B① SA3	覆土	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色処理
2143	B① SA3	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄緑	脚外：ミガキ？、脚内：横ケズリ
2144	B① SA3	K1	土師	甕	D	赤褐	外：調整不明、内：ミガキ？
2145	B① SA3	カマド	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：ハケ→ナデ
2146	B① SA3	覆土	土師	甕	D	橙	外：ケズリ、内：調整不明
2147	B① SA3	カマド	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：調整不明、底：ケズリ、内：調整不明
2148	B① SA3	カマド	土師	甕	B	橙	外：ナデ、底：ナデ、内：ナデ
2149	B① SA3	K1	土師	甕	C	橙	外：調整不明、内：調整不明
2150	B① SA3	カマド	土師	甕	B	にぶい黄緑	外：ナデ、底：ケズリ、内：ナデ 接合痕
2151	B① SA5	カマド	土師	杯	B	橙	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2152	B① SA3	カマド	土師	高杯	C	橙	杯外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2153	B① SA5	カマド	土師	鉢	B	浅黄緑	外：調整不明、内：ミガキ→黒色
2154	B① SA5	カマド	土師	鉢	B	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2155	B① SA5	カマド	土師	鉢	B	暗赤褐	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2156	B① SA5	カマド	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：ナデ
2157	B① SA5	カマド	土師	甕	A	にぶい黄緑	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2158	B① SA5	カマド	土師	甕	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：調整不明
2159	B① SA5	カマド	土師	甕	B	赤褐	外：縦ハケ、内：ハケ→ナデ

No	出土遺構	方位	備別	形状	遺存	色調	技法・文様・特徴
2160	B① SA5	カマド周辺	土師	甕	B	橙	外：腹ハケ。底：木葉直。内：腹ハケ
2161	B① SA5	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：右傾ハケ。底：輪台→ケズリ→ナデ。内：横工具ナデ
2162	B① SA6	床直	土師	甕	D	灰青褐色	外：横ミガキ。内：横ハケ→横ミガキ
2163	B① SA6	カマド	土師	甕	D	灰青褐色	外：右傾ミガキ。底：ケズリ。内：ナデ？ミガキ？
2164	B① SA6	カマド周辺	土師	甕	D	灰青褐色	外：調整不明。内：調整不明
2165	B① SA6	カマド周辺	土師	甕	C	にぶい橙	外：腹ハケ。内：横ハケ→ナデ
2166	B① SA6	カマド	土師	甕	D	にぶい橙	外：右傾ハケ。内：調整不明
2167	B① SA6	カマド	土師	甕	D	にぶい橙	外：腹ハケ。内：横ハケ→ナデ
2168	B① SA6	カマド周辺	土師	甕	B	にぶい赤褐色	外：調整不明 底周ケズリ。底：凹底。内：ミガキ
2169	B① SA6	カマド周辺	土師	甕	C	橙	外：腹ハケ。底：木葉直。内：横工具ナデ
2170	B① SA7	カマド	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？。内：横ミガキ
2171	B① SA7	カマド	土師	鉢	B	橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2172	B① SA7	カマド	土師	甕	D	橙	外：調整不明。内：調整不明
2173	B① SA7	甕土	須恵	直口壺	D	灰	横ナデ
2174	B① SA7	甕土	土師	甕	D	橙	外：調整不明。内：調整不明
2175	B① SA7	カマド	土師	甕	B	橙	外：腹ハケ。底：ケズリ。内：ハケ→横工具ナデ
2176	B① SA8	甕土	土師	鉢	B	浅黄橙	外：ミガキ？。内：横ミガキ。備考：外器面摩耗
2177	B① SA8	甕土	土師	甕	D	暗褐色	外：腹ハケ。内：横ハケ
2178	B① SA8	カマド	土師	甕	D	橙	外：ミガキ。内：ミガキ
2179	B① SA8	カマド	須恵	甕	D	青黒	横ナデ。内：自然緑
2180	B① SA9	甕土	土師	杯	D	にぶい赤褐色	外：ミガキ。内：ミガキ
2181	B① SA11	カマド周辺	土師	鉢	A	明黄褐色	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2182	B① SA11	カマド周辺	土師	台付鉢	A	橙	外：ミガキ(杯縁・器柱縁・脚縁)。杯内：黒色。脚内：横ケズリ
2183	B① SA14	甕土	土師	甕	C	橙	外：調整不明。内：ナデ
2184	B① SA12	甕土	土師	鉢	D	橙	外：ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2185	B① SA12	甕土	土師	甕	C	橙	外：腹ケズリ→一部ミガキ。内：工具ナデ
2186	B① SA13	床直	土師	杯	A	橙	外：脚ケズリ→ミガキ？。内：横ミガキ→黒色
2187	B① SA13	甕土	土師	杯	B	橙	外：ケズリ→ミガキ？。内：横ミガキ→黒色
2188	B① SA13	カマド周辺	土師	鉢	A	にぶい橙	外：ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2189	B① SA13	カマド周辺	土師	甕	D	橙	外：ミガキ(口縁縁・脚部縁)。内：横ミガキ
2190	B① SA13	甕土	土師	鉢	D	にぶい橙	外：腹ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2191	B① SA13	床直	土師	瓶	D	明黄灰	外：腹ミガキ。底：ミガキ 穿孔1ヶ。内：横ミガキ→黒色
2192	B① SA13	カマド	土師	甕	A	橙	外：腹ケズリ。内：横ハケ→横工具ナデ
2193	B① SA16	床直	土師	杯	A	浅黄橙	外：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2194	B① SA16	P2	土師	杯	A	浅黄橙	外：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2195	B① SA16	床直	土師	杯	A	にぶい橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2196	B① SA16	床直	土師	杯	A	にぶい橙	外：横ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2197	B① SA16	陥床	土師	杯	C	にぶい橙	外：ケズリ→横ミガキ。底：ケズリ→ミガキ 異記号×。内：横ミガキ→黒色
2198	B① SA16	床直	土師	杯	D	橙	外：調整不明。内：調整不明。備考：生焼けの痕跡あり？
2199	B① SA16	陥床	土師	高杯	C	にぶい橙	杯外：横ミガキ。杯内：横ミガキ→黒色
2200	B① SA16	カマド周辺	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：横ミガキ。脚内：指ナデ
2201	B① SA16	甕土	土師	鉢	B	橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2202	B① SA16	カマド周辺	土師	鉢	C	浅黄橙	外：ケズリ→ミガキ。内：ミガキ→黒色
2203	B① SA16	床直	土師	甕	C	橙	外：腹ミガキ。内：横ミガキ
2204	B① SA16	カマド周辺	土師	甕	B	橙	外：ケズリ→ナデ。内：ナデ
2205	B① SA16	カマド周辺	土師	甕	C	浅黄橙	外：腹ハケ→ミガキ。内：ナデ
2206	B① SA16	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：腹ハケ。底：輪台 ケズリ。内：ナデ
2207	B① SA16	床直	土師	甕	A	明赤褐色	外：腹ハケ。底：輪台 ケズリ。内：ナデ 接合痕
2208	B① SA16	床直	土師	甕	A	橙	外：腹ハケ。底：輪台 ケズリ。内：横ハケ→横工具ナデ 接合痕
2209	B① SA16	カマド周辺	土師	甕	A	浅黄橙	外：腹ハケ。底：輪台。内：横工具ナデ 接合痕
2210	B① SA16	P2	土師	甕	C	明黄褐色	外：腹ハケ→脚ケズリ。内：横ハケ→横工具ナデ
2211	B① SA16	床直	土師	甕	C	橙	外：腹ケズリ。内：ナデ
2212	B① SA16	床直	土師	甕	B	橙	外：ミガキ 把手の痕跡。内：調整不明
2213	C① SA2	カマド	土師	鉢	C	赤褐色	外：調整不明 底周指ナセ 固定土付着 貼付高台。底：内：ミガキ？。備考：横断・器面磨滅
2214	C① SA2	甕土	土師	鉢	D	赤褐色	外：ケズリ→ミガキ。内：ミガキ→黒色

No	出土遺構	層位	種類	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2215	C①SA2	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄緑	杯外：調整不明、杯内：調整不明 黒色
2216	C①SA2	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄緑	脚外：横ミガキ、杯内：ミガキ黒色、脚内：ナデ 接合痕(巻き上付)
2217	C①SA2	カマド	土師	壺	A	にぶい黄緑	外：右傾ハケ→ナデ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2218	C①SA2	カマド	土師	壺	D	にぶい黄緑	外：横ハケ→ナデ、内：ケズリ
2219	C①SA2	カマド	土師	壺	A	黄緑	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ 割上工具ナデ
2220	C①SA2	床直	土師	壺	B	黄緑	外：横ハケ 固定土付着、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ→ナデ、備考：C①SA20取り上げの破片多い
2221	C①SA2	カマド	土師	壺	A	にぶい黄緑	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2222	C①SA2	カマド	土師	壺	A	黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ→ケズリ→横工具ナデ
2223	C①SA2	カマド	土師	壺	C	黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2224	C①SA2	覆土	土師	瓶	C	にぶい黄緑	外：ケズリ→ミガキ？、底：穿孔1ヶ 面取り、内：工具ナデ
2225	C①SA2	P2	土師	瓶	A	にぶい黄緑	外：ナデ、底：穿孔1ヶ、内：ナデ→一部ミガキ
2226	C①SA2	覆土	土師	瓶	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ→縦ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：ナデ→縦ミガキ
2227	C①SA2	覆土	土師	瓶	A	黄緑	外：ミガキ 底面穿孔2ヶ 把手、底：穿孔1ヶ、内：調整不明、備考：器面摩耗
2228	C①SA3	床直	土師	杯	A	浅黄緑	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2229	C①SA3	覆土	土師	杯	A	明褐色	外：横ケズリ、内：横ミガキ
2230	C①SA3	覆土	土師	杯	A	にぶい黄緑	外：割下横ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2231	C①SA3	床直	土師	鉢	C	にぶい黄緑	外：ミガキ(割上縦・割下横)、内：ナデ
2232	C①SA3	床直	土師	壺	D	黄緑	外：右傾ケズリ、内：横工具ナデ
2233	C①SA3	床直	土師	壺	C	にぶい黄緑	外：横ケズリ、内：横工具ナデ
2234	C①SA3	覆土	須志	壺	D	暗青灰	横ナデ、外：節流状文？、内：自然釉
2235	C①SA4	覆土	土師	高杯	B	浅黄緑	杯外：ケズリ→ミガキ？ナデ？、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2236	C①SA4	覆土	土師	鉢	D	浅黄緑	外：ケズリ→縦ミガキ、内：横ミガキ
2237	C①SA6	カマド	土師	壺	C	にぶい黄緑	外：縦ハケ→割下ナデ→底面横ケズリ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ→割下ナデ
2238	C①SA6	カマド	土師	壺	B	赤橙	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕
2239	C①SA6	カマド	土師	壺	B	浅黄緑	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2240	C①SA6	覆土	土師	壺	B	黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ 接合痕
2241	C①SA5	カマド1	土師	高杯	B	黄緑	杯外：縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2242	C①SA5	カマド1	土師	高杯	A	黄緑	外：ミガキ(仔楕・筒楕)、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ 割横ハケ 接合痕(巻き上付)
2243	C①SA5	カマド1	土師	壺	C	黄緑	外：縦ハケ、内：ナデ
2244	C①SA5	カマド1	土師	壺	D	黄緑	外：縦ハケ、内：横・縦ハケ
2245	C①SA5	覆土	土師	壺	B	明黄緑	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2246	C①SA5	カマド1	土師	壺	B	黄緑	外：縦ハケ、内：調整不明、備考：器面摩耗
2247	C①SA5	カマド1	土師	壺	C	黄緑	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2248	C①SA5	カマド1	土師	壺	A	黄緑	外：ナデ→割下ミガキ 固定土付着、底：木炭灰、内：横工具ナデ
2249	C①SA5	カマド1	土師	壺	C	明黄緑	外：右傾ミガキ、内：横ミガキ、備考：カマド3層遺出土
2250	C①SA5	貼床	土師	壺	D	黄緑	外：横ケズリ 固定土付着、内：横工具ナデ→横工具ナデ
2251	C①SA5	貼床	土師	鉢	D	黄緑	外：ハケ→横ミガキ、内：横ミガキ
2252	C①SA5	床直	土師	瓶	D	黄緑	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：ナデ
2253	C①SA5	覆土	須志	壺	D	青灰	横ナデ、外：節流文
2254	C①SA7	カマド	土師	杯	A	にぶい黄緑	外：ケズリ→ミガキ？、内：調整不明
2255	C①SA7	床直	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2256	C①SA7	床直	土師	杯	C	浅黄緑	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2257	C①SA7	床直	土師	壺	C	浅黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2258	C①SA7	床直	土師	壺	A	明赤褐	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2259	C①SA7	床直	土師	壺	A	明赤褐	外：ナデ、内：ナデ
2260	C①SA7	床直	土師	壺	B	浅黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2261	C①SA7	床直	土師	壺	B	にぶい黄緑	外：縦ミガキ、内：横工具ナデ
2262	C①SA8	柱穴	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：横ケズリ、内：工具ナデ
2263	C①SA8	床直	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ、備考：器面摩耗
2264	C①SA8	K1	土師	杯	B	にぶい黄緑	外：縦ハケ→ナデ、内：横工具ナデ
2265	C①SA8	カマド	土師	鉢	A	明褐色	外：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2296	C①SA8	床直	土師	瓶	A	黄緑	外：縦ハケ→一部ナデ 把手、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ→一部ナデ
2267	C①SA8	覆土	土師	高杯	B	灰白	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内→横ケズリ
2268	C①SA8	床直	土師	壺	A	黄緑	外：縦ハケ→一部ナデ、底：ナデ、内：横工具ナデ

No.	出土遺構	階位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2269	C①SA8	床面	土師	甕	A	にぶい黄	外：縦ハケ、底：ナデ、内：横ハケ→一部横工具ナデ
2270	C①SA8	カマド	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ→一部ナデ、内：横ハケ→胴下ナデ 接合痕
2271	C①SA8	床面	土師	甕	D	灰黄褐	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2272	C①SA8	床面	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ
2273	C①SA8	カマド	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横ハケ
2274	C①SA8	床直	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ハケ、内：横ハケ
2275	C①SA8	カマド周辺	土師	甕	A	にぶい赤	外：縦ハケ、底：ナデ、内：横ハケ→一部工具ナデ
2276	C①SA8	床面	土師	甕	B	にぶい橙	外：縦ハケ 固定土付着、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ
2277	C①SA8	床面	土師	甕	B	黄灰	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：胴上工具ナデ 胴下横ハケ 割づくり
2278	C①SA9	カマド	土師	杯	A	にぶい黄	外：ケズリ、底：ケズリ、内：ハケ、備考：底部転用か？
2279	C①SA9	甌上	土師	杯	A	灰黄褐	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2280	C①SA9	床直	土師	杯	B	橙	外：調整不明、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2281	C①SA9	床直	土師	杯	A	灰黄	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2282	C①SA9	甌上	土師	杯	C	にぶい橙	外：ミガキ？、底：ミガキ？、内：黒色→ミガキ
2283	C①SA9	甌上	須恵	杯蓋	A	灰白	回転ナデ、天井：ケズリ
2284	C①SA9	床直	土師	盃	C	にぶい黄	外：ミガキ、内：ナデ 接合痕
2285	C①SA9	床直	土師	盃	B	暗黄褐	外：口縁横ミガキ ナデ、内：横ミガキ→黒色
2286	C①SA9	床直	須恵	はそう	D	灰黄	回転ナデ、外：沈殿2条 柳川文
2287	C①SA9	カマド周辺	土師	鉢	C	にぶい黄	外：ミガキ、内：ミガキ、備考：器面単純
2288	C①SA9	カマド	土師	甕	C	にぶい橙	外：ミガキ？、内：ナデ
2289	C①SA9	甌上	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2290	C①SA9	カマド	土師	甕	C	にぶい黄	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2291	C①SA9	カマド周辺	土師	甕	B	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ 接合痕
2292	C①SA9	甌上	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2293	C①SA9	甌上	土師	甕	D	暗褐	外：縦ケズリ、底：ナデ、内：縦ケズリ
2294	C①SA9	カマド	土師	瓶	D	にぶい橙	外：ケズリ、底：穿孔1ヶ、内：指ホエ
2295	C①SA9	床直	須恵	甕	D	灰	横ナデ、外：段縁文
2296	C①SA10	甌上	土師	杯	C	黒褐	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色、備考：新しいカマドに伴う甌上
2297	C①SA10	カマド	土師	高杯	B	橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：横ケズリ
2298	C①SA10	甌上	土師	甕	C	橙	外：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2299	C①SA10	カマド周辺	土師	盃	A	黒褐	外：ケズリ→縦ミガキ、内：ナデ→横ミガキ、備考：新しいカマド
2300	C①SA10	カマド周辺	土師	甕	C	暗褐	外：縦ケズリ、内：ナデ、備考：新しいカマド
2301	C①SA10	甌上	土師	甕	A	橙	外：縦ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ、備考：新しいカマドに伴う甌上
2302	C①SA10	甌上	土師	甕	B	灰黄褐	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：古いカマドに伴う、CISA14と接合
2303	C①SA11	床面	土師	杯	A	にぶい橙	外：ミガキ？、内：横工具ナデ
2304	C①SA11	K1	土師	杯	B	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2305	C①SA11	床直	須恵	高杯	C	暗黄灰	杯外：回転ナデ→回転ケズリ 沈殿1条、杯内：回転ナデ 自然輪、脚外：透かし(形状不明)
2306	C①SA11	K1	須恵	高杯	C	暗黄灰	回転ナデ 自然輪 透かし3ヶ(形状不明)
2307	C①SA11	K1	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2308	C①SA11	K1	土師	杯	C	にぶい黄	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2309	C①SA11	床面	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2310	C①SA11	K1	土師	杯	C	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2311	C①SA11	甌上	土師	高杯	B	赤褐	杯外：調整不明、杯内：調整不明 黒色
2312	C①SA11	甌上	土師	高杯	C	暗赤褐	杯外：調整不明、脚外：縦ミガキ 三角孔3ヶ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2313	C①SA11	K1	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：縦ミガキ、脚内：しぼり目
2314	C①SA11	床直	土師	鉢	A	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2315	C①SA11	甌上	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ミガキ、内：ナデ
2316	C①SA11	K1	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ハケ→胴下ナデ、内：横ハケ→縦上横工具ナデ、備考：2217と同一個体
2317	C①SA11	K1	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ→ナデ、底：輪台 ハケ、内：ハケ→縦ケズリ、備考：2216と同一個体
2318	C①SA11	床直	土師	甕	A	明赤褐	外：縦ハケ→工具ナデ、内：横ハケ→横工具ナデ
2319	C①SA11	床直	土師	甕	D	にぶい橙	外：横ミガキ、内：口縁横ミガキ 胴部ナデ
2320	C①SA11	床直	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ハケ→右横ミガキ、内：口縁横ミガキ 胴部右横工具ナデ
2321	C①SA11	K1	土師	甕	B	浅黄橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→胴部横工具ナデ
2322	C①SA11	カマド周辺	土師	甕	B	にぶい黄	外：縦ハケ、内：ハケ→工具ナデ(胴上層→胴下層)
2323	C①SA11	K1	土師	甕	A	にぶい黄	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横工具ナデ

No	出上遺構	層位	種別	部機	遺存	色調	技法・文様・特徴
2324	C① SA11	カマド	土師	蓋	D	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2325	C① SA11	カマド	土師	蓋	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2326	C① SA11	K1	土師	蓋	B	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→工具ナデ(胴上縦・胴下横)
2327	C① SA11	カマド	土師	蓋	D	橙	外：ナデ、底：輪台 ナデ、内：縦・横ハケ
2328	C① SA11	床直	土師	蓋	D	にぶい黄橙	外：縦工具ナデ、内：ナデ
2329	C① SA11	K1	土師	蓋	A	橙	外：縦工具ナデ、底：ケズリ、内：右類工具ナデ
2330	C① SA11	覆土	土師	瓶	C	橙	外：ハケ(胴横・底周横)→胴下ナデ、底：穿孔ハケ、内：横ハケ→ケズリ→ナデ
2331	C① SA11	床直	土師	瓶	A	橙	外：縦工具ナデ 把手、底：穿孔ハケ 面取り、内：縦工具ナデ
2332	C① SA13	床面	土師	杯	C	浅黄	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2333	C① SA13	カマド2	土師	杯	D	にぶい黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2334	C① SA13	柱穴	土師	鉢	D	にぶい橙	外：縦ハケ→一部ナデ、内：横ミガキ→黒色
2335	C① SA13	柱穴	土師	高杯	C	にぶい橙	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2336	C① SA13	覆土	土師	杯	C	にぶい橙	外：ケズリ→胴上ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2337	C① SA13	覆土	須恵	杯身	D	灰	回転ナデ
2338	C① SA13	覆土	須恵	杯身	D	黄灰	回転ナデ
2339	C① SA13	カマド周辺	土師	高杯	A	にぶい黄橙	杯外：調整不明、脚外：縦ハケ→縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ナデ 接合面(巻き上げ)
2340	C① SA13	カマド	土師	蓋	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2341	C① SA13	カマド	土師	蓋	B	暗褐	外：ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2342	C① SA13	覆土	土師	蓋	D	明赤褐	外：ナデ 底周ケズリ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：ナデ
2343	C① SA13	覆土	土師	蓋	D	灰黄褐	外：縦ハケ→縦ミガキ、内：縦・左類ミガキ
2344	C① SA13	カマド	土師	蓋	D	にぶい橙	外：ハケ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ
2345	C① SA13	覆土	土師	蓋	D	灰褐	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2346	C① SA13	カマド	土師	蓋	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2347	C① SA13	カマド	土師	蓋	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2348	C① SA12	覆土	土師	蓋	C	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ、内：調整不明
2349	C① SA14	覆土	弥生	脚部	D	にぶい黄橙	脚外：凹線文 赤彩ミガキ、脚内：ハケ→ナデ、備考：北陸系 1117-1796と同一個体?
2350	C① SA15	覆土	土師	杯	C	浅黄橙	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2351	C① SA15	床直	土師	鉢	A	浅黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2352	C① SA15	カマド	土師	台付鉢	B	明黄褐	外：調整不明、底：ケズリ 台部陥り付け、内：工具ナデ、備考：2次焼熟、旧カマド跡
2353	C① SA15	床直	土師	蓋	D	橙	外：縦ハケ、内：ナデ
2354	C① SA15	床直	土師	蓋	B	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2355	C① SA16	覆土	土師	杯	A	明褐灰	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
2356	C① SA16	覆土	土師	杯	C	にぶい黄橙	外：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2357	C① SA16	覆土	土師	杯	B	明褐灰	外：ケズリ→胴上ミガキ?、底：ケズリ→ナデ、内：ミガキ→黒色(不具)
2358	C① SA16	床直	土師	杯	B	明褐灰	外：ケズリ→ミガキ?、内：ミガキ→黒色
2359	C① SA16	床面	須恵	杯身	A	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ナデ
2360	C① SA16	床直	土師	高杯	C	浅黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ、備考：新しいカマドに伴う覆土
2361	C① SA16	覆土	土師	高杯	C	浅黄橙	外：ミガキ(杯下・脚底)、杯外：横ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→底周ミガキ
2362	C① SA16	床直	土師	高杯	A	にぶい橙	杯外：ケズリ→横ミガキ、脚内：ケズリ→縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ
2363	C① SA16	覆土	土師	鉢	A	暗灰黄	外：ケズリ→右類ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2364	C① SA16	覆土	土師	鉢	A	赤褐	外：縦ミガキ、内：横ミガキ→黒色、備考：2次焼熟
2365	C① SA16	床直	土師	鉢	A	橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2366	C① SA16	床直	須恵	壺	B	灰	外：沈線文3巻→たまり工具による刺突文3段、底：隆起こし 胎付高台煎
2367	C① SA16	カマド	土師	支脚	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、天井：木葉痕、備考：新しいカマドに伴う覆土
2368	C① SA16	床面	土師	支脚	B	灰黄褐	外：縦ケズリ→ナデ、内：指押さえ、天井：木葉痕、備考：古いカマドに伴うか
2369	C① SA16	床面	土師	壺	A	にぶい黄橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：口縁横ミガキ 横工具ナデ
2370	C① SA16	床直	土師	蓋	B	黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2371	C① SA16	覆土	土師	瓶	D	にぶい黄橙	外：ナデ、底：穿孔ハケ残、内：ナデ
2372	C① SA17	覆土	土師	杯	D	暗灰黄	外：ケズリ→ナデ、内：ナデ
2373	C① SA17	覆土	土師	杯	B	灰黄褐	外：ケズリ→ミガキ?、内：横ミガキ
2374	C① SA17	覆土	土師	杯	B	浅黄橙	外：ハケ ケズリ→ミガキ?、内：横ミガキ→黒色
2375	C① SA17	床面	土師	杯	B	灰黄	外：ケズリ→ミガキ?、内：縦ミガキ→黒色

No	品名・建機	種別	部種	用途	色調	技法・文様・特徴	
2276	C① SA17	覆土	土師	高杯	C	橙	脚外：縦・横ミガキ、脚内：指ナデ→ケズリ ナデ
2277	C① SA17	床面	土師	鉢	B	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ、内：ナデ
2278	C① SA17	床直	土師	羹	C	明赤陶	外：縦ハケ、内：縦ハケ→一部右短工具ナデ、備考：内外面ハケ形状が異なる
2279	C① SA17	床面	土師	羹	D	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ、内：横ハケ→縦工具ナデ
2280	C① SA17	床面	土師	羹	B	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→縦工具ナデ
2281	C① SA18	覆土	土師	杯	B	灰灰	外：ケズリ→ミガキ？、内：縦ミガキ→黒色
2282	C① SA18	覆土	土師	高杯	B	黄橙	杯外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2283	C① SA18	覆土	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：ミガキ(脚柱縦・裾横)、脚内：ナデ→横ミガキ
2284	C① SA18	覆土	土師	高杯	B	橙	杯外：ケズリ→ミガキ？、脚外：縦ミガキ、杯内：縦ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ)
2285	C① SA18	覆土	土師	高杯	B	淡橙	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ
2286	C① SA18	覆土	土師	鉢	B	にぶい黄橙	外：ケズリ→横ミガキ？、内：縦ミガキ→黒色
2287	C① SA18	覆土	土師	鉢	B	橙	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色、備考：外面被熱
2288	C① SA18	覆土	土師	羹	B	橙	外：調整不明、内：横工具ナデ、備考：外面面摩耗
2289	C① SA18	覆土	土師	鉢	C	浅黄橙	外：ケズリ→横ミガキ？、内：縦ミガキ→黒色
2290	C① SA18	床直	土師	羹	A	にぶい黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2291	C① SA18	覆土	土師	瓶	B	にぶい橙	外：ケズリ→縦ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：ミガキ(脚上縦・脚下横)
2292	C① SA18	覆土	土師	瓶	D	にぶい黄橙	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：調整不明
2293	C① SA19	覆土	土師	杯	A	橙	外：脚ナデケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2294	C① SA19	カマド	土師	杯	B	にぶい黄橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2295	C① SA19	カマド	土師	杯	A	にぶい橙	外：ケズリ？→横ミガキ 赤彩？、内：横ミガキ
2296	C① SA19	床直	土師	鉢	D	明陶	外：調整不明、内：調整不明
2297	C① SA19	カマド	土師	羹	A	にぶい橙	外：縦ハケ→ナデ 固定土付着、内：横工具ナデ
2298	C① SA19	覆土	土師	羹	C	橙	外：縦ハケ、内：調整不明
2299	C① SA19	覆土	土師	羹	C	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2300	C① SA19	カマド	土師	羹	C	橙	外：縦ハケ、内：右短工具ナデ
2301	C① SA19	カマド周辺	土師	羹	B	にぶい橙	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：外面面摩耗
2302	C① SA19	カマド周辺	土師	羹	B	橙	外：縦ハケ 固定土付着、内：右短工具ナデ
2303	C① SA19	覆土	須忠	高杯	D	灰	回転ナデ、外：炭状文
2304	C① SA19	覆土	須忠	高杯	D	灰灰	回転ナデ
2305	C① SA21	床直	土師	杯	A	にぶい黄橙	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色、備考：2次被熱
2306	C① SA21	カマド周辺	土師	杯	A	浅黄	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2307	C① SA21	カマド	土師	高杯	D	灰黄	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2308	C① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ケズリ→ナデ→脚ナデ横ミガキ、内：横ミガキ
2309	C① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ナデ→脚ナデケズリ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2310	C① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ナデ→脚ナデケズリ、底：ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
2311	C① SA21	カマド周辺	土師	壺	A	浅黄	外：ケズリ→ナデ→一部横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2312	C① SA21	カマド	土師	羹	C	明黄陶	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2313	C① SA21	カマド	土師	羹	A	にぶい黄	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2314	C① SA21	カマド	土師	羹	A	にぶい黄橙	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2315	C① SA21	カマド周辺	土師	羹	A	橙	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横ハケ
2316	C① SA21	カマド周辺	土師	羹	C	にぶい黄橙	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2317	C① SA21	床面	土師	瓶	A	浅黄	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：横ミガキ→黒色(不良)
2318	C① SA21	床直	土師	瓶	A	浅黄	外：縦ハケ→脚ナデ 底周穿孔2ヶ 把手、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ
2319	C① SA21	カマド周辺	須忠	羹	D	浅黄	横ナデ、外：ハケ工具刺突文
2320	C① SA20	覆土	土師	杯	B	黒陶	外：ケズリ→ミガキ？、底：施記号「×」、内：縦ミガキ→黒色
2321	C① SA20	床面	土師	杯	A	灰白	外：調整不明、内：ミガキ→黒色、備考：外面面摩耗
2322	C① SA20	覆土	土師	鉢	C	にぶい橙	外：ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明 黒色
2323	C① SA20	覆土	土師	鉢	B	にぶい橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横・縦ミガキ→黒色
2324	C① SA20	貼床	須忠	杯蓋	C	暗青灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2325	C① SA20	覆土	土師	高杯	C	浅黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2326	C① SA20	床面	土師	高杯	C	にぶい橙	脚外：縦・横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
2327	C① SA20	貼床	土師	鉢	D	灰黄陶	外：調整不明、内：ナデ、器部：折り返し返しユビオサエ
2328	C① SA20	カマド周辺	土師	羹	C	にぶい橙	外：横工具ナデ、内：横工具ナデ
2329	C① SA20	貼床	土師	羹	D	にぶい橙	外：ナデ、内：横工具ナデ
2330	C① SA20	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：縦ハケ、内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2431	C① SA22	覆土	土師	杯	B	にぶい橙	外：ケズリ、内：横ミガキ
2432	C① SA22	床面	土師	鉢	C	にぶい橙	外：ケズリ→横ミガキ、底：ケズリ、内：ミガキ→黒色
2433	C① SA22	覆土	土師	鉢	D	にぶい橙	外：割下ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2434	C① SA22	覆土	土師	鉢	C	にぶい橙	外：縦ミガキ、内：横ミガキ→黒色(不良)
2435	C① SA22	床面	土師	鉢	A	浅黄緑	外：右傾ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2436	C① SA22	覆土	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ 固定土付着、内：横工具ナデ
2437	C① SA23	覆土	土師	杯	D	橙	外：横ミガキ、内：ミガキ
2438	C① SA24	胎床	土師	杯	B	にぶい橙	外：割下ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2439	C① SA24	胎床	土師	杯	B	にぶい橙	外：横ミガキ、内：ミガキ→黒色
2440	C① SA24	覆土	土師	高杯	B	にぶい橙	杯外：調整不明、杯内：調整不明 黒色、備考：器面摩耗
2441	C① SA24	カマド	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、底：輪台 ナデ、内：ナデ
2442	C① SA24	カマド	土師	甕	D	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→刷工ナデ
2443	C① SA24	覆土	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2444	C① SA24	カマド	土師	甕	B	暗灰	外：縦ハケ、底：木炭痕?、内：ハケ→横工具ナデ
2445	C① SA25	カマド周辺	土師	杯	C	にぶい橙	外：調整不明、内：縦→横ミガキ→黒色
2446	C① SA25	カマド周辺	土師	杯	A	明褐灰	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2447	C① SA25	カマド	須恵	杯蓋	A	暗青灰	回転ナデ、底：静止突起こし→回転ケズリ
2448	C① SA25	床直	土師	甕	C	橙	外：調整不明、内：調整不明 黒色
2449	C① SA25	カマド周辺	土師	鉢	A	にぶい橙	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：ケズリ→ナデ
2450	C① SA25	床面	土師	鉢	A	にぶい橙	外：ケズリ→ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ
2451	C① SA25	カマド	土師	鉢	B	橙	外：調整不明、内：調整不明 黒色
2452	C① SA25	カマド	土師	高杯	C	明褐灰	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2453	C① SA25	床面	土師	甕	A	明褐灰	外：ハケ→ミガキ(口縁横 割部右傾)、底：ケズリ→ナデ→ミガキ、内：横ハケ→割上横ミガキ 割下ナデ、備考：底熱痕なし
2454	C① SA25	カマド	土師	甕	A	橙	外：調整不明 煤付着、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2455	C① SA25	カマド	土師	甕	A	明褐灰	外：縦ハケ→割下粘土態→ミガキ 固定土付着、内：右傾ハケ、底：ナデ
2456	C① SA25	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：縦ハケ 固定土付着、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2457	C① SA26	覆土	土師	杯	C	浅黄緑	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2458	C① SA27	覆土	土師	甕	C	暗灰	外：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2459	C① SA28	床直	土師	杯	B	灰黄緑	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2460	C① SA28	覆土	土師	杯	C	暗灰	外：ミガキ?、底：ケズリ→ミガキ?、内：ミガキ→黒色
2461	C① SA28	覆土	須恵	甕	D	にぶい黄緑	外：ハケ(頸部横・割部右傾)、内：横ハケ→ミガキ
2462	C① SA28	カマド	土師	甕	A	赤褐	外：縦ハケ→割下ナデ、内：横ハケ
2463	C① SA28	覆土	土師	甕	D	灰黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2464	C① SA28	カマド	土師	甕	C	暗灰	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2465	C① SA29	覆土	土師	鉢	B	にぶい黄緑	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
2466	C① SA29	覆土	土師	鉢	C	にぶい橙	外：ミガキ?、内：ミガキ?、備考：火にかけて使用した痕跡
2467	C① SA29	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2468	C① SA29	覆土	土師	鉢	B	にぶい黄緑	外：ケズリ、内：工具ナデ
2469	C① SA29	覆土	土師	甕	A	にぶい橙	外：ミガキ、内：横ミガキ
2470	55① SB1	覆土	土師	鉢	D	浅黄緑	外：縦ハケ→ミガキ?、内：口縁ハケ 刷工ナデ
2471	56① SK5	覆土	土師	瓶	D	にぶい橙	外：ケズリ、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：横工具ナデ
2472	56① SK5	須恵	はそう	C	灰	回転ナデ、外：回転ケズリ? 自然熱、備考：56② SA2取り上げ	
2473	C① SK76	覆土	土師	甕	D	橙	横ナデ
2474	C① SK76	覆土	土師	甕	C	橙	外：右傾ケズリ、内：横工具ナデ
2475	C① SK76	覆土	土師	瓶	B	橙	外：右傾ハケ→ミガキ(口縁横・割部横・底傾) 把手、内：ミガキ(口縁右横・割部縦)
2476	C① SK76	覆土	須恵	甕	D	灰	横ナデ、外：御波状文/沈線2条
2477	23① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	回転ナデ?
2478	23① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	回転ナデ?、外：工具ナデ
2479	23① SD2	覆土	須恵	杯身	D	にぶい橙	回転ナデ、底：回転ケズリ 貯付高台、備考：焼成不良
2480	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰白	回転ナデ、底：回転突起こし、備考：焼成やや不良
2481	23① SD2	覆土	土師	甕	D	にぶい黄緑	外：ミガキ、内：ナデ
2482	23① SD2	覆土	須恵	氏須恵	C	灰	回転ナデ、接合痕
2483	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰	回転ナデ、外：肩部沈線3条(螺旋?)、内：カキメ
2484	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰	回転ナデ、外：平行タケキ
2485	34① SD1	覆土	土師	杯	A	にぶい黄	外：ケズリ→部ミガキ、内：横ミガキ

No	品名	部位	種類	器種	造作	色調	技法・文様・特徴
2486	34① SD1	覆土	土師	杯	C	にぶい黄	外：調整不明。内：ミガキ→黒色
2487	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台、外：自然釉
2488	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	にぶい黄	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台、備考：焼成不良
2489	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2490	34① SD1	覆土	須恵	杯蓋	A	灰	回転ナデ、外：調整不明 自然釉、内：記号「×」
2491	34① SD1	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄	杯外：ナデ、脚外：ナデ？、杯内ナデ、脚内：工具ナデ
2492	34① SD1	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄	外：調整不明。内：ミガキ→黒色
2493	34① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄	外：有縁ハケ、内：横工具ナデ
2494	34① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄	横ナデ
2495	34① SD1	覆土	土師	甕	D	灰黄	外：左縁ハケ、内：調整不明
2496	34① SD1	覆土	弥生	甕	D	暗灰黄	内：口縁横ハケ 胴部ケズリ、備考：北陸系
2497	34① SD1	覆土	土師	鉢	A	にぶい黄	外：ナデ、内：口縁横ハケ 胴工具ナデ
2498	34① SD1	覆土	土師	小豆丸底甕	B	にぶい黄	外：ハケ→一部ナデ、内：ナデ 混合釉
2499	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	にぶい黄	回転ナデ、底：ケズリ、備考：焼成不良
2500	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	灰黄	回転ナデ、底：回転ケズリ
2501	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	橙	回転ナデ、備考：焼成不良、外器面摩耗
2502	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	黄灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2503	34① SD2	覆土	須恵	壺	D	黄灰	回転ナデ、外：自然釉
2504	34① SD2	覆土	須恵	壺	D	黄灰	回転ナデ、外：底周回転ケズリ、底：ナデ 貼付高台、内：自然釉
2505	34① SD2	覆土	須恵	杯身	D	黄灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2506	34① SD2	覆土	土師	？	D	にぶい黄	外：ケズリ？ 把手痕？、内：ハケ？
2507	34① SD2	覆土	須恵	甕	A	橙	外：口縁横ナデ 胴部平行タテキ 胴部焼成後穿孔、底：焼成後穿孔？、内：同心円当て具痕→ナデ
2508	49① SD1	覆土	土師	甕	D	赤褐	外：調整不明、内：ナデ
2509	49① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄	外：調整不明、内：横工具ナデ
2510	49① SD1	覆土	土師	甕	D	にぶい黄	外：縦ハケ、底：ナデ、内：ナデ
2511	49① SD1	覆土	須恵	はそう	D	灰	回転ナデ、外：胴下回転ケズリ
2512	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：調整不明、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ 混合直
2513	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：工具ナデ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ しほり目
2514	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ 混合釉(巻き上げ)
2515	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2516	49① SD1	覆土	須恵	甕	D	灰	横ナデ
2517	49① SD1	覆土	須恵	甕	D	灰黄	横ナデ、外：筋波状文
2518	52① SD1	覆土	土師	杯	B	陶灰	外：横ケズリ、内：ミガキ
2519	52① SD1	覆土	土師	高杯	B	浅黄橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ→横ミガキ
2520	52① SD1	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄	外：ミガキ(杯縁・脚縁)、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ナデ
2521	55① SD2	覆土	須恵	壺	D	にぶい黄	回転ナデ、備考：焼成不良
2522	55① SD2	覆土	須恵	杯身	B	灰白	回転ナデ、底：静止推し起し、備考：焼成不良
2523	55① SD3	覆土	須恵	杯身	C	橙	回転ナデ、底：回転ケズリ
2524	55① SD3	覆土	須恵	フラスコ蓋	B	灰	回転ナデ、外：回転ケズリ 自然釉
2525	55① SD3	覆土	須恵	すり鉢	C	灰	回転ナデ
2526	55① SD3	覆土	須恵	長頸壺	C	灰	回転ナデ
2527	71① SD3	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄	脚外：横ミガキ、脚内：しほり目
2528	71① SD3	覆土	土師	鉢	C	にぶい黄	外：横ケズリ、底：ケズリ、内：横ミガキ
2529	71① SD3	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2530	C① SD8	覆土	土師	甕	D	橙	外：ハケ→ミガキ？、内：口縁横ミガキ？ 胴工具ナデ
2531	D① SD1	覆土	土師	杯	A	浅黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色 「×」状の暗文
2532	D① SD1	覆土	土師	杯	A	浅黄橙	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2533	D① SD1	覆土	土師	杯	C	にぶい黄	外：調整不明、内：横ミガキ
2534	D① SD1	覆土	土師	杯	A	にぶい橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2535	D① SD1	覆土	土師	杯	B	にぶい黄	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色？
2536	D① SD1	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ
2537	D① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2538	D① SD1	覆土	土師	高杯	A	にぶい橙	杯外：調整不明、脚外：縦ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、杯内：工具ナデ
2539	D① SD1	覆土	土師	高杯	B	灰黄	外：ミガキ(杯縁・脚縁)、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ→ナデ
2540	D① SD1	覆土	土師	高杯	B	陶灰	脚外：縦ケズリ、杯内：黒色→ミガキ、脚内：工具ナデ

No.	出土遺構	層位	性別	器種	造形	色調	技法・文様・特徴
2541	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄赤	舞外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：黒色→ミガキ、脚内：工具ナデ
2542	D①SD1	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄赤	舞外：調整不明、舞内：調整不明
2543	D①SD1	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2544	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄赤	舞外：ケズリ→縦ミガキ、杯内：縦ミガキ→黒色
2545	D①SD1	覆土	土師	高杯	D	にぶい黄赤	舞外：縦ミガキ、舞内：ケズリ
2546	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄赤	舞外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2547	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄赤	舞外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ
2548	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	にぶい黄赤	舞外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→工具ナデ
2549	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄赤	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2550	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄赤	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2551	D①SD1	覆土	土師	鉢	C	にぶい黄赤	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2552	D①SD1	覆土	土師	壺	D	黄	外：ミガキ(口縁横・胴部右側)、内：横ミガキ
2553	D①SD1	覆土	土師	壺	C	にぶい黄赤	外：調整不明、内：横工具ナデ、把手の痕跡2ヶ
2554	D①SD1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄赤	外：縦ケズリ、内：縦ケズリ
2555	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄赤	外：縦ハケ？、内：横ミガキ？、備考：古墳前周孔鉢？
2556	D①SD1	覆土	土師	壺	C	黄	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2557	D①SD1	覆土	須恵	壺	C	灰黄	回転ナデ、外：底周ケズリ、底：回転ケズリ 貼付高台
2558	D①SD1	覆土	須恵	壺	D	暗灰	横ナデ、内：自然釉
2559	D①SD1	覆土	須恵	短頸壺	B	灰	回転ナデ、外：底周ケズリ
2560	E①SD17	覆土	土師	杯	C	浅黄緑	外：調整不明 蓋記号「×」、内：ミガキ？
2561	E①SD17	覆土	須恵	杯蓋	C	灰	回転ナデ、天井：静止隆起こし
2562	E①SD17	覆土	須恵	杯蓋	D	灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2563	E①SD17	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ケズリ、内：自然釉、備考：焼け込み
2564	E①SD17	覆土	須恵	杯身	C	灰黄	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2565	E①SD17	覆土	須恵	杯身	D	灰	回転ナデ
2566	E①SD17	覆土	土師	壺	D	にぶい黄赤	外：ケズリ、内：工具ナデ
2567	E①SD17	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄赤	外：口縁横ミガキ 胴縦ケズリ、内：横ミガキ？、備考：被熱痕
2568	E①SD17	覆土	須恵	長頸壺	C	灰	回転ナデ
2569	E①SD17	覆土	須恵	高杯	D	灰	外：回転ナデ 沈箱2条 四角孔2×2段
2570	E①SD17	覆土	土師	壺	A	にぶい黄赤	外：縦ケズリ、内：ナデ
2571	E①SD17	覆土	土師	壺	D	橙	横ナデ、外：横ハケ
2572	E①SD17	覆土	土師	壺	D	にぶい黄赤	外：調整不明、内：調整不明
2573	E①SD17	覆土	土師	壺	C	浅黄緑	外：ケズリ→ミガキ、内：工具ナデ
2574	E①SD17	覆土	土師	壺	D	縦灰	外：調整不明、内：調整不明
2575	E①SD17	覆土	須恵	壺	D	灰	回転ナデ
2576	E①SD17	覆土	須恵	壺	C	灰	回転ナデ、外：底周回転ケズリ
2577	E①SD17	覆土	土師	器台	C	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、受内：ミガキ、脚内：横ハケ
2578	E①SD17	覆土	土師	器台	C	にぶい黄赤	受外：ミガキ？、舞外：工具ナデ、受内：ミガキ？、脚内：工具ナデ
2579	E①SD17	覆土	土師	器台	D	にぶい黄赤	外：ハケ→ミガキ(受横・脚縦)、受内：横ミガキ、舞内：ナデ
2580	E①SD17	覆土	須恵	壺	D	灰	外：口縁横ナデ 平行タタキ 自然釉、内：同心円当て具痕
2581	E①SD17	覆土	須恵	壺	D	縦灰	外：口縁横ナデ 平行タタキ、内：同心円当て具痕→ナデ
2582	E①SD17	覆土	須恵	壺	D	にぶい黄赤	横ナデ、外：平行タタキ
2583	62③SU2	覆土	土師	杯	C	にぶい黄赤	外：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2584	62③SU2	覆土	土師	杯	B	浅黄緑	外：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2585	62③SU2	覆土	土師	杯	D	縦灰	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2586	62③SU2	覆土	土師	杯	C	にぶい黄赤	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2587	62③SU2	覆土	土師	杯	B	にぶい黄赤	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2588	62③SU2	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ
2589	62③SU2	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ
2590	62③SU2	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄赤	杯外：横ケズリ、舞外：縦ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：工具ナデ
2591	62③SU2	覆土	土師	高杯	B	灰黄緑	舞外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横工具ナデ
2592	62③SU2	覆土	土師	高杯	B	にぶい黄赤	杯外：横ケズリ→横ミガキ、舞外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横工具ナデ
2593	62③SU2	覆土	土師	鉢	C	にぶい黄赤	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2594	62③SU2	覆土	土師	鉢	C	灰黄緑	外：横ミガキ 繋付着、内：横ミガキ→黒色
2595	62③SU2	覆土	土師	鉢	D	にぶい黄赤	外：縦ミガキ、内：ミガキ 接合痕

No	出土遺物	層位	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴	
2596	62② SU2	覆土	須恵	フラスコ蓋	C	灰	頸部：回転ナデ 沈線3条、胴部：回転ナデ→回転ケズリ
2597	62② SU2	覆土	土師	壺	D	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2598	62② SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：調整不明、内：横ミガキ
2599	62② SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：ケズリ？、内：工具ナデ？
2600	62② SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：右傾ミガキ、内：横ミガキナデ
2601	62② SU2	覆土	土師	？	D	にぶい黄橙	外：調整不明、内：ミガキ→黒色
2602	62② SU2	覆土	土師	？	D	にぶい黄橙	外：ミガキ、内：ミガキ→黒色
2603	62② SX3	覆土	土師	杯	A	浅黄橙	外：ミガキ？、内：横ミガキ
2604	62② SX3	覆土	土師	杯	C	にぶい黄橙	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2605	62② SX3	覆土	土師	杯	B	にぶい橙	外：横ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2606	62② SX3	覆土	須恵	杯身	A	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ナデ
2635	53① SK1	覆土	土師	蓋	B	灰白	回転ナデ、底：糸切り痕 板状圧痕
2636	C① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰黄褐	回転ナデ、底：回転糸切り、備考：焼成不良
2637	C① SD1	覆土	須恵	杯蓋	D	にぶい褐	回転ナデ
2638	C① SD2	覆土	土師	蓋	C	にぶい橙	外：ケズリ→ナデ、内：ナデ、備考：灯明皿
2639	16① SD1	覆土	須恵	杯蓋	B	灰	回転ナデ、外：回転ケズリ
2640	16① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰白	回転ナデ、底：回転糸切り、備考：焼成不良
2641	16① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、外：墨書「×」
2642	16① SD1	覆土	須恵	杯身	A	灰	回転ナデ、底：回転糸切り 墨記号、外：墨書(判読不明)
2643	16① SD1	覆土	須恵	杯身	D	灰	回転ナデ、外：墨書「？」
2644	16① SD1	覆土	土師	鉢	B	浅黄橙	外：縦ハケ→胴下ナデ？、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキナデ、備考：混入
2645	16① SD1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄橙	外：カキメ？、内：カキメ？
2646	C① SU3	覆土	土師	皿	D	灰白	回転ナデ、底：回転踏起こし
2647	C① SU3	覆土	土師	皿	C	にぶい黄橙	手捏ね？、外：ケズリ→ナデ
2648	C① SU3	覆土	須恵	直口壺	C	褐灰	回転ナデ、外：沈線2条
2649	C① SU3	覆土	須恵	壺？	D	灰白	回転ナデ、底：回転糸切り、内：光沢を帯びる
2650	C① SU3	覆土	須恵	すり鉢	D	灰	回転ナデ、内：網目状割み
2651	C① SU3	覆土	須恵	すり鉢	D	灰	回転ナデ、内：波状割み
2652	C① SU3	覆土	須恵	すり鉢	D	灰白	回転ナデ、内：直線割み

表5 石製品類群表

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」の色名を表記した。

No	遺物名	層位	器種	石材	重量[g]	備考
447	E②S A1	K2	打製石礫	黒曜石	0.8	
448	E②S A1	K3	打製石礫	黒曜石	1.6	
449	E②S A3	覆土	打製石礫	チャート	0.4	暗赤色
450	E②S K1	打製石礫	黒曜石	0.8		
451	E②S K2	覆土	打製石礫	黒曜石	2.3	
452	E②S A2	覆土	打製石礫	黒曜石	1.3	
453	E②S A5	床面	打製石礫	チャート	3.0	暗赤色
454	E②S A5	床面	打製石礫	黒曜石	2.3	
455	E②S A5	床面	打製石礫	黒曜石	2.2	
456	E②S A5	床面	打製石礫	チャート	3.7	暗赤色
457	E②S A5	床直	打製石礫	黒曜石	0.6	
458	E②S A5	床直	打製石礫	チャート	0.8	暗赤色
459	E②S A5	床直	打製石礫	黒曜石	0.3	
460	E②S A5	P5	打製石礫	黒曜石	1.6	
461	E②S A6	床直	打製石礫	黒曜石	0.7	
462	E②S A6	覆土	打製石礫	黒曜石	1.2	
463	E②S A6	覆土	打製石礫	黒曜石	0.4	
464	E②S A6	覆土	打製石礫	チャート	1.8	暗赤色
465	E②S A6	覆土	打製石礫	黒曜石	1.0	
466	E②S A6	覆土	打製石礫	黒曜石	2.5	
467	E②S A6	覆土	打製石礫	チャート	0.4	黒褐色
468	E②S A6	覆土	打製石礫	黒曜石	0.4	
469	E②S A8	P6	打製石礫	頁岩	1.8	
470	E②S K29	覆土	打製石礫	黒曜石	1.3	
471	遺構外	E②	打製石礫	チャート	1.3	E② SN1 の近く 暗赤色
472	遺構外	E②	打製石礫	チャート	0.8	暗赤色
473	遺構外	E②	打製石礫	黒曜石	0.9	
474	遺構外	E②	打製石礫	黒曜石	0.6	
475	遺構外	E①	打製石礫	黒曜石	1.1	
476	E②S A6	覆土	石礫	黒曜石	0.5	
477	45②S A7	床直	打製石斧	頁岩	67.3	
478	63②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	115.3	

No	造構名	層位	器種	石材	重量[g]	備考
479	E②S A2	覆上	打製石斧	頁岩	54.2	
480	E②S A2	覆上	打製石斧	頁岩	116.0	
481	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	100.8	
482	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	145.4	
483	E②S A3	覆上	打製石斧	安山岩	131.2	No.4付近
484	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	73.1	No.4付近
485	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	70.3	
486	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	44.5	
487	E②S A3	覆上	打製石斧	ガラス質安山岩	85.5	
488	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	53.2	No.12付近
489	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	78.1	
490	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	71.9	
491	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	58.0	
492	E②S A3	床底	打製石斧	頁岩	194.0	
493	E②S A3	床底	打製石斧	頁岩	109.5	
494	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	26.7	
495	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	76.5	
496	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	69.5	
497	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	94.5	
498	E②S A4	覆中	打製石斧	頁岩	82.2	
499	E②S A4	床底	打製石斧	頁岩	133.5	
500	E②S A5	床底	打製石斧	頁岩	140.2	
501	E②S A5	床底	打製石斧	頁岩	85.6	
502	E②S A5	P4	打製石斧	頁岩	71.8	
503	E②S A5	P20	打製石斧	頁岩	67.4	
504	E②S A6	覆上	打製石斧	頁岩	37.7	
505	E②S A6	覆上	打製石斧	頁岩	58.0	
506	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	69.2	
507	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	166.8	
508	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	139.2	
509	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	131.5	
510	E②S A6	覆上	打製石斧	頁岩	49.6	
511	E②S K8	覆下	打製石斧	頁岩	55.3	
512	E②S K8	覆上	打製石斧	頁岩	88.8	
513	E②S J4	覆上	打製石斧	頁岩	87.0	
514	遺構外	45②	打製石斧	頁岩	79.5	
515	遺構外	45②	打製石斧	ガラス質安山岩	143.8	
516	遺構外	63②	打製石斧	頁岩	146.2	
517	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	47.8	
518	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	56.5	
519	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	494.6	
520	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	146.5	
521	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	49.4	
522	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	57.1	
523	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	187.7	
524	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	71.9	E②S A2 近く
525	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	63.2	
526	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	86.3	
527	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	194.1	
528	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	101.3	
529	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	87.1	
530	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	137.4	
531	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	372.7	
532	45②S A5	覆上	刃器	頁岩	78.1	
533	遺構外	45②	刃器	頁岩	93.9	

No	造構名	層位	器種	石材	重量[g]	備考
534	遺構外	63①	刃器	頁岩	53.9	
535	E②S A3	覆上	刃器	頁岩	47.1	
536	E②S A3	覆上	石匙	流紋岩	15.0	
537	E②S A3	覆上	石匙	チャート	11.0	
538	E②S A5	床底	石匙	流紋岩	11.3	
539	E②S A5	床底	石匙	頁岩	14.4	
540	遺構外	14①	石匙	ガラス質安山岩	33.3	未製品
541	遺構外	48①	石匙	頁岩	12.2	
542	遺構外	53①	石匙	頁岩	13.5	
543	遺構外	53②	石匙	頁岩	29.2	
544	遺構外	73①	石匙	頁岩	87.6	
545	E②S A6	覆下	異形	チャート	5.0	異形石器 に白い黄褐色
546	E②S A5	P41	石核	黒曜石	39.1	
547	E②S A5	P41	石核	黒曜石	34.7	
548	E②S A5	P41	石核	黒曜石	49.6	
549	E②S A5	P4	原石	黒曜石	38.1	
550	63②S A2	床底	磨製石斧	緑色凝灰岩	289.4	
551	E②S A4	覆上	磨製石斧	緑色凝灰岩	201.8	
552	E②S A4	床底	磨製石斧	蛇紋岩	138.8	
553	E②S A5	P49	磨製石斧	蛇紋岩	109.8	
554	E②S A6	覆上	磨製石斧	蛇紋岩	19.9	
555	遺構外	45②	磨製石斧	緑色凝灰岩	240.4	
556	遺構外	63①	磨製石斧	流紋岩	343.5	
557	遺構外	E②	磨製石斧	粉板岩	315.1	
558	遺構外	E①	環状石斧	珪藻岩	332.8	
559	E②S K47	覆土	磨石	安山岩	1131	
560	遺構外	E②	磨石	砂岩	582.9	
561	遺構外	E②	磨石	安山岩	1422	
562	遺構外	E②	多孔石	安山岩	1629	
563	遺構外	E②	多孔石	安山岩	2635	
564	E②S A6	覆上	石皿	安山岩	2410	
565	遺構外	E②	石皿	安山岩	4310	
566	遺構外	45②	石皿	安山岩	6400	
567	45②S A7	覆上	石皿	安山岩	10450	
568	遺構外	53②	石皿	安山岩	5901	側面に彫刻 あり
569	E②S A5	P23	石皿	安山岩	2397	
570	E②S K47	覆上	石皿	安山岩	3685	
571	遺構外	E②	石皿	安山岩	2037	
572	遺構外	E②	石皿	安山岩	533.6	
573	E②S A4	覆中	異形	安山岩	1038	異形石器
574	E②S A4	覆中	石棒	安山岩	2091	
864	④D S A1	覆上	打製石鏃	黒曜石	3.2	
865	④D S A1	床底	打製石鏃	流紋岩	1.2	
866	10①S A1	床底	打製石鏃	頁岩	1.3	
867	32①S A1	覆中	打製石鏃	流紋岩	1.0	
868	32①S A1	床底	打製石鏃	黒曜石	0.7	
869	32①S A1	床底	打製石鏃	流紋岩	1.2	
870	32①S A1	床底	打製石鏃	流紋岩	0.8	
871	32①S A1	洞溝	打製石鏃	流紋岩	6.1	
872	52②S A1	④	打製石鏃	チャート	1.3	
873	52②S A3	覆下	打製石鏃	ガラス質安山岩	1.5	
874	53②S A3	S K	打製石鏃	頁岩	1.2	
875	53②S A11	覆土	打製石鏃	結晶砂岩	1.7	
876	53②S A11	溝	打製石鏃	安山岩	2.4	

No	造替名	層位	器種	石材	重量[g]	備考
877	53㉔S A11	周溝	打製石礫	頁岩	1.4	
878	53㉔S A11	周溝	打製石礫	頁岩	1.5	
879	53㉔S A11	覆土	打製石礫	流紋岩	1.7	
880	64㉔S A2	床直	打製石礫	流紋岩	1.8	
881	65㉔S A1	床直	打製石礫	黒曜石	1.4	
882	B㉔S A5	床面	打製石礫	雜質砂岩	1.2	
883	B㉔S A6	床直	打製石礫	流紋岩	0.7	
884	B㉔S A6	床直	打製石礫	黒曜石	1.4	
885	C㉔S A19	覆土	打製石礫	流紋岩	2.6	
886	32㉔S A1	覆中	石錐	頁岩	4.2	
887	32㉔S A1	覆土	石錐	流紋岩	2.7	
888	32㉔S A3	砂	石錐	頁岩	50.4	
889	27㉔S D1	覆土	石錐	流紋岩	2.3	
890	32㉔S A1	覆土	刃部	頁岩	108.1	
891	32㉔S A1	覆土	刃部	頁岩	58.8	
892	32㉔S A1	覆下	刃部	ガラス貫山石	62.5	
893	32㉔S A1	覆土	刃部	頁岩	280.6	
894	53㉔S A11	床面	刃部	頁岩	169.3	
895	64㉔S A1	床直	刃部	頁岩	118.8	
896	64㉔S A1	床直	刃部	頁岩	16.3	
897	69㉔S A1	床面	刃部	頁岩	40.9	
898	69㉔S A2	周溝	刃部	頁岩	65.2	
899	30㉔S A1	周溝	磨製石礫	緑色凝灰岩	1.1	
900	32㉔S A1	覆中	磨製石礫	凝灰砂岩	17.0	
901	3㉔S A2	床直	磨製石礫	凝灰岩	51.3	
902	32㉔S A1	床直	磨製石礫	凝灰岩	297.6	
903	C㉔S A13	貼床	磨製石礫	輝緑岩	208.0	
904	C㉔S A19	床直	磨製石礫	凝灰岩	487.0	検出面出土のものとの集合
905	4㉔S A1	覆土	太鼓形石礫	凝灰岩	187.9	扁平片刃石 赤か?
906	4㉔S A1	床直	太鼓形石礫	凝灰岩	345.6	
907	32㉔S A1	周溝	太鼓形石礫	凝灰岩	643.9	
908	50㉔S A10	床直	太鼓形石礫	凝灰岩	502.1	
909	52㉔S A3	床面	太鼓形石礫	凝灰岩	680.4	
910	63㉔S A11	周溝	太鼓形石礫	凝灰岩	946.5	
911	53㉔S A11	太鼓形石礫	太鼓形石礫	凝灰岩	557.3	
912	74㉔S A1	周溝	太鼓形石礫	凝灰岩	198.1	
913	60㉔S K3	太鼓形石礫	太鼓形石礫	凝灰岩	233.7	
914	30㉔S A1	床面	石錐	凝灰岩	455.7	

No	造替名	層位	器種	石材	重量[g]	備考
915	64㉔S A1	床直	石錐	凝灰岩	841.9	
916	B㉔S A4	砂	石錐	凝灰岩	542.3	太鼓形刃石 片の転用
917	C㉔S A20	床直	石錐	凝灰岩	889.8	
918	64㉔S K9	覆土	石錐	凝灰岩	487.7	
919	27㉔S D1	覆土	石錐	凝灰岩	791.6	
920	32㉔S A1	覆土	砥石	凝灰岩	70.0	
921	32㉔S A1	覆土	紡錘車	凝灰岩	4.9	
1056	32㉔S A2	床直	打製石礫	頁岩	2.2	
1057	62㉔S A1	覆土	打製石礫	頁岩	0.7	
1058	62㉔S A1	床直	打製石礫	流紋岩	1.9	
1059	B㉔S A3	覆土	打製石礫	流紋岩	8.7	
1060	B㉔S A7	覆土	打製石礫	粘板岩	1.1	
1061	C㉔S A2	中層	打製石礫	流紋岩	1.6	
1062	B㉔S A14	床面	磨製石礫	凝灰岩	274.3	
1063	C㉔S A23	床面	磨製石礫	凝灰岩	141.8	縄文時代の 磨製石片の転用
1064	C㉔S A6	覆土	太鼓形石礫	凝灰岩	554.0	
1065	C㉔S A4	覆上	似結核形	頁岩	318.2	
1066	B㉔S A3	床中	磨製石錐丁	頁岩	21.2	
1067	64㉔S J1	床中	石錐	凝灰岩	905.4	棺に近接して 出土
1068	79㉔S A2	覆土	石錐	凝灰岩	218.8	
1069	C㉔S A4	覆中	砥石	砂岩	764.9	
1070	B㉔S A10	床直	紡錘車	頁岩	34.2	
2607	61㉔S A5	床直	紡錘車	ホルンフェルス	61.1	
2608	C㉔S A11	床直	紡錘車	滑石	25.4	
2609	C㉔S A16	床面	紡錘車	滑石	48.1	
2610	C㉔S A17	床面	紡錘車	滑石	35.7	
2611	C㉔S A25	P1	紡錘車	滑石	81.0	
2612	53㉔S D5	覆土	紡錘車	砂岩	207.4	
2613	61㉔S A5	床直	砥石	凝灰岩	798.3	
2614	C㉔S A24	覆上	砥石	石礫片岩	23.9	持ち砥石
2615	C㉔S A11	覆土	凹石	安山岩	6250	
2616	B㉔S A6	床直	凹石	安山岩	5050	
2653	56㉔S A5	覆土	打製石礫	安山岩	22.2	
2654	C㉔S A4	貼床	磨製石礫	緑泥片岩	1.2	
2655	遺構外	B㉔	磨製石錐丁	頁岩	72.1	
2656	遺構外	60㉔	砥石	砂岩	148.0	
2657	61㉔SE1	覆土	砥石	安山岩	643.9	

表6 土製品観察表

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』の色名を表記した。

No	出土遺構	層位	器種	重量[g]	色調	備考
576	63㉔SA1	土鍋	302.3	にぶい黄橙		
577	E㉔SA4	覆中	土鍋	101.4	にぶい黄橙	
578	E㉔SA3	覆中	土鍋	23.2	にぶい黄橙	
579	遺構外	E㉔	土鍋	64.3	にぶい黄橙	
580	E㉔SA6	覆土	土鍋	20.3	灰黄褐	
581	遺構外	E㉔	土鍋	34.0	にぶい黄橙	
582	E㉔SA3	床直	土製円板	30.4	にぶい黄橙	
583	E㉔SA4	覆中	土製円板	8.7	灰褐	
584	E㉔SA6	床面	土製円板	10.3	灰黄褐	
585	遺構外	E㉔	土製円板	14.8	浅黄橙	

No	出土遺構	層位	器種	重量[g]	色調	備考
922	29㉔SA1	覆土	ミニチュア土器	42.2	にぶい黄橙	外面比倫文 飾彫刻文
923	32㉔SA1	覆土	土製円板	11.3	にぶい黄橙	土器片を加工 有孔
924	32㉔SA1	床直	土製円板	5.8	にぶい黄橙	土器片を加工 有孔
925	32㉔SA1	床直	土製円板	7.9	にぶい黄橙	土器片を加工 有孔
926	32㉔SA1	覆土	土製円板	14.1	にぶい黄橙	土器片を加工 有孔

No.	出土遺構	層位	器種	重量(g)	色調	備考
927	32① SA1	覆土	土製円板	2.5	にぶい・橙	土器片を加工有孔
928	32① SA1	覆土	土製円板	13.0	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
929	32① SA1	覆土	土製円板	9.9	にぶい・橙	土器片を加工有孔
930	32① SA1	覆土	土製円板	11.5	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
931	32① SA1	覆土	土製円板	8.1	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
932	32① SA1	覆土	土製円板	2.8	にぶい・橙	土器片を加工有孔
933	32① SA1	覆土	土製円板	2.1	にぶい・橙	土器片を加工有孔
934	32① SA1	床直	土製円板	3.7	にぶい・橙	土器片を加工有孔
935	32① SA1	覆土	土製円板	13.1	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
936	32① SA1	床面	土製円板	6.5	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
937	32① SA1	覆土	土製円板	3.7	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
938	32① SA1		土製円板	4.1	にぶい・橙	土器片を加工有孔
939	32① SA1		土製円板	1.6	にぶい・橙	土器片を加工有孔
940	32① SA1	覆土	土製円板	4.2	にぶい・橙	土器片を加工有孔
941	32① SA1	覆土	土製円板	3.2	にぶい・橙	土器片を加工有孔
942	32① SA1	覆土	土製円板	12.3	橙	土器片を加工片側穿孔は貫通しない
943	32① SA1	覆土	土製円板	13.8	にぶい・橙	土器片を加工片側穿孔は貫通しない
944	32① SA1		土製円板	1.5	にぶい・橙	土器片を加工有孔
945	32① SA1	覆土	土製円板	21.0	にぶい・橙	土器片を加工
946	32① SA1	覆土	土製円板	9.4	にぶい・橙	土器片を加工
947	32① SA1	覆土	土製円板	7.5	にぶい・橙	土器片を加工
948	32① SA1	覆土	土製円板	8.2	にぶい・橙	土器片を加工
949	32① SA1	床面	土製円板	4.9	にぶい・橙	土器片を加工
950	34① SA4	覆土	土製円板	11.6	灰黄褐	土器片を加工
951	37① SA1	床面	土製円板	7.5	黒褐	土器片を加工有孔
952	37① SA1	床直	土製円板	13.3	にぶい・黄	土器片を加工有孔
953	7① SA1	覆土	土製円板	8.3	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
954	7① SA1	床直	土製円板	5.5	にぶい・橙	土器片を加工有孔
955	B② SA5	覆土	土製円板	5.2	灰黄褐	土器片を加工有孔
956	C② SA20	床直	土製円板	12.5	にぶい・黄橙	土器片を加工両側穿孔は貫通しない
957	C② SA20	床直	土製円板	10.9	にぶい・黄橙	土器片を加工
958	C② SA27	覆土	土製円板	14.4	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
959	E① SA1	床直	土製円板	28.3	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
960	E① SA1	床直	土製円板	10.1	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔

No.	出土遺構	層位	器種	重量(g)	色調	備考
961	E① SA1	床直	土製円板	6.5	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
1571	51② SA2	床直	ミニチュア土器	36.2	にぶい・橙	
1572	55① SA3	覆土	ミニチュア土器	18.1	にぶい・黄橙	外面赤彩
1573	55② SA1		ミニチュア土器	8.4	にぶい・黄橙	内外面赤彩
1574	55② SA1		ミニチュア土器	16.2	にぶい・黄橙	
1575	57② SA5	覆土	ミニチュア土器	16.0	にぶい・橙	
1576	C② SA21	床直	ミニチュア土器	30.5	にぶい・赤褐	
1577	50② SA7	紡錘車		16.9	にぶい・黄橙	
1578	56② SA3	覆土	紡錘車	13.0	にぶい・黄橙	
1579	52② SA2		土製円板	6.9	黒灰	土器片を加工両側穿孔は貫通しない
1580	55② SA1		土製円板	2.8	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
1581	56② SA3	覆土	土製円板	36.1	にぶい・黄橙	土器片を加工有孔
1582	B② SA2	覆土	土製円板	17.1	灰黄褐	土器片を加工有孔
1583	51① SA1	覆土	壺	7.8	浅黄	
1911	48① SA1	覆土	ミニチュア土器	4.8	にぶい・褐	
1912	57① SA3	床面	ミニチュア土器	3.8	にぶい・黄橙	
1913	57① SA3	覆土	ミニチュア土器	14.3	浅黄	外面赤彩
1914	57① SA3	床面	ミニチュア土器	26.9	にぶい・黄橙	外面赤彩ミガキ
1915	60② SA3	覆土	ミニチュア土器	9.4	にぶい・黄橙	
1916	79① SA5	床面	ミニチュア土器	6.8	にぶい・黄	
1917	C② SA16	覆土	ミニチュア土器	21.9	にぶい・褐	
1918	C② SA16	覆土	ミニチュア土器	26.6	にぶい・橙	
1919	50① SD2		ミニチュア土器	12.0	橙	
1920	50① SD2	覆土	ミニチュア土器	39.8	にぶい・黄	
1921	50② SD3	覆土	ミニチュア土器	40.5	にぶい・黄橙	
1922	C① SX1	床直	ミニチュア土器	16.0	にぶい・黄橙	弥生後期か?
1923	57① SA3	覆土	紡錘車?	21.9	にぶい・黄橙	球形
2617	33① SA1	床面	ミニチュア土器	18.0	にぶい・黄橙	
2618	50① SA2	床面	ミニチュア土器	63.1	浅黄	
2619	57① SA2	覆土	ミニチュア土器	13.4	にぶい・橙	
2620	C① SA24	覆下	ミニチュア土器	18.7	にぶい・橙	内面黒色処理
2621	23① SD1	床直	ミニチュア土器	4.5	にぶい・黄橙	
2622	71① SD2	覆土	ミニチュア土器	9.5	にぶい・黄橙	
2623	C① SA26	覆土	ミニチュア土器	23.5	にぶい・褐	

No	出土遺構	層位	器種	重量(g)	色調	備考
2624	62㉔SU2		羽目I	33.9	にぶい青	高杯胴部の転用か？
2625	C①SA3		胎	33.4	にぶい黄青	内外面赤彩 作風に伴わないか？

No	出土遺構	層位	器種	重量(g)	色調	備考
2638	遺構外	C①	紡錘車	17.3	黄灰	有孔
2659	遺構外	43㉔	土製円板	18.8	浅黄	穿孔2ヶ所残る

表7 装身具観察表

No	出土遺構	層位	器種	材質	重量(g)	備考
63㉔SK4	覆土	玉	琥珀			破片に損壊しており、計測不能。
575 E②SA6	覆土	垂玉	チャート	2.9		
962 32㉔SA1	床面	?	磁器片	3.7		陶丸の二等辺三角形を呈する。彫刻の両端に凹孔を有し、他の辺には細かな刻みが施される。
963 64㉔SA1	床直	管玉	碧玉	1.3		
964 C②SA20	覆土	管玉	碧玉	0.2		
965 61㉔SJ7		管玉	碧玉	0.3		
966 61㉔SJ7		管玉	碧玉	0.2		
967 61㉔SJ7		管玉	碧玉	0.3		61㉔SJ7の重量より出土する。
968 61㉔SJ5		管玉	碧玉	2.0		
969 61㉔SJ5		管玉	碧玉	2.4		
970 61㉔SJ5	覆土	管玉	碧玉	3.8		
971 61㉔SJ5		管玉	碧玉	3.8		
972 61㉔SJ5		管玉	碧玉	3.7		
1584 61㉔SA6	覆土	管玉	碧玉	2.7		
1585 79㉔SA2	覆土	管玉	碧玉	0.2		
1586 C②SA17	床	管玉	碧玉	0.4		
1587 55㉔SD6	覆土	管玉	琥珀石	0.3		
1588 61㉔SA8		勾玉	翡翠	0.4		平現状勾玉
1589 64㉔SJ1	遺物内	勾玉	翡翠	0.6		平現状勾玉
1590 B②SA2	床直	勾玉	瑪瑙	1.4		
1591 C②SA4	覆土	勾玉	土	11.2		赤彩
1592 48㉔SD22	主体部床直	勾玉	翡翠	21.7		曲に近接して出土
1593 48㉔SD21	主体部覆土	小玉	ガラス	0.4		
1594 48㉔SD21	主体部床面	小玉	ガラス	0.2		
1595 48㉔SD21	主体部床面	小玉	ガラス	0.2		
1596 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1597 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1598 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.4		
1599 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1600 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1601 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1602 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1603 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1604 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1605 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		

No	出土遺構	層位	器種	材質	重量(g)	備考
1606 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1607 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1608 48㉔SD21	主体部床面	小玉	ガラス	0.1		
1609 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1610 48㉔SD21	主体部覆土	小玉	ガラス	0.5		
1611 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1612 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1613 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1614 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1615 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1616 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.4		
1617 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1618 48㉔SD21	主体部床面	小玉	ガラス	0.2		
1619 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1620 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1621 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1622 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1623 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1624 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.3		
1625 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.4		
1626 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.3		
1627 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.5		
1628 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.3		
1629 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1630 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		
1631 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1632 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.3		
1633 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.2		
1634 48㉔SD21	主体部床直	小玉	ガラス	0.1		

No.	出土遺構	層位	器種	材質	径φ	備考
1635	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1636	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1637	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1638	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1639	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1640	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1641	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1642	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1643	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1644	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1645	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1646	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1647	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1648	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1649	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1650	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1651	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1652	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1653	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1654	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1655	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1656	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1657	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1658	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1659	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1660	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1661	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1662	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1663	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1664	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1665	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1666	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1667	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1668	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1669	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1670	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1671	48㉔ SDZ2	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.2	
1672	48㉔ SDZ2	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.3	
1673	48㉔ SDZ1	主体部 床直	銅鍍	青銅	2.0	
1674	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	1.2	
1675	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	1.7	
1676	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.9	
1677	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	1.7	
1678	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	2.5	
1679	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	3.8	
1680	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	1.0	
1681	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.3	
1682	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.1	
1683	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.8	
1684	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.1	
1685	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.3	
1686	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.7	
1687	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.6	
1688	48㉔ SDZ1	主体部 床直	鉄鍍	鉄	0.1	
1924	63㉔ SD2	覆土	石鍍	総輪器	9.7	
1925	61㉔ SA9	小玉	碧玉	0.1		
1926	61㉔ SA9	覆土	碧玉	碧玉	2.5	
1927	C① SA30	床直	白玉	磨石	2.7	
1928	63㉔ SD2	覆土	碧玉	総輪器	3.8	
1929	65㉔ SDZ1	床直	碧玉	碧玉	1.1	
1930	50㉔ SD2	覆土	碧玉	碧玉	0.2	
1931	60㉔ SA3	床直上	勾玉	雲母	1.0	未製品
2626	C① SA11	床直上	白玉	磨石	0.1	
2627	C① SA13	床直上	白玉	磨石	2.7	
2628	55㉔ SA1	覆土	碧玉	磨石	0.6	
2629	C① SA9	覆土	碧玉	碧玉	5.5	
2630	C① SA10	覆土	碧玉	碧玉	0.7	
2631	C① SA10	火床前	碧玉	碧玉	0.2	
2632	56㉔ SA1	覆土	勾玉	土	37.5	
2633	57㉔ SA2	床直上	勾玉	磨石	0.6	
2634	C① SA16	覆土	耳環	青銅	10.2	金箔が一部残存する。
2660	50㉔ SP50	覆土	白玉	頁岩	0.2	
2661	32㉔ SP1	覆土	碧玉	碧玉	6.2	
2662	遺構外	61㉔	碧玉	碧玉	4.9	61㉔ S J 3 に伴う可能性が高い。
2663	遺構外	C①	碧玉	碧玉	0.6	
2664	遺構外	32㉔	碧玉	碧玉	0.2	
2665	遺構外	C①	垂飾品	頁岩	16.9	

表8 石製品

遺構	時期	器種																備考					
		打製石鏃	打製石鏃	打製石斧	刀鏃	石匙	石楯	原石	磨石	磨石	凹石	石皿	多孔石	高台土器	磨製石鏃	磨製石鏃	磨製石鏃		石鏃	砥石	知由羅		
45②S A1	縄中																				1		
45②S A2	縄中			1	1			1														1	
45②S A5	縄中					1		1			1										1	2	
45②S A7	縄中			1							1									1			
63②S A1	縄中	2																					
63②S A2	縄中			1							1		1										
63②S A3	縄中			2	1																		
E②S A2	縄中	1		3				2															3
E②S A3	縄中	3		20	6	2	4	1															9
E②S A4	縄中	1		8				6	5														5
E②S A5	縄中	8		4	1	2	7	1			1		1										6
E②S A6	縄中	9	1	7				2			1		1										2
E②S A8	縄中	1		1																			異形石器1 P6内
63②S K1	縄中	1																					
63②S K2	縄中	1																					
E②S K8	縄中				2																		石鏃? 1
E②S K47	縄中										1	1											
45②S D1	縄中				2																		5
3①S A1	弥中					1				1													
3①S A2	弥中			1																			1
4①S A1	弥中	2			3		1	1													2		6
10①S A1	弥中	1																					
25①S A1	弥中					2																	
29①S A1	弥中					1																	
29①S A2	弥中																						1
30①S A1	弥中																						1
32①S A1	弥中	10	4		10		39	3	1						1	1	1	2				5	薄片類が多数出土
50①S A10	弥中					1																	1
52②S A1	弥中	1				1		1															
52②S A3	弥中	1				1																	1
53②S A3	弥中	2																					2
53②S A7	弥中																						1
53②S A11	弥中	4				1																	1
61①S J2	弥中																						1
64①S A1	弥中	1				5		4															5
64①S A2	弥中	1				1																	3
65①S A1	弥中	3				1		1		1													4
69①S A1	弥中	1				4		1															6
69①S A2	弥中					1																	
74①S A1	弥中	1				1		2															5
74①S A2	弥中																						1
75①S A1	弥中																						3
B②S A4	弥中																						1
B②S A5	弥中	1																					2
B②S A6	弥中	4				2		2															4
C②S A14	弥中					1																	1
C②S A19	弥中	1				2																	3
C②S A20	弥中																						1
E①S A1	弥中																						1

第IV章 まとめ

第1節 集落の変遷

これまで報告してきたように、調査では縄文時代中期から中世に至るまでの多くの遺構が検出され、檀田遺跡が長期間にわたって断続的に営まれた集落遺跡であることが明らかとなった。遺跡の範囲は現在の檀田地籍の範囲とはほぼ重なり、調査区は遺跡の東側2/3に対して大規模なトレンチを入れたような状況を呈している。調査では多くの遺構と共にかつての河道の痕跡が検出されたが、集落が存続していた時期の大半は窪地の状態であったと思われ、遺構は河道を避けた2カ所の微高地上に構築されている様子が看取された。本節ではこれらの成果をふまえて、各時期における集落の様相をまとめてみたい。

1 縄文時代中期

竪穴住居18軒、土坑6基、小穴2基、墓4基、溝1条、埋塞4基、環状列石1基を報告した。北東微高地からは遺構にともなわいながらも前期に遡る土器が出土しており、集落の形成は近隣の松ノ木田遺跡や浅川端遺跡と同じ前期段階より開始している可能性もあるが、集落として認識されるのは縄文時代中期になってからで、遺構は南西微高地の45区・63区・E区付近を中心に分布している。

竪穴住居の平面形は円形～小判形を呈する円形基調のものと、隅丸方形を呈するものがあるが規格的な形態は認められない。検出状況が良好なものについてその内部構造をみると、45②SA5、E②SA3・4・5・7・

8では中央付近にわずかな掘り込みをとまなう炬が敷設され、主柱は炬を囲むように壁沿いに配置されている。これに対し63②SA1は6本の主柱穴が住居の主軸に平行して配列され、間仕切り溝状の掘り込みがそれらを繋ぐように掘り込まれており特徴的である。この住居からの出土土器量は少ないものの、北西辺付近から市内出土の中でも最大規模の土偶が出土し、またK7からは琥珀玉1個体が出土している。土偶は右手、左手先端、両足先端部と頭部を欠くもので、体部全面に

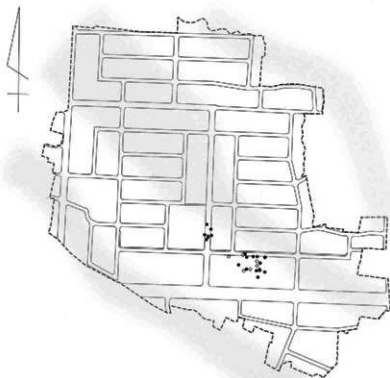


図20 縄文時代中期の主要遺構配置

凹線により文様が施される。乳房および腹部はふくらんでいるものの、臀部の表現は凹線のみである。頭部は欠損しているが、おそらくは河童型土偶に分類できる資料であろう。長野県中野市蛇ヶ沢遺跡（中野市教委1983）出土の資料に近似する。琥珀玉は検出時から脆弱な状態であり、取り上げ後に完全に瓦解したために実測不能となってしまった。これらに住居出土遺物に加え、近くに特殊な土器を埋納した埋壙遺構（63②SR1）があることからこの住居が檀田ムラの祭祀を司るシャーマン的人物に関係する建物である可能性が考えられる。

E区2次面北西で見つかったE②SN1は、環状列石として市内で初の検出例である。人腰丈の石が環状に並び、それらの石を支えるように外側には一回り小型の石が基部に据えられている箇所もある。さらに小型の拳大から人頭大の河原石が内側に敷き詰められている。立石のほとんどが倒れた状態で検出されているが、中央部の数個が立ったままの状態で検出されており、これらはほぼ原位置を保っているものと推測される。土層断面を検討すると、砂質土層がいくらか遺構を覆うように堆積した後、遺構を挟んで西側は小礫や砂質の層が幾重にも重複しており、その東側は調査区他の地点同様に粘質土がほぼ水平に堆積する。このことから、この遺構の西側には当時河川が存在しており、その氾濫原に構築された遺構であると考えられる。さらに当遺構を境に土層の堆積状況に大きな違いが見られるのは、河川が氾濫した際に土砂が立石に遮られ、それを越えることができずに立石の西側でよどみのように堆積したものと解釈できる。本遺構付近では砂層と礫層が厚く堆積していることから、当時河川の氾濫があったことを推測できる。石に張り付くような状態で検出した土器片は遺構にともなうものなのか、あるいは他の場所から流されてここに移動してきたものなのかは明言できないが、この土器が意識的に打ち欠いたようにきれいに底部付近のみが欠損すること、さらに同じように遺構上面に堆積した砂質土層除去の段階で出土した別個体の土器が、器形は先述の土器と同様の唐草文形土器のものであるにもかかわらず、文様が全く施されていない特異な土器であることを鑑みると、意識的に土器を選択し、粉碎した後遺構上に散布したとも捉えられる。

2 弥生時代中期

弥生時代中期後半のいわゆる栗林式段階の竪穴住居41軒、土坑8基、墓10基、溝2条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構4ヶ所を報告した。出土した土器には胴部に櫛描の横羽状文が多用された甕や、頭部から胴部を縦・櫛によって横位多段に施文した壺が多くあり、総体的には寺島孝典編年（註1）の栗林式古

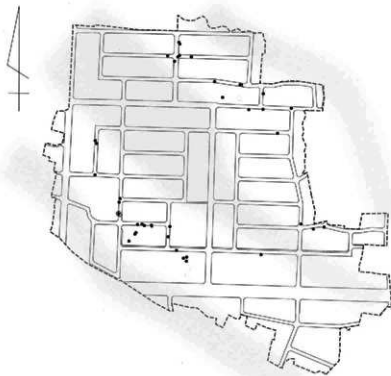


図21 弥生時代中期の主要遺構配置

段階に集落の盛期があったことが窺われるが、南西微高地のC②SA13・19・20から出土した壺に施された口縁部外面への縄文(788・812)や頸部～胴部への指頭印文(773・815)・結縄文(815)文などの中期前半に特徴的な文様を古い要素と見るならば栗林式の初現期には集落の形成が始まっていることとなる。集落は中段階新相を前後する時期に比定される10①SA1・32①SA1を最後にいったん途絶えるようである。

竪穴住居は両微高地上からはほぼ半数ずつが検出され、微高地ごとに居住域が形成されていた状況が看取される。複数の居住域が同時併存していたのは該期だけであるが、先述した比較的時期の新しい住居が検出されたのは北東微高地上であり、両者の継続期間には若干の差違があったかもしれない。浅川扇状地上で同時期に営まれていたと考えられる集落は、牟礼バイパスD地点遺跡(長野市教委1986)や浅川端遺跡(長野市教委1988)で検出されているが、いずれも検出住居数は10軒に満たない小規模集落である。本遺跡では2ヶ所の微高地にまたがっているとはいえ40軒を超える住居がまとまっており、その規模からこれらの集落に対する拠点の集落であった可能性が高い。出土土器中に中期後半段階としては珍しい北陸系土器(686・769・770)を含んでいることも、このような集落の性格を反映したものと言えよう。

南西微高地の61区2次面では、礎床木棺墓を主体とする9基の木棺墓が集中して構築された墓域を検出した。各木棺墓は近接して構築されており、分布域はさらに西方に広がって総数は10基を超えると予想される。木棺墓の規模は墓坑長2m前後、棺長1.4～1.5mとほぼ均一であるが、主軸の方向は北西～南東を示すSJ1～4・8・9と、これに直交する北東～南西のSJ5～7の2つに分かれる。木棺構造はすべて両短辺に小口穴が残る福永伸哉分類(福永1985)のI a類を採用するが、棺床については礎数のSJ1～3・6～9と、非礎数のSJ4・5の2種が認められる。副葬品は礎数のSJ7から細形の管玉3点、非礎数のSJ5から太形の管玉5点が出土した(註2)。各木棺墓間には規模や配置に均一性が認められ、この墓域が集団墓地的な性格であったことが看取される。構造や副葬品に認められる差違は、身分・地位の誇示というよりも集落内における被葬者の立場が表現されたものと考えられよう。時期を示す土器の出土はなかったが、該期集落の墓域が居住域に近接する位置に設けられる(青木1991)ことからすれば、これらの木棺墓群は南西微高地の居住域に対応する墓域と考えられる。墓が検出されなかった北東微高地でも同様の墓域が造営されている可能性が高い。

出土遺物で注目されるのは、53②SA11・75①SA1・C①SA20で検出された器形が大きく歪んだり器面が変色した土器である。53②SA11出土の724はその中でも特に変形・変色が著しく、そのさまはあたかも土器内部で爆発が起きたかのようなものである。これらの変化は被熱により生じたものと思われ、これを裏付けるかのように出土住居では炭や炭化材が検出されている。住居の焼失もしくは内部での火焼き行為の際の被熱が原因の一つとして考えられるが、変形・変色が生じた土器は出土土器の一部であること、他の時期の焼失住居および炉やカマドにおける煮炊きに用いられた土器には同様の変化が起きていないことなどを考慮すると、その火熱は特殊な状況下で加えられた相当に強いものであったと思われる。なお同じ特徴を示す土器は松原遺跡(長野県埋文1997)や差出遺跡(長野市教委2003)でも報告されている。両遺跡例とも時期的に後出しており、差出遺跡例が井戸に投棄されたものであったのに対して、松原遺跡例では出土遺構のSB129内部で火焼き行為が認められる本遺跡と同様の検出事例となっている。

3 弥生時代後期

竪穴住居70軒、土坑1基、環状溝1条、墓14基、溝6条、包含屑落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所を報告した。後期後半の箱清水式期中頃を盛期とする集落を検出しているが、それ以前では箱清水初現期の25①SJ1や遺構外からの出土ながら後期初頭吉田式期の様相を示す1547が認められ、弥生中期後半に続く集落の再形成は後期前半にまで遡る可能性もある。



図 22 弥生時代後期の主要遺構配置

居住域は南西微高地西半に展開しており、全長8mを越す大型竪穴住居が集中するC区付近にその中心があったと推測される。炭・炭化材が多量に出土して焼失住居と考えられた住居は7軒検出され、このうちのB②SA9・C②SA2では奥壁中央付近の炭直上でベンガラが直径約10cmの円形にまとまって検出されている。検出状況から、ベンガラは焼失直後の炭上に人為的に撒かれたと推察される。住居焼失にともなう一種の祭祀行為であったと思われるが、類例も少ないことからこれが行われない焼失住居と

の差違は見いだせていない。

墓には土坑墓、土器棺墓、円形周溝墓が認められたが、最も多く検出されたのは円形周溝墓で、10基が見つかった。墓の分布には偏在性があり、南西微高地東側の48区では土坑墓1基、土器棺墓1基、円形周溝墓7基が重複しながら密集するのに対してその他は北東微高地に散在する。いずれも地形的に旧河道を挟んで居住域と隔絶された場所に選地されており、構築場所が墓域として認識されていたものと推測される。構築時期は居住域と同じ後期中頃に盛期があったと思われるが、出土土器の様相や遺構検出状況から居住域の年代よりも後出的な要素が指摘される48①SDZ5や19①SDZ1などは、次項に含めた竪穴住居との関連性も考慮する必要があると思われる。

出土遺物の特徴としては、外来要素を含む遺物が多く出土したことが挙げられる。土器では北陸系および東海系のものが認められた。量的に主体を占めているのは圧倒的に前者であり、後者は同一個体の破片である1234・1336のみと客体的な存在である。北陸系土器は北陸編年の法仏式段階におおむね相当する。千野浩編年(千野1989)の3段階・青木一男編年(青木1999)の4段階に相当する遺構で確実な共存関係が認められ、同じく北陸系土器が多く出土した本村東沖遺跡(長野市教委1993b)と同様な併行関係が確認された。細部の作りや胎土から大部分は北陸地方の土器を模して在地で製作されたと思われる点も本村東沖遺跡例と同様である。東海系の1234・1336は胎土が在地の土器とは明らかに異質であることから搬入品の可能性が高いが、いずれも覆土からの出土で住居との共存性には検討の余地がある。石器ではC②SA4から安山岩製の挟入柱状片刃石斧(1565)が出土している。刃部は刃こぼれを起こし、両端が縦方向に剥離したように欠損しているが、遺存状況は良好である。下条信行の

形態分類（下条1997）に従えばD型式（註3）にあたり、弥生時代前期末～中期初頭に瀬戸内・山陰・関西・東海そして日本海側の山陰・北陸まで広く分布するという。長野県下では原則的に石器組成に入らない器種（町田勝則・百瀬長秀1997、福宜田2002）（註4）であることから搬入品と判断されるが、先の年代に相当する時期の遺構は檀田遺跡のみならず周辺遺跡にも存在しておらず、石斧と出土遺構の年代差が大きな問題となる。出土位置が床面から30cm上位の覆土中であることを積極的に評価し、混入品として前段階の弥生時代中期後半に使用時期を求めても、なおその間きは大きい。いつどのように檀田遺跡にもたらされ使用されたのか現状から判断することは困難であり、類例の増加を待ってさらなる検討が必要となろう。

48区円形周溝基の副葬品である銅鏃・鉄剣や翡翠製勾玉は、周辺遺跡のそれと比較しても高度な内容を有しており、被葬者の地位の高さを窺わせるものである。これらは檀田遺跡の集落だけでなくより広い範囲に向けて自らの地位を誇示していたものと思われ、その背景には居住域における北陸系土器の大量保有に見られるような北陸地方との強い結びつきがあったことも推測されよう。

4 古墳時代前期～中期

古墳時代前期初頭から中期前半に属する竪穴住居20軒、掘立柱建物1棟、土坑1基、墓3基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構3ヶ所を報告した。この時期の浅川扇状地上では、集落の出現が単発的になる傾向があるが、檀田遺跡では調査範囲の大きさもあって居住域を移動させつつ継続的に集落が営まれる状況が認められた。

まず前期初頭～中葉では弥生時代後期と同じく南西微高地西側に居住域、北東微高地に墓域をおいている。墓域としたのは65・74・75区において検出された3基の周溝墓群であるが、前項で当期の竪穴住居との関連性を考

慮した周溝墓の48①SDZ5・19①SDZ1を含めても同様の遺地傾向がある。3基の周溝墓は墳丘が完全に削平されて主体部は明らかにされていないが、平面形態は65②SDZ1が前方後方形、75①SDZ1・4が方形を呈する。いずれの周溝覆土も壁面～底面上に10cm程度堆積する黒色粘質土上に大量の黄色砂質土がのっており、3者がほぼ同時期に埋没したと推測される。遺物は黒色粘質土中に少量含まれており、65②SDZ1では土師器甕（1800）と管玉（1929）、75①SDZ4では土師器甕

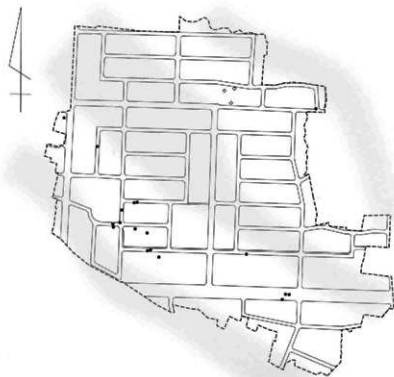


図23 古墳時代前期～中期の主要遺構配置

(1801・1802)を図示した。土器の様相からおおむね前期中葉の所産と判断される。地山に接する土層から出土していることを考慮すれば遺物の示す年代が構築年代に近似すると思われるが、出土状況が明瞭でないために埋葬時の葬送儀礼に用いられたものかどうかは判然としない。善光寺平における前期の周溝墓は千曲川自然堤防上に立地するものが多く知られており、篠ノ井遺跡群聖川堤防地点(長野市教委1992)では開口部を有する方形周溝墓から前方後方形周溝墓への変遷過程が捉えられている。65②SDZ1は聖川堤防地点で最も新しいSDZ3と類似した墳丘形態で、構築時期もほぼ同時期の所産と推定される。浅川扇状地上では扇端に近い吉田地区で可能性のあるものも含めて4基の周溝墓が報告されている(長野市教委1996・1997・1999)が、これらの出土土器および平面形態をみると本遺跡検出例よりも古相を示すものが多く、浅川扇状地上においても聖川堤防地点と同様の変遷を辿っていた可能性が高い。

前期後葉になると弥生時代後期以来の選地意識に変化が生じ、それまで墓域であった南西微高地東半に居住域が展開する。墓は検出されていないが、南西微高地の北東側縁辺部に位置する63①SD2からは通常古墳の副葬品として用いられる緑色凝灰岩製石鋼が出土した。63①SD2は幅60cm前後、検出面からの掘り込みが90cm未満と小規模であるが検出長は約56mと長い。石鋼は東端から約9m西の底面から出土した。全体の1/12程度が残存しており、破断面の研磨など二次加工された痕跡は認められない。斜面に施された放射状幅細沈線中には幅広沈線が挿入され、側面には2段の匙面を有することから蒲原宏行分類(蒲原1991)のⅢa'類に相当するが、その形状からより後出的なものと判断される。北條芳隆によれば、「腕輪形石製品をもちいた祭祀には、古墳での場合と、集落ないしは溝の場合の2形態が併存し」、後者の場合「例外なく破砕埋納されるという取り扱い上の共通性が認められ」

、「こうした現象は4世紀の第4四半期に限定され」という(北條1994)。本遺跡の場合、出土遺構の年代や石鋼の出土状況に北條の指摘との共通点があり、本遺跡における祭祀行為の存在を窺わせるが、調査所見ではその痕跡は見いだせていない。ただし、同じ溝内の石鋼出土地点より20m西方では損壊した管玉(1928)が出土していることは長野市石川条里遺跡(長野県埋文1997)に通じて示唆的であり注意を要する。

中期になると再び選地意識は変化し、堅穴住居は北東微高地上にまで構

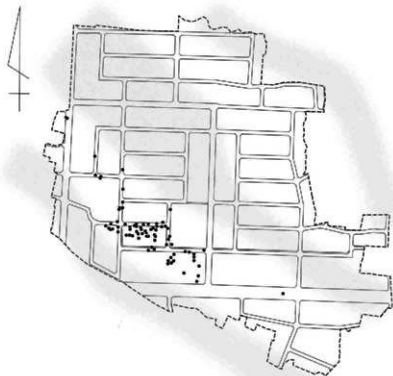


図24 古墳時代後期の主要遺構配置

築されている。ただし検出されたのは6①SA1のみであることから居住域と呼べるほどの展開は見せていない。6①SA1より新しい57①SA3は再び南西微高地上に構築されている。57①SA3は中期段階で唯一カマドを有する竪穴住居であり、浅川扇状地でも早い段階のカマド導入事例として評価される。

5 古墳時代後期

古墳時代後期中葉から奈良時代初頭までの竪穴住居90軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所を報告した。該期にはそれまで継続的な土地利用が認められた北東微高地上に明確な遺構が検出されなくなる一方、遺構は南西微高地上に集中して構築されるようになる。それまで地形上の制約から遺構空白域となっていた中央河道に溝などの小規模遺構が検出され、窪地への土砂の堆積が進行していた様子が看取されることから、選地場所の集中した背景には自然的な要因があったのかもしれない。南西微高地上は住居を中心とする居住域として利用されており、その規模は本遺跡でも最大のものとなっている。特に微高地西平は他の時期にそれ程多くない住居相互の切り合い関係が頻繁に認められるほど集中しており、活発な住居の構築が行われたものと推察される。集落の盛期は後期後葉にあり、この時期の検出住居数は全体のおよそ7割を占めている。

竪穴住居は規模により一辺の長さが7mを超える大型、3.5mに満たない小型、この中間の中型に分類される。中～大型の住居は北～北西に主軸をとる隅丸方形を呈し、4本主柱で主軸方向の辺上にカマドを敷設するという該期に一般的な形態を呈する。本遺跡では同一住居内でカマドを移動させている事例が他の遺跡と比較して多く観察され、57①SA2、C①SA5・7では実に3基のカマドが検出された。また、火床に平石を敷き詰めたC①SA9や、支脚に土製品を用いたC①SA16など検出例の少ないカマド形態も認められ、本遺跡におけるカマドの多様性を示している。53①SA3、C①SA4・6・12に代表される小型の住居では柱穴が不明瞭な横長方形を呈し、カマドが隅に敷設される傾向がある。

カマドは住居廃絶時に破壊を受けて本来の姿は残されていないが、燃焼部を囲む袖の構築方法によって①粘土あるいは地山削り出しによるもの、②石を芯材にしたものに大きく二分される(註5)。カマドが検出された70軒のうち、①が12軒、②が44軒を数え、残りの14軒については痕跡の検出のみにとどまった。時期の判別が可能な住居について①と②の比率を見ると、中葉ではおよそ4:6となるのに対して後葉ではおよそ2:8となる。周辺遺跡におけるカマド袖部の構築方法をみると、まず古墳時代中期後半の牟礼バイパスB地点遺跡(長野市教委1986)・本村東沖遺跡ではすべての住居が①を採用している。次段階の後期前葉のカマド検出事例は少ないが三輪遺跡(長野市教委1980)、牟礼バイパスB地点遺跡・吉田古屋敷遺跡(長野市教委1996)では①と②が共に検出されている。これらのことから浅川扇状地におけるカマド構築は①に始まり、②が後期前葉頃を境として登場して後期中葉～後葉に徐々に②の比率を増していく過程を読みとることが可能である。ただし、②が①に取って変わることはなかったようで、吉田古屋敷遺跡では奈良時代初頭に天井石の支えに倒立させた甕を用いた広い意味で①に類するカマドが検出されている。なお、千曲川自然堤防上に立地する拠点集落の榎田遺跡(長野県埋文1999)では、古墳時代を通じて①が採用され続け、②が出現するのは奈良時代以降のことである。浅川扇状地とは対照的なあり方であり、カマドの構築方法が遺跡立地により大きく異なっている点が興味深い。

該期の集落はこれまでに知られている浅川扇状地上の集落と比較すると規模も大きく、周辺地域の拠点集落としての性格を窺わせる。古墳時代中期後半から後期前葉の集落断絶期間には、同時期に最盛期を迎える本村東沖遺跡へ人々の営みが移動していたと推察される。

6 平安時代～中世

掘立柱建物10棟、土坑1基、土坑墓1基、溝4条、井戸11基、包含層落ち込み1ヶ所を報告した。当期に充てた遺

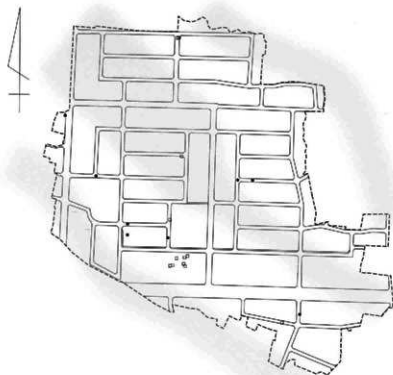


図 25 平安時代～中世の主要遺構配置

構はおしなべて出土遺物が少量であったため、周辺遺構との切り合い関係や覆土の色調が時期判断の大きな要素となった。このため、「少なくとも古墳時代後期よりは新しい」という消極的な時期判断が下される遺構も多く、時期を細分しての集落構造の把握には至っていない。

平安時代に帰属する居住域は、第1次調査区(長野市教委1991)や隣接遺跡で見つかっているものの、調査地での有無は判然としない。確実に平安時代に所属すると判断されたのは、中央の旧河道上に開削された16①SD

1である。16①SD1の出土遺物には墨書土器が2点含まれ、このうちの2643は破片資料のため全体に記された文字数は明らかでないが、遺存範囲内では「有」の1文字が判読される。これが現在の檀田地積に残る字名の「有無」の一部だとすれば、須恵器が示す9世紀代までその存在をさかのぼらせることになり注意を要する。

中世ではC区1次面において弥生時代後期・古墳時代後期の遺構を削平するC①SU3を検出した。遺構名称は包含層落ち込みとして扱っているが、古墳時代後期のC①SA12が検出された付近は鳥状の高まりを残しており、人為的な掘り込みの可能性が高い。覆土からは須恵器・土師器・青磁といった平安時代～中世の遺物と共に、石が多く認められた。特に遺構北側では人頭大から一抱えもあろうかという大ぶりの石が集中し、斜面に人為的に積み上げたかのような状況を呈している。その意図するところは判然としないが、C①SU3を池状の掘り込みと考えれば縁を護岸するための石垣状施設と考えることも可能である。

注

- 1 寺島は1999論文において葉林期を古段階古相、古段階新相、中段階古相、中段階新相、新段階の5段階に区分したが、2001論文で本人が指摘しているように古段階の2区分は曖昧を残すものであった。よって本書では古段階を一括して4段階区分としている(松原道隆編年(長野市教委1993a)を参考している)。
- 2 検出出土の管玉(2662)は出土位置からSJ5にともなう可能性が高く、これを含めればSJ5には6点の管玉が副葬されていたことになる。また61①SA8から出土した半塊状勾玉1点はこれが破壊する確率のSJ3・4・9のいずれかにもともなうと予想される。
- 3 D型式の主要な形態的特徴として、窪鉢型→トンネル型の横断面形や、幅の狭い基部などを挙げている。
- 4 長野県史刊行会1988には檀田遺跡の北方に隣接する神楽橋遺跡出土の抉入柱状片刃石斧が紹介されている。横断面形が横方向に

長い胴型となる下条分類のF型式で、本遺跡出土のD型式よりも後出する形態である。正式報告はなく詳細は不明であるため、本書では註で振れるにとどめている。

- 5 ①は軸先端に天井石を支える石材の有無による細分が可能であるが、遺存状況によってはその判別が難しいことから一分類として扱っている。また②についてはカマドに使用されたと思われる石が住居内に散乱していた場合も含んでいる。

引用・参考文献

- 青木一男 1991 「千曲川流域の扇溝墓堂書」『長野県考古学会誌』63 長野県考古学会
青木一男 1999 「長野盆地南部の後期土器編年（発表メモ）」『長野県の弥生土器編年』 長野県考古学会
藤原宏行 1991 「腕輪形石製品」『古墳時代の研究 8 古墳Ⅱ 副葬品』 雄山閣出版
下条信行 1997 「柱状片刃石斧について」『伊達先生古希記念古文化論叢』 伊達先生古希記念論集刊行会
千野 浩 1989 「千曲川水系における後期弥生式土器の変遷」『信濃』41-4 信濃史学会
寺島孝典 1999 「長野盆地南部の様相」『長野県の弥生土器編年』 長野県考古学会
寺島孝典 2001 「成立期の栗林式土器」『長野県考古学会誌』93-94 長野県考古学会
長野県史刊行会 1988 「長野県史考古資料編 全一巻（4） 遺構・遺物」
長野県埋蔵文化財センター 1997 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15-長野市内その3- 石川条里遺跡」 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書26
長野県埋蔵文化財センター 1998 「上信越自動車道埋蔵文化財報告書5-長野市内 その3- 松原遺跡 弥生・総論6 弥生後期・古墳前期」 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書36
長野県埋蔵文化財センター 1999 「上信越自動車道埋蔵文化財報告書12-長野市内 その10- 榎田遺跡」(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書37
中野市教育委員会 1983 「礎ヶ沢」
長野市教育委員会 1980 「三輪遺跡-三輪小学校地点遺跡第1〜3次調査報告-／付 水内生一元神社(御原小学校)遺跡調査報告」 長野市の埋蔵文化財第6集
長野市教育委員会 1986 「浅川扇状地遺跡群-牟礼バイパスB・C・D地点遺跡-」 長野市の埋蔵文化財第17集
長野市教育委員会 1988 「浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡」 長野市の埋蔵文化財第29集
長野市教育委員会 1991 「小島・柳原遺跡群 中俣遺跡／浅川扇状地遺跡群 押鎌遺跡・榎田遺跡」 長野市の埋蔵文化財第41集
長野市教育委員会 1993a 「松原遺跡Ⅲ」 長野市の埋蔵文化財第58集
長野市教育委員会 1993b 「浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡」 長野市の埋蔵文化財第50集
長野市教育委員会 1996 「浅川扇状地遺跡群 吉田四ヶ屋遺跡／浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(6)／碓原遺跡」 長野市の埋蔵文化財第75集
長野市教育委員会 1997 「浅川扇状地遺跡群 吉田古原敷遺跡」 長野市の埋蔵文化財第84集
長野市教育委員会 1999 「平成10年度の調査 4 浅川扇状地遺跡群 吉田古原敷遺跡」『長野市埋蔵文化財センター所報』No.10
長野市教育委員会 2003 「浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡(2)／安茂里遺跡群 差出遺跡・三合塚西古墳／石川条里遺跡(10)」 長野市の埋蔵文化財第102集
横山田佳男 2002 「石器組成」『考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器』 小学館
東日本埋蔵文化財研究会 2000 「第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生後期の土器編年」
福永伸哉 1985 「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』32-1 考古学研究会
北條芳隆 1994 「石川条里遺跡と腕輪形石製品」『中部高地の考古学Ⅳ 長野県考古学会30周年記念論文集』 長野県考古学会
町田勝則・百瀬長秀 1997 「20 長野県の石器」『農耕開始期の石器組成4 中部・近畿(三重・滋賀・京都・奈良・和歌山)』 国立歴史民俗博物館資料調査報告書7

第2節 縄文時代中期前葉の土器について

榎田遺跡においては、区画45、63区およびアクロスプラザ地点で遺構内および包含層から比較的多くの縄文時代中期に属する土器が出土している。ここではこれらの地区から出土した資料を中心に、榎田遺跡出土の縄文時代中期土器について主に文様の施文方法および文様構成に基づき分類し、各類型の出自・編年の位置づけに関し

を考察してゆきたい(註1)。なお、これに前後する前期及び中期中葉～後葉の土器についてはその出土量が希薄な上にはほとんどが包含層など遺構外の出土であるため、今回の分類対象から除外した。

まず、第1類の土器から順に見てゆきたい。当土器群は、長野市松原遺跡・新潟県中郷村泉A遺跡で良好な資料を得られているものである。半截竹管により平行沈線や半隆起線を施文し、口唇部の表面にも縄文が施される。また、口縁部の突起には貫通孔が穿たれる。檀田遺跡においては、その出土量は少なく、数片を散えるのみである。45② SA7の覆土から2点が確認されている以外は、検出面で得られた資料のみである。中期初葉(檀田中期前葉①期)(註2)の土器群である。

次に、第2類として分類した土器は、所謂“深沢系”と呼称される土器あるいはそれに類似する土器群である。深沢系土器は、未だ型式設定するまでの資料は揃っていないものの、高橋保氏、寺内隆夫氏らによりその編年的位置づけが確定されつつある(高橋1989、寺内1997・2003)。檀田遺跡でも第2類aおよびb種とした土器は、深沢遺跡第2類として分類されてきたものである(西沢1982)。隆線や半隆起線による継手文が主装飾となり、多くは地に縄文をもつ。檀田遺跡で器形全体のわかる資料は、E区2次面で検出されたSR2(埋壺2)のみである。

表9 縄文時代中期前半の土器分類

第1類	口縁部に貫通する円孔をもち、格子目文、平行沈線、半隆起線、縄文などで装飾するもの	6、10、48
第2類	隆線および半隆起線により器面を装飾する土器群で、継手文や渦巻文を多用するもの。胎土は概してぶい黄褐色を呈するもの。	
	a種 地に縄文をもち、口縁部文様帯にのみ継手文を施すもの。	303
	b種 地に縄文をもち、口縁部および体部文様帯に継手文や渦巻文を施すもの。	22
	c種 体部文様帯に継手文を施すもので、胎土が赤褐色を呈するもの。	102
	d種 隆線のみにより継手文状のモチーフを描き、その他の文様を施さないもの。	171～180
	e種 隆線により継手文およびY字懸垂文を施すもの。	319
f種 縄文を地文とし、沈線により底平状のモチーフを施すもの。	104	
第3類	第1類同様に半截竹管による半隆起線や平行沈線を多用し、除刻手法による蓮華文など北陸地方の土器の特徴を有するもの。	276
第4類	地に結節を有す縄文をもち、胴部には隆線によりY字状の懸垂文を施すもの。胎土はぶい黄褐色を呈するものがほとんどであるが、赤褐色を呈し、胎土に金雲母を含む土器もある。在地で模倣されたものも含めた五領ヶ台系の土器群を指す。	
	a種 表面全体に縦方向の有節縄文を施し、頸部に横位の隆線と体部に垂下するY字懸垂文を施すもの。胎土は黄褐色を呈するものが多い	254
	b種 口縁部文様帯には沈線や刺突文を施し、体部には縄文地にY字懸垂文を施すもの。胎土は黄褐色を呈するものが多い	100
c種 口縁部文様帯には、重三角区画文により区画され、その内部を充填するように渦巻三又文が施される。体部は隆線あるいは沈線によりY字懸垂文のモチーフが描出されると考えられるもの。胎土には金雲母を含み、赤褐色を呈する	150	
第5類	口縁部文様帯には沈線や刺突が施され、胴部には指頭圧痕がめぐるもの	12、13、258、259
第6類	押し文(角押し文)を施すもの	183
第7類	口縁部文様帯に施された横位の楕円区画文内部に、波状沈線や平行沈線を施すもの	181
第8類	口縁部除刻手法により区画された内部に矢羽状文を施し、さらに隆線を多用し交互刺突文や半隆起線に連続刺突文を施すもの。	
第9類	口縁部に如意状突起をもち、半截竹管による平行沈線を施すもの。	
第10類	沈線により渦巻三又文、格子目文を施すもの。	
第11類	口縁部に円孔がめぐり、器面には隆線により文様が描かれるもの。いわゆる有孔罅付土器	26
第12類	文様が施されず無文で、口唇部に刻み目をもつもの	301
第13類	縦方向の縄文のみが施され、口縁部内外面いずれかにの字状突起をもつもの	237、238、288～295
第14類	太い隆帯および沈線により文様が描かれ、それに沿うように連続刺突がみられるもの。隆帯の結節部には環状あるいは双環状の突起がつく(焼町系)	
第15類	彩文浅鉢形土器。内外面ともに赤彩が施される。特に内面には赤彩により文様が描かれるもの。	

この深沢遺跡第2類に関して、更埴糸里遺跡・屋代遺跡群において検出された住居跡の切り合い関係から、さらなる変遷過程が把握されている（寺内他2000）。遺構の切り合い、層位的検証からではないが、檀田遺跡においてもやはり2類a種→2類b種への変遷が想定される。

2類c種は継手文を採用している点で、深沢系土器との関連性が認められる。しかしながら、胎土の様子が他の深沢系土器とは異なるため別途分類した。上述の2類a・b種の土器は、胎土に大粒の白色砂粒を含み、概して黄褐色を呈すのに対し、c種の土器は褐色を呈する。このような胎土の違いは先述の更埴糸里・屋代遺跡群においても把握されており、胎土の差異からも明確に地域性が看取でき、異系統土器内の文様構成の共有がみられることが指摘されている（寺内ほか2000）。2類a・b種とc種の時間軸上の関係については、102（c種）と103（b種）が同一住居内の覆土より拳人の円礫とともに投棄されたような状態で出土していることから、2類a種→2類b・c種という時間軸上の流れを想定できる。他地域の土器との併行関係に関しては、中期前葉五領ヶ台Ⅱ式の範囲内に収まると考えられる。

2類d種であるが、171～180の資料は同一個体で、口縁部および体部に隆線により継手文状のモチーフを描出するものである。摩滅が著しく、器面も荒れているため調整などは判然としませんが、縄文は施されていない。器形は胴部が強く張り、頸部から口縁にかけてく字に外反するもので全体的には樽型を呈するものと考えられる。当資料はE②SA4覆土上層から出土している。隆線で描出された継手・渦巻き状の文様は、深沢系土器との関連性を連想させるものの、モチーフ自体がだぶ崩れており、深沢系土器の範疇に合せてよいものかは断定できない。いずれにせよ出土層位から2類a～c種に後出する可能性が高いといえる。

2類e種は、同一個体の中に継手文とY字懸垂文が同居するものである。当種は検出面より1点のみが出土しているため、その内容は判然としにくい。口縁部には隆線により継手文が施され、それが頸部から体部にかけてY字懸垂文に結してゆく。体部の大半の文様構成は窺い知ることにはできないが、継手文が施されている可能性もあろう。胎土は灰黄褐色を呈し、深沢系土器としたものと近似する。先に述べたように、当該期の土器においては異系統の土器間で文様モチーフの共有が顕著にみられ、当遺跡でも破片資料だけでは識別が困難な資料が少なくない。胎土が深沢系に類似し、継手文を採用していることを重要視すれば、深沢系の土器が五領ヶ台の文様モチーフを模倣して取り入れた土器であると捉えたい。なお、口縁部および体部文様帯に継手文を採用していることから2類b種として分類した土器の中に、口縁部が外反し、胴部がほぼ筒状を呈する土器（22）がある。胎土

表10 編年表

時期	地域				
		関東	中部高地	北陸	新潟
中期	前葉	① 五領ヶ台Ⅰ・Ⅱ 五領ヶ台直後 勝坂Ⅰ・Ⅱ	梨久保（深沢2類） 猪沢・新道（深沢3類）	新保	剣野E
		② 阿玉台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		新崎	清水上前葉①～③
	中葉	勝坂Ⅲ・阿玉台Ⅳ 加曾利EⅠ 加曾利EⅡ	藤内 井戸尻Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 曾利Ⅰ 曾利Ⅱ	上山田 古府	馬高
後葉		加曾利EⅢ 加曾利EⅣ	曾利Ⅲ 曾利Ⅳ・Ⅴ	中田新	沖ノ原

も他の深沢系の土器とは異なり、橙色を呈する。体部に施された継手文がY字懸垂文に置き換われば、むしろ五領ヶ台系の土器と捉えられる土器である。これもやはり異系統の要素を取り入れた、深沢系と五領ヶ台系の折衷土器である可能性が指摘できる。

第2類7種であるが、縦方向のLR縄文を地文とし、雑な沈線により蕨手状のモチーフを施すものである。器形は図面上で復元すると、底部からやや外反しながらほぼ直線的に立ち上がる筒状を呈すものと考えられる。口縁部と体部文様帯を持ち、口縁部文様帯には横方向の沈線を、体部文様帯は縦方向を意識した蕨手文が施される。同様の文様構成および器形をもつものは当遺跡においてはみられない。体部に施文された蕨手状の沈線は、継手文の変容形ともとれる。深沢系同様に北信地域の在地の土器であろう。

第3類として分類した土器群であるが、半隆起線を多用する土器で、北陸の土器と考えられるものである。第2類とした深沢系の土器群とは施文方法・文様構成において多くを共有しているため、破片資料では識別が困難なものが多い。そのため、運華文や半隆起線で区画された内部に格子目文を持つものなど、特徴的なものを取り上げた。純粋に北陸地方の該期の土器、つまり新保式や新崎式であると考えられる土器は多くない。しかしながら、深沢系との文様施文手法の共有から推測できるように、深沢系土器の成立に北陸の土器が大きな影響を与えたことは疑う余地がなからう。

次に第4類として分類した土器群を見てゆきたい。これらは広義の五領ヶ台式の範疇で捉えられる土器群である。a-c種まで分類したように、土器の胎土・器形・施文方法などにヴァリエーションが認められ、やはり地域性が看取できる。

第5類の土器は、指頭丘痕文を特徴とする阿玉台直前（五領ヶ台直後）期の土器である（寺内2003）。45区2次面SA1の床面より出土した12と13は、共に口縁部から頸部にかけて連続刺突や凹線により装飾し、体部以下には鱗状の指頭丘痕文を施文する。文様構成上は同じ手法を用いているにも関わらず、12の胎土はにぶい黄褐色を呈しよく焼きしめるのに対し、13の胎土は明赤褐色を呈し、比較的脆いという差異が認められることは興味深い。同じ住居に居住する人々が、時期も出自も同じくしながら制作者が異なる土器を使用していたのであろうか。一方が関東から搬入されたオリジナルの土器で、他方が在地で模倣した土器であるとも考えることもできる。しかしながら、胎土分析を実施したわけではなく、あくまで肉眼観察によってのみのため推論の域はでない。胎土分析などにより製作地が特定できれば、土器の移動・オリジナルと模倣土器の関係を考える上でも重要な資料といえよう。

第6類の土器は2点のみ出土している。183は勝坂I式期の土器で、口縁部および胴部に横位の隆線が巡る。それに沿うように押し引き文が施される。胎土には金雲母が含まれ、褐色を呈す。195は浅鉢片であり、やはりその内面には角押文が施される。胎土も183と同様に金雲母を多く含み、にぶい褐色を呈す。これら2点はE②SA4覆土上層より出土しており、勝坂I期の所産であると考えられる。

第7類の土器は所謂「後沖式土器」と呼ばれ、寺内氏による一連の研究によりその型式としての内容が明確になりつつある土器である（寺内1986・1987・1996・2001・2002）。出土数は少なく確認できたものは1点のみである。E②SA4の覆土中層より出土している。寺内氏によれば、後沖式古段階は勝坂I式に併行するものとして捉えられている（寺内2003）。しかしながらSA4覆土中層は五領ヶ台II式期の土器が大半を占めていることから、本資料は混入の可能性が高い。

第10類の土器はE②SA5の床面直上より1個体のみ出土している。体部がやや内湾しながら立ち上がり、わずかにくの字に外反する短小な口縁部をもつ器形を呈す。矮小化された口縁部文様帯には連続コ字状を呈す刺突文が施される。体部は縦方向の浅い沈線により渦巻三叉文や格子目文、波状懸垂文などが施される。矮小化された

口縁部文様帯と体部文様帯での縦方向の施文意識は、五領ヶ台Ⅱ式に特徴的である。やはり五領ヶ台Ⅱ式併行期の土器であろう。

第11類に分類した土器は、中部高地系の土器であり、井戸尻編年という新道式期のものである。檀田遺跡で出土した資料は、口縁端部を欠くものであるが、口縁部直下に巡らされた鋸状の隆帯に沿うように円孔が施されているのが確認できる。文様構成に関しては、隆線により四角形の区画文が施され、その中に逆の字状や逆さC字状のモチーフがやはり隆線により描出される。

第12類として分類した土器も1個体のみの出土である。E②SA3内より検出されたSJ4から出土している。底部を欠く体部以上のうち約1/2が残存しており、口唇部に棒状工具による刻目を施す以外は体部にも文様は施文されていない。器形は体部が大きく張り、短い口縁部がくの字に屈曲する。SA3の床面において掘り込みが確認されたため、SA3よりは時間的に先行するものと考えられる。しかしながら、その系統や他系統の土器との併行関係は明確でなく、中期前葉の土器として分類はしたものの、明確な根拠に欠けるものである。今後他遺跡出土の資料との比較検討が必要であり、それまでその位置づけは保留としたい。

第13類に分類した土器は、E②SA8の炉内より出土している。土器は掌大に破砕され、土坑状の炉内に敷き詰められていた。炉の壁の一部は熱を受け焼土化していたが、土器自体は明確な被熱など二次焼成は確認できない。波状口縁の波頂部の口縁部内側に字状の装飾が見られ、口縁部直下から体部にかけて、縦方向の縄文が施される。それ以外の文様は施されない。また、E②SA5の床面直上より出土している土器も口縁部外面に、隆線および沈線よりの字状の突起を描出している。この口縁部直下が一つの文様帯となり、先の突起および横方向の縄文が施される。頸部以下はもう一つの文様帯となり、結節のある縦方向の縄文のみが施される。SA8の炉内の資料との共通点として、装飾が字状のモチーフが口縁部内外に施されるのと、体部には縦方向の縄文のみが施されることが挙げられる。

第14類の土器は、所謂「プレ焼町」あるいは「荒巻類型」と呼ばれる土器群であり、同じ中期前葉とした土器群の中でも後半にあたる。破片資料のみのため器形全体を窺い知ることはできないが、残存する口縁部から考えれば、波状口縁を呈す深鉢であるといえる。

第15類には浅鉢形土器の中でも内外面に赤色顔料を塗布し、特に内面には文様を描き出すものをまとめた。本遺跡においては、いずれも土壌裏と考えられる遺構から出土しており、他の土器群とはその土器自体が持つ意味合いにおいて大きな違いが容易に推測できる。中でもSJ1から出土した298の土器は、内面の彩文の遺存状況が他の土器に比べ良好で、彩文の全景も推測することができた。この彩文は、大の字や蕨手、花弁状のモチーフが描かれていると考えられる。299の土器には十字文あるいは環状のモチーフが描かれていたと考えられるが、遺存状態が悪く全体像は復元できない。器形は底部から外反しながら立ち上がり、その後口縁部に向かい強く内屈するものと、底部から口縁部に向かい外反しながらまっすぐ立ち上がるものの二種類がみられる。

冒頭で述べたように、分類の基準は器面に施された文様および施文方法によるが、これは土器のほとんどが破片資料で器形のわかるまで復元し得た土器は少ないことに起因する。また破片資料の多くは器面の摩耗が著しく、いずれかの類型に含めるべきか判断が困難であった。そのため、檀田遺跡における土器の変遷過程ならびに各類型の土器組成における比率なども明確にすることはかなわなかったが、各土器群の類型の数、ならびにその出土量を鑑みれば中期前葉に遺跡の隆盛期があったことは推測に難くない。

出土土器の分類および各類型の出自に関しては、長野市立博物館山口明氏、長野県埋蔵文化財センター寺内隆夫氏・黒岩隆氏の三者にご教示・ご指導を頂いた。しかしながら、筆者の力量不足からご助言・ご指導を十分に咀嚼できず、土器の検討には曖昧な点・不明確な点を多々残すことになった。事実認識の甘さは全て筆者に帰す

るところであり、貴重ご指導を頂いた方々には深くお礼申し上げるとともにお詫びする次第である。

註

- 1 表7にも示した通り、中期を前葉・中葉・後葉の三時期に区分して検討してゆく。しかしながら、この三時期区分の使い方もそれぞれに含まれるであろう土器型式の内容については、地域・研究者により若干の違いが認められるものである。また、各地域の土器の併行関係も、表で示したように素直に線引きできるものではない。そのため、表の作成には縄文文化研究会により作成された各地域の編年表(縄文文化研究会2000)を参考にし、地域間の土器の併行関係については主に長野県・新潟県での研究成果を基に加筆・修正した。事実誤認があればすべて筆者の責である。
- 2 榎田遺跡で出土した縄文時代中期の土器の大部分が中期前葉に比定可能なものである。実際には前葉の範囲でも数段階の細分が可能であろうが、今回は五領ヶ台式期を中期前葉①、五領ヶ台直後(阿玉台直前)型式から勝坂Ⅰ・Ⅱ式までを中期前葉②として話を進めてゆきたい。

引用・参考文献

- 今村啓爾 1985 「五領ヶ台式土器の編年—その細分および東北地方との関係を中心に—」『東京大学文学部考古学研究室紀要』4
- 高橋 保 1989 「県内における縄文中期前半の関東・信州系土器について」『新潟県考古学談話会会報』4
- 寺内隆夫 1986 「縄文時代中期中葉時の分類と検討—異系統時との関係を中心として—」『梨久保遺跡』
- 寺内隆夫 1987 「五領ヶ台式土器から勝坂式土器へ—型式変遷における一視点—」『長野県埋蔵文化財センター紀要』I
- 寺内隆夫 1991 「長野県上水内郡三水村・上赤塩遺跡出土の縄文中期土器について」『長野県考古学会誌』61・62
- 寺内隆夫 1996 「斜行沈線文を多用する土器群の研究」『長野県の考古学』長野県埋蔵文化財センター
- 寺内隆夫 1997 「御代田町滝沢遺跡出土の縄文中期前葉(滝沢Ⅳ期)の土器について」『滝沢遺跡』御代田町教育委員会
- 寺内隆夫 2002 「後沖式土器への系譜—千曲川流域における中期前葉(初頭)、斜行沈線文系土器について—」『長野県の考古学Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター
- 寺内隆夫 2003 「山屋敷Ⅰ遺跡出土時に見る中部高地地域・関東地方との交流関係」『上越市史』資料編2 考古
- 寺内隆夫ほか 2000 「更埴系里遺跡・埴代遺跡群(含む大境遺跡・壺河原遺跡)」長野県埋蔵文化財センター
- 西沢隆治 1982 「深沢遺跡」『長野県史』考古資料編 全1巻(2)

報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐんまゆみだいせき(2)							
書名	浅川扇状地遺跡群榎田遺跡(2)							
副書名	長野市榎田土地区画整理事業(仮称)西友榎田店店舗建設工事・アクロスプラザ長野北建設工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第105集							
編著者名	清水竜太 山下大輔							
編集機関	長野市埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL026-284-0004 FAX026-284-0106							
発行年月日	2005年3月22日							
印刷所	信毎書籍印刷株式会社 (長野市西和田470 TEL 026-243-2105)							
所収遺跡	所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
榎田遺跡	長野県長野市 大字榎田字越後田・有 無・櫻町・鍛冶田	20201	A-035	36°	138°	19980302 ～ 20020808	39500㎡	区画整理
				40'	12'	20030204 ～ 20020905	8300㎡	店舗建設
				26"	49"	20020421 ～ 20020704	4800㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
榎田遺跡	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居18軒、土坑6基、小穴2基、墓跡4基、溝1条、煙突4基、環状列石1基	土器 縄文土器 石製品 石鏃、石匙、石斧、刃器 石核、石皿、石棒 土製品 土偶、土製円板 装身具 琥珀玉	市内初の環状列石の検出			
		弥生時代中期	竪穴住居41軒、土坑8基、墓10基、溝2条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構	土器 弥生土器 石製品 石鏃、石斧、刃器、砥石 土製品 ミニチュア土器、土製円板 装身具 管玉				
		弥生時代後期	竪穴住居70軒、土坑1基、環状溝1条、墓14基、溝6条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所	土器 弥生土器 石製品 石鏃、石斧、石槌、紡錘車 土製品 ミニチュア土器、土製円板、匙 装身具 管玉、勾玉、小玉、鉄鏃、銅鏃	48①SDZ1から鉄鏃・銅鏃が同時装着された状態での出土			
		古墳時代前期～中期	竪穴住居20軒、掘立柱建物1棟、土坑1基、墓3基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構3ヶ所	土器 土師器 土製品 ミニチュア土器、土製円板 装身具 管玉、勾玉、石鏃				
		古墳時代後期	竪穴住居90軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所	土器 土師器、須恵器 土製品 ミニチュア土器、匙 石製品 紡錘車、砥石、凹石 装身具 管玉、勾玉				
		平安時代～中世	掘立柱建物10棟、土坑1基、土坑墓1基、溝4条、井戸11基、包含層落ち込み1ヶ所	土器 土師器、須恵器				

長野市の埋蔵文化財第105集

浅川扇状地遺跡群
檀田遺跡（2）

長野市檀田土地区画整理事業
（仮称）西友檀田店舗建設工事
アクロスプラザ長野北建設工事
にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書
第1分冊（本文編）

平成16年3月18日 印刷

平成16年3月22日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 文化財課埋蔵文化財センター
印刷 信毎書籍印刷株式会社